

ふくしま道徳教育推進プラン

道徳教育推進校 報告書

平成28年度道徳教育総合支援事業

平成29年3月

福島県教育委員会



はじめに

本報告書は、「ふくしま道德教育推進プラン」として、県内7地区における小・中・高等学校7校の推進校が実践研究を行い、1年間に取り組んだ道德教育の実践内容を紹介するものです。

各推進校は、①道德教育を学校全体でどのように推進していくのか、②道德教育推進教師はどのような役割を果たしていくのか、③道德の時間の授業をどのように展開していくのかについて、その取組の実際を次のプロットに従って報告しております。

なお、道德の時間の授業については、ふくしま道德教育資料集「第Ⅰ集『生きぬく・いのち』」「第Ⅱ集『敬愛・つながる思い』」「第Ⅲ集『郷土愛・ふくしまの未来へ』」を活用した実践を多く紹介しております。

1年間で取り組んだ各校の実践のテーマは、次のとおりです。

二本松市立二本松第二中学校	豊かな学び合いを通し、生き方を深める道德の時間
三春町立岩江中学校	こころ豊かに、たくましく、共に成長できる生徒の育成
福島県立塙工業高等学校	これからの日本を支える若者のための“技術者モラル”教育
会津若松市立湊中学校	ふるさとを愛し、たくましい心を育てる道德の時間の研究
南会津町立桧沢小学校	個性を認め、他者を尊重しながらよりよく生きる児童の育成
南相馬市立八沢小学校	道德教育の要として有効に機能する道德の指導
いわき市立宮小学校	道德的価値について考え、自分の生き方を見つめ、自信をもって生きようとする子どもの育成

【報告書のプロット】

- 1 学校紹介
- 2 研究テーマ
- 3 テーマ設定の理由
- 4 研究計画
- 5 児童生徒の実態及び地域の課題
- 6 道德教育における校長の指導の方針
- 7 平成28年度 道德教育の全体計画について
- 8 平成28年度 道德教育の全体計画の「別業」について
- 9 平成28年度 学級における指導計画について
- 10 道德教育推進教師等の実践について
- 11 道德の時間について
- 12 成果と課題

《目次》

はじめに

1 道徳教育推進校報告

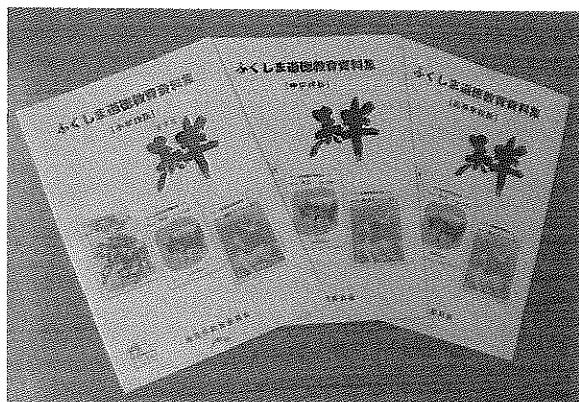
(1) 県北地区	二本松市立二本松第二中学校	5
(2) 県中地区	三春町立岩江中学校	2 1
(3) 県南地区	福島県立塙工業高等学校	3 9
(4) 会津地区	会津若松市立湊中学校	5 7
(5) 南会津地区	南会津町立桧沢小学校	7 5
(6) 相双地区	南相馬市立八沢小学校	9 3
(7) いわき地区	いわき市立宮小学校	1 1 1

2 資料

○ 「ふくしま道徳教育推進プラン」	1 2 8
○ 道徳教育推進校の役割について	1 2 9
○ 平成28年度道徳教育実施状況調査について	1 3 0
○ 道徳だより「道徳のかけ橋」第9～11号	1 3 1

「ふくしま道徳教育資料集」実践事例一覧

校種	学年	資料名	内容項目	実践校	ページ
小学校	3・4年	がんばらやんばい（第Ⅱ集）	相互理解・寛容	桧沢小	85
	5・6年	ぼくたちの学校（第Ⅱ集）	よりよい学校生活 集団生活の充実	桧沢小	87
	4年	がんばらやんばい（第Ⅱ集）	感謝	八沢小	108
	5年	きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～（第Ⅰ集）	希望と勇気 努力と強い意志	八沢小	110
	2年	おむかえ（第Ⅱ集）	家族愛 家庭生活の充実	宮小	123
中学校	1年	When in Rome, do as the Romans do. （第Ⅲ集）	克己と強い意志	二本松第二中	9
	2年	墓印（第Ⅲ集）	希望と勇気 克己と強い意志	二本松第二中	11
	3年	いま新しき力あふれて（第Ⅰ集）	よりよい学校生活 集団生活の充実	二本松第二中	13
	3年	あこがれの消防団（第Ⅲ集）	希望と勇気 克己と強い意志	岩江中	37
	1年	When in Rome, do as the Romans do. （第Ⅲ集）	希望と勇気 克己と強い意志	湊中	73
	2年	それでも僕は桃を買う（第Ⅲ集）	公正、公平	湊中	71
高校学校	3年	がんばっぺな（第Ⅲ集）	家族愛	塙工業高校	55





【県北地区】二本松市立二本松第二中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	二本松市立二本松第二中学校
所在地	二本松市沖三丁目301番地
校長名	福本 隆
学校の教育目標	《豊かな人間性と自律心を培う》 1 確かな学力を身に付け、進んで学ぶ生徒 2 他を尊重し、進んで協力できる生徒 3 強い意志をもち、進んで心身を鍛える生徒
学級及び児童生徒数	7学級 153名
道徳教育にかかる取組の概要	道徳の授業及び学校の教育活動全体を通しての道徳教育の充実と家庭や地域との連携を研究の柱として、生徒たちの心の成長を目指す。

2 研究テーマ

豊かな学び合いを通し、生き方を深める道徳の時間
～自分の考えをもち、伝え、学び合う授業づくりを目指して～

3 テーマ設定の理由

「友達の考えを知ること、他の人の意見から自分にはない考えを学ぶことができる」という生徒の声がある。これこそがまさに「学び合い」がもたらす「学び」である。「学び合い」は「自己との対話を重ねつつ、他者と相互にかかわりながら、自分の考えや集団の考えを発展させて、共に実践に参加していくこと」と整理できる。

そのためには、まず、「自分の考えをもち、自分を見つめる」ことから始まる。それが「自己との対話」であり、他者とかわることによって、自分の考えを吟味し、友達の考えを取り入れることで、一人では解決できない問題への新たな見方が生まれる。

次は、「これを考えたい、学びたい」といった気持ちが広がるのがよくある。そうした課題を適宜取り上げ、話し合いをする中で、最初は「そうではない」と主張していた生徒が、友達の考えを聞くうちに考えを変えていく。皆が夢中になって参加したからこそ、このような学び合いに発展していくのである。

道徳の授業においても、以上のような活動をさせることで道徳的判断力や、心情、実践意欲と態度を養っていくことができると考え、上記のテーマを設定した。

研究に関わる具体的な取組として以下のような手立てを講じていく。

(1) 道徳の授業の充実

- ① 発問の工夫 ② 板書の工夫 ③ 掲示の工夫 ④ 模擬授業
⑤ 研修会の充実 ⑥ 全職員による授業

(2) 体験活動の充実

(3) 家庭や地域との連携

- ① 保護者との連携 ② 地域人材・教材の活用 ③ 通信の発行

(4) 学び合いのための学習集団づくり

4 研究計画

4, 5月	文献研究
6月17日	取組の概要についての提示
7月11日	「Q-U」講習会
7月20日	道徳公開授業 授業者（各学年1名）決定 公開授業指導案作成
8月25日	公開授業指導案提出
9月中旬	公開授業指導案検討
10月中旬	公開授業指導案での模擬授業
11月中旬	公開授業〔各学年1授業〕（11月21日）
12月上旬	研究のまとめ

5 生徒の実態及び地域の課題

本校生徒の実態として、素直で何事にもまじめに取り組み、与えられた仕事に対しては責任をもって取り組む生徒が多いことが挙げられる。また、指示されたことに対しては素直に従うことができる生徒が多く見られる。しかし一方では、自分の気持ちや思いを言葉や態度で表現することが苦手であったり、自分で自分の限界を決めてしまい、粘り強く取り組もうとすることに消極的であったりする場面が見られる。全体的に、個人としては善悪の判断力はあるものの、集団となるとその集団の雰囲気流されてしまう傾向も見られる。

保護者や地域の人たちは、学校に対して協力的であり、期待も大きい。しかし、生徒と話し合う時間などは年々減少している。

このような実態を踏まえ、学校教育全体を通じてより高い判断力と豊かな表現力を身に付けた生徒の育成を目指して共通理解を図りながら取り組んでいる。

6 道徳教育における校長の指導の方針「資料1」

- (1) 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う。
- (2) さまざまな体験的実践活動を通して、道徳教育の充実を図る。
- (3) 心豊かで生き生きと生活できる生徒の育成を目指して、発達段階に応じて指導の重点を置く。

7 平成28年度 道徳教育の全体計画について「資料2」

生徒の実態、教師の願い、保護者の願いから、各学年に共通する指導の重点を設定した。また、教科・領域等との関連を明らかにした。

8 平成28年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について「資料3」

各学年の指導目標を達成させるために、必要な内容を重点的に取り上げ、他の教育活動との関連をもたせて主題配列を行った。

9 平成28年度 学級における指導計画について「資料4」

- (1) 道徳教育全体計画に基づき、学級担任の願いや学級の実態を十分に考慮して、それぞれの学級における道徳教育の重点項目を設定した。
- (2) 学級における道徳の時間の指導方針をより具体的にすることで、道徳教育の重点目標が生かされるように配慮した。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳の授業の充実

学校の道徳的課題の解決を目指して、全教員で道徳の時間を充実させていくためには、道徳の時間の問題を共有化し、基本的な学習過程を検討して実践することが重要である。そして、共通の実践を基に全職員でさらに検討することでより具体的な指導方法改善の視点が見え、その先に創造的な取組の実現が期待できると考える。

(2) 体験活動の充実

道徳教育にとって家庭や地域社会と連携しながら、体験的な活動を積極的に生かすことは大切な観点であり、生徒たちのさまざまな体験活動を教材として道徳の時間に活用することについても重要なポイントである。

(3) 家庭や地域との連携

家庭や地域社会との連携による道徳教育を進めるためには、まず、学校が道徳教育において家庭や地域社会の果たす役割を十分に認識しておく必要がある。そして、学校から家庭や地域社会との密接な交流を進めていき、協力体制を整えるとともに、具体的な連携方法についてさまざまな工夫をしていく必要がある。

(4) 学び合いのための学習集団づくり

言葉は、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤であり、学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。道徳の時間においても、その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。日頃の授業から役割演技や動作化、劇化などの表現活動の工夫を含め、話し合いの場や方法の一層の充実を図っていくことを通して、表現し考えを深める工夫をしていく必要がある。

11 道徳の時間について（別添参照）

12 成果と課題

- 道徳の時間の特質を押さえ、指導方法の工夫改善に努めたことで、自己を見つめ、課題を見い出そうとする意欲が高まった。
- 学習過程や多様な資料活用等の工夫を図ったことで、生徒が自分自身のことについてしっかりと考えることができ、さらに価値の自覚を深める道徳の授業に迫ることができた。
- 校内での人間関係づくりはもちろん、家庭や地域との連携を深め、さまざまな人との関わりや交流を通して道徳教育を進めたことで、互いのよさを認め合おうとする意識が高まった。
- 道徳の時間において、生徒自身が考えを深めることについては改善が見られてきているが、生徒が自らの生き方につなげ、道徳的实践や行動の習慣化を図る指導については継続して研究を深めていく必要がある。
- 計画的な授業実践は展開されているが、さらに生徒の心に響く授業を目指し、生徒の実態に応じた資料の開発や教科との関連を図った指導等について充実を図ってきたい。
- 自分自身を見つめることに関して、道徳の時間をはじめとして、体験学習等でも振り返りの場の設定を工夫したことで、自ら課題を見いだそうとする態度は育成されてきている。今後、自分自身のよさを感じ、自己肯定感を高めていけるような教育活動をさらに充実させていく必要がある。また、集団の中での自己有用感については、これからも継続して研究や取組を進めていきたい。

11 道徳の時間について

中学校第1学年 道徳学習指導案

日時：平成28年11月21日（月）第5校時

場所：1年2組教室 授業者：清野 正志

研究テーマ	豊かな学び合いを通し、生き方を深める道徳の時間 ～自分の考えをもち、伝え、学び合う授業づくりを目指して～
-------	---

1 主題名 強い意志 1- (2) 夢や目標をもってやり抜く強い意志

2 資料名 「When in Rome, do as the Romans do.」
(出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

夢や目標を持ち、それに向かって努力し続けることは人間としてより良く生きるために大切なことである。どんな小さな目標でも、達成されれば満足感を覚え、自信や勇気が生まれ、より高い目標に向かって努力する原動力となる。そして、達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせることを通して、希望と勇気が生まれてくることを自覚させていくことが重要である。また、生涯をかけての理想や目標をもつことが、日々の生活を充実することにつながることに気付かせることも大切である。

(2) 生徒の実態

男子10名、女子10名、計20名の学級である。全体的に明るく、発言できる生徒も多めである。hyper-QUによると、「かたさのある学級集団」の判定となり、学校生活意欲総合点の学級平均は全国とほぼ同じであるが、実際には学級内で認められていて意欲的に活動できている生徒と、そうでない生徒とが分かれている姿が見られる。学期やテスト計画では目標をそれぞれ立てることができるものの、そのとき限りで立てた目標に対してやり抜こうとする生徒は少ない。

(3) 資料について

日本の文化や伝統に興味を持ち、ALTとして勤務していた主人公に原発事故の影響を心配した家族から帰国を願う電話が来る。帰国するべきか、日本に残るべきか思い悩む主人公であるが、日本の文化をもっと深く学びたいという思いがあり、それを支えてくれる人たちもいることからとどまることを決断するという内容である。夢や目標を持つことの大切さと、困難に負けない強い意志の必要性を考えさせるのに適した資料である。

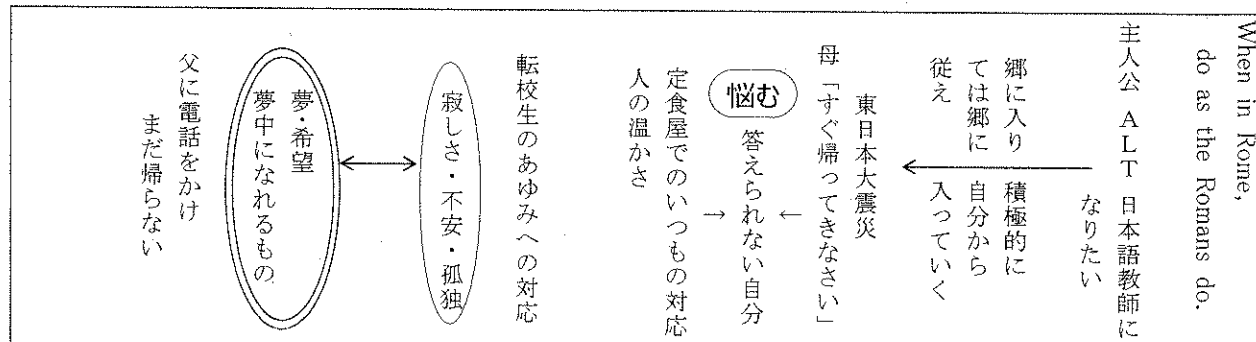
(4) 指導にあたって

震災の影響から、帰国するか、日本に残るか悩みながらも決断する主人公の心情を考えることを通して、夢や希望を持ち、勇気をもってやり抜く強い意志を持とうとする態度を育てたい。また、漠然とした思いを言葉にしたり、人に伝えることで具現化していくことにも気づかせたい。

4 本時のねらい

思い悩む主人公の姿に共感させながら、決断を迫られたとき、苦悩しながらも強い意志を持って自己決定しようとする態度を育てる。

5 板書計画



6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間 形態	○ 留意点 ◆ 評価 ◎ 研究主題とのかかわり
導入	1 問題の意識化・動機付け (1) 目標に向けて努力していること、努力してよい結果を得た経験のアンケート結果を聞く。	7 一斉	○ 目標を達成した経験や、困難から途中であきらめた経験を生かし、ねらいを意識させる。
展開	2 価値の追究・把握 (1) 資料「When in Rome, do as the Romans do.」を読んで考える。場面分けして前半の内容を把握する。 (2) 外国で震災に遭ったら、どのように考えるか。 ・ すぐ帰る。 ・ 目的を断念したくない。 (3) 定食屋の明るいつもりのような対応を受けてどのような気持ちになるか考える。 ・ 温かい対応でありがたい。 ・ 帰りたいが、夢を叶えたい。 (4) 震災後両親からの帰国を促す電話に対して主人公の心の迷いを考える。 僕は帰国するかどうか迷っているがあなただったらどうするだろう。 (中心発問) ・ 元の生活ができないので帰る。 ・ 一度戻って、もう一度来たい。 ・ 頑張って、残る。 (5) 資料の後半の主人公の決断を知る。 3 価値の内的自覚 (1) 自分が決断を迫られたとき大切にしたい事は何か。自分の思いを書く。 ・ これまでの決断を振り返りながら、より大きな決断を迫られたらどうするか考える。 ・ 決断する理由やきっかけとしたことや人についても考える。	30 (8) 一斉 (7) 個人 ↓ 全体 (10) 個人 ↓ 班 (5) 個人 8 個人	○ 資料の導入部では、主人公のALT(僕)が日本での生活に大きな夢と希望を持っている様子をとらえさせたい。 ○ しっかりとした目的がなければ、すぐに帰国するのが普通であることを理解させる。 ○ 積極的に友達を作り、町の人達と親しくなったことで、夢と現実の間で葛藤する姿から、自分だったらどんな結論を出すか、話し合わせる。 ◎ 帰国の有無を、状況を元に自分ならどうするか、その理由も含め班の中で話し合う。 [手だて4] ○ 一つの価値観に絞り込むような言葉かけは控える。 ◆ 主人公の心情の変化から、困難に直面しても、希望や目標に向けてやり抜こうとする心情を理解することができたか。(ワークシート・発表) ○ 理想通りにいかない現実と向き合い、それを乗り越えたり、よりよい選択をしたりする心の強さだけでなく、周りの人に支えられている感謝の心、温かさについての発言を大切に扱いたい。 ◆ これまでの自分について振り返るとともに、これから大切にしたい思いについてあらわすことができたか。(ワークシート)
終末	4 価値の深化 (1) 教師の説話を聞く。 ・ 強い意志・希望 ・ あきらめない心	5 一斉	○ ねらいを意識させ、自分を振り返り、強い意志を持つことの大切さについて考えさせたい。

7 成果と課題

- 自分の考えを一言しか書けない生徒が、本授業では自分の考えを数行にわたって書くことができていた。
- 意見の広がりがあり、班での話し合いは浅いものになってしまった。
- 授業展開の流れを1つ間違えてしまい、授業後半での主人公の考えから道徳的価値を見いだすことが十分に出来ないでしまった。

研究テーマ	豊かな学び合いを通し、生き方を深める道德の時間 ～自分の考えをもち、伝え、学び合う授業づくりを目指して～
-------	---

- 1 主題名 強い意志・希望 1－(2) 関連項目 2－(2) 人間愛・生命尊重
2 資料名 「村長ありき」(出典：～沢内村 深沢晟雄の生涯～及川和男著)
「墓印」(出典：ふくしま道德教育資料集 第Ⅲ集)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

岩手県沢内村は過疎と大雪・病苦の三重苦に長年苦しめられてきたが、深沢晟雄村長が就任すると次々に改革を打ち出し、この三重苦を乗り越えることができた。その一つが幼児の死亡を0にする保健システムを作り上げたことであり、多数の反対があつたにも関わらず、強い意志をもって、信念を貫き通した。現在、これだけの功績がある深澤さんを知っている人は少ない。深澤さんが多数の反対があつたにも関わらず、どのような思いで現在の乳幼児を守るための行政の保健システムを作り上げてきたのか、その苦痛や困難についても知らせる機会にしたい。

さらに昨今の風潮を見ると、そういった先人たちの努力に対しても、年々感謝の気持ちの薄れつつあるような気がしてならない。改めてそういった想いを再考するのに良い機会であり、本題を取り上げることは大変意義のあることと考える。

(2) 生徒の実態

男子16名、女子12名、計28名の明るいクラスである。言われたことはきちんと守って行動できる素直さに加え、明るい生徒が多い。hyper-QUによると、1－(2)「強い意志」の「自分の仕事は最後までやりとげる。」は全国が50.5%に対して、本学級は60%と高い。しかし、日々の生活の中で、面倒になってやらなかったり、困難にぶつかったらあきらめてしまったりする姿も見られる。

(3) 資料について

資料は、普段あまりテレビなどで取り上げられることは少ないが、一村長として「村の子どもたちの命は守る」という信念のもとに行動した深沢晟雄さんの「村長ありき」である。岩手県沢内村元村長で乳幼児死亡率0%を達成し、「生命村長」と慕われた彼の努力と行動力は私たち大人である教師にとっても見習わなければならない点が多い。

冬の間は「陸の孤島」と呼ばれた村にあって「子どもは村の財産。その生命は大人が守らなければならない。」といかなる苦難にもあきらめず、夢を実現させた彼の生き方は中学生にとっても必ず心を打つであろう。

(4) 指導にあたって

本授業では、「あきらめない心」について気づかせていきたい。昨今、中学生は弱くなつたという声をよく耳にするが、「信念を持っている人間は強い」「何事もあきらめない心が大切」ということに気がつけば、強く生きていくのではないかな。そこに気がつけば「何をやれば良いか分からない」と言つたことはなくなるはずである。「あきらめなければ夢は近付く」ということを改めて実感させたい。本時では、深澤さんがどのような思いで行動し、何度も挫折に見舞われながらもあきらめずに夢を実現させたのはなぜかという部分にまで考えを深めさせたい。

さらには、雪深い奥会津の風習についても紹介し、福島においても過去に同じような状況があり、沢内村の成功例が現在の自分たちの生命につながっていることにも気づかせたい。

4 本時のねらい

どんな困難なことでも、夢に向かってあきらめずに前向きに取り組もうとする意欲と態度を育てる。

5 板書計画

・部活で簡単にあきらめず、前回の勉強をさぼつてしまった。	・部活で簡単にあきらめず、前回の勉強をさぼつてしまった。	よたよた今までの困難に自分ではどうもきかぬ。	・自分の夢を実現させた。	・赤ちゃんと助けた。	たして深沢さんは、たのしみだろうか。	・コンクールで好成绩を取れた。	・部活で優勝した。思つた。(最初は無理だと思つた。)	にやらず今までのあきらめつたところを振り返ろう。
------------------------------	------------------------------	------------------------	--------------	------------	--------------------	-----------------	----------------------------	--------------------------

6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間 形態	○ 留意点 ◆ 評価 ◎研究主題とのかかわり
導入	1 問題の意識化・動機付け (1) 自分のことを振り返り、今まで無理だと思ったことでもあきらめずに取り組み、頑張ったことについて事前にアンケートを取り、発表する。 「今までにあきらめずにがんばったことは何ですか。」	7 個人	○ 生徒が感じたことや思ったことを自由に言える雰囲気を作る。
展開	2 価値の追究・把握 (1) 深沢晟雄さんの最初の挑戦について説明を聞く。 (2) 資料「墓印」を読み、感じたことを話し合う。 ・福島も大変だったなあ。 ・よくあきらめなかったなあ。 (3) 深沢さんの次の挑戦の説明を聞き、深沢さんの気持ちを考える。 「深沢さんはどうしてそこまでしても夢をあきらめなかったのでしょうか。」 ・村の赤ちゃんを助けたかったから。 ・村の発展を願ったから。 (4) スライドを見て深沢さんの次の取り組みについて考える。 3 価値の内面的自覚 (1) 今までに困難にあったとき、自分はどのように取り組んできたか、そのときの気持ちを振り返る。 今まで困難にあったとき自分はどのように取り組んできたか、振り返ってみよう。(中心発問)	5 個人 5 個人ペア 10 個人ペア 7 個人 6 個人	○ 画像を観てこれからの学習に関心を持って取り組めるように意欲を喚起する。 ○ 教師が範読し、資料の概要を確認する。 ◎ ふるさと福島を題材にした実話資料を提示し関心をもたせる。【手立て3】 ○ 一人一人の感想を確認し、考えの変容を自覚できるようワークシートに記入させる。 ◎ 深沢さんの取組を通じて「あきらめない心」と「信念を持って取り組む事の大切さ」について考えさせる。 【手立て1】 ◆ 深沢さんの思いを考えることができたか。(発表・ワークシート) ◎ これまでの生き方を振り返り、困難につき当たったとき、今後取るべき姿を考えさせる。【手立て1】
終末	4 価値の深化 (1) ビデオを見て深沢さんの取組が現在自分達にどのようにつながっているのかを知り、感想を書く。	10 個人	○ 本時の授業を通じて、考えたことについてまとめさせる。(ワークシート)

7 成果と課題

- 様々な学習や発表の形態を工夫したことがとても勉強になった。
- グループ学習での教師の働きかけがとても的確であった。
- 困難に立ち向かった経験について、生徒にもっと深めて考えさせたかった。
- 話合いの時間が当初の予定と狂ってしまった。

研究テーマ	豊かな学び合いを通し、生き方を深める道徳の時間 ～自分の考えをもち、伝え、学び合う授業づくりを目指して～
-------	---

1 主題名 よりよい学校生活、集団生活の充実 4－（4）集団生活の向上、役割と責任

2 資料名 「いま新しき力あふれて」（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅰ集）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値

人間は集団や社会の一員として生活を営んでいる。そして集団の一員としてよりよく生きるためには、自分の所属する集団の意義を理解し、その成員の役割や責任を果たしていかなければならない。そのためには、励まし合う協力的な関係を作り上げることが大切であり、それにより自分の個性やよさも発揮することができる。

中学生の時期は、自分の身近な集団の利益のみを追求し、自分とかわりの薄い集団に無関心になりがちである。このような狭い仲間意識を克服し、協力し合って集団生活の向上に努める態度を育てる必要がある。

（2）生徒の実態

男子17名、女子10名、計27名の学級である。授業などでは、真剣に取り組み、最後まできちんとやろうと努力する生徒が多い。係活動や仕事なども与えられたものは最後まで責任をもってやり遂げる。その反面、自分から進んで発言したり、積極的に仕事を見つけて取り組む生徒が少なく、与えられたものだけをこなす生徒が多い。また、相手が間違っただけをしても相手に進言したりすることは少なく、hyper-QUの結果から「なれ合いの学級」という結果が見られる。このことから、自分がやらなくても誰かがやってくれるという意識を変えさせることが必要である。

（3）資料について

本資料は、東日本大震災で自分が通っていた学校が倒壊するという困難に直面した中学校二年生の作文を中心にまとめられたものである。地震による校舎倒壊、原発事故等による外での活動制限など様々な困難の中で、「命」は「時間」であることを知り、前向きに生きることの大切さや学校の存在意義、ともに活動する級友と協力し合うことの大切さなどについて考えさせることのできる資料である。

公民館に作られたパネルで仕切られた教室での生活など、不便な生活の中でも創意工夫をしながらみんなで協力し合うことで、学校全体に一体感が生まれた。「僕」の気づきを通して、学校に対する愛着や誇りをもたせ、よりよい校風づくりに努めていこうとする心情を育てていくのに適した資料である。

（4）指導にあたって

震災から5年が過ぎ、当時感じた復興に向かって頑張ろうという気持ちが次第に弱まっている感じがする。そのため、本時の授業では、震災の時に感じた気持ちをもう一度思い出させ、その困難な状況を乗り越えていこうとする生徒の姿から、よりよい校風づくりに努力することの大切さを考えさせたい。また、自分がこの「僕」の立場だったらどうだったかという視点から考えさせていきたい。

3年生も残り5か月になり、自分たちが後輩にどのような遺産を残すことができるか、これからの取組のあり方をこの資料を通して、再考させていきたいと考えている。

同時に、受験という困難に向かって取り組んでいく生徒に、粘り強く最後までやり抜く意志や態度をこの資料を通して実感させていきたい。

4 本時のねらい

震災により自分が通う学校が直面した困難な状況を乗り越えていこうとする生徒の姿から、学校に対する愛着や誇りを持ち、よりよい校風づくりに努めていこうとする心情を育てる。

5 板書計画

希望に向かって頑張るN 中生の姿	・協力して新しい伝統を作り上げていく ・明るい未来に向かっていく笑顔	・活動できる場所がある ・生きていること	僕の中で動き始めた思い ・仲間と過ごすことの大切さ	「困難を乗り越える」 ・一緒に頑張る友人の存在	・授業内容の制限 ・部活動の時間や場所	近頃の公民館での生活 ・勉強や部活動ができない 思い出の場所がなくなる	・校舎や体育館が倒壊 N中学校	東日本大震災	「いま新しき力あふれて」
---------------------	---------------------------------------	-------------------------	------------------------------	----------------------------	------------------------	---	--------------------	--------	--------------

6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間 形態	○ 留意点 ◆ 評価
			◎ 研究主題とのかかわり
導入	1 問題の意識化・動機付け (1) 震災時の写真を見て、その当時の状況や心情などを振り返る。	5 一斉	○ 震災当時の状況がわかる写真を見せ、本時の価値の方向付けを行う。 ○ 事前のアンケートで書いたものを発表し、当時の気持ちを思い出させる手がかりとする。
展開	2 価値の追究・把握 (1) 震災時のN中学校の写真を見て、自分が通っている学校だったらどう思うかを考える。 ・勉強する場所がなくなって大変 ・自分の思い出の場所がなくなってしまう (2) 資料「いま新しき力あふれて」の朗読を聞く。 (3) 僕はなぜ、困難な状況を乗り越えたかを考える。 ・ともに困難に対して向き合う友達がいいたから ・自分たちよりも大変な思いをしている人たちがいるから (4) 日野原重明先生の言葉を聞いた時の僕の気持ちの変化を考える。 僕は中で何かが動き始めた。」とあるが、「何か」とは何を示していますか。(中心発問) ・校舎はなくとも、仲間と一緒に過ごすことの大切さ ・勉強や部活動ができる場所があることの尊さ ・自分が生きてくということのうれしさ (5) N中生一人一人が「いま新しき力にあふれて」希望に向かって頑張っていることに気づいたとき、僕はどんな気持ちになったかを考える。 ・自分もみんなと一緒に頑張ろう ・活気に満ちた学校をみんなで作り上げよう ・先輩たちに負けない新しい伝統を作り上げよう	30 一斉 一斉 個人 ↓ グループ 個人 ↓ グループ 個人	○ 資料への興味を持たせるとともに、自分自身の問題として考えるための手がかりとする。 ○ 浪江町から避難の生徒がいるため、津波や放射線汚染などについてはあまり触れない。 ○ 数名の生徒を指名して、自分の考えを発表させる。 ○ 教師が朗読し、資料の概要を確認する。また、必要に応じて写真などを使って補足する。 ○ 僕が直面した困難について確認した上で、何が困難を乗り越えるための力になったかを考えさせる。 ◎ 個別に自分の考えを付箋に書かせてそれを互いに説明し合い、いろいろな考えを引き出させる。【手立て4】 ◆ 自分の意見や級友の意見から考えることができたか。(ワークシート・発表) ○ 自分が生きていることにより、これからの時間を有意義に使うことの大切さにも気付かせる。 ○ 学校という場所ではなく、ともに学ぶ仲間がいることが大切であるという点に注目させる。 ◎ グループでの話し合いを通して、自分が気づかなかったことに、気づかせ、考えを深めさせる。【手立て4】 ○ 困難な状況でも、創意工夫や一人一人の気持ちによって一体感をもって生きることができることに気付かせたい。 ◆ 自分たちで新たな校風を作り上げていくためにはどんなことが大切か気付くことができたか。(発表・ワークシート) ◆ 自分の学校の良さやこれまでの自分について、N中生と照らし合わせて振り返ることができたか。(観察・ワークシート)
終末	4 価値の深化 (1) N中生が文化祭にむけて作った映像を紹介する。	5 一斉	○ 実際の生徒の活動の様子や困難の中でも笑顔を絶やさず、新しい伝統を作っている姿を観ることで、価値の深化を図る。

7 成果と課題

- 付せんを使って自分の考えを書かせることにより、自分の考えをなかなか言えない生徒も話合いに参加することができた。班での話し合いが活発に行うことができた。
- 実際のN中学校の生徒の様子などの写真や映像を利用することにより、生徒の心情に強く訴えることができた。
- 内容が多すぎて生徒の考えを発表する時間が少なくなってしまった。
- 主題の「集団生活の向上」よりも「命の大切さ」の方が生徒の考えの中では強くなってしまい、発問の内容や仕方などもう少し考えて取り組む必要があった。

情報発信に努めます

学校経営の状況について学校からの情報発信（学校だより、学年・学級だより、保健だよりの発行等）に努めるとともに、生徒、保護者の皆さんを対象にした学校経営に関するアンケート調査結果や学校評議員からの意見等についてもお知らせします。

平成28年度
二本松市立二本松第二中学校
運営・経営ビジョン

教育目標**豊かな人間性と自律心を培う****知 育**

確かな学力を
身に付け
進んで学ぶ
生徒

徳 育

他を尊重し
進んで
協力できる
生徒

体 育

強い意志を
持ち
進んで心身を
鍛える生徒

知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指します

- 1 授業や家庭学習の充実を図り、学力向上を目指します。
- 2 自主的な活動を重視し、活動の中で思いやりの心を育てます。
- 3 基本的な生活習慣に基づいた健康な心と体を育てます。
- 4 安全と安心の確保に努めます。

二本松方式による二本松の教育

- 知性と創造性に優れた二本松市の子ども育成
- 心のふれあいを大切に生きがいに満ちた二本松市の子ども育成
- 健康で活力のある二本松の子ども育成

平成28年度教育委員会
政策の重点事項

「学校と家庭、地域が連携して
子どもの教育を推進します」
—めざす姿—

学校では、子どもたちが豊かな学びの体験をおとして、心身ともに健やかでたくましく、郷土を愛する市民として成長できるように教育が推進されています。また、学校と家庭、地域が連携・協力し、思いやりと責任をもって子どもたちを見守っています。

【平成28年度 重点目標】

- 1 知育…学習する雰囲気高め、これまでの本校の学力向上への取り組みを一層推進し、基礎学力の向上を図り、生徒一人一人の学力向上を目指します。
- 2 徳育…「思いやり・感謝」の心を育て、ボランティア活動・福祉体験を推進します。規範意識の醸成に努めます。
- 3 体育…安全・安心を重視した健康教育や放射線学習を進め、体力増進活動の推進を図ります。

知 育

ア 学習相談を活用して学年に応じた平均家庭学習時間を確保し、学習内容の充実をめざします。

（1年…1.5時間以上、2年…2時間以上、3年…2.5時間以上）

- ・学習相談での個別指導の充実を担任・教科担当と連携して、具体的改善に向けた方法を指導します。（△□）
- ・家庭学習時間を十分に確保できるように生活記録ノートの活用を工夫します。（△□）
- ・「学習のてびき」を活用して、質の高い自主学習を推進します。（△□◇）

イ シラバス（教育計画）を基に個々に応じた学習指導の充実を目指します。

- ・計画的な学習を支援し、学習意欲を高めます。（△□）
- ・これまでの表現力を高める取り組みを継続し、個々の学力向上に努めます（△□）
- ・習熟度別学習など個々に応じた指導の工夫に努めます。（◎）

ウ 各教科において学力向上をめざし、創意工夫を凝らします。

- （生徒の授業評価が、80%以上「わかる」となるような授業の実施を目指す）
- ・単元ごと等に確認テストを実施して生徒個々の成績を累積し、定着度を確実にして進めます。（□）
- ・学校全体で学習する雰囲気作りに努めます。（◎）

エ「朝と昼の読書タイム」を設定して、読書活動を活発化します。

- （「読書カード」を活用して、読書の質を高めます。）
- ・「読書カード」の活用を工夫し、読書量を明確にしたり感想の発表ができるようにします。（△◇国語科）
- ・図書委員会による図書の紹介と「まっかぜ号」の活用推進に努めます。（◇△国語科）

徳 育

カ「思いやり・感謝」の育成のために、道徳の時間を中心に全教育活動で取り組みます。

- ・教師自身から「ありがとう」の言葉かけを意識した温かな雰囲気作りに努めます。（◎）
- ・体験活動と道徳教材をリンクさせて、心に響く道徳の時間の指導を進めます。ユニット道徳（△）

キ キャリア教育を中核にして、勤労観・職業観を育成し目標や学習への動機付けを目指します。

- ・学級活動で、3年間を見通したキャリア教育（進路指導）を計画的に進めます。（△△）
- ・総合的な学習の職業体験（2学年）で具体的な体験活動を通じて、勤労観・職業観を育てます。（△△）
- ・進路に関する情報を数多く提供します。（◎◇）

ク 奉仕活動を推進し、全生徒の自主性を育てます。

- ・各部活動ごとに奉仕活動を年間計画に位置づけて取り組みます。（◇）
- ・全校集会で実践例を紹介したり、ボランティア活動での感想等を発表できるようにします。（◎◇）
- ・日々の清掃活動を通して、奉仕の心を育てます。（◎）
- ・総合的な学習の福祉体験（3学年）で具体的な体験活動を通じて、奉仕の心を育てます。（△△）

ケ 積極的に自ら声をだして、あいさつができるようにします。

- ・学習・あいさつ強化週間を設けるなど、あいさつ運動に全校体制で取り組みます。清々しい来客へのあいさつができるように日頃から指導します。（◎）

コ 学級経営の充実を図り人間関係の強化を図ります。

- ・Q.Uの活用を図り、学級経営の充実を図ります。（△）
- ・教育相談の校内研修の充実を図ります（◆◎）

体 育

サ 規範意識の醸成を図ります。

（全教育活動・体育的活動から規範意識を育てます。）

- ・部活動を通してマナーを身に付けるとともに、機敏な行動を心がけさせます。（◇）
- ・生活委員会活動を活発化させ、生徒による定期的チェックや呼びかけを行います。（◇）
- ・学級活動で話し合いを持ち、きまりを遵守すべき意義を考えさせます。（△△）
- ・全教師の共通理解のもと、教師一丸となった生徒指導に努めます。（◎）

シ 体力増進のため、部活動を活発にします。

- ・体力テストの目標数値を明確にして、体力増進の意識化を図ります。（保健体育科）
- ・練習試合や各大会への積極的参加を通して、部活動に意欲的に取り組む姿勢を育てます。（◇）
- ・部活動において、練習内容を工夫して、技術向上と体力向上を目指します。（◇）

ス 健康教育を推進します。

（食育・性教育の充実）

- ・道徳や学級活動、給食指導の中で働きかけます。
- ・生徒の健康観察を行い、個別に指導します。（△△◆）

- ・食育の日（毎月19日）の周知を図り、食に関する事柄について啓発を図ります。（◎◆）

セ 安全・安心を重視した活動の情報を地域に発信すると共に、生徒自ら、安全を意識した生活ができるようにします。

- ・放射線教育の推進充実を図ります。（◎◆）
- ・学校の安全・安心に関する情報を積極的に発信します。（◆△△）
- ・交通ルールを守る指導を行います。（◎）

1 道徳教育全体計画関連図



(1) 各教科、(2) 道徳、(4) 総合的な学習の時間

二本松市立二本松第二中学校

第1学年

道 徳					
計画作成上特に工夫、配慮した事項					
1 生徒の道徳的実態を考慮し、学年の指導目標を達成させるために必要な内容を重点的に取り上げた。 2 ユニット道徳の視点を取り入れ、行事などとの関連を持たせて主題配列を行った。 3 「思いやりの心」の育成を図るため、指導項目の重点化を図った。 4 中学生として調和ある生活態度を身に付けられるよう、「望ましい生活習慣」の指導を重視した。					
月	単 元 (題 材 ・ 主 題) 名				時数
	ねらい	主題名	資料名	他の教育活動との関連等	私たちの道徳
4	1	1-(5) 自分のよさをのぼして	5 「世界に一つだけの花」	学級活動、音楽、保健体育	P38, 39, 42, 43
	2	1-(1) 決まりよい生活	2 「朝のうた」	総合的な学習の時間	P11
5	3	2-(1) あいさつの大切さ	23 「山での出会い」	学級活動、部活動	P52
	4	1-(1) 当たり前のことを当たり前に	4 「脱ぎっぱなしのスリッパ」	学級活動	P12, 13
	5	1-(4) 理想を求めて	22 「認められたグラブ」	学級活動	
	6	4-(9) 伝統の継承	14 「伝統文化に夢をもって」	国語、音楽、美術、英語	P206～213
6	7	4-(4) 集団一員としての自覚と誇り	10 「一枚のピース」	学級活動	
	8	1-(1) よく考えて	28 「釣りざおの思い出」	総合的な学習の時間	
	9	4-(1) 社会の中で守るべき義務	33 「オーストリアのマス川」	学級活動、社会、理科	P135
	10	2-(3) 友情を深めるには	7 「心のつながり」	総合的な学習の時間(校外学習)	P61
7	11	2-(2) 思いやる心のリレー	11 「涼風」	学級活動	
	12	4-(2) ルールを守る	9 「キャッチボール」	学級活動、国語、社会	P148
8	13	1-(3) 誠実な生き方	20 「裏庭での出来事」	学級活動	P22～27
9	14	3-(1) いのちの尊さ・生きていることの力	3 「捨て犬・未来」	避難訓練	
	15	4-(6) 家族とのかかわり	13 「とつげき家族」	技術・家庭	P180, 181
	16	2-(2) 思いやり	12 「絆を結ぶ、虹のかけはし」	総合的な学習の時間(ボランティア)	P54～55
	17	4-(10) 国際理解	6 「はるかなる時を超え」	国語、英語	P220～225
10	18	4-(4) 集団の一員として	19 「長縄跳び」	秋桜祭	
	19	3-(2) 自然と心のつながり	15 「夏の思い出」	学級活動(集団生活)	P114, 115
	20	1-(2) 夢や目標を持ってやり抜く強い意志	24 「隻腕のメジャーリーガー」	総合的な学習の時間(職業について考える)	
11	21	2-(6) 感謝する心	25 「笑顔と涙の理由」	ボランティア活動	
	22	4-(5) 働く喜びと充実した生き方の追求	1 「そうじの神様が教えてくれたこと」	ボランティア活動	
	23	2-(5) 広い心で	21 「ふと目の前に」	学級活動、国語	
	24	2-(4) 男女理解	16 「クラスメート」	学級活動、保健体育	P68, 69
12	25	1-(3) 責任をもった誠実な行動	17 「気まぜい時間」	学級活動、国語、社会	P22～25
	26	2-(6) 感謝と思いやりの心	8 「淳子ちゃん、ありがとう」	学級活動、保健体育	P82, 83
	27	4-(3) 公正な態度	18 「シカト」	学級活動、国語、社会	P162, 163
1	28	4-(6) 家族の絆	29 「何だっていいんだぁ」	学級活動、技術、家庭	P180～183
	29	3-(3) 崇高な生き方	27 「二度と通らない旅人」	学級活動、国語	P122
	30	4-(1) 法や決まりの遵守	26 「傘の下」	学級活動、社会	P134, 135
2	31	2-(3) 真の友情	30 「吾一と京造」	学級活動	P60, 65
	32	3-(3) 人間の弱さの克服	31 「つかの間の出来事」	学級活動、社会	
	33	4-(7) 自分の学校に誇りをもって	32 「玄さん」	学級活動	P194～199
3	34	4-(8) かけがえのない生命の尊重	34 「TSUBASA」	総合的な学習の時間	P103, 105
	35	3-(1) 郷土に尽くす	35 「五色桜」	総合的な学習の時間	
合 計					35

道 徳						
計画作成上特に工夫、配慮した事項		1 生徒の道徳的実態を考慮し、学年の指導目標を達成させるために必要な内容を重点的に取り上げた。				
		2 ユニット道徳の視点を取り入れ、行事などとの関連を持たせて主題配列を行った。				
		3 「思いやりの心」の育成と基本的生活習慣の定着を図るため、指導項目の重点化を図った。				
		4 中堅学年としてよりよい集団生活を築けるよう、「集団生活の向上」の指導を重視した。				
月	単 元 (題 材 ・ 主 題) 名				時数	
	ねらい	主題名	資料名	他の教育活動との関連等		心のノート
4	1	3-(2) 自然への畏敬の念	1 「木は生きている」	理科	P114,118	2
	2	2-(1) 時と場に応じた言葉や行動	9 「ありがとう」	生徒指導・部活動		
5	3	4-(1) 自他の権利の尊重	3 「昼休みの自由」	学級活動	P134	4
	4	1-(3) 責任ある行動	28 「捨てる、捨てない、そして拾う」	国語、社会		
	5	4-(10) 国際理解	10 「危険地帯から実りの土地へ」	朝河貫一についての学習	P216,217,219	
	6	1-(5) よりよく生きる	11 「ゴール裏の青春」	学級活動・部活動	P42	
6	7	4-(4) 自己の役割を自覚し責任を果たす	15 「山に憑かれた男」	学級活動(校外学習)		4
	8	2-(6) 感謝	16 「金色の稲穂」	ボランティア活動		
	9	1-(3) 誠実に生き、責任ある行動をとる	2 「父との約束」	学級活動、社会		
	10	1-(4) 夢を持って人生を切り開く	4 「歌の世界で太陽になりたい」	進路学習	P36	
7	11	4-(5) 働く意味を考える	18 「あめ細工ー石割定治」	職場体験学習	P173,177	2
	12	3-(1) 生命の尊さ	5 「あなたに」	救命救急実技体験教室		
8	13	4-(3) 差別や偏見のない公平な心	17 「張君の笑顔」	学級活動、部活動		1
9	14	2-(4) 男女間における人格の尊重	12 「リズム」	学級活動・部活動	P71	4
	15	4-(9) 優れた伝統や文化の継承	14 「金閣再建、黄金天井に挑む」	社会・美術	P206～211	
	16	4-(2) よりよい社会の実現	6 「希望 ぼくが被災地で考えたこと」	技術・家庭		
	17	1-(2) 困難の克服	13 「火影ー照明デザイナー石井幹子の挑戦」	進路学習		
10	18	4-(4) 集団生活向上のための役割と責任	8 「三度目の号泣」	学級活動、国語	P87	3
	19	4-(7) よりよい校風への発展	22 「伝統で終わることなく伝説に」	秋桜祭		
	20	4-(6) 家族の深い愛、きずな	26 「美しい母の顔」	社会	P182～185	
11	21	2-(3) 真の友情	23 「あるピエロの物語」	学級活動、国語		4
	22	4-(5) 感謝と思いやりの心	32 「少年の親切はいくらか」	ボランティア活動	P83,86	
	23	2-(2) 相手の立場を理解し思いやる心	21 「伝言板」	学級活動・ボランティア活動	P59	
	24	4-(8) ふるさとを愛する心	24 「田植え踊り」	国語・社会	P201～203	
12	25	3-(2) 自然への畏敬と感動	19 「リンゴが教えてくれたこと」	社会	P118	3
	26	3-(1) 生命の尊重	30 「ブラック・ジャック」	社会		
	27	3-(3) 人間としての生きる喜び	31 「償い」	学級活動	P120,121	
1	28	2-(5) 自他の立場の尊重と寛容の心	25 「言葉の向こうに」	国語、社会	P72	3
	29	1-(5) よりよく生きようとする意欲	27 「父の仕事」	進路学習		
	30	2-(3) 真の友人を得るには	33 「星置の滝」	学級活動		
2	31	1-(1) 節度と調和のある生活	34 「たゆまぬユーモアは頑健な体をしのぐ」	部活動・学校行事		3
	32	4-(1) 社会生活ときまりや義務の意義	29 「誰が犯人？」	国語、社会社会	P139	
	33	3-(3) 弱さの克服	20 「足袋の季節」	学級活動・国語	P120	
3	34	4-(5) 人々のために奉仕する心	35 「おもかげ復元師」	総合的な学習の時間	P176	2
	35	2-(2) 人間尊重の精神に基づく思いやり	7 「祖父の愛」	学級活動、社会	P59	
合 計						35

道 徳					
計画作成上特に工夫、配慮した事項		1 生徒の道徳的実態を考慮し、学年の指導目標を達成させるために必要な内容を重点的に取り上げた。 2 ユニット道徳の視点を取り入れ、行事などとの関連を持たせて主題配列を行った。 3 「思いやりの心」の育成と基本的生活習慣の定着を図るため、指導項目の重点化を図った。 4 自らの個性を伸長し、自己実現できる資質を育成できるよう、「個性の伸長」の指導を重視した。			
		単 元 (題 材 ・ 主 題) 名			時数
月	ねらい	主題名	資料名	他の教育活動との関連等	心のノート
4	1	1-(4) 夢に向かって	2 「スポーツの力 佐藤真海」	進路学習	P35
	2	4-(9) 日本人の美しい感性と文化	24 「「情緒」と「形」の国、日本」	修学旅行、社会	P214
5	3	4-(1) 決まりを守る	5 「二通の手紙」	学級活動、社会、数学	P134～139
	4	2-(4) 男女の敬愛	25 「人生一度だけだから」	キャリア教育、社会	P67,69
	5	4-(4) 仲間とともに	4 「一針一針」	学級活動、部活動	P166～169
	6	1-(4) 人生を切り開く	33 「すばらしい青年たち」	進路学習、キャリア教育	P33,35
6	7	2-(3) 信頼できる友	21 「友情切符」	国語、音楽、保健体育	P61
	8	2-(5) 謙虚に学ぶ	1 「蹴り続けたボール」	学級活動、保健体育	P75
	9	2-(6) 感謝の気持ちを素直に	35 「「ありがとう」と言われる自分に、言える自分に」	学級活動、部活動	P88～93
	10	1-(2) 強い意志を持って	10 「西山先生へ」	部活動	P16～20
7	11	4-(10) 世界の人々に貢献する喜び	22 「人類と地球の未来のために」	ボランティア活動、英語	P217
	12	4-(3) 差別や偏見の克服	8 「五井先生と太郎」	社会	P163,165
8	13	4-(5) よりよい社会の実現	17 「路のとう」	技術・家庭	P172～174
9	14	1-(2) 着実にやりぬく強い意志	6 「ボクは新人」	美術、保健体育	
	15	3-(1) 支え合う命	12 「余命ゼロ いのちのメッセージ」	福祉教育	P103
	16	2-(4) 健全な異性感	20 「さわやかな笑顔」	学級活動、国語	P66～69
	17	3-(1) かけがえのない生命の重さを考える	23 「忘れられないご馳走」	避難訓練・技術・家庭	P98
10	18	4-(8) 郷土を愛する心	19 「方言は父母からの贈り物」	社会	P204,205 P194,195 P198,199
	19	4-(7) 学校への愛着	31 「校門を掘る子」	秋桜祭	
	20	3-(3) 力強く生きる	7 「亡き母へのトランペット」	社会	P120
11	21	2-(2) 思いやる心	9 「タクミ君大いに揺れる!」	技術・家庭、ボランティア活動	P56
	22	4-(3) 明るい社会の実現	11 「よみがえった笑顔」	国語、社会、保健体育	
	23	4-(10) 世界に人々に貢献する	16 「笑顔がかける橋」	英語、社会	P214,217
	24	1-(3) 誠実に生きる	32 「忘れていた手紙」	学級活動	P24,25
12	25	2-(1) 感謝を表す気持ち	14 「一枚のはがき」	学級活動	P52
	26	4-(2) 互いに快く	13 「江戸しぐさは心のマナー」	国語、社会、技術・家庭	P149,153
	27	2-(2) 思いやりの心をもって	34 「パルモア病院日記」		P56,54
1	28	1-(5) 自分らしく生きる	29 「自分探しのチューニング」	キャリア教育・	P38,39
	29	4-(6) 母の心の匂い	28 「母よりの年賀状」	技術・家庭	P182,184,185
	30	3-(3) 人間の弱さの克服と良心	15 「尊い命」	国語	P120,121
2	31	2-(5) 互いの個性や立場を尊重する	18 「どうして?」	学級活動	P74,75
	32	1-(1) 節度ある生活	27 「人に迷惑をかけないということ」	学級活動、社会	P13,15
	33	3-(2) 自然に対する畏敬の念	3 「はるかなる生命の物語」	自然環境、理科	
3	34	1-(2) 誠実な生き方	26 「思い出のオムライス」		P27
	35	2-(6) 涙と喜びのわけ	30 「命の力のおすそわけ」		P82,83
合 計					35

学級における道徳指導計画

第1学年__組 担任__

道徳教育の重点目標

- 1 自他の生命を尊重し、温かい人間愛の精神を深め、他の人に対して感謝と思いやりの心を持つようにする。
- 2 規範意識を身に付け、自主的に考え、責任ある行動がとれるようにする。
- 3 自分の持つ弱さを克服し、着実にやり抜く強い意志を持つようにする。
- 4 望ましい生活習慣を身に付け、健康・安全で節度ある生活ができるようにする。
- 5 自分を振り返り、個性を伸ばし、よりよい生き方を求めるようにする。
- 6 豊かな体験を通し、勤労の尊さや社会への奉仕の気持ちを深め、道徳的実践を通し、公共の福祉に貢献できるようにする。

学年の重点目標

- 1 具体的場面を通して、善悪の行動を判断させる。
- 2 よい環境と明るい心のびのびとした生活の中で、道徳的心情を養う。
- 3 日常生活における望ましい生活習慣を身に付けさせる。

道徳の時間の指導方針

- 1 教育活動全体を通して行い、道徳教育の充実に努める。
- 2 生徒とのよりよい人間関係を築き、道徳性の高揚を図る。
- 3 3年間を見通した、系統的・発展的な指導を実践していく。
- 4 道徳の時間にあたっては、時間の確保はもとより、学級の実態に応じて計画的に実践していく。

学級担任の願い

- 1 相手の立場になって考えることができる生徒を育てたい。
- 2 心からの挨拶や丁寧な言葉遣いができる生徒を育てたい。
- 3 何事にも一生懸命取り組める生徒を育てたい。

学級における道徳教育の重点

- 1 相手の立場になって物事を考え、思いやりを持って行動できる生徒の育成に努める。
- 2 心のこもった挨拶や言葉遣い、時間を守るなど基本的生活習慣が身に付けられる生徒の育成に努める。
- 3 集団の一員として、自分の役割を理解し、粘り強く取り組める生徒の育成に努める。

学級の実態

- 1 素直な気持ちを持っている生徒が多い。
- 2 明るく元気で、誰とでも仲良く生活している。
- 3 けじめがつけられない時がある。

学級における道徳の時間の基本方針

- 1 人間としての生き方についての自覚を深めるために、生徒の実態に即した資料の開発と指導方法の工夫に努める。
- 2 共によりよく生きるための人間関係を構築し、認め合う雰囲気高めるための言語活動の工夫に努める。
- 3 道徳的表現力を高めるため、積極的に豊かな体験との関連を図る。

【県中地区】三春町立岩江中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	三春町立岩江中学校
所 在 地	田村郡三春町大字上舞木字向田53番地
校 長 名	佐藤 和典
学校の教育目標	「自立」 「真理」：進んで学習し、真理の美しさを追求する生徒 「博愛」：人間としての生き方を追究し、思いやりの心を持って行動する生徒 「健康」：共に健康で安全な生活環境の実現をめざす生徒 「貢献」：社会のため、人のために役立ち、「生きる喜び」を味わえる生徒
学級及び児童生徒数	6学級 111名
道徳教育にかかる取組の概要	① 道徳性アンケート（生徒・保護者・教職員）による実態把握と重点項目の決定 ② 「別葉」学級における道徳指導計画の整備・充実 ③ 個及び学級の実態に応じた道徳の授業の充実 ④ 道徳の授業・道徳教育の評価と『行動の記録』との関連化

2 研究テーマ

こころ豊かに、たくましく、共に成長できる生徒の育成
～道徳性を高め、道徳的实践を視野に入れた取組～

3 テーマ設定の理由

(1) 今日課題から

第8回道徳教育専門部会（平成26年8月7日）において道徳の教科化の必要性が示され、かつ、いじめ等の問題など社会的教育課題等への対処として、実践化までを視野に入れて、学校教育全体を通じて道徳教育の推進を盛り込んでおく必要があることが述べられた。また、平成27年3月27日には学校教育法施行規則が改正され、「道徳」が「特別の教科である道徳」として、学習指導要領の一部改正が公示され、平成27年4月1日からの移行期間を経て、平成31年4月1日から全面実施されることとなった。よって、現在はその過渡期・模索期にあり、道徳教育について今一度改めて見直す時期であると言える。

ただ、根本的な部分は変わることなく、学校における道徳教育は、「要」としての道徳の授業を中心に学校の教育活動全体を通じて行われるべきものである。そして、道徳の時間において、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれらを補充、深化、統合し、生徒に道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深めさせ、道徳的实践力を育成するものとされている。

学校では、道徳教育を通じて、生徒が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、手立てを考え、実践できる力を育成するようにしていくなどの改善が必要と考えられる。

さらには、生徒の道徳性の実態把握や評価の在り方についても、個に応じた道徳教育の展開や実践化までを視野に入れた道徳指導の評価にも、その在り方について、改めて取り組み直す時期であると考えられる。

(2) 学校教育目標の具現化の観点から

本校の教育目標は「自立」である。そして「自立」に迫る4つの視点と目指す生徒像、真理：進んで学習し、真理の美しさを追求する生徒、博愛：人間としての生き方を追求し、思いやりの心を持って行動する生徒、健康：共に健康で安全な生活環境の実現をめざす生徒、貢献：社会のため、人のために役立ち、「生きる喜び」を味わえる生徒、のもと、教育活動を行っている。特に、今年度は、『こころ豊かに、たくましく』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～という学校経営方針を掲げ、学校に関わるすべての人たちが、よりよい学校づくりに向けて、共に、語り合い、分かち合い、信頼関係で結ばれ、その信頼関係の中で、子どもたちだけではなく、教職員も含めたすべての人たちが安心感をもって学校生活を送り、共に成長していけるような、こころ豊かでたくましさをもった人づくり・学校づくりをめざしている。

そのような状況下において、道徳の時間を「要」とした教育活動全体を通じた道徳教育の在り方について研究していくことは、教育目標、学校経営方針の具現化・実現にとって根幹をなす取組であると考えられる。

(3) 本校の生徒の実態から

本校は全校生111名である。岩江地区内には、岩江幼稚園、岩江小学校の1園・1校しかなく、幼小中の連携が図られている地域である。今年度初めに、道徳に関するアンケートを実施した。生徒・保護者・教職員の集計結果では、現行の学習指導要領の4領域24項目の内容項目において、そのどれを特に身に付けたい、身に付けさせたいかと答えた人の数に大きな差はなかった。そこで、学級ごとの集計結果により、学級ごとに重点項目を一つ設定し取り組むことにした。

(4) 本校のこれまでの取組から

本校では、生徒指導要録の「行動の記録」にも活用しようと、生徒のよさを認め、励ます機会として補助簿を準備し、全教職員で記入している。一昨年度は、年に2回の記入であったが、生徒の様子が見えにくいということで、昨年度は随時記入することにした。しかし、記入が若干増えたものの大きな改善は見られなかった。そこで、今年度は、毎週開催される学年会において記入することにした。この改善によって、生徒一人一人のよいところや変容が見やすくなるものと考えた。この「行動の記録」補助簿が道徳的価値の実践化を具現する成果ともなることから、これまでの活動を充実・発展させる形で実施していきたい。

(別紙資料)

以上のような理由から、研究テーマを設定した。なお、学校全体としては、研究主題より「こころ豊か」そして「たくましく成長できる」に該当する1-(2)、2-(5)。また、今日的課題より4-(3)を重点項目として取り組むこととした。

4 研究計画

月	日(曜)	校 内	備 考
4	28日(木)	研究推進委員会	研究推進の概要について
5	2日(月) 6日(金) 19日(木)	現職教育全体会 事前アンケート(生徒・保護者・教職員) 県道徳教育推進協議会①	実施・分析・重点化
6	3日(金) 29日(水) 30日(木)	研究推進委員会 福大附属中研究公開参加 研究推進委員会	研究推進計画について 道徳教育全体計画, 学級における道徳教育計画, 別葉の見直し完了
7	1日(金) 15日(金) 20日(水) 7月中	現職教育全体会・研究推進委員会 要請訪問① 授業研究会(3年1組)・事後研究会 現職教育全体会	授業研究会①について 県中教育事務所指導主事 実施計画書提出(町教委→事務所)
8			
9	20日(火)	現職教育全体会・研究推進委員会	授業研究会②について
10	4日(火) 7日(金) 13日(木) 24日(月)~26日(水) 27日(木) 27日(金), 28日(土)	道徳教育全体研修 道徳教育地区別推進協議会 要請訪問② 授業研究会(1年2組)・事後研究会 道徳教育指導者養成研修 田村地区中教研2次研究会 全日本中学校道徳教育研究大会	県中教育事務所指導主事 推進状況報告 県中教育事務所指導主事 福島県福島市 道徳部会 石川県金沢市・能美市
11	7日(月) 11日(金) 18日(金) 28日(月)	学校へ行こう週間 要請訪問③ 授業研究会(すみれ学級)・事後研究会 東北地区中学校道徳教育研究大会 研究公開(1の1・2の1・3の2) 授業研究会・全体会・事後研究会 現職教育全体会・研究推進委員会	道徳教育公開 要請訪問Ⅰ(A型) 山形県西田市 県中城内 研究のまとめについて
12	9日(金) 22日(木)	事後アンケート(生徒・保護者・教職員) 現職教育全体会・研究推進委員会	実施・分析・変容理解 各学級道徳指導計画の反省
1	10日(火) 12日(木) 1月中	現職教育全体会・研究推進委員会 全校道徳「自尊感情を育てるためには」	今年度の反省・来年度の研修 郡山女子大学短期大学部講師 実施報告書提出(町教委→事務所)
2	7日(火)	県道徳教育推進協議会②	福島県福島市
3		研究推進委員会	来年度の計画、別様の作成・完成

5 生徒の実態及び地域の課題

「道徳に関するアンケート」を実施した結果、生徒・保護者・教職員の集計結果では、1-(1)「節度を守り調和のある生活」、1-(2)「希望をもってやり抜く強い意志」、1-(5)「個性を伸ばし充実した生き方」、2-(2)「人間愛、思いやり」、2-(4)「相手の人格尊重」、2-(6)「感謝しそれに答える」、3-(1)「自他の生命の尊重」、4-(2)「公德心及び社会連帯の自覚」、4-(5)「公共の福祉と社会の発展」が大切であると答えている。

一方、本校の学校運営方針や「行動の記録」など日々の実践から、「こころの豊かさ」、そして「たくましく成長できる」に該当する、1-(2)「やり抜く強い意志」、2-(5)「個性の尊重と寛容の心」、また、今日的課題より、4-(3)「公平・公正」を重点項目として取り組むことが本校及び地域の課題であると考えた。

6 道徳教育における校長の指導の方針

個に応じた実態把握のもと、個及び集団の特色に応じた道徳教育に取り組むようにしている。そのため、道徳教育推進教師を推進役として、学習指導要領道徳編の内容項目について、生徒・保護者・教職員にアンケートを実施し、実態把握に努めた。

また、要としての道徳の授業に関しては、答えの見通せる授業から、深く考え、本音で語り合える授業の展開になるよう、ワークシートや発問構成について一緒に検討している。

道徳の授業及び学校教育全体で取り組む道徳教育の評価に関しては、事後アンケートを実施し把握すると共に、これまで取り組んできた「行動の記録」との関連を図りながら、実践化に結びつく評価をめざした。

7 平成28年度 道徳教育の全体計画について

全教育活動を通して行う道徳教育という視点を明確にした取組を心がけると共に、各教科・領域等との関連を明確にした全体計画の作成をめざした。指導にあたっては、『繰り返し』と『積み重ね』を合言葉に、必要な内容項目に関して、それぞれの責任場面において、方向性を一にした指導を展開するようにしている。

(別紙資料)

8 平成28年度 道徳教育の全体計画の「別業」について

自校の課題である『繰り返し』と『積み重ね』に役立つよう、配列・関連を明確にした作成を心がけると共に、授業・指導の実践・評価を受けた資料の累積・「別業」の修正・改善に努め、指導に生きる「別業」のあるべき姿についての整備に継続して取り組んでいる。

9 平成28年度 学級における指導計画について

学校全体での道徳教育の重点を定めると共に、学級の特色に応じた道徳教育の重点化も図っている。本音で語り合える学級づくりをめざすと共に、評価に関しては、日頃取り組んでいる「行動の記録」との関連を図りながら、生徒に自尊感情『私にはこれがある』というものを自覚させるように努めている。

(別紙資料 ※学級における指導計画は1の1のみ)

10 道徳教育推進教師の実践について

研究テーマに迫るために、校長のリーダーシップ、全教職員の協力のもと、次のような実践を行った。

(1) 道徳性に関する必要性アンケートの実施

生徒・保護者・教職員を対象に、道徳性の実態把握のためにアンケートを5月上旬に実施した。12月には、事後アンケートも実施して変容を把握し、来年度の計画作成に役立てることができた。

(2) 道徳教育全体計画の見直し・道徳教育の学級における指導計画の作成

(1)の結果と学校教育目標から、本校の重点項目を設定し、現状に即した全体計画を作成した。また、各学級における重点項目も設定し、新たに学級における指導計画も作成した。

(3) 年間35時間の完全実施

本校は、教職員の出張等に合わせて時間割を組むことで、全教科において補欠授業、いわゆる自習を行っていない。よって、学級担任による道徳の授業を年間35時間実施できた。

(4) 教職員の研修会の実施

平成31年度の教科化に向けての講義、全員で同じ資料を用いての資料分析を、指導助言者を招いて実施したことにより、教職員の道徳に対する意識、授業力の向上が図られた。

(5) ゲストティーチャーによる全校道徳の実施

生徒の自尊感情『私にはこれがある』の育成とその自覚を目的とし、「自尊感情を育てるためには」の内容で、ゲストティーチャーを招き、全校道徳を実施した。

(6) 先進校視察等による研修

中教研道徳部会、福大附属中の授業公開、東北・全国の中学校道徳教育研究大会へ参加し、数多くの多様な授業を参観できた。また、教科化に関する講義、シンポジウム、様々な課題についての分科会にも参加できたことで、多くの情報を得ることができた。

11 道徳の時間について

全学級で指導助言者を招いて、研究授業を行った。

7月15日(金) 校内研究授業 3年1組 1-(5) 反省と向上、個性の伸長 (別紙資料：分科会記録)

10月13日(木) 校内研究授業 1年2組 4-(3) 正義、公正・公平 (別紙資料：分科会記録)

11月7日(月) 要請訪問 すみれ学級 2-(2) 人間愛、思いやり

11月18日(金) 公開授業1年1組、2年1組、3年2組 (別紙資料：指導案、分科会記録)

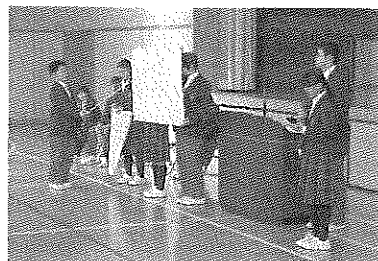
12 成果と課題

- 「特別の教科 道徳」の平成31年度の教科化を見据え、全教員で研修の機会をもつことができ、①「特別の教科 道徳」は、道徳教育への「アレルギー」を払拭し、道徳教育を充実させるために不可欠であること、②「道徳的实践力」を育成し、「道徳的实践」へと架橋する道徳教育の構築をめざすというポイントが共有できた。

また、絶え間なく生じる新たな課題に向き合い、自分自身でしっかりと考え、また、他者と対話しながらよりよい解決策を生み出していく力を育成する必要性、「生徒の内面を育てること、さらに、その内面の力によって自発的・自律的に道徳的实践に結びつくこと」、「内面的な『道徳性』を育成することにより、将来の具体的な行為としての『道徳的实践』につながるようにすること」を明確に意識して取り組むこと、「多角的、批判的に考えさせたり、議論・討論させたりする授業」を重視し、「生徒の思考力・判断力・表現力等を育むための言語活動を取り入れた指導をさらに充実・強化していくこと」の必要性などについて共有できた。

- 生徒、保護者、教職員対象の道徳性に関するアンケートを実施した。それぞれ、学級役員、学級担任、校長が集計することで、その責任分野において、より実態を的確に把握することができた。
- 校長の教育課程編成方針「道徳編」が示された。教育目標や経営方針の確認、平成28年度教育課程編成方針など、道徳教育に関連する項目の朱書きにより、道徳教育の方向性や方法などについて示し、以降の道徳教育推進の拠り所とした。その中で、特に、「実践化」という表現を強調し、本校独自の実践に結びつく道徳教育という方向性を示し、道徳教育で学んだ内容が、より効果的に実践に結びつくためにはという意図をもって道徳教育の研究に取り組むよう意識化が図られた。
- 小規模校である本校では、全教職員が、生徒のよさに気づき、そのよさを認め、励まし、次なる意欲につなげていこうという趣旨のもと、『行動の記録』会議という活動に取り組んできた。この取組により、以下のような成果が見られた。

本校で取り組んでいる、自尊感情・自己肯定感育成のための合言葉「私にはこれがある」の育成のための重要な機会ととらえ、教職員に生徒の「よさ」を見つめる目を養うことができた。また、個別面談や保護者との三者面談等を通し、そのフィードバック活動に取り組むことで、生徒自身が他者からの承認意識を感じ、保護者も我が子の学校における様子を知ることができた。さらに、自らの子育てに自信をもつことで、寛容の心でわが子に接し、学校との信頼関係の醸成も図られるなど、学校と家庭が信頼関係の中で、より円滑な教育活動を生徒に提供することができた。また、4領域24項目の内容項目と指導要録「行動の記録」との関連表を作成し、生徒の行動がどのような道徳的価値と関連しているかを意識しながら指導にあたるなど、道徳的实践を視野に入れた道徳教育の評価の根拠として活用しようと考えた。



- 35時間の年間授業時間は、中身も含めてしっかり実施されているものの、自校の道徳的価値に対する感じ方の実態把握が不十分であること、自校の道徳教育の重点課題設定に際しては、その根拠が甘いこと、読み物資料が中心で、答えがある程度予想される授業が多いこと、子どもたちが本音で語れる土壌が十分に醸成されていないこと、話し合い活動が深まりのないものになっていること、学んだ道徳的価値に対する理解の程度が不明確であることなど、抱える課題はまだ山積みである。
- 評価に関しては、道徳教育の目的は、子ども個々が一人の人間としての自らの生き方についての自覚を深めながら、よりよく成長していくことを支えるような肯定的評価をし、個の学びのよさや意欲、可能性を引き出したり、励まし・勇気づけたりする、数値による評定とは異なる記述的評価が大切になってくることを今後の課題として共有した。
- 教科化に向けた道徳教育推進の概要についてはある程度理解できたが、研究を継続していくことにより、多面的・多角的な見方、言語活動や役割演技の具体的実践方法など、その一つ一つの取組のねらいと精度を上げていく必要がある。
- 道徳性に関するアンケートはあくまで意識の把握であり、道徳性の実態そのままではない。また、規範意識の指導に関して、教職員の指導者側の意識と保護者の意識の間には、明らかに食い違う部分がある。個々の道徳性を把握すると共に、学校全体としての道徳性の実態をどう把握し学校の重点としていくかを、保護者や地域と共有しながら、同一歩調で生徒の道徳性の向上をめざしていくことも大きな課題である。
- 全国学力調査や県学力調査などで、基本的生活習慣の向上と学力には相関関係がみられる。大きくみると道徳性と学力にも相関があると言える。教育課程編成の方針提示に始まる教育課程編成作業の中で、道徳教育の視点をいかに明確にした編成をしていくかについて、全教職員・保護者・地域が共有し、継続して実践にあたる場が必要である。
- さらなる課題としては、①道徳性アンケートの道徳教育の学級における指導計画への反映と2回目との比較・検討、②「考える道徳」「話し合う道徳」「主体的に価値を捉え生かす道徳」など、道徳の授業指導案上での実現のための在り方の検討、③道徳教育と『行動の記録』の関連・活用方法の明確化など、取り組むべき課題はまだまだ残されているが、一つ一つ解決のための努力をしながら、岩江中学校教職員の資質向上と、岩江中学校の子どもたちの道徳性の向上に真摯に取り組んでいきたい。



生徒の実態

- 自ら気づき行動することができるようになってきた。
- 小学校から、あまりメンバーが変わらないため穏やかに生活している。

教師の願い

- 自分の意見や考えをはっきりと述べるようになってほしい。
- 何事も諦めないで最後までやり抜く耐性を身に付けてほしい。
- 自分たちのふるさとに誇りをもち地域を大切にしたい。
- 自分の健康管理に努め、心身共に健康で学校生活を送ってほしい。

生徒の道徳性

- 挨拶や返事などをきちんとすることができる。
- 清掃などの奉仕的活動や委員会活動に、責任をもって取り組んでいる。
- 時折、他者の立場や気持ちを考えない言動をしてしまうことがある。

各教科

国語	人生について考えを深め豊かな人間性を養い、我が国の文化と伝統を理解し、それらを尊重する態度を育てる。
社会	我が国の国土と歴史に対する理解を深め国際社会に生きる民主的平和的な国家社会の形成者として必要な基礎を養う。
数学	数理的に考察する能力を高め、生活に生かす態度を養い、実践しようとする心を育てる。
理科	自然に対しての関心を高め観察や実験を通して自然の事物現象についての理解を深め生命を大切にする心を育てる。
音楽	表現や鑑賞の活動を通して他者との調和やバランスを考え音楽を創造し豊かな情操を養う。
美術	構想豊かで手順よく意欲的に表現できる能力と態度を育てるとともに、美しいものに感動する心を育てる。
保健体育	生涯を通し、自らが進んで運動に親しむ態度や能力を身に付け、心身を鍛え、協力して活動する態度を育成する。
技術家庭	生活と技術の関わりについて理解を深め、家族や地域の一員としての自覚をもち、互いの立場を尊重しながら、よりよい生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。
英語	積極的なコミュニケーションの活動を通して、より豊かな社会性を養うとともに異文化理解を深める態度を養う。

教育目標

- 【真理】 進んで学習し、真理の美しさを追求する生徒
- 【博愛】 人間としての生き方を追求し、思いやりの心をもって行動する生徒
- 【健康】 全ての命を大切に、共に健康で安全な生活環境を実現を目指す生徒
- 【貢献】 社会のため、人のために役立ち「生きる喜び」を味わえる生徒

道徳教育の重点目標

- 1 「心の在り方」や「生き方」に問いかける指導を充実させる。
- 2 日常における道徳的実践力が育成されるよう努める。
- 3 教科教室方式の利点を生かし、毎日の生活の中で道徳的判断力を高めて学校生活を送れるようにする。
- 4 基本的生活習慣を確立し、思いやりの心をもち実践できるようにする。

学校・各学級の重点項目

学校	1-(2)強い意志, 2-(5)謙虚な心, 4-(3)公正・公平
1-1	4-(3)公正・公平
1-2	1-(2)強い意志
2-1	2-(2)思いやり
2-2	1-(2)強い意志
3-1	1-(5)個性の伸長
3-2	2-(5)謙虚な心

道徳の時間の指導方針

- 道徳教育推進教師を中心に適切な資料の収集に努め、活用する。
- 他の教育活動や各教科との連携・連動が図られるよう工夫する。
- 道徳教育推進教師を中心に家庭や地域社会との連携を行う。

家庭との連携

- 学校便り、学年通信、学級通信、保健便り、食育だより、PTA 会報、同窓会報等の発行や HP を通し、保護者との連携・協力を深め、それぞれの立場で生徒のよりよい成長を援助する。
- PTA 専門委員会の活動を活発に行う。

地域社会との連携

- 学級活動との有機的な関連を図り、ボランティア体験活動を充実させ、地域奉仕活動を計画的に実践する。

その他の活動

- 学校生活全体にゆとりと充実感をもたせるために、教師と生徒、生徒相互の触れ合いを大切に、心身共に安定した学校生活を送れるように配慮する。
- 自己実現の喜びや個性の伸長が実感できる体験的な活動を計画的に行う。
- 生徒の興味・関心、創意工夫のもとに、自主的・自発的に活動できるように配慮する。
- 教科センター方式の特性から、学級意識や集団意識が希薄になる傾向がある。そこで、学級の話合い活動や諸活動の参加・準備等の活動を十分にを行い、学級集団の一員としての存在感や自覚がもてるよう工夫する。

日本国憲法

- 教育基本法
- 学校教育法
- その他関係法令・法規等
- 三春町教育委員会学校教育の基方針

学習指導要領

時代や社会のニーズ 白書・答申

特別活動

学級活動	学級生活の充実と向上を図り集団の一員としての自覚を深め協力してよりよい生活を築いていこうとする態度を育てる。
生徒会	一人一人が役割を自覚し、他と協力しながら積極的に活動しようとする態度を育てる。
学校行事	学期ごとに体験的な活動を精選して位置付け学校生活の秩序と変化及び集団生活の向上を図る。

総合学習

共通学習	○資料や情報を収集・活用し、最終的に自分のテーマを解決し自分の考えをまとめ、自分にあった表現で発表を行う。 ○校外学習や修学旅行と連動させた体験活動を位置付け、人との出会いからいろいろな生き方を学ぶ。 ○進路学習との関連を図り、職場体験、高校説明会等を通じて「生き方を学び、自分の夢を表現する」場面を設定する。
学年別学習	○1 学年テーマ「福祉とボランティア学習を主とした体験活動」 ○2 学年テーマ「郷土学習を素材にした体験活動」 ○3 学年テーマ「自己実現に向けた体験活動」

小学校との連携

小学校との情報交換により、生徒の実態の把握に努めるとともに、目指す生徒像の実現のために、発達段階に応じた系統的な道徳教育を展開できるようにする。
小・中合同で学校保健委員会を開催し、個々の情報を共有する。

道徳教育の学級における指導計画

【第1学年1組】

三春町立岩江中学校

教育関係諸法規 ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 学習指導要領 三春町教育委員会の教育目標	学校教育目標 『自立』 「真理」進んで学習し、真理の美しさを追求する生徒 「博愛」人間としての生き方を追究し、思いやりの心をもって行動する生徒 「健康」共に健康で安全な生活環境の実現をめざす生徒 「貢献」社会のため、人のために役立ち、「生きる喜び」を味わえる生徒	学級における生徒の道徳性の実態 ・元気であり、男女の仲がよく、素直である。 ・何事にもあきらめないで取り組む。 ・責任感が強い。
道徳教育全体計画	学年目標 ・基本的な生活習慣と望ましい学習態度を確立させ、心身共に、健康で安全な学校生活をおくることができる。 ・自分の将来の夢や目標を設定し、その実現に向けて努力していく生徒の育成を目指す。	保護者の願い ・感謝の気持ちをもって生活できる。 ・思いやりの気持ちをもって相手の身になって考えられる。
年間指導計画	学級目標 自分の目標に向かって努力する生徒になろう ～ あきらめない心をもって日々成長する生徒～	学級担任の願い ・自他の生命を尊重し、よりよい生き方を考える。 ・正義を重んじ、誰に対しても公正・公平に接することができる。
学級経営方針 ・意欲的な学習態度を身に付ける。 ・責任感をもって係活動にあたる。 ・お互いの良さを認め合うことができる態度。 ・保護者や地域との連携。	学級重点項目 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (3) 正義を重んじ、だれに対しても公正・公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。	目指そうとする生徒像 ・前向きな姿勢をもち、正しい言動をとることができる生徒 ・自他の命を尊重し、思いやりのある生徒 ・感謝の気持ちを忘れずに生活できる生徒
総合的な学習の時間 ・自己の生き方についての自覚を深める。 ・自己の良さを伸ばしていこうとする態度を養う。 ・自主的に考え、より高い目標に向かって努めていく態度を養う。 ・着実にやり抜いていく強い意志を培う。	学級における道徳教育の基本方針 ・日頃から道徳教育に力を入れ、学級の中でお互いを認め合い、尊重できるような雰囲気を作る。 ・他に左右されずに正義感のある言動をとることができるように指導する。 ・あきらめない気持ち、勇気や希望をもって生活できるように励ましていく。	特別活動 学級活動 学級生活を基盤とし集団成員としての責任をもって行動し、望ましい資質・態度を養う。 生徒会活動 自発的な集団活動を通して学校生活の充実と向上を図るとともに、生徒会行事等の体験を通して自律する態度を養う。 学校行事 各行事での体験を通して、自主性や協調性、また豊かな心情を育成する。
各教科 国語 文章を通して、社会のあり方や人間の生き方について考える。 社会 日本の文化と伝統の特色を広い視野に立って考える。 数学 多様な見方で事象をとらえ、筋道を立てて考える能力を育てる。 理科 自然への理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。 音楽 表現や鑑賞の活動を通して豊かな情操や生きることの喜びを育てる。 美術 表現や鑑賞の活動を通して創造活動の喜びを味わいながら豊かな情操を養う。 保健体育 主体的体験を通して心身の健康や集団生活に必要な態度を養う。 技術・家庭 体験的学習を通して生活の充実を図り、実践的態度を育成する。 英語 言語や文化に関心をもち国際理解の基礎を養う。また英語を通じて聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。	学級における道徳の時間の指導 ・道徳の資料を工夫し、生徒の興味・関心を引きつける。 ・日頃の体験から考え、自らを振り返る機会をもたせる。 ・道徳実践力を身につけるために、学校行事などの体験を通して学んだことについて発表し合わせる。 ・さまざまな人の生き方を紹介し、自分の今後の生き方のヒントや手本となるようにさせる。 学級生活における豊かな体験の計画 ・学級の係活動を通して、人のために役に立つことで自分を高めるようにする。 ・学校行事を通して級友との友情を深め、その経験を今後に生かせるようにする。 ・さまざまな体験を通して、自分を振り返らせ、さらによりよい生き方を目指すようにする。 学級における教育環境の整備計画 ・常に相手とのコミュニケーションを欠かさないように助言していく。 ・掲示物などを通して、他の人の考えにも目を向けさせる。 ・朝の読書の時間を通して、本に親しみをもち、自分の生き方を一考させる。 基本的な生活習慣に関する指導計画 ・常に気持ちのよいあいさつや返事を心がける。 ・時間を守り、自分の係活動などを責任をもって果たすようにする。 ・明るい気持ちで級友と接し、自分の考えや意見をはきはきと言えるようにする。 生徒指導における道徳教育の視点 ・正しい言動をとれるように、日頃の言動について賞賛するなど声かけをしていく。 ・学級の一員として、他の人のために尽くすことに喜びを感じられるようにする。 ・自分の生き方について振り返らせ、よい生活ができるように助言していく。	その他の教育的活動 他の学年との連携にかかわる内容と方法 ・学校行事を通して、協力し合って活動し、よりよい行事をつくりあげる。 ・生徒会活動や部活動において先輩の姿を見ながら積極的に取り組む。 ・週番などの縦割りの活動に積極的に取り組む。 家庭・地域社会との連携にかかわる内容と方法 ・学校だよりや学年だより保護者会、授業参観等を通して、家庭との連携を図る。 ・地域の行事への参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深める。

「行動の記録」補助簿

項 目	主な評価場面および評価観点の例
基本的な生活習慣	☐ 日常生活 ・安全な行動 ・あいさつ、礼儀 ・身だしなみ ・整理整頓 ・学習習慣（準備物、提出物） ・時間管理 ☐ 道徳 ・1－（1）「望ましい生活習慣」「節度節制」 ・2－（1）「礼儀」「適切な言動」
健康・体力の向上	☐ 日常生活 ・健康管理 ・衛生管理 ・規則正しい生活習慣 ☐ 部活動 ・運動への意欲的な取り組み ☐ 保健体育科 ・運動への意欲的な取り組み ・健康への関心 ☐ 給食 ・食に対する関心（好き嫌い）
自主・自律	☐ 日常生活 ・年度初めや各学期の目標設定 ・決意の作文 ・計画的な学習 ・規範意識 ・リーダーシップ ☐ 各教科 ・学習意欲 ・進路意識 ☐ 道徳 ・2－（3）「自主自律」
責任感	☐ 日常生活 ・係活動 ・当番 ・話し合い活動の発言内容 ☐ 委員会活動、部活動、学校行事 ・役割の自覚とやり抜く力 ☐ 道徳 ・2－（3）「誠実と責任」 ・4－（1）「役割と責任の自覚」
創意工夫	☐ 日常生活 ・話し合い活動の発言内容 ☐ 各教科、総合的な学習 ・主体的な学び ・豊かな発想 ☐ 委員会活動、学校行事 ・個性の理解と発揮 ☐ 道徳 ・1－（5）「個性の伸長」
思いやり・協力	☐ 日常生活 ・係活動 ・当番 ・対人関係（明朗・親切） ☐ 委員会活動、部活動、学校行事 ・異学年との関わり、感謝の心 ☐ 総合的な学習 ・福祉とボランティア（1学年）「共生」 ☐ 道徳 ・2－（2）「感謝と思いやり」 ・2－（5）「自他の尊重」「広い心」
生命尊重・自然愛護	☐ 道徳 ・3－（1）「自然の愛護」「畏敬の念」 ・3－（2）「生命の尊重」 ☐ 日常生活、委員会活動、学校行事 ・自然、動植物への関心
勤労・奉仕	☐ 日常生活 ・係活動 ・当番 ☐ 総合的な学習 ・福祉とボランティア（1学年）「奉仕」 ・働く人に学ぶ（2年生）「勤労観・職業観」 ☐ 学校行事 ・全校ボランティア ☐ 道徳 ・4－（5）「勤労」「社会への奉仕」 ☐ その他 ・各地域ボランティアへの参加
公正・公平	☐ 日常生活 ・正しい判断力、言動 ・話し合い活動の発言内容 ☐ 部活動、保健体育科 ・ルール尊重 ☐ 道徳 ・4－（4）「正義」「公正公平」
公共心・公德心	☐ 日常生活 ・公共物の扱い ・集団への寄与 ・愛校心 ☐ 総合的な学習 ・福祉とボランティア（1学年）「共生」 ☐ 委員会活動 ・募金活動 ・社会貢献活動（エコキャップ収集） ☐ 学校行事 ・全校ボランティア ☐ 道徳 ・4－（3）「公德心」「社会連帯の自覚」 ・4－（9）「伝統の継承と文化の創造」 ・4－（10）「国際理解と平和」 ☐ その他 ・各地域ボランティアへの参加

「道徳4領域24項目」と「行動の記録」の関連表

岩江中学校現職教育部

1 主として自分自身に関すること	「行動の記録」項目・趣旨
(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の保持増進を図り、 節度 を守り節制に心がけ調和のある生活をする。 ① あいさつや規則正しい生活など望ましい生活習慣を身につける。 ② 心と体の健康 を自らこころがける。 ③ 節度を守り生活する。	【基本的な生活習慣】 自他の安全に努め、礼儀正しく節度を守り、 節制 に心掛け、 調和 のある生活をする。 【健康・体力の向上】 活力ある生活を送るための 心身の健康 の保持増進と体力の向上に努めている。
(2) より高い目標をめざし、希望と勇気をもって 着実にやり抜く 強い意志をもつ。 ① より高い目標をめざし、学習したり生活したりする。 ② 目標をめざし、希望をもって 最後までやり抜く 強い気持ちをもつ。	【自主・自律】 自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて計画を立て 根気強く努力する 。
(3) 自立の精神を重んじ、 自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ 。 ① 『自立』に向け自分のすることを自ら考えられる力を身につける。 ② 一つ一つの言葉や行動に誠実に取り組み、その結果に責任をもつ。	【自主・自律】 自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて 計画を立て根気強く努力する 。 【責任感】 自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その 結果に責任を負う 。
(4) 真理を愛し、真実を求め 、理想の実現をめざして自己の 人生を切り拓いていく 。 ① 損得ではなく、ものごとの本当に大切な部分(=本質)を見極める力を身につける。 ② 理想の実現に向け粘り強く行動する。	【創意工夫】 探究的な態度 をもち、 進んで新しい考えや方法を見付け 、自らの個性を生かした生活を工夫する。
(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、 個性を伸ばして充実した生き方を追求する 。 ① 自分をふりかえり、自身の向上をめざし行動する。 ② 自分の個性を大切にし、よいところを伸ばそうと一生懸命に努力する。	【創意工夫】 探究的な態度をもち、進んで新しい考えや方法を見付け、自らの 個性を生かした生活を工夫する 。

「道徳4領域24項目」と「行動の記録」の関連表

岩江中学校現職教育部

2 主として他の人とのかわりに関すること	
(6) 礼儀 の意義を理解し、 時と場に応じた適切な言動 をとる。 ① 礼儀正しくけじめのある生活 の大切さを理解する。 ② 時と場に応じて適切な言葉 をつかい、行動する。	【基本的な生活習慣】 自他の安全に努め、 礼儀正しく節度を守り 、 節制 に心掛け、 調和 のある生活をする。
(7) 温かい人間愛 の精神を深め、 他の人々に対し思いやりの心 をもつ。 ① 『あったか言葉』を使い、人と人との温かい心のやりとりをこころがける。 ② 自分と同じくらい相手のことも大切にする。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、 自他を尊重 し、広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、 互いに励まし合い、高め合う 。 ① 信頼できる友達がもてるよう 友情を大切に して相手と接する。 ② 友だちと自分が 互いに励まし合い高め合おう とする態度をもつ。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、 自他を尊重 し、広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(9) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、 相手の人格を尊重する 。 ① 男女それぞれのよさや特徴を理解する。 ② 男女それぞれに、相手=異性のことを認め、大切にする。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、 自他を尊重 し、広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(10) それぞれの個性や立場を尊重 し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、 寛容の心 をもち、謙虚に他に学ぶ。 ① 自分や他の人の、それぞれの個性や立場を大切にすること。 ② 人を受け入れ、許す、 広い心 をもつ。 ③ 他から素直に謙虚に学ぶ姿勢をもつ。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、 自他を尊重 し、広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(11) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに 感謝 し、それにこたえる。 ① 多くの人々のおかげで今の自分があることに感謝する。 ② 多くの人々に支えに自分からも答えようとする。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、 自他を尊重 し、広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。

「道徳4領域24項目」と「行動の記録」の関連表

岩江中学校現職教育部

3 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること	
(12) 生命の尊さを理解し、かけがえのない 自他の生命を尊重 する。 ① 生命の大切さ、かけがえのなさを理解する。 ② 自分と同じく他人の生命も尊重して生活する。	【生命尊重・自然愛護】 進んで自然を愛護し、 自他の生命を尊重 する。
(13) 自然を愛護 し、美しいものに感動する 豊かな心 をもち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。 ① 自然を大切にすること。 ② 美しいものに感動できる 豊かな心 をもつ。 ③ 人間の力を越えた「おおいなるもの」をおそれ敬う気持ちをもつ。	【生命尊重・自然愛護】 進んで 自然を愛護 し、 自他の生命を尊重 する。
(14) 人間には 弱さや醜さを克服する強さや気高さ があることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。 ① 人には弱さや醜さを乗り越える強さや気高さがあるという自覚をもつ。 ② 人として生きることに喜びを見つけようと努力する。	【生命尊重・自然愛護】 進んで自然を愛護し、 自他の生命を尊重 する。

「道徳4領域24項目」と「行動の記録」の関連表

岩江中学校現職教育部

4 主として集団や社会とかかわりに関すること	
(15) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高める ように努める。 ① 法やきまりの意味を理解し、きちんと守る。 ② 自他の権利を大切に、自らの義務を確実に果たす。 ③ 社会秩序、法やきまりを守り、秩序ある社会づくりの一員となる よう努める。	【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(16) 公德心及び社会運轉の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める 。 ① 互いが協力し合い、よりよい社会づくりのために一つになろうという意識をもつ。 ② よりよい社会や地域の実現をめざす。	【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(17) 正義を重んじ、だれに対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める 。 ① 何にも動かない確かな正義感をもつ。 ② だれにでも公正・公平に接する。 ③ 差別や偏見のない社会の実現をめざす。	【公正・公平】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(18) 自分が属するさまざまな集団の意義についての理解を深め、 役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める 。 ① 自分が属するさまざまな集団の役割について理解し、その一員としての自覚をもつ。 ② 集団の中での役割や責任を果たし、集団生活の向上に努める。	【責任感】 自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う。
(19) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める 。 ① 働くことの尊さやすばらしさを理解する。 ② 奉仕のこころをもち、公共の福祉と社会の発展のために尽くす。	【勤労・奉仕】 勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち、進んで仕事や奉仕活動をする。 【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(20) 父母、祖父母に 敬愛の念 を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を楽しむ。 ① 父母、祖父母、家族を大切にする気持ちをもつ。 ② 家族の一員としての自覚をもち、役割を果たしつつ、家庭生活の充実を努める。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(21) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に 敬愛の念 を深め、協力して よりよい校風 を樹立する。 ① 学級・学校の一員として、教師や学校職員に 親しみ、敬う 気持ちをもつ。 ② 学級・学校の一員として他と協力し、よりよい学級・校風をつくらうとする。	【思いやり・協力】 だれに対しても 思いやりと感謝の心 をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。
(22) 地域社会の一員としての自覚をもって 郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める 。 ① 地域の一員として、郷土「岩江」を大切に、その発展に努める。 ② 地域や社会のために尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の気持ちをもつ。	【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(23) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家に発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する 。 ① 日本人としての自覚をもち、日本という国を愛する気持ちを身につける。 ② 優れた伝統や文化を引き継ぎ、新しい文化を創り出そうとする態度をもつ。	【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。
(24) 世界の中の日本人としての自覚をもち、 国際的視野に立つて、世界の平和と人類の幸福に貢献する 。 ① グローバルな視点にたち、世界の中の日本人という自覚をもつ。 ② 世界の中の日本人という自覚のもと、世界の平和と人類の幸福をめざす。	【公共心・公德心】 規則を尊重し、公德を大切にするとともに、我が国の文化や伝統を大切に、国際的視野に立つて 公共のために役に立つことを進んで行う 。

第1回 授業研究会 記録

7月15日(木)5校時 3の1 石井ゆかり教諭
指導助言者：県中教育事務所 中潟宏昭指導主事

1 授業者自評

- ・3の1は日常生活において、マイナスイメージが多い言葉であるので、この内容にした。
- ・この教材をやって、リフレミングをやるには時間が足りなかった。
- ・普段から生徒達からチャクチャク言葉がなくなったらいいな、と思っており、クラスの雰囲気を変えたいと日々思っていた。
- ・リフレミングを使い、改善させたかった。自分の短所も書けない生徒がいることが分かった。語彙力も足りないことを再認識した。
- ・生徒の良いところを見つけて、担任として日々、クラスの良いところを広げて、それを伝えるように努力してきたし、これからも継続していきたい。

2 質疑応答

- Q1) 終末の場面で行動の記録を出したのは？
A1) 生徒同士が、認め合った上で先生方もみんなをこのように理解しているんだよ、とさせたかった。
- Q2) 範読で、録音されていたものを使用していた？
A2) その場で読むと、時間がかかると思ったので、時間短縮のため。また、普段と違う声になるので、テープで集中させたかった。
- Q3) アンケートで得意なもの、自分が好きになれない等のパーセントの違いはどうしてか？
A3) 自分の性格と得意なものは別で、それが自信になれば良いのだろうが、まだ、なっていないからだと思う。
- Q4) 自己理解と他者理解どちらに重点をおいたのか。
A4) 他者理解をしつつ、自己理解をさせたかった。

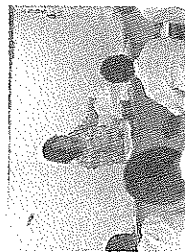
3 研究協議

[Aグループ]

- 導入**・グラフで提示、良かった。
- ・アンケートが良かった。自己を見つめさせるために良かったと思う。価値観がければそれも自己理解となる。

[Bグループ]

- 展開**・指名された時の生徒の反応が良かった。全員が話していた。
- ・授業者の予想通りに生徒は動いていた。
 - ・クラスメートの短所は子どもたちは理解していない様子だった。リフレミングは学級活動の内容のようであった。嫌いなのはなぜ？という方向にもっていった方が道徳的になったか。



- ・リフレミングでいいことを書いてもらい、いい気持ちになった生徒もいた。
- 終末**・自分の気持ちに迫るのが道徳なのか、考えさせるのが道徳なのか。

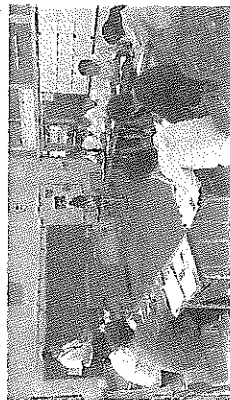
[Bグループ]

- ・資料の読み取り時間が足りなく感じた。
- ・テンポが良く進んでおり、良かった。
- ・「行動の記録補助簿」については、導入で紹介しておいて、後から内容の発表をしてもよかったのではないかな。
- ・範読は集中して聞けており、事前に録音した効果があった。
- ・僕の気持ちの変化する時間がなかったか。ワークシートの工夫が必要か。内容が盛り込みすぎにも感じた。ロールプレイは変化があって良かった。
- ・エクササイズでは、短所を素直に書いていた。



4 指導助言

- ・アンケートは効果的で、自分の考えや、友達への考えがグラフに書いてあり良かった。自分と違う級友の意見を知ることができ、このクラスの仲間と共に学習する意義があった。
- ・今日の授業で4人の子どもの考えを引き出すことをしていた。生徒の活動が多く、一人ぼちになる生徒がいなかった。男女仲の良いクラスであり、今後も大切にほしい。道徳を大切にいくことにより、更に強まるだろう。
- ・アンケートを示し、価値の方向性に進めたのは良かった。そこでアンケートに付随した質問を準備しておく、もっと深まったのではないかな。子どもたちがもっている、裏のところを出してあげると良かったのではないかな。
- ・学級活動は行動について考え、約束する。道徳は心と心で語り合う授業である。
- ・友達と自分との違う考えが表出し、可視化されたものを見せ合い、学ぶところに学級で学ぶ意義がある。
- ・子どもの考えや意見を引き出し、子ども同士が考えを交流させ、学び合う姿を教師が受け止めることが大切である。
- ・ワークシートは番号と枠だけでよい。発問は教師が言う。教えずとも結末を知ってしまう道徳の授業にならないようにしたい。
- ・終末の段階で無理にまとめなくともよい。本音で語られた道徳の授業は真の人間理解につながる。
- ・自身の考えの深まりにより、自分に対しての決意の表明ならば、かまわない。
- ・リフレミングの手法は言葉の言い換えにとどまらないようにする必要がある。
- ・中心発問を強く意識し、その求めるものに関しても教師自身が明確な考えをもって授業に臨みたい。
- ・今日の授業には、教師の生徒への思い、願いが入っていた。今後も学校全体で行っていくことがとても大切である。



第2回 授業研究会 記録

10月13日(木)5校時 1の2連沼恵子教諭
指導助言者：東中教育事務所 中嶋宏昭指導主事

1 授業者自評

- ・平成31年度からの教科化をみすえた展開を考えた。
- ・価値にどこまで迫れたかは疑問だが、シートを見ると気づけた子が何人かいた。
- ・役割演技の子どもの動かし方をずっと悩んでいた。その悩みが今日の活動に出てきたように思う。
- ・終末、まとめないで終わって良かったのか、今でも悩む。



2 質疑応答

- Q1) 教科を見据えたことだが、めあてに価値が出ていた。めあてに対してまとめをするのが教科。そのあたりをどう考えているか。
- A1) 最初の板書計画ではめあてはなかった。めあて、まとめは半信半疑だった。めあては生徒個々のふり返り。価値を明示しためあてはその価値についてしか子どもは考えられなくなる。活動の中で子どもが問いを持つような形がよい。めあて、まとめはなくなるも良かった。教科はめあて、まとめだが、道徳は特別な教科なので、考え方は違う。



- 最初の提示の仕方、信号無視についてもう少し子どもが正しいということについて主体的に考えられるようにしていく必要がある。導入の仕方でも考えていかなければならない。
- Q2) 普段の道徳はどんな感じか。
- A2) 普段はもっと明るい。もっと自由に発言する。もう少し意見が出ることを想定していた。女子はそこまで普段と変わらない。

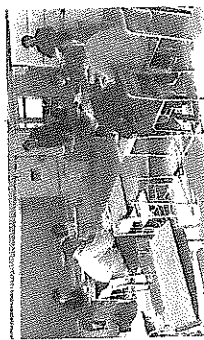
3 研究協議

- 導入**・時間を気にしていた。写真があった良かった。
- ・「何の写真だと思おう？」写真をいきなり出してもよかったのでは？
 - ・写真からの展開→どっちが正しいと悩むような例で、両方の考えが出てよかった。
- 展開**・時間を気にしたせいか、範読が速かったように感じた。
- ・それぞれの立場に立って考える時間が短かった。
 - ・役割演技については、目的をはっきりさせればそれだけの生徒が深く考えるには有効な手段である。自分と同じ意見の役割や自分の考えと違う役割をやると効果的。すべての班が発表できれば良かった。
 - ・十分時間がとれて良かった。



4

- 指導助言** 本日の授業、参観者が自分だったらどんなロールプレイをさせるかを考えるきっかけになった。
- ・教師の「ありがとう」のことば、子どもを大事にしている様子が見えた。
 - ・全員発表は大切である。それを意識した授業になっていた。
 - ・良い資料が扱いが難しい。どの立場に立って考えさせるか、授業者のねらいが明確になる必要がある。
 - ・3つの立場+その他の者。どこに視点を当てるかはつきりさせないと難しい。三者とも最初は正しい。三つの軸で考えるのは難しい。ルーシーとキャロルなど二つの軸で考えさせる方がよいという感想が多く出されたが「国が決めればよい」という意見が出た。そこで雰囲気が変わった。常識は立場が変われば変わる。常識に揺さぶりがかかったところから資料につながっていくと良かった。
 - ・ワークシートのメモ欄—子どもが板書に集中してしまっした。ワークシートをあとから配っても良かった。
 - ・ロールプレイの目的—旧指導要領 表現活動の工夫 新指導要領 疑似体験 演者と観客それぞれが感じたことを出し合う。それを確認していく。
 - ・発問⑤「どうすればこのようにならなかったのか」(過去) 中心発問「クラス—人一人はどうすればよいのか」(未来) 時系列が違ふことを意識させる必要がある。キヤロルの考えは自分の考えを発表しただけで役割演技を生かした発表になっていない。キヤロルの考えを言わせ、ルーシーの考えを言わせ、それを観客が見てどう感じるかを言わせる。そんな中で「〜だけれど…」という新しい発言が出てくれば、自己中心だけではダメだということ考えが生まれてくるのではない。
 - ・Oくん「主張することにはよが自分だけが正しいではトラブルになってしまう」と書いていた。それを拾ってあげられれば良かった。机間巡視の看取りから意図的指名に近づけることが大切である。
 - ・ロールプレイの方法
 - ①セリフをそのまま読ませる。
 - ②セリフを考えさせて演じさせる。
 - ③その後の展開を想像させて演じさせる。
 - ・それぞれの考えで演者が何を感ず、何が問題だったかを考えさせる。
 - ・観客が何を感ずたかも非常に大事である。
 - ・中学生のロールプレイ—最初は上手くできないが、3〜5回ぐらいやるとできるようになる。繰り返しが必要である。
 - ・全体交流の中で沈黙の場面では、先生が待つことが大事。子どもは考えが深まって迷い、判断できなくなってしまう。その場で発言できなかった場合は、他の子の意見を聞きながら、最後にもう一度聞いてあげる。
 - ・「あっているかな」というつぶやき。意見に不安がある子が自分の考えを整理できるように話し合う時間を取ってあげる。
 - ・いじめというこばを意識させると良かった。
 - ・「自分が正しい」は間違っていない。でも「自分だけが正しい」は間違い。それが自己中心。そういういいキーワードをしっかりと拾ってあげる。
 - ・中学3年生—アンケートを取る約8割がはじめに触れたことがある。正義感がいいけめにつながらないことも多い。(あの子がやらないのが悪いなどの考え) 正義感が悪いわけではない。その後の行動が不適切であることに気づかせたい。
 - ・「ルーシーとキャロルの正義に対する考え方の違いはどこにあるのだろうか。」という中心発問にしてもおもしろい。
 - ・終末に教師の体験談(葛藤体験など)などがあるといい。
 - ・良い。それが「答えがひとつじゃない」と子どもが感じる。これから考え続けるきっかけになりうる。
 - ・目指すところは、考え続ける子ども。授業がゴールではなくスタート。そんな終末になると良い。
 - ・子どもが考えたことなどを学級通信で知らせると保護者がいろいろ感じるし、喜ぶ。



第1学年1組 道徳学習指導案

日時：平成28年11月18日（金）5校時
場所：国語1教室 授業者：小森 裕貴子

ころ豊かに、たくましく、共に成長できた生徒の育成
～道徳性を高め、道徳的実践を視野に入れた取組～

- 1 主題名 広い心で 2-(5) 自他の尊重・謙虚・広い心
- 2 資料名 ふと目の前に（かけがえのない君だから 学研）
- 3 主題設定の理由
 - (1) ねらいとして、人間の物事について、自分の見方や考え方を優先しがちである。しかし実際には、さまざまな見方や考え方があり、そのギャップに他人と対立したり、誤解が生じたりすることがある。しかし、その状態は他人の個性や立場、考え方や見方を真に受容しきれていない状態であると考えられる。そこで相手の個性や立場を尊重するためにも、世の中にはさまざまな考え方や見方があるということを受容できると人間関係もよくなり、スムーズになると考えられる。
 - (2) 生徒の実態について（生徒観）
女子10名、男子10名、計20名の学級である。幼少期より、慣れ親しんだ集団であり、仲のよい集団であると言えらる。お互いのことをよく知っているために、遠慮がなく、相手を傷つけるような言動も時々見られる。しかし中学校に入り、今までの殻を破って成長しようとしている生徒が多くいる。学級の雰囲気は悪くないが、さらに、相手の立場を尊重し、個性を認め合い、寛容な心を養うことにより、生徒一人ひとりの良き良きさを引き出せると考え、この主題を選んだ。
 - (3) 資料について（資料観）
この資料は森繁久弥氏の体験について書かれたものである。演劇の最中に舞台の下でずっと下を向いて寝ている女性に腹を立てていたが、演劇のアンコールで彼女が実は全盲であつたことに気づき、役者たちは自分たちの見方を変えて反省し、女性性に対して申し訳ない気持ちになったという思いが伝わった。この話から生徒たちが自分自身でそんな経験はなかったか、一方的な見方や考え方で相手を受容することができないことを理解させ、寛容な心で相手に接することができると考えていきたい。
 - 4 研究主題・副主題との関連について
学校全体として、現代社会をこころ豊かに、したたかに生き抜く力の育成をめざすことと、生徒と教師が共に成長できる道徳教育を推進し、学んだことが効果的に実践に結びつく指導とはどのようなものかをテーマに、生徒の行動面の特長を記した『行動の記録』との関連を視野に、評価も含めた道徳教育のあるべき姿についての研究推進を模索している。本時においては、生徒に思いやりをもって相手に接することや相手に思う気持ちなどについて、他者との関係を見つめ直し、広い心で生活していくことができる態度を育成することが、より実践に結びつくものと考えている。
 - 5 本時のねらい
世の中には様々なものの見方や考え方があつたことを理解し、相手に対して寛容な心で接しようとする心育を育てる。
 - 6 板書計画

吹き出し

・ 相手を思う気持ち

・ 誤解してしまっていた

・ 腹が立つ

・ ばかにしている

全盲の女性

下を向いている女性

演劇の様子
の写真

森繁久弥の
写真

7 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○主な発問 ・予想される反応	○指導上の留意点 ◇評価 ■研究主題・副主題との関連
導入	1 先行行われた校内文化祭「縁風祭」の劇について振り返り、話し合う。 2 森繁久弥について知る。	5	個 ↓ 全	○先月の「縁風祭」の劇は観客の方々に「とてもよかったです。それを聞いて皆さんはどう思いますか。」	・文化祭の劇について賞讃する人と観客の両方について考えさせる。
展開	3 資料の前半を読み、「わたし」（役者）が行っている行為について考える。 4 資料の後半を読み、彼女が全盲であつたことと自分がわたり懸命に手をたたく「わたし」の気持ちについて考える。	10	個 ↓ 全	○下を向いている女性の近くで大声で台詞をいったり、舞台を強々踏みだしているのはどんな気持ちか。 ・寝ているとは失礼だ。 ・自分たちがバカにされている。 ○このような時に自分たちだったら、どう感じるか。 ・やはり腹が立つ。 ◎「ついにわたしは彼女の前まで行って、しゃべることができた。このとき、わたしは彼女に對して、なんなことを言ったのだらう。」 ・勘違いをしてしまわない。 ・目が見えないのに演劇を見に来てくれた彼女がどう。 ・あなたのことについて聞いてみたい。	・「わたし」（役者）の行いが間違っていたことに気づかせる。 ・「わたし」の気持ちを吹き出しに書かせる。 ・吹き出しは黒板に貼るようにする。 ◇「わたし」の心の変化に気づくことができたか。（発表）
閉	5 「わたし」はどんなことにも気づいたのか、今後どんなことをしようと考えているのか、考えたのか。	15	グループ	○「わたし」はどんなことにも気づいたのか、今後どんなことをしようと考えているのか、考えたのか。	・各自ワークシートに記入したあと、班で話し合わせる。 ◇相手に対して思いやりの気持ちをもつて接することの大切さに気づいたか。（発表） ■思いやりや相手を大切に思う気持ちに気づき、他者との関係を見つめ直し、広い心で生活しようとする気持ちがもてたか。
終末	6 今日の授業で学んだことや、気づいたことを記入する。	10	個 ↓ 全	○これまでの自分を振り返り、今後どんなことを大切にしていきたいか。	・授業で学んだこと、気づいたことについて発表させる。

第4回 授業研究会（公開授業）「1学年分科会」記録

11月18日(金)5校時 1の1小森裕貴子教諭
指導助言者：県中教育事務所 新田 直子指導主事

1 授業者自評

- ・導入で緑風祭の写真を提示したが、うまく活用できなかった。
- ・展開で吹き出しに書かせたが、説明不足だった。
- ・展開での発問が難しかった。本当はもっとじっくりやりたかった。
- ・終末では全員発表させればよかった。



2 質疑応答

Q1) 普段の道徳の流れはどうか。

A1) 普段から写真を使った導入をやっている。吹き出しの

プリント書きはない。

Q2) 終末での発問について。

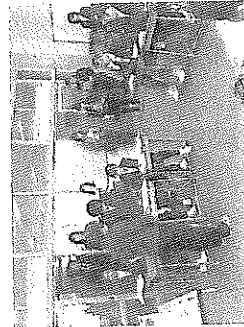
A2) ～気持ちとか？と問うと～気持ち、と答えてしまうから

工夫した。悩んだところであった。



3 研究協議

- ・全員が吹き出しを書きクラスで取り組んでいたのがよかった。
- ・終末での意図はどうか。自分について答えてほしかった。それが人とかかわりとの内容になってしまった。自分のことで書かせたかった。
- ・挙手して発表する生徒の姿がよかった。参考になった。
- ・やはり吹き出しのところに重点を置きたかった。
- ・子どもたちから出たものを利用してどう本時の価値に近づけるかが大切ではないだろうか。
- ・役者は見てもらうのが当たり前で、全盲であるが彼女は全身全霊で演劇を観に行っているわけだから「思いやり」でなく価値に迫れたのではないか。
- ・全盲でどうして観にきたんだろと付け加えてはどうだろうか。
- ・自分の授業で価値観の押しつけになりがちで難しい。子どもたちは立場に思いながら今日は参加した。子どもたちは立場になって話し合いができていた。班活動（グループ）もスムーズに話し合いができていた。グループでの学び、まともできていた。うらやましい。



- ・導入で、生徒をひきつけられればさらによかったのではなかったか。グループ活動が充実していた。その人がどんな立場でも「寛容な心」をだせるようにもっているよくな答えがありよかった。
- ・みんなが吹き出しで発表したのはよかったが、感情を込めて発表させるとよかったのではないか。
- ・最後の自分と向き合うところでは、机を戻して終末は書かせた方がよかったのではないか。
- ・最後に先生の体験談を話すところがよかった。
- ・考える道徳はゆさぶりの発言が大事か。コーディネートが大切だと感じた。

4 指導助言

- ・導入では、日常生活を想起させるきっかけとなった。子どもたちも反応していた。文化祭で経験したことを言わせていた。子どもたちをひきつけていた。
- ・展開では、中心発問→価値に迫る大事なものは心情が変わったところである。変化したのはどれか。きっかけは何か？変わったのはどんなところか？
- ・私はなぜ観解したのだろう？子どもたちは自分の価値を考えていた。その姿が素晴らしい。今日の子どもたちは自分の経験から考えていた。自分はどう思うのか？道徳的価値に迫っていた。
- ・資料に隠されている価値は1つではないといわれる。資料にはいくつかの価値が隠れている。ねらいに沿った精査が必要である。
- ・終末ではよく考えよく書いていた。子どもたちに預ける時間が大切。自己を見つめる時間を十分確保していた。
- ・資料の提示もよかった。全員が発表でなく、全員考えることが大切である。
- ・道徳は自分を見つめることができる時間。答えが出なくても、考える時間である。
- ・道徳の実践力は徐々に着実に養われるものである。
- ・道徳の時間の特質を理解することが大事である。
- ・信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く。
- ・生徒の内面的な自覚を促す指導を工夫する
- ・全教師で個性を生かした授業、中学校ならではの授業が大事。また感動を共有する。
- ・評価は、子どもたち一人ひとりの成長を見守り、子どもにも返してあげる姿勢が大切である。



第2学年1組 道徳学習指導案

日時：平成28年11月18日（金）5校時
場所：理数講義室 授業者：岡本 由紀恵

主 題 名 ころ置かに、たくましく、共に成長できる生徒の育成
～道徳性を高め、道徳的実践を奨励に入れた取組～

- 資料名 責任のある判断 1～（3）
- 資料名 お前のカワウソが寂しがっているぞ
- 主題設定の理由
(1) ねらいとして価値について（価値観）
自ら考え判断し、実行し、その行為の結果に責任をもち、付和雷同することなく、責任転嫁もせず、自らの規範意識の高まりの中で自ら律していくことが人間として求められる。
中学生の時期は、自主的に考え、行動することができるようになるが、一方では自由とわがままをはきかえたりして他人の言動に左右されてしまったりすることがある。また、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということを深く考えることができない場面も多い。
(2) 生徒の実態について（生徒観）
女子13名、男子17名、計30名のクラスである。幼稚園、小学校、中学校と1国1校で生活してきたこと、心算が得意、好奇心が強い、集団意識がある。自主的に何事にも取り組んでいるようであるが、手な判断で行動してしまったり、その行動の結果や周囲への影響までは考えず、よく考えて判断し行動すること、また、誠実に行動しようとする態度を育てたい。
(3) 資料について（資料観）
この資料は動物園の臨時職員4日目である主人公が、正規採用試験に失敗し、無力感に陥り笑家内容のものを描いている。主人公の心情に寄り添うことで気持ちの変化を日常活動の関わりの中で、自分にも他（社会）にも誠実であることを大切さを自覚させたい。
- 研究主題・副主題との関連について
豊かに、したたかに生き抜く力の育成をめざすことで生徒と学校全体として、現代社会を生き抜くことができる道徳教育を推進し行動面に結ぶ指導と、教師が共に成長できる道徳教育を推進し行動面に結ぶ指導と、評価はどのようになされたか。生徒の行動面の特長を記録した『行動の記録』との関連を視野に、評価も含めながら道徳教育のあるべき姿を追究し、推進を模索している。主人公に共感させることを通して、生徒一人一人の気持ちの変化をとらえ、自分の日常活動の関わりの中で、自分にも他（社会）にも誠実に生活していくことが、実践により効果的につながるものと考えている。
- 本時のねらい
自分にも他（社会）にも誠実であることを大切さを自覚させ、責任をもった行動をとる道徳的態度を育成する。
- 板書計画

父の一言
「お前のカワウソが淋しがっているぞ」

臨時職員↓正式採用試験

失敗

故郷へ向かう列車の中、
故郷で生活している

動物園に戻り
考えていること
気づいていること

7 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○主な発問 ・予想される反応	○指導上の留意点・評価 ■研究主題・副主題との関連
導入	1 資料について知る。	2	一斉		○主人公の職業である獣医について簡単に紹介し、資料への方向付けをはかる。
展開	2 資料を読んで話し合う。 (1) 故郷へ向かい、故郷の気持ちを考えてみる。	45	一斉	○汽車に乗り目的もなく故郷へ向かい、ぼんやりと過ごす「私」は、心のどこかでどんな言葉をつぶやいたのか。 ・何もかもが新しい。 ・もうどうでもいいや。 ・夢は破れた。 ・とにかく家に帰りたい。 ・動物園をやりようか。 ・何もする気にならない。	○資料前半を鑑読して考えさせる。 ○正規の職員でなくとも自分の希望する職業に就いていて得意げな様子や仕事に誇りや自信を失ったことをつかませる。 ○試験に不合格となり、夢を失ったことと「深く物事を考えない主人公の心情をつかませる。
展開	(2) 父の言葉が稲妻のようになつてきたとき、主人公の気持ちを考える。		ペア→一斉	○父に言われた一言を聞いた「私」は、心の中でどんな言葉をつぶやいたのか。 ・自分は何をやっているんだ。 ・自分で自分勝手なんだ。 ・動物園はどうなっているんだ。	○資料後半を鑑読して考えさせる。 ○自分のことしか考えられず、筆者が動物を飼育者として「責任を果たすこと」の大切さに気づくことを実際の会話の中から気づかせる。 ○自分の考えを黒板に書き添える。
展開	(3) 動物園に戻った主人公が、気づいたことを考える。		個人→一斉	◎動物園に戻り動物たちを見た主人公が気づいたことは何でしょう。 ・自分は何で無責任だったんだ。 ・自分ばかり考えていてはだめなんだ。 ・自分で決めたことは自分一人だけの責任であって、何年かかっても正式な獣医にしないといけない。 ・自分が好きな一生や責任を背負う。	○自分で決めたことを後悔することや責任を負ったこと、後悔をしながら主人公の気持ちをとらえさせる。 ■ 主人公の気持ちの変化をとらえ、自分自身を見つめ、主人公に共感することを通して、自分の日常活動の関わりの中で、自分にも他（社会）にも誠実に生活しようとしたか。
終末	3 文章化する。	3		○この時間に感じたこと、考えたことをまとめてみよう。	○文章化された中に、自分や他の立場からの考えが書かれているか。

11月18日(金)5校時 2の1岡本由紀恵教諭
指導助言者：県中教育事務所 中嶋 宏昭指導主事

1 授業者自評

- ・誠意のある責任がテーマであった。進路の話が主になってしまった感がある。「責任とあきらめない心」が大切だと答えた生徒が多かった。もうちょっとな押しして終末を迎えたかった。
- ・並び順は道徳の時のみコの字型にしている。互いの顔が見えてよい。いろいろなことを考えられた。
- ・場面緘黙の生徒がいる。しかし発表させたかったので即席ホワイトボードに書かせるスタイルにした。



2 質疑応答

Q1) 資料を読ませる時はいつも小間切れ。ラミネートはいつも使用しているのか。

A1) 資料はいつもそうしている。ラミネートは、教科では使っているが道徳では初めてである。

Q2) 父親と子どものロールプレイの意図は。

A2) 演じることががともとも好きで生徒なので、紙の上で考えるよりも、より理解できる手段だと思った。

先生方が多かったが、いつもどおりできた。



3 研究協議

- ・とても短めの導入だった。獣医の写真から動物につなげる事ができた。
- ・子ども達がよく考えている様子が見えた。いつもとは違う様子が見られた。
- ・いつもの学習訓練ができていた感じがした。
- ・感想を良く書いていた印象だった。自分の考えを言葉にすることが良くてきていた。あえて自分に置き換える事をしなかったこと（主人公はどうだったか）に重点をおいた。自分のことだけの主人公だったので。父の一言で気づき責任・誠意をもつ、ここを気づかせたかった。
- ・生徒のこの1年間での成長がよく見えた。自分の考えも以前よりも書けるようになっていた。



- ・中2の発達段階でこれほど出せるのは、大変すばらしいと感じた。写真で提示することの大切さを実感した。パッと見てわかりそうなものでも、同じ効果があると思った。

・先生の話聞いて、書くという作業がよくできている。

- ・道徳のプリントに番号しか書いていない意図は、見通しが立たないように考えられたいようにしているから。（中嶋先生の助言）最初は書いてあった。今日はタイトルも書いてない。（内容が分かってしまうから）資料の写真も変えた。（カワウソウだったため）
- ・いろいろな考えが出てきて良かった。入った瞬間の学級の雰囲気良かった。
- ・普段は特別支援の担当をしているのでなかなか理解させるのは難しい。理解させるために今日の授業がとても役に立った。書くことが難しいのでポイントがあれば知りたい。（集中がもたない子どもたちへの時間的配慮。劇化、映像化が効果的。担任は子どもの考えを受け止めて返してあげるのが大切である。書くことについては、文章にする事はないのでキーワードだけでもいいと思う。）

4 指導助言

・先生の真摯な姿勢がよく伝わり、子どもたちもついてきている。

・父親の言葉の起点に

- (1) 生徒自身の音読では言葉を正確に読むことに集中してしまう。道徳は主人公の動きが分かることに重点を置く。今日の授業では範読で集中しているのであるものの確認もいらないくらい。（特別な支援が必要な場合は別）資料を分断する場合は明確な意図をもって行う。

- (2) ロールプレイの本来の目的は「疑似体験」で多様な指導方法のひとつとして重要視されている。最初は笑いの元になってしまうので指導は必要である。

- (3) 中心発問については、今と前の気持ちを比較すると「責任」に対する考え方の違いが見えてくる。

・「特別の教科 道徳」を見据えた授業づくりと道徳教育の在り方について

- (1) 学級づくりの視点から

教師と生徒の互いの信頼が見えた。なんでも言える学級であった。

- (2) 道徳の教科化の趣旨

- (3) 道徳の授業で大切にしたいこと

- ① 道徳の授業では導入の工夫が重要である。

- ② 「自己理解」「他者理解」「価値理解」を展開に組み込む。

③ 中心発問で多様な考えを出し合う。

- ④ 資料で学んだ事を自分のこととして考え、深める。

- ⑤ 学習指導要領の内容項目をよく読むこと。



第3学年2組 道徳学習指導案

日時：平成28年11月18日（金）5校時
場所：英語講義室 授業者：伊藤 学

～道徳性を高め、道徳的実践を視野に入れた取組～

- 1 主題名 希望と勇気、強い意志 1— (2)
- 2 資料名 「あこがれの消防団」(出典：ふくしま道徳教育資料集Ⅲ集「郷土愛 ふくしまの未来へ」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について (価値観)
本時では、「希望と勇気、強い意志」を中心価値に掲げた。社会が複雑化し、人々の価値観が多様化した今日、大切について深く考え、幸福をめざす生き方を追求しようとする意欲をもつことは大前提である。また、中学生の時期は自分の将来に向かって夢や希望が明確になることであり、しかし、障害や困難に直面すると挫折し、目標や希望を見いだせなかったり、失敗を乗り越えられないままに、諦めや絶望感を味わったりすることもある。そこで、中学校生活も終盤に入ってきたこの時期に、強い意志をもって将来の生き方とその実現のために努力していく生活について考え、自覚すること、今後の進路実現をめざした生活を前にとって意義あるものと考えたい。

(2) 生徒の実態について (生徒観)
各教科の授業では、課題に対して素直に取り組むことのできる生徒たちである。しかし、自ら進んで発言するなどの積極性に乏しいため、普段の授業でもペアインタビューやワールドカフェ的な方法等を取り入れ、個人の意見を引き出し広げる工夫を行っている。また、学校生活においては協力して様々な活動に取り組めるものの、自らの力でなかなか失敗を乗り越えられない生徒もおり、物事の達成感をあきらめてしまったり、他の生徒と協力できなかったりする場合も度々ある。そのため、勇気と希望をもつて、将来の基礎ともなる理想を実現するための努力を重ねる態度を身につけさせたい。

(3) 資料について (資料観)
本資料は、ふくしま道徳教育資料集に収められている消防団に憧れた中学生の少年を描いたものである。中学3年生の健太は、震災時に消防団の映像に衝撃を受け、消防団への憧れを失ってしまう。しかし、自ら豪雨の災害に遭い、自宅の土砂出し作業に駆付けられた消防団の人々の懸命に作業する姿に接し、失っていた憧れを取り戻していく。健太の揺れ動く心情を考えることを通して、強い意志をもって、理想や目標を実現するために努力していく生き方をしようとする心情を育みたい。また、震災時の映像資料も用いることで、健太の心情に共感しながら、中心価値に対する考え方を深めさせたい。

4 研究主題・副主題との関連について

学校全体として、現代社会をこころ豊かに、したたかに生き抜く力の育成をめざすことで生徒と教師が共に成長できる道徳教育を推進し、副主題には、学んだことが効果的に実践に結びつく指導とはどのようなものかをテーマに、生徒の行動面の特長を記した『行動の記録』との関連を視野に、評価も含めた道徳教育のあるべき姿について研究推進を模索している。

本時においては、進路実現をめざしさらに努力を重ねる生活を前にした生徒に、多くの級友の意見を聞き考えることで、改めて目標や希望を見いださせ、強い意志をもってその実現のために共に努力していく態度を育てていきたい。

5 本時のねらい 困難に直面し挫折しても、それ乗り越え、希望と勇気をもってやりぬこうとする態度を育てる。

6 板書計画

消防団：約八十六万人

(健太)

あこがれ
・ かつこい
・ ヒーロー
← 体から力がぬけていった
・ いたたまれない
・ 辛い仕事だ
・ こんなことまでするの
← 一員になりたい
・ 本当に助けられた
・ 他の人を笑顔にしたい

◎ 勇気と希望をもって生きること
・ 挑戦
・ 着実な努力
・ 人のために尽くす

7 指導過程

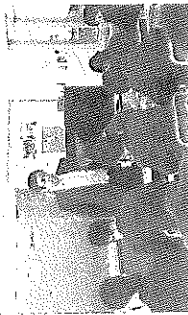
段階	学習活動・内容	時間	形態	主な発問 ・予想される反応	指導上の留意点 ◎評価 ■研究主題・副主題との関連
導入	1 VTRを観る。 ・震災時に消防団の映像	5	一斉	・懸命に活動している。 ・遺体を見つけているのは、つらそう。 ・思いを込めて活動している。	◎映像の感想をペアインタビューでお互いに確認させる。 ◎消防団についての説明を補足する。
展開前段	2 資料を読む、意見交流をする。 (1) 教師の範読を聞く。 (2) 震災時の映像を見て、衝撃を受けた健太の気持ちについて考える。 (3) 災害を乗り越え、消防団の一員になろうと決めた健太の気持ちについて考える。	30	一斉	◎震災時、消防団の映像を見て、健太の体から力がぬけていったのはどんなことを感じたか。 ・ いたたまれないなあ。 ・ 辛い思いをする仕事なんだなあ。 ・ こんなことまでするの。 ◎消防団の一員になったらと強く思ったのは、どんなことを考えたか。 ・ 本当に助けられたなあ。 ・ 他の人を笑顔にしている。 ◎1つの班の発表を基に意見を広げ、深めていく。 ◇勇気と希望をもって生きていくことの喜びや幸せを、健太の変化から気づくことができたか。(観察)	◎導入の映像を思い出しながら、健太の心情について想像させ、ワークシートにまとめさせる。 ◎ワールドカフェ的な方法で意見の交流を行う。5人の班で意見を確認した後、3人は他の班へ移動して意見を交流する。 ◎1つの班の発表を基に意見を広げ、深めていく。 ◇勇気と希望をもって生きていくことの喜びや幸せを、健太の変化から気づくことができたか。(観察)
展開後段	3 希望と勇気をもってやりぬこうとする生き方について考える。 (1) ワークシートに自分の考えを記入する。 (2) 自分の考えを発表する。	10	個人	◎健太の姿からどんな生き方が自分自身に必要なと考えたか。 ・ 失敗を怖がらずに挑戦する。 ・ 着実な努力を重ねる。 ・ 人のために尽くせるような生き方をする。	◎自分の経験を振り返りながらまとめさせる。 ◎挑戦や努力ができていない原因について考えさせる。 ◇強い意志をもってやりぬこうとする生き方に対する考えをもち、他者や社会への貢献につながるような理想や夢をもつ大切さ、それに力や注ぐことの尊さについて気づくことができたか。(発表・ワークシート) ■級友の意見を知り考えることで、強い意志をもってその目標や希望の実現のために共に努力していくという気持ちもちがもてたか。
終末	4 本時の感想をまとめる。	5	一斉		◇強い意志をもち努力する生き方に対する自分の考えをもてたか。(ワークシート)

第4回 授業研究会（公開授業）「3学年分科会」 記録

11月18日（金）5校時 3の2伊藤 学教諭
指導助言者：三軒教育委員会 織田島浩孝指導主事

1 授業者自評

- ・おとなしい学級である。発言がうまく引き出せず、苦勞している。
- ・ふくしま道徳教育資料集の資料を活用した。
- ・受験生であるが、学習へ向かえない姿もある。健太の姿を照らし合わせて、頑張らせていきたいという思いがあった。
- ・普通の資料とは違う。健太が何かをして、気持ちに変化していくわけではなく、何かを見て気持ちに変化していったので難しかった。
- ・はじめのVTRは消防団とは何かを知ってもらいたうために準備した。
- ・ワールドカフェの方法で、メンバーを替えながら話をさせた。あまり人数を多くしないよう、5人に設定した。
- ・書きすぎてしまい、それを読むだけで終わってしまふところが課題である。質問をしたり、書き加えたりすることまでできればよかった。発問を工夫すべきだった。
- ・ワールドカフェを2度行う予定だったが、主発問の1度だけに変更。じっくり考えさせたかった。
- ・子どもの言葉で、「勇気」を引き出せたかった。できないう原因まで考えさせることまでできなかつた。
- ・「生き方」というワードが難しかったと思われる。
- ・健太から学ぶことはないと思いたった子がいいた。健太自身の気持ちが大きく揺れ動いていることではなかつたので、難しい資料であつた。



2 質疑応答

- Q1) ワールドカフェ的な方法を以前も行っていたようだが、過去の授業ではどうだったか。
- A1) 今年度は「仏の銀三」で活用した。

3 研究協議

- ・学校全体として、この子どもたちをどうしていきたいかが大事である。道徳の授業だけではない。
- ・道徳は哲学になっていくのではない。ペアインタビューやワールドカフェなどの手法というだけでなく、生徒の実態を考えればよかったのでは。
- ・健太から学ぶことはないという意見はすごく大事。自分はどうなんだ、というところに引っ張っていく必要がある。
- ・意見の交流が難しい年代だが、先生の言葉に対してじっと聞いたり、隣同士話をしたりすることができていた。
- ・ワールドカフェで意見を表出させることはよかった。
- ・本音で話をするためには、どんな発問であればよかったのか。
- ・意見の交換がスムーズにできていた。
- ・震災資料についてどう扱っていくか。
- ・実現できるかどうかは別として、道徳の授業の中で自分の言葉として表出させることが大事であるのではないか。実現できるかどうかは、今回の授業で終わらせるのではなく、今後の学校生活を通して道徳教育を進めていく。
- ・本音を出せるような集団をつくるためにどんなことが必要かを考えていきたい。

- ・導入の大切さ。今日はどんな授業なのだろうと、視覚的に掴ませる。（写真、映像）
- ・中心発問をワールドカフェ方式で、考えさせた部分が工夫されていた。一人ひとりの意見をたませることができていた。
- ・もうちょっと話し合う時間が必要だった。
- ・いろいろと意見が出たが、どのようにまとめいくかが気になっていた。生徒から勇気などという言葉が出てきたのだと思う。
- ・で、まとめられなかったのかと思う。
- ・できるだけ早く資料から離れる。
- ・いい資料は教師も心を揺さぶられる資料。



4 指導助言

(1) 道徳の教科化

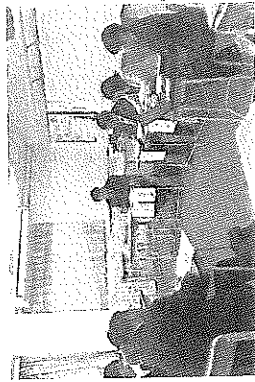
- ・考える道徳、議論する道徳。しかし見た目ではない。道徳的価値、多面的・多角的。
- ・道徳の実態...やっただけ、ということ聞かない子どもたちへの道徳が説教へ変わっている。後手に回っている。6年間友達の良いところを見たり、考えたりしていれば子どもたちはどうかかわっていたのだから考えたことがあった。

(2) 授業について

- ・導入について
資料に釘付け、生徒を引きつけていた、それだけで考えるきっかけになる。ペアインタビューなど自分の思いを語れるようになっていた。
- ・ねらいは希望や勇気。はじめに将来の夢などを書かせてもよかった。
- ・展開について
形式的に話し合っている部分があった。
- ・消防団の姿から考えてもいいよといった。それでよかった。
- ・ワールドカフェ方式での話し合いについて
自分のプリントと班のシートに書かせていて2度手間だった。
- ・2回目の班で1回目の班の話をさせるようにすると、他の人の意見を聞くようになる。あなただったらどう考えるかというテーマにすると、資料から早く考えられるのでは。
- ・自分だったらこうするという良い意見がたくさん出ていたので、全体で共有させるとよかった。
- ・50分集中力がない生徒がいるが、一人ひとりが素直な生徒である。道徳の授業の積み重ねで、少しずつ変わっていく。

(3)

- ・3つの理解（価値理解、人間理解、他者理解）をどのように授業の中で実現させていくか。
- ・問題解決的、体験的な学習も取り入れる。
- ・役割演技
- ・先生と教師の信頼関係、生徒相互の人間関係
- ・ふくしま道徳教育資料集の活用を。
- ・道徳の教科化
人間としての生き方、主体的に判断、他者と共によりよく生きる、自尊感情を高めることと道徳の目標が一致している。
- ・自尊感情を高めると幸せに生きることができる。道徳の実践で幸せになる。



【県南地区】 福島県立塙工業高等学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	福島県立塙工業高等学校				
所 在 地	東白川郡塙町大字台宿字北原 1 2 1				
校 長 名	佐藤 浩正				
学校の教育目標	[校訓] 勤労・至誠・自尊 [教育目標] 1 自律・自尊の精神に富み、逞しく生きる人間の育成を図る。 2 勤労観と社会性を持ち、誠実で調和のとれた人間を育成する。 3 工業技術者としての知識・技能を培い、社会の変化に対応できる能力を育成する。 4 伝統と文化を尊重し、科学的な思考力を身につけた人間を育成する。 [目指す生徒像] 基本的生活習慣を身につけ、自らを律しつつ、他者を思いやる豊かな心を持ち、工業技術者として必要な知識・技能を習得し、社会に適用する生徒。				
学級及び生徒数	6学級（機械科3、電子科3） 182名				
	学年	組	男	女	合計
	1	1（電子科）	15	10	25
		2（機械科）	37		37
		小 計	52	10	62
	2	1（電子科）	15	9	24
		2（機械科）	34		34
		小 計	49	9	58
	3	1（電子科）	20	9	29
		2（機械科）	33		33
		小 計	53	9	62
	合 計		154	28	182
道徳教育にかかる 取組の概要	1 基本的生活習慣を定着させ、規範意識や道徳的実践力を高めることにより、公正で公平な判断力を持つ人間を育成する。 2 いろいろなものの考え方・見方を理解し、他者を受け入れる寛容な心を持ち、人権を尊重した差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養う。 3 地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の自然や伝統、文化を尊重し、地域の発展に貢献できる人物を育成する。 4 技術者としての技術者モラルの知識を高め、技術者・管理者としての社会的責任を自覚させ、自らの判断力と行動力を高める。				

2 研究テーマ

これからの日本を支える若者のための“技術者モラル”教育
～これからの社会の中で、技術者になるということ～

3 テーマ設定の理由

技術者の役割は、社会に寄与する新しい技術を開発・実用化し、生産し、安全で豊かな社会を保持することである。しかし、これまで企業や技術者が関わる事件や事故が多く報道されており、技術者としての倫理観を育てる教育の必要性が急務である。

本研究では、技術者モラル教育の定着を図るため、中学校までの道德教育の延長上に、人として技術者がとるべき行動を考えさせる教育が必要である。

このことから、技術者としての就業を間近に控える工業高校生に対して、過去の事故・事件をもとに技術者モラルの予備知識を高めるとともに、ブレインストーミング法やKJ法などを通して、生徒自らの活動の中から、技術者・管理者としての社会的責任の大きさを自覚させ、自らの判断力と行動力を高める“技術者モラル”教育を実践する。

4 研究計画（主な内容）

	1 年	2 年	3 年	学校全体
4 月	[ホームルーム] 自己発見・自己理解 ○職員会議（道德教育推進事業・研究組織について） ○校内道德教育推進会議（道德教育推進計画）	[ホームルーム] 自己発見・自己理解	[ホームルーム] 自己発見・自己理解	生徒の実態把握 生徒実態調査
5 月	[ホームルーム] 望ましい集団生活 ○道德教育推進協議会（杉妻会館） ○道德教育全体計画の修正、学年における指導計画 ○道德教育意識調査の実施	[ホームルーム] 集団生活・規範意識	[ホームルーム] 集団生活・規範意識	奉仕作業 見守隊活動
6 月	[ホームルーム] 職業と職種 ○生徒生活実態調査	[総合的な学習] モラル教育（佐藤、根本）	[ホームルーム] 社会について考える	挨拶運動 面談個別指導 生徒実態調査
7 月	[工業] 勤労と職業 ○生徒実態調査（悩み調査）と個別面談 ○校内道德教育推進会議（道德教育推進中間報告） ○情報モラル教育（スマホ安全教室・依存度調査）	[総合的な学習] モラル教育（佐藤、佐川）	[ホームルーム] 進路活動	地域ボランティア 清掃奉仕作業 推進委員会 生徒実態調査
8 月	[ホームルーム] 自己理解と他者理解 ○道德教育地区別推進協議会実践発表（白河合庁） ○道德教育意識調査の実施	[総合的な学習] 社会と人間（佐藤）	[ホームルーム] 進路活動	事前アンケート調査
9 月	[ホームルーム] 技術者倫理 ○道德教育講演会「工業における技術者モラル」 （講師：近大姫路大学 講師 根本源太郎）	[ホームルーム] 技術者倫理	[ホームルーム] 技術者倫理	外部講師講演
10 月	[ホームルーム] 望ましいコミュニケーション 遠足、スポーツ大会 ○道德教育指導者研修（コラッセふくしま） ○道德教育校内研修（道德教育の充実のための実践）	[ホームルーム] 望ましいコミュニケーション 修学旅行、スポーツ大会	[ホームルーム] 望ましいコミュニケーション 遠足、スポーツ大会	挨拶運動 見守隊活動

11 月	[総合的な学習] 技術者モラル(川島)	[特別活動] インターンシップ	[工業] 工業の社会的役割	校外研修 校内研修
	○道徳教育学校研究会(盛岡市立河北小学校) ・公開授業、分科会・研究会 ・講演「道徳の特別の教科化と授業改善の在り方～考え、議論する道徳授業に向けて～」 (講師:文部科学省初等中等教育局教科調査官 赤堀 博行) ○道徳教育校内研修(道徳教育学校研究会伝達研修)			
12 月	[総合的な学習] 授業公開	[工業] 技術者モラル(工業)	[工業] 技術者モラル(工業)	外部講師講演 実践発表 公開授業 研究授業 学校生活アンケート
	○道徳教育講演会「技術者に求められるもの」 (講師:中小企業診断士 永島 巖) ○道徳教育講演会「科学技術の進歩と技術者倫理」 (講師:宇宙航空研究開発機構 JAXA 特任担当役 木皿 且人) ○道徳教育地区別実践発表・公開授業 (実践発表:塙工業高等学校 校長 佐藤 浩正) (公開授業:教諭 清水 隆司・教諭 川島 心) (指導助言:県南教育事務所 学校教育課 指導主事 齋藤 雅彦) ○ふくしま道徳教育資料集活用研究授業・研究協議会 (地歴公民:地理A(1年)「日本の自然と防災」情報の取扱い) (国語:現代文(3年)「家族の深い絆～感謝や思いやり～」)			
1 月	[ホームルーム] キャリア教育	[ホームルーム] キャリア教育・職業観	[ホームルーム] 社会的責任・他者理解	事後アンケート調査
	○道徳教育意識調査			
2 月	[ホームルーム] 社会性・勤労観	[ホームルーム] 社会性・自己管理	[ホームルーム] 社会性・自己有用感	実践のまとめ 振り返り
3 月	[ホームルーム] まとめと振り返り	[ホームルーム] まとめと振り返り		挨拶運動 見守隊活動

5 生徒の実態及び地域の問題

(1) 生徒の実態

素朴で素直な面をもち、挨拶がよくできる生徒が多く、資格取得等にも積極的に取り組んでいる。
反面、規範意識や自己判断力を高める指導を継続的に行う必要がある生徒や、基本的学力を身につける必要がある生徒がいる。

(2) 学校・地域の実態

町唯一の高校であるため、住民に同窓生も多く、また、塙中学校と連携型中高一貫教育を実施していることもあり、本校の教育活動への地域の理解が深く協力的である。また、水郡線沿線唯一の工業高校であり、多くの卒業生が地域の工業産業の中核となって活躍し、地域を支えている。

6 道徳教育における校長の指導方針

教育活動全体を通じて、自律・自尊の精神に富み、たくましく生きる人間を育成する。
生徒一人ひとりが工業技術者として望ましい勤労観と社会性を持ち、自ら学ぶ意欲と創造性を高め、社会に通用する人材を育てる。

我が国の伝統と文化を尊重し、国際理解を深め、科学的思考力を身につけた人間の育成を図る。

7 平成28年度 道德教育の全体計画について（資料1）

学校教育目標、道德教育の重点目標を中心に、生徒の実態や目指す生徒像を踏まえ、各学年や各学科、各教科の重点目標を設定し、学校の教育活動全体を通じて適切に指導する。生徒指導や特別指導、教科科目との関連や、家庭・地域との連携を考慮し、作成した。

○ 道德教育の重点目標

- （1）基本的な生活習慣を定着させ、規範意識や道德的実践力を高めることにより、公正で公平な判断力を持つ人間を育成する。
- （2）いろいろなものの考え方・見方を理解し、他者を受け入れる寛容な心を持ち、人権を尊重した差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養う。
- （3）地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の自然や伝統、文化を尊重し、地域の発展に貢献できる人物を育成する。
- （4）技術者としての技術者モラルの知識を高め、技術者・管理者としての社会的責任を自覚させ、自らの判断力と行動力を高める。

8 平成28年度 道德教育の全体計画「別葉」について「総合的な学習の時間（資料2）」

各教科科目やホームルーム活動を通じて、生徒の自己探求と自己実現に向けて、社会の一員としての役割と責任を自覚させ、人間としての生き方・在り方に関する教育を実践する。

これまでの道德教育を基盤に適切な指導を行う上で、生徒の道德的傾向を考慮し、社会倫理観や技術者モラルを身に付けさせる。

9 平成28年度 学級における指導計画について（資料3）

各学級のホームルーム活動や学校行事等を通じて道德教育を実践することで、人間尊重の精神、自律心や豊かな心、国と伝統文化を尊重する心、勤労観や職業観を養い、未来を拓く主体性のある人間を育てる。

10 道德教育推進の取組・実践

（1）道德教育計画と推進体制に関すること

- 総合的な学習の時間やLHR、各教科指導、学校行事等、教育活動全般において道德教育指導計画の充実を図った。
- 魅力的な授業を行うために校内研修会や授業研究を実施し、指導方法の改善と充実に向けての研鑽を深めた。
- 「道德教育地区別推進協議会」において、工業高校における道德教育実践を発表し、研究テーマに沿った道德教育を示した。
- 事前に生徒アンケート調査を行い、生徒や保護者、地域の実態、学校行事や各科での授業、総合的な学習の時間の実践を考慮に入れた全体計画の策定を図った。

（2）道德教育推進教師を中心とした道德教育指導力向上の取組

道德教育に関わる各種研修会に参加して、得られたことを資料にまとめ、校内研修会を通じて、教職員間で共有し、道德の時間の指導に対する意識を高め、指導力の向上を図った。

① 道德教育学校研究会（11/1（火）盛岡市立河北小学校）

<内 容>

公開授業1：1年生「よりみち」、公開授業2：5年生「まいごのカナリア号」

集会活動：誕生集会（全校児童と保護者による発表）

分科会研究会：C規則の尊重（1，5年生）

助言者：盛岡教育事務所主任指導主事、盛岡市立杜陵小学校校長

<講 演>

演 題：「道德の特別の教科化と授業の在り方 ～考え、議論する道德授業に向けて～」

講 師：文部科学省初等中等教育局教科調査官 赤堀 博行

概要：従来の道徳の時間を「特別の教科」と位置付けるため、学校教育法施行規則において、小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部の教育課程における「道徳」を「特別の教科である道徳」と規定。小学校等 平成 30 年 4 月 1 日から、中学校等 平成 31 年 4 月 1 日から施行。教科化の背景：「いじめの問題」など子どもを取り巻く環境の変化。「全ての学校、先生が同じ道徳を」→ 教科書（教材）が必要→ 評価を実施。

<伝達研修会>

指導に当たっては、多様な方法を取り入れた指導（問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等）を授業に生かす。また、評価については、数値評価ではなく、子どもの学習状況や成長の様子を把握する個人内評価（記述式）とする。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育は、各学校で目指す子ども像をもとにし、① 道徳教育の目標の明確化、② 重点内容項目の明確化を図り、道徳教育の全体計画、年間指導計画を作成し、進めていく。

「道徳の時間」においては、学校の教育活動全体で行う道徳教育との関連を明確にし、(1)計画的、発展的な指導によって、(2)補充、深化、統合する。

「答えが 1 つではない課題」について、「考え、議論する道徳」の授業を創造するため、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びを基本とする指導を行う。

新しいことをやるのではなく、指導者の「思い」（明確な指導観）を込めることを求める。

② 平成 28 年度道徳指導者養成研修（コラッセふくしま）

<内 容>

行政説明 「道徳の『特別の教科』化をめぐる動向について」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 課長補佐 小野 賢志

講義 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行

演習 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進上の課題」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行

事例発表・協議 「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」

講義 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」

講師 文教学院大学 教授 小泉 博明

事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」

助言指導者 文教学院大学 教授 小泉 博明

演習 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」

「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実線」

助言指導者 文教学院大学 教授 小泉 博明

発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究

実線」助言指導者 文教学院大学 教授 小泉 博明

講義 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 安部 恭子

演習 「道徳教育の効果的な推進方策—研修プランの作成—」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一

教育調査官 赤堀 博行

講義 「道徳教育を推進するリーダーとして」

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一

<伝達研修会>

高校における道徳教育の取り組み方として、「道徳教育を新たに行わなければならない」ではなく、今、取り組んでいる内容において道徳の内容における関連性を意識することから始める。

それにより、新たな指導を行うのではなく、現在の授業内容を踏まえつつ、指導者が道徳について意識することで生徒たちの道徳観を高める指導が可能となる。

その手立てとして、授業の内容を道徳との関連の上で考え、意識することが重要であること

を伝える。また、教科指導だけではなく普段からの生徒指導も道德教育につながっていることを改めて考えて頂くことで、高校における道德教育への理解を深めてもらった。

(3) 外部講師による講演

① 講演「工業における技術者モラル」近大姫路大学 講師 根本 源太郎

平成28年9月28日(水) 13:00～14:20

<内 容>

○生き方を振り返る

生徒の実態、地域の実態、家族について。「見つからなければ大丈夫」と思っていないですか。

○地域における工業高校の存在

工業高校の成り立ちと地域の産業構造を支える実態。工業人として人間として研鑽に励むこと。

○技術者モラルの重要性

技術者としての社会的役割と責任。航空会社における飛行機の安全性について。様々なトラブルに対する実践的な対応。社会的責任と判断力、行動力。

<生徒アンケート>

・テストの使い方や実効値の計算を実際に行い、工業技術に関わる実践力を高めることができた。

・人間性を磨くことや間違いを自ら正す態度について理解することができた。また、企業の組織の中で技術者モラルのことについて、深く考えることができた。

・グローバルな視野を持つこと、基礎学力や英語の重要性、自らの行動とその責任について考えることができ、今後の生活に役立てていきたい。

② 講演「技術者に求められるもの」中小企業診断士 永島 巖

平成28年12月5日(月) 14:00～15:00

<内 容>

○ハインリッヒの法則

重大事故：軽微な事故：ヒヤリハット＝1：29：300、不安全状態・不安全行動
事事故例（異物混入、道路陥没事故）を基に、原因と防御策を考える。

○割れ窓理論

軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪等を含めた犯罪抑止効果がある。

5Sの徹底（整理・整頓・清掃・清潔・躰）

○感性の涵養

工業技術者としての倫理と感性を磨くこと。工業技術の社会的な役割。

<生徒アンケート>

・ハインリッヒの法則について理解を深めることができた。

・割れ窓理論と5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の重要性を認識した。

・技術者倫理と感性の涵養が重要である。

・トイレ清掃員の話では、清掃員の自尊心と使命感に感動した。

・今後の学校生活に役立てたい。

③ 講演「科学技術の進歩と技術者倫理」JAXA特任担当役 木皿 且人

平成28年12月7日(水) 14:00～15:00

<内 容>

○技術者の責任

科学とは、技術とは、工学とは、社会にどう役立てるか、自然を変化改変させる力
技術者倫理と組織倫理の葛藤、技術者としての幸福論

○多角的な視点

自然界から情報を広く取り入れること、ひらめきの大切さ。単純なものこそ本質がある。

○技術者の幸福

＜生徒アンケート＞

- ・技術者になる上で心構えや重要なことを知ることができた。
- ・これからの社会で役立つことを知りました。私はエンジニアを目指しているので、立派なエンジニアになれるよう頑張りたい。

①「総合的な学習の時間」(1年)「健康と工業～技術者としてのモラル～」

- 主題名： 近年の事件から技術者としてのモラルを考える
ねらい： 技術者としてのモラルを持った行動が如何に必要なのか、モラルなき行動が社会に与える影響、企業、技術者本人が受ける影響を知り、今後ものづくりに携わる上で必要なモラルを遵守する心を育てる。
- ②〔総合的な学習の時間〕（１年）「健康と工業～技術者としてのモラル～」
○主題名： 公害～工業人としてのモラル～
ねらい： 相手に対する思いやりや優しさが足りないために、対人関係のトラブルになるケースも少なくない高校生のこの時期に、将来の自分を想像させることでモラルの向上を図りたい。また、将来の技術者として、やってはいけない事を見極める力や正しい判断や行動ができる能力を育む。
- ③〔国語〕現代文（３年）「家族の深い絆～感謝や思いやり～」
○主題名： 家族愛、家族への感謝と思いやり
資料名： 「がんばっぺな」（ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ）
ねらい： 青年期にある高校生が、家族との関わりの変容を通して、進路について悩む主人公の心情を、自らの生き方と重ね合わせながら、困難な状況にある時に、人は支え合い、互いに励まし合うことで、家族の信頼関係や感謝する気持ち、深い絆を大切にしようとする態度を育てる。
- ④〔地歴公民〕地理Ａ（１年）「日本の自然と防災」情報の取扱い
○主題名： 日本の自然と防災、地震被害と防災、情報の信頼性
資料名： 「チェーンメール」（ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ）
ねらい： 我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりについて理解させると共に、国内に見られる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。地震と、それによって起きる震災が、自分たちにどのような被害をもたらすか。情報伝達が困難ななか、どのような行動をすべきか、考えさせる。

＜選択肢例＞ ア.とてもよいと思う イ.だいたいよいと思う ウ.どちらともいえない
エ.あまりよいと思わない オ.まったくよいと思わない

設問1. 「技術者モラル」や「技術者倫理」ということばの意味を知っている。

設問2. 「技術者モラル」は必要である。

設問3.「技術者モラル」を守るためには、一人一人の責任感が重要である。

設問4. 企業はコストダウンのために、原材料の規格や品質を重視しなくても良い。

設問5. 仕事に支障が無いので、技術者が会社から渡されたマニュアルを読まずに仕事を行っている。

設問 6. 仕事が毎日安全に行われているので、法令はあまり意識しなくともよい。

設問7. 技術者が「技術者モラル」を守らないと企業にとってマイナスの影響が大きくなる。

設問 8. 技術者は、環境への配慮を持って仕事を行わなければならない。

設問 9. 技術者は、自分の仕事に対して説明責任を果たさなければならない。

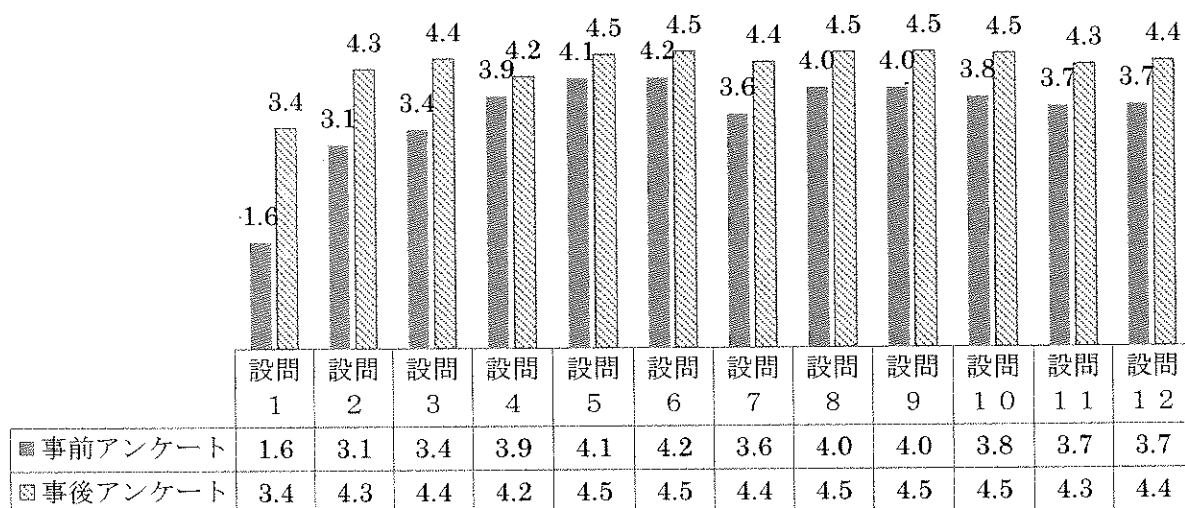
設問 10. 技術者は常日頃から重大事故等に対処する方法を技術者モラルに基づいて考えておく必要がある。

設問 11. 工場から出る公害等は、法令で定める基準値以上に厳しい基準を企業が自ら決める必要がある。

設問 12. コストがかかるので工場からでるゴミを、リサイクルせず廃棄物として処理する。

アンケート回答の平均値

■ 事前アンケート □ 事後アンケート



12 成果と課題

- 中学校教育での指導と一貫性に配慮しながら、指導内容を精選し、高等学校や生徒の実態に応じた道徳教育計画を策定し、学校全体で実践に努めた。
- 工業科目に関する授業や実習を通して、工業技術者の社会的な意義を認識し、地域の産業構造を支える人材としてのキャリア教育を実践することができた。
- 魅力ある道徳教育を推進するために、研究授業や授業参観、研究協議、事前研修会を行い、指導内容の精練と指導技術を磨き、計画的、継続的に授業を行うことができた。
- 3回の外部講師講演を通していろいろなものの見方、考え方を理解し、規範意識や他者を受け入れる寛容な心を養うことができた。また、未来のより良い社会の構築のために主体的に地域に貢献しようとする態度を育むことができた。
- 生徒環境調査や教育相談を頻繁に実施し生徒との信頼関係を構築する取組を行った。
- 地域の企業経営者や地域の技術者との交流や体験を通して、地域の一員としての自覚を持ち、地域の発展に貢献できる意識と態度を育むことができた。
- 事前に実施した道徳教育に関するアンケートと年度末に実施した道徳教育に関するアンケートを比較すると、これまでの道徳教育に関する様々な指導を通して、全ての項目で道徳心を高めることができた。
- 一方的な知識伝達型の授業になりがちなので、生徒が主体的に取り組み、互いに学び合うアクティブラーニングによる授業を実践し、よりよい道徳教育が実践できるよう授業研究、授業改善に努めなければならない。
- 主に道徳教育は、学校と生徒の関係のみで行われがちであるが、家庭や地域や企業と共に互いに情報を共有し、より良い道徳教育に活かしていくことが大切である。

平成28年度道徳教育の全体計画

資料1

福島県立塙工業高等学校 全日制の課程

生徒の実態 素朴で素直な面をもち、挨拶がよくできる生徒が多く、資格取得等にも積極的に取り組んでいる。また、生徒個々の実態に応じて、目標を定め、生活面や学習面で努力を続けている。	学校の教育目標 教育活動全体を通じて、自律・自尊の精神に富み、たくましい人間の育成を図る。 生徒一人ひとりが望ましい勤労観と社会性を持ち、自ら学ぶ意欲と創造性を高め、社会に通用する人材の育成を図る。 我が国の文化と伝統を尊重し、国際理解を深め、科学的思考力を身に付けた人間の育成を図る。	目指す生徒像 基本的生活習慣を身につけ、自らを律しつつ、他者を思いやる豊かな心を持ち、工業技術者として必要な知識・技能を習得し、社会に適用する生徒。
--	---	--

学校・地域の実態 町唯一の高校であるため、住民に同窓生も多く、また、塙中学校と連携型中高一貫教育を実施していることもあり、本校の教育活動への地域の理解が深く協力的である。	道徳教育の重点目標 1 基本的生活習慣を定着させ、規範意識や道徳の実践力を高めることにより、公正で公平な判断力を持つ人間を育成する。 2 いろいろなものの考え方・見方を理解し、他者を受け入れる寛容な心を持ち、人権を尊重した差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養う。 3 地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の自然や伝統、文化を尊重し、地域の発展に貢献できる人物を育成する。 4 技術者としての技術者モラルの知識を高め、技術者・管理者としての社会的責任を自覚させ、自らの判断力と行動力を高める。	道徳教育の推進体制 各科・教科における指導 (教育課程委員会) 生徒の活動全般における指導 (生徒指導部) 総合的な学習の時間における指導 (授業担当) 家庭・地域との連携 (教務部担当)
---	---	---

各学年の重点目標	
1学年	高校生としての自覚を持ち、挨拶や身だしなみ等基本的な生活習慣を身につけさせ、進路や資格検定などで、より高い目的意識を持ち行動できる態度を育成する。
2学年	基本的生活習慣を定着させて欠席等を減らすとともに、規範意識を高めて「豊かな心」を育みつつ、望ましい社会性を身に付けさせるよう努める。
3学年	人間関係と生命の大切さを認識させ、地域・学校・家庭で安全に生活させるとともに自分の役割を責任をもって果たすことのできる力を育成する。

各科・各教科との関連	
電子	環境に配慮した新しい技術の理解を深め工業技術の発展に主体的に対応できる能力と意欲の育成に努め、技術者としての倫理観と使命および責任感を養う。
機械	基礎・基本の知識と技術を学ぶことで、新技術への興味・関心の育成に努める。また、工業技術の諸問題を主体的、かつ倫理観をもって解決することで、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。
国語	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合い、理解し合う力を高めるとともに、心情を豊かにし、人間としての在り方生き方について考えようとする態度を育てる。
数学	日常の事象について、見通しをもち論理的に考察し表現する能力を伸ばすことにより、様々な状況においてどのように対処するかという道徳的判断力の育成に努める。
英語	英語学習を通じて、言語や様々な文化・価値観に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向を理解したり自分の考えなどを表現したりする態度を育成する。
地歴・公民	歴史的な観点から、人間の生き方・在り方というものを考えさせる力を身に付けさせる。また、現代社会の諸問題について、その本質を追究し、そこで自分が何をすべきか、どのように生きるべきかを考える態度を育てる。
理科	現代のエネルギー問題や生態系破壊等の環境問題を取り上げ、考えることにより問題を解決する資質を養うとともに生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成する。
保健体育	集団活動を通じて、コミュニケーション能力を育成するとともに、集団の中での自己の役割や安全に配慮した行動ができる能力を養う。
家庭	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住の学習を通して、互いを尊重し合い共生する心を身に付ける。代々伝わる生活の知恵や文化を継承する態度を理解させる。
芸術	音楽に関する様々な活動を通して、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めることにより、豊かな情操を養い、より人間らしく豊かな生活を送ろうとする態度を育てる。

生徒指導等における関連	特別活動との関連
高校生として望ましい生活習慣を身につけ、主体的に実践できるよう指導する。また、自他の生命と存在の尊さを理解し、安全で安心な学校及び社会を築くための自己の役割を認識し、行動できるように指導する。	様々な学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動を通じて、誠実で調和のとれた人間の育成を図る。 また、就業体験、主権者教育などの体験学習を通して望ましい勤労観と社会性を身につける。

家庭・地域との連携	総合的な学習の時間との関連
・豊かな心の育成と基本的生活習慣の確立を図るため、家庭との連携を深める。 ・地域のボランティアや行事に積極的に参加させ、共同体の一員としての自覚を深めさせる。	1年：「健康とは何か」を考え、健康的な活力ある社会の構築を目指し、自他の生命の尊重や課題解決に主体的に取り組む資質と能力を養う。 2年：自己実現のために必要な情報を適切に選り出す力を養うとともに、自分のものとして考察し、まとめ発表する力や他人の意見を聞く力を養う。 3年：交通や交通安全に対する技術的認識を高めることにより、交通道徳及び危機管理に対する社会人としての望ましい態度と能力を身につける。

1年総合「健康と人間」 平成28年度 実施計画

資料2

1. 学習の目的 毎日の生活を振り返り、医療機関・社会制度・人権問題・環境など様々な社会との関わりの中で「健康とは何か」を考え、健康的な活力ある社会の構築を目指し、課題解決に主体的に取り組む資質と能力を養う。

2. 学習日程

学 習 内 容 (大 単 元)	学 習 内 容 (小 単 元)	主 担 当	指 導 者		授 業 形 態	実 施 場 所	実 施 予 定 日		備 考
			1組	2組			1組	2組	
	ガイダンス	佐川	佐川	佐川	一斉	教室	4.20	4.20	
1. 健康を維持するために①	(1)自分手帳	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	教室	4.27	4.27	
	(2)喫煙が人体に及ぼす影響	蓬田	蓬田	清水	一斉	教室	5.11	5.11	
	(3)薬物が人体に及ぼす影響①	蓬田	蓬田	清水	一斉	教室	5.18	5.18	
	(4)薬物が人体に及ぼす影響②	蓬田	蓬田	清水	一斉	教室	6.1	6.1	
	(5)自己の体力分析	小泉	小泉	鈴木	一斉	教室	6.8	6.8	
2. 歯と健康	(1)う歯について	吉田	小泉	吉田	一斉	教室	6.15	6.15	
	(2)効果的なブラッシング法 ※1	吉田	小泉	吉田	一斉	教室	6.22	6.22	
4. 疾病と予防	(1)疾病の原因と予防	矢吹	矢吹	鈴木	一斉	教室	6.29	6.29	
	(2)疾病についての研究① 調べ学習	矢吹	矢吹	鈴木	一斉	教室	7.6	7.6	
	(3)疾病についての研究② 調べ学習	矢吹	矢吹	鈴木	一斉	教室	7.13	7.13	
1学期末テスト							6.30～7.5	6.30～7.5	
4. 疾病と予防	(4)疾病についての研究③ 発表準備	鈴木	矢吹	鈴木	一斉	教室	8.31	8.31	
	(5)研究発表	鈴木	矢吹	鈴木	一斉	教室	9.7	9.7	
5. 性に関する対策	(1)思春期の性の問題①	小林	小林	小林	一斉	教室	9.14	9.14	
	(2)思春期の性の問題②	小林	小林	小林	一斉	教室	9.22	9.22	
	(3)思春期の性の問題③	小林	小林	小林	一斉	教室	9.28	9.28	
8. 健康と社会	(1)看護の実態(いのちの大切さ) ※1,2	佐藤	小泉	野尻	一斉	教室	10.5	10.5	
	(2)環境汚染と健康の関わり(リサイクル)	佐藤	小泉	野尻	一斉	教室	10.12	10.12	
	(3)水質と健康の関わり	佐川	蓬田	野尻	一斉	教室	10.26	10.26	
	(4)福祉の実態 ※2	佐川	蓬田	野尻	一斉	教室	11.2	11.2	
心の健康 情報モラル	1技術者モラル	川島	川島	佐川	一斉	教室	11.9	11.9	
	2技術者モラル	川島	川島	佐川	一斉	教室	11.16	11.16	
2学期末テスト							11.28～12.2	11.28～12.2	
心の健康 情報モラル	3技術者モラル	川島	川島	佐川	一斉	教室	12.5(地理)	12.5(地理)	
	4技術者モラル(研究発表)	川島	川島	佐川	一斉	教室	12.7(5, 6)	12.7(5, 6)	
	5技術者モラル	川島	川島	佐川	一斉	教室	12.14	12.14	
	ストレスについて	清水	清水	野尻	一斉	教室	1.18	1.18	
健康と社会	(1)福祉活動実践①目隠し体験実習	佐藤	佐藤	吉田	一斉	教室	1.25	1.25	
	(2)福祉活動実践②車椅子体験実習	佐藤	佐藤	吉田	一斉	教室	2.1	2.1	
	(3)放射能について	佐藤	佐藤	吉田	一斉	教室	2.8	2.8	
学年末テスト							2.15～2.20	2.15～2.20	
健康を維持するために	自分手帳②	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	教室	2.22	2.22	
	まとめ	佐川	佐川	佐川			3.15	3.15	

平成28年度 2学年総合的な学習の時間「IT社会と人間」 実施計画

資料2

1. 学習目的 変化する情報化社会の中で、情報を正しく収集・分析し、自分のものとして考察し、まとめ、発表する力を身に付ける。また、体験的学習や就業体験を通して、自ら課題を見つけ、学び、考える学習をすることで、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、さらに進路意識の高揚と望ましい職業観・勤労観の確立を図る。

学習単元(大単元)	学習内容(小単元)	授業 主担当	指導者		授業形態	場所	実施予定日	
			1組	2組			1組	2組
0. ガイダンス	ガイダンス	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	教室	4月14日	4月14日
1. 自分とは何か (自己再発見)	(1) 自己を知る(自己紹介①)	矢吹	矢吹	矢吹	グループ	教室	4月21日	4月21日
	(2) 自己を知る(自己紹介②)	矢吹	矢吹	矢吹	一斉	教室	4月28日	4月28日
	(3) 自己を知る(自己紹介③発表)	矢吹	矢吹	矢吹	一斉	教室	5月12日	5月12日
	(4) 適性検査について	細川	平湯	細川	一斉	教室	5月19日	5月19日
2. 自分はどこに いるのか (現代社会)	(1) IT社会とは何か	蓬田	小泉	蓬田	グループ	教室	6月2日	6月2日
	(2) インターネットに潜む危険性①	矢吹	矢吹	矢吹	一斉	教室	6月9日	6月9日
	(3) インターネットに潜む危険性②	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	視聴覚室	6月16日	6月16日
	(4) インターネットに潜む危険性③	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	視聴覚室	6月23日	6月23日
	1学期末考査	佐藤	小泉	根本	一斉	教室	6/30～7/5	
	(5) 肖像権について	佐川	佐川	佐川	一斉	視聴覚室	7月7日	7月7日
	(6) 著作権について	根本	根本	根本	一斉	視聴覚室	7月14日	7月14日
	(7) まとめ	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	視聴覚室	8月25日	8月25日
3. 自分はどこに 向かうのか (職業と自分)	(1) 職業を知る①(求人の方)	小泉	小泉	蓬田	一斉	教室	9月1日	9月1日
	(2) 職業を知る②(求人票と職業分類)	小泉	小泉	蓬田	一斉	教室	9月8日	9月8日
	(3) 就業体験事前指導①(自己紹介カード下書き)	佐藤	担当全員	担当全員	一斉	教室	9月15日	9月15日
	(4) 就業体験事前指導②(自己紹介カード完成)	佐藤	担当全員	担当全員	一斉	教室	9月29日	9月29日
	(5) 就業体験事前指導③(会社を知る)	小泉	小泉	蓬田	一斉	教室	10月13日	10月13日
	(6) 就業体験事前指導④(心構えの指導)	佐川	佐川	佐川	一斉	視聴覚室	10月27日	10月27日
	就業体験(インターンシップ)	各企業					11/8～10	
	(7) 就業体験まとめ(レポート作成)	根本	根本	根本	一斉	教室	11月17日	11月17日
	(8) 就業体験まとめ(発表の仕方)	根本	根本	根本	一斉	教室	11月24日	11月24日
	2学期末考査	佐藤	平湯	蓬田	一斉	教室	11/29～12/2	
	(9) 就業体験まとめ(発表資料作成)	平湯	平湯	細川	グループ	教室	12月8日	12月8日
4. 自己実現に向 けて	(10) 就業体験まとめ(発表①)	平湯	平湯	細川	グループ	視聴覚室	12月15日	12月15日
	(11) 就業体験まとめ(発表②)	平湯	平湯	細川	グループ	視聴覚室	1月19日	1月19日
	(1) 主権者教育①	佐川	佐川	佐川	一斉	視聴覚室	1月26日	1月26日
	(2) 主権者教育②	佐川	佐川	佐川	一斉	視聴覚室	2月9日	2月9日
	学年末考査	佐藤	矢吹	細川	一斉	教室	2/15～20	
	(3) 主権者教育③(模擬選挙)	佐川	佐川	佐川	一斉	会議室	2月23日	2月23日
5. まとめ	(4) 進路を設計する	根本	根本	根本	一斉	教室	3月2日	3月2日
	まとめ	佐藤	佐藤	佐藤	一斉	教室	3月16日	3月16日

総合的な学習の時間「交通社会と人間」 平成28年度実施計画

資料2

1. 学習目的

交通に関する諸問題について、多面的な角度から学習し、交通や交通安全に対する技術的認識を高め、交通安全・交通道德及び危機管理に対する社会人としての望ましい態度と能力を身につける。

2. 学習日程

学習単元（大単元）	学習内容（小単元）	授業 主担当	指導者		授業形態	場所	実施予定日	
			1組	2組			1組	2組
0. ガイダンス	(1) ガイダンス	佐川	佐川	佐川	クラス別	視聴覚室	4.18	4.19
1. 今日の交通情勢	(1) 本校の交通指導	—	生徒指導部		全学年	体育館		
	(2) 自転車の安全走行							
	(3) 諸外国の交通事情	鈴木	鈴木	鈴木	クラス別	教室	4.25	4.26
	(4) 日本の交通事情	佐川	佐川	佐川	クラス別	教室	5.16	5.17
	(5) 地域の交通事情Ⅰ						5.23	5.31
	(6) 地域の交通事情Ⅱ				クラス別 グループ	教室	5.30	6.7
	(7) 地域の交通事情Ⅲ（下書き）						6.6	6.14
	Ⅳ（清書）						6.13	6.21
Ⅴ（発表）								
2. 主権者教育	講話（外部講師）	佐川	高町選挙管理委員会		全学年	視聴覚室	6.27	
3. 事故と応急処置 及び救急体制	(1) 応急処置の必要性と手順	佐川	消防署 担当者全員		全学年	格技場	普通救命講習 （7.11）	
	(2) いろいろな応急処置Ⅰ							
	(3) いろいろな応急処置Ⅱ							
	(4) 救急体制とその仕組み							
	(5) 交通とヒューマンエラーⅠ	吉田	吉田	吉田	クラス別	視聴覚室	6.20	6.28
	1学期末考査 6月30日～7月5日							
	(6) 交通とヒューマンエラーⅡ①	吉田	吉田	吉田	クラス別 グループ	教室 視聴覚室	7.19	7.12
	Ⅱ②						8.29	8.30
Ⅱ③	9.5						9.6	
4. 自動車の機能と 運転の仕組み	(1) 自動車の構造と機能	蓬田	蓬田	蓬田	クラス別	視聴覚室	9.12	9.13
	(2) 原動機の種類と特徴 制動装置とその機能						9.26	9.20
	(3) 車のトラブルと日常点検						10.3	9.27
5. 交通と医学	(1) 飲酒、疲労と運転	鈴木	鈴木	佐藤	クラス別	教室 視聴覚室	10.17	10.4
	(2) 速度と聴覚、視覚の関連						10.24	10.11
	(3) 受傷のメカニズム						10.31	10.25
	(4) 飲酒運転と危険運転致死傷罪						11.7	11.1
6. シートベルト の効用	(1) シートベルトの効用（講義）	佐川	JAF		クラス別	会議室	12.5（予定）	
	(2) シートベルトの効用（実験）					前庭		
	(3) シートベルトの効用（まとめ）		担当者全員		クラス別	会議室		
7. 交通と環境	(1) 交通と公害Ⅰ	平湯	平湯	平湯	クラス別	視聴覚室	11.14	11.8
	(2) 交通と公害Ⅱ						11.21	11.15
	2学期末考査 11月24日～27日							
		(3) 道路標識と道路標示	平湯	平湯	平湯	クラス別	視聴覚室	11.28
8. 交通事故の責任 と補償	(1) 自動車事故の責任と補償	佐藤	佐藤	佐藤	クラス別	視聴覚室	12.12	12.6
	(2) 損害賠償責任保険						12.19	12.13
9. まとめ		蓬田	平湯	蓬田	クラス別	教室	1.16	1.17
	学年末考査 1月26日～1月29日							

平成28年度 ホームルーム年間指導計画

資料3

1年	1. 埼玉高生としての自覚を持たせ、礼儀正しい態度を身に付けさせると共に、身だしなみを整え、遅刻・欠席を無くす等の基本的な生活習慣を身に付けさせる。 2. 進路目標を持たせ、自己実現に向けて基礎学力を身に付けさせるとともに、授業を大切にする態度を身に付けさせる。 3. 各学科・各教科との連携を密にして資格検定の取得を促す。 4. 保護者・各教科・生徒指導部との連携を密にし、生徒理解に努め、事故の未然防止と問題解決にあたる。
2年	1. 2年生として自覚を持たせ、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、社会に出るために必要な資質を身に付けさせる。 2. 授業を大切にし、基礎学力の定着を図り、資格取得に積極的に取り組むとともに、インターンシップなどを通して自分の将来の進路を見据えた学習態度を育む。 3. 修学旅行・学校行事への積極的な参加と、集団生活における自己の役割を認識させ、生徒の自律・自主性を高める。 4. 保護者・各教科・各部との連携を密にし、生徒理解に努め、事故の未然防止、問題解決、支援の必要な生徒へ適切な対応を行う。 5. 学校生活、インターンシップ、修学旅行を通じてコミュニケーション能力を養う。
3年	1. 埼玉高最高学年としての自覚を持たせ、生徒の自律・自主性を高めるとともに、社会に出るために必要な資質を身に付けさせる。 2. 進路指導部と連携し、生徒・保護者に対し適切な進路指導を行い、早期の100%進路実現を図る。 3. 授業を大切にし基礎学力の定着を図り、資格取得や進路別模試に積極的に取り組むとともに、自分の将来の進路を見据えた学習態度を育む。 4. 保護者・各教科・各部との連携を密にし、生徒理解に努め、事故の未然防止と問題解決にあたる。

月	主題	1年	2年	3年
4	高校生活に向けて 目標の設定 いじめ防止 学年集会 交通安全教室	・学校生活を送る上での心構え ・工業科一員としての心構え ・自己理解 ・いじめについて ・挨拶と礼儀 ・交通安全	・目標の設定 ・いじめについて ・交通安全 ・人間尊重	・目標の設定 ・いじめについて ・交通安全 ・有意義な人生
5	定期考査 コミュニケーションの育成	・レクリエーション ・資格取得に向けて	・レクリエーション ・自己理解	・目標達成に向けて取組 ・いじめについて ・ディベート
6	自己目標の設定 自己理解、自律 スマホの利用 服装について	・自己目標について ・スマホ等の使用について ・服装について	・聞くこと、話すこと ・職業観、勤労観 ・就職すること	・就職・進学について ・企業訪問 ・資格取得 ・自己実現に向けて
7	進路を考える 学年集会 豊かな人間性 1学期のまとめ	・職種を知る ・1学期の反省	・資格取得 ・有意義な生活 ・豊かな人間性	・進路実現、進路活動 ・書類の提出 ・自分を高める
8	他者理解 進路について	・2学期に向けて ・他者理解	・2学期に向けての心構え ・進路実現	・進路実現、進路活動 ・履歴書の作成
9	奉仕活動 アサーショントレーニング 遠足 技術者モラル・社会倫理	・奉仕活動 ・クラスメイトを考える ・資格取得 ・技術者モラル	・自尊感情、自己主張の向上を図る ・社会人のマナー ・技術者モラル	・進路実現、進路活動 ・面接練習、報告書の書き方 ・社会人のマナー ・技術者モラル
10	球技大会 インターンシップ ネット社会 モラル教育	・高校生活を振り返る ・ネット社会の危険性 ・生徒会の仕組 ・技術者モラル	・インターンシップ ・職業観 ・資格取得 ・技術者モラル	・進路実現、進路活動 ・履歴書の作成 ・礼儀、言葉遣い、服装 ・技術者モラル
11	薬物乱用防止 交通安全 自己理解、他者理解 モラル教育	・薬物乱用防止 ・反省 ・自己理解、他者理解	・自己分析 ・学習について ・資格取得 ・自己理解、他者理解	・課題研究 ・いじめディベート ・体力向上 ・自己理解、他者理解
12	2学期のまとめ 3学期に向けて 技術者モラル教育	・2学期の反省と3学期の目標 ・技術者モラル	・自尊感情、自己主張の向上 ・検定試験合格を目指した学習	・課題研究 ・体力向上 ・自己理解、他者理解
1	職業観の向上 自己目標と反省 社会性	・働くこと ・目標達成度合の確認と反省 ・学年末に向けて	・就職・進学をするということ ・履歴書の書き方	・自律心 ・社会的責任 ・コミュニケーション
2	1年間のまとめ 目標達成に向けて 進路を考える	・休業中の生活 ・1学年のまとめ ・自己目標と反省	・2学年のまとめ ・社会性と協調性 ・自己目標と自己管理	・高校生活のまとめ ・社会性・協調性
3	次年度に向けて 技術者倫理	・1年間のまとめと反省 ・社会性と協調性	・教室の整理 ・面接指導 ・自己目標の設定	・挨拶、礼儀 ・生きる力

福島県立瑞工業高等学校 第1学年1組 総合的な学習の時間 指導案

日時：12月7日(水)5校時

場所：1年1組教室

授業者：教諭 川島 心

研究主題	「健康と工業」
研究副主題	「技術者としてのモラル」

1 主題名 「近年の事件から技術者としてのモラルを考える」

2 資料名 「パワーポイントによるスライド」

3 主題設定の理由

(1) 価値観

ものづくりをする上で必要とされるモラルについて学ぶことは、今後社会人として働く上で求められる道徳観に対し、思考・判断するうえで重要なこととなる。学習することで今まで培ってきたモラルに加え、現場に出てから本人の道徳観を基に就労先へ利益を与え、良好な人間関係を築き、豊かな人生を送るために、自分にとって何が必要となるのかを考えさせたい。

(2) 生徒観

ものづくりに対して興味関心を持ち始め、ほとんどの生徒が工業基礎を通じてものづくりの入口に立ったばかりである。そのためものづくりの知識、技術はまだ未熟であり、技術者モラルに関しては殆ど無いに等しい状況でもある。しかし、今までの生活を通して基本的なモラルは身についており、授業を通じて学習することでその延長線上に技術者モラルがあることに気付くことが出ている。教師からの適切な支援が必要と思われる生徒も数人いるが、丁寧な解説とワークシートの併用により理解を深める事が出来る。

(3) 資料観及び震災との関連

本資料は、東日本を襲った震災後、日本で初めて開催されるオリンピックに使用されるロゴ問題について学ぶことで技術者モラルを考える事が出来る。都知事は復興五輪とも位置付けており、本県は野球、ソフトボール予選会場候補地として取り上げられ、生徒たちの興味・関心もある。使用される五輪ロゴデザインについて決定までには紆余曲折があり、現在のデザインに至るまでの過程を通して学ぶことで必要とされる技術者モラルについて考え、今後企業で就労する際に必要とされる自身のモラルを高めるために適した資料である。

4 本時

(1) 本時のねらい

技術者としてのモラルを持った行動が如何に必要なのか、モラルなき行動が社会に与える影響、企業、技術者本人が受ける影響を知り、今後ものづくりに携わる上で必要なモラルを順守する心を育てる。

(2) 参観視点

○自らの考えを持ちながら、他者の意見を知り、再度自分自身の考えを振り替えさせる活動を設定したことは、必要とされるモラルを考える上で有効であったか。

○主疑問やそれぞれの問題点について、じっくり考えさせる時間と他者の考えを知ること、自身の考えを深めるため、ICT活用授業全体の構成として有効であったか。

5 指導過程

過程	学習活動	時間 形態	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1. スライドを見て授業への関心を高める。	5 一斉	○モラルとはなんでしたか。 ・道徳、倫理	○前回の復習 モラルについて確認する。
展開 I	2. 五輪ロゴの変容について知る (1) 五輪ロゴ騒動から何が問題だったのか考える。 (2) 人・物・お金においてどのような問題が起こるのか考える。	25 一斉 個人	○インターネットや社会全体がダメでしよう、と言っている根拠は何でしょうか。 【予想される発言】 ・まねをしたから ・著作権絡み ◎真似をすることで、どのような問題が起こるでしょうか。 【予想される発言】 ・関係が悪くなる、嫌な気持ち ・似たような物、紛らわしい ・損をする、大きな損害	○考える時間の確保と机間支援を行いながら、意見の記録する。 ○互いに意見を認め合う。 ○社会的にどのような影響が出るのか捉えさせる。
展開 II	3. 「学ぶ」は「真似ぶ」 (1) 「学ぶ」は「真似ぶ」から何が大切なのかを考える。 (2) 著作権を知り、真似をするのが悪いわけではなく、学びから自分独自のものをつくる大切さについて考える。	10 一斉 個人	○『 』に入る言葉はなんでしょうか。 【予想される発言】 ・オリジナル、独自、真似しない ○著作権とは創作者が持つことが出来る権利です、皆さんならどのようなことで権利が発生しますか？ 【予想される発言】 ・イラスト、作文	○思いつきやすいよう、助言を行う。 ○身近なもので思いつくよう促す。
終末	4. ものづくりに関わる技術者として大切なことを考える。 5. 本時のまとめ	10 一斉 個人	○物づくりをする上で大切なモラルとは何だろうか？ 【予想される発言】 ・真似と思われることをしない ○本時の授業を通して、今後自分が就職した際に何を大切にしたいかを踏まえて感想を書いてみよう。	○物づくりをするうえで必要なモラルが見出せるか。 ○技術者としてだけではないとも良いと促しながら、締めさせる。

福島県立福島工業高等学校 第1学年2組 道徳学習指導案

日時：12月7日（水）5校時

場所：1年2組教室

授業者：教諭 清水 隆司

研究主題 「健康と工業」
研究副主題 「工業人としてのモラル」

1 主題名 「公害」

2 資料名 「環境工学基礎」(美教出版)

3 主題設定の理由

(1) 価値観

日本は、高度経済成長の中、生産力や経済力が飛躍的に伸びたが、同時に四大公害病という被害も生み出した。これらは、史上最大の産業公害であり、今でも多くの人を苦しめている。環境問題は経済活動に付随して発生するものであるから、法令などをつくって、環境負荷の大きい行為を規制しなければならぬ。しかし、それだけでは不十分であり、それぞれの立場で自ら環境負荷を低減するようつとめなければならない。工業に携わる高校生として、いざれ技術者の立場として働く「工業人としてのモラル」とはなにかを考えさせたい。

(2) 生徒観

生徒の多くは、作業を伴う工業技術基礎や実習、課題研究などの授業に意欲的に取り組む姿が見られる。機械科1年生では、旋盤・溶接・鋳造・鍛造・手仕上げの実習を通して、ものづくりの楽しさを実感することができる。完成した製品は、他の生徒と見比べてみたり先生の見本と比較してみたりしながら、反省と考察の経験を繰り返している。卒業後の進路を考えたり、多くの生徒が製造業に就職することが予想される。製品は、安全で安心して製造できるものなのか、安全で安心して使えるものなのか、あらゆる立場から考えることにより思考力を向上させる授業展開を心掛けたい。

(3) 資料観及び震災との関連

東日本大震災や福島原発事故により、生活環境が破壊され、人と人とのコミュニケーションの関係も疎外されてしまっている。自然と人との関係を軸とした復興や、人と人との「絆」の再生が叫ばれながらも、なかなか進展しない現状がある。今、あらためて四大公害病を考えることによって、技術者としての正しい判断、正しい選択ができる工業人を育成するとともに、あらゆる問題に主体的に解決できる能力を育成したい。

4 本時

(1) 本時のねらい

相手に対する思いやりや優しさが足りないために、対人関係のトラブルになるケースも少なくない高校生のこの時期に、将来の自分を想像させることでモラルの向上を図りたい。また、将来の技術者として、やってはいけない事を見極める力や正しい判断や行動ができる能力を育んでいきたい。

(2) 参観視点

○発問に対して、自らの考えを表現することができ、他人の意見にも耳を傾ける態度で活動することができたか。
○あらゆる立場での気持ちや思いを深く考えることで、思いやりや優しさを向上させるのに有効であったか。

5 指導過程

過程	学習活動	時間 形態	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 モラルとは何かをあらためて考える。	5 一斉	○最近、どんな時にモラルという言葉を使ったか、または聞いたことがあるか。 ○モラルに欠ける、モラルに反するとはどんな人のことをいうか。	○本時のねらいと学習の方向性を促えさせる。
展開Ⅰ	2 四大公害病についての説明を聞き、習ったことのある内容を把握する。 (1) それぞれの病名からどんな公害が原因となっているか考える。 (2) 地域住民はどんな思いであつたのかを考える。	25 一斉	○公害には、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭などがあるが、主な原因はなにか。 ○公害の影響を受けた地域住民はどんな思いであつたか。 【予想される発言】 ・避難、転校、入院、寝たきり ・辛い、痛い、苦しい、悲しい ・悔しい、怖い、腹たしい ○企業にはどんな責任が生じるかを考える。 【予想される発言】 ・被害者への謝罪 ・損害賠償 ・改善装置の設置 ○国にはどんな責任が生じるかを考える。 【予想される発言】 ・法律の制定（公害対策基本法） ・環境庁の設置	◇説明を聞き、過去の学習内容から、公害の種類を判別しようとしているか。 ○仲間支援を行いながら、自己発言を促す。 ○互いの意見を認め合う。
	3 工業人（技術者）として大切なことは何かを考える。 (1) 個人で考える。 (2) ペアで交流する。 (3) 学級で交流する。	15 個人 ペア 一斉	◎製造業などに携わる工業人（技術者）の立場として、心掛ける大切なことはなにかを考える。 【予想される発言】 ・モラルを高める ・正しい判断や行動をする ・嘘をつかない、隠さない ・被害者を出さない	○自分に関わる事だけ考えるのではなく、視野を広げて考えることの大切さ。 ◇展開Ⅰを踏まえ考え主体的な姿勢で取り組めたか。
終末	4 本時の感想をまとめ、振り返る。	5 一斉	○本時の授業を通して、今後の学校生活にどう活かしていきたいかを書いてみよう。	○日頃の自分を振り返り、モラルを意識した生活ができるようになる。

福島県立埼玉工業高等学校 第3学年1組 道徳学習指導案

日時：12月14日（水）4校時
場所：3年1組教室
授業者：教諭 細川 浩邦

研究主題	「家族の深い絆 感謝や思いやり」
研究副主題	「道徳教育を通して家族にとって大切なものを考えさせる」
1 主題名	家族愛、家族への感謝や思いやり
2 資料名	「がんばっぺな」(ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ)
3 主題設定の理由	

(1) 価値観
高校生が社会の変化に主体的に判断し行動するために、自身の相応しい生き方を選択する上で、選択基準や判断基準を持つことが必要になる。そのために自己理解を深め、価値観を高め、物事を自分自身の生き方に結び付けて考えさせることが必要である。さらに、自己教育力や自己決定力を養い、あらゆる集団や社会との関わりを通して、豊かな心を育てたい。
震災後に避難してきた祖父母との同居する主人公の姿や心境を通して、困難な状況でも、互いに支え合い、励まし合うことの大切さを育てたい。主人公の進路の悩む姿や祖父への煩わしさ、素直になれない心の変容を、家族との関わりを通して、大切なものとは何かについて考えさせたい。

(2) 生徒観
高校生の時期は、自分の将来の進路や生き方について悩み、常に葛藤している。そのような中で、友人や教師、家族との関わり方も変化しており、特に家族には本音で感情がぶつけられる為、素直になれず、反発する時期でもある。生徒の道徳的発達課題を捉え、豊かな心や人間としての生き方について具体的に学ばせ、それを自らの課題に結び付けることで、自己を見つめ、逞しく生きる力を育む原動力としたい。
家族は、困難な状況にある時こそ、支え合い、互いに励まし合うべきこと、そして、家族の存在の大切さを実感し、より良い人間関係を構築する力を身に付けさせたい。

(3) 資料観及び震災との関連
本資料は、東日本を襲った震災後の厳しい環境の中で、避難生活を送りながら、自宅の草をむいたり、野菜を作ったり、自宅の管理を続けたりしながら、故郷を愛する思いや困難に負けず前向きに生きていこうとする祖父の姿勢を感じ取ることができる。

震災後の厳しい環境の中で、家族は勿論、人々が互いに助け合って生活していたこと、どんな時でも互いに支え合い、互いに感謝し、目標に向けて行動に表すことの大切さを改めて考えさせる資料である。

4 本時
(1) 本時のねらい
家族との関わりの変容を通して進路について悩む主人公の心情を、自らの生き方と重ね合わせることににより、困難な状況にある時に、人は支え合い、互いに励まし合うことで、家族の信頼関係や感謝する気持ち、深い絆を大切にしようとする態度を育てる。

(2) 参観視点
○道徳的価値を問う発問について、じっくり考えさせる時間を確保するため、書く活動を精選したこと、これは、授業全体の構成として有効であったか。
○自らの考えを持ちながら、交流する活動を設定したことは、家族への感謝や思いやりの気持ちを育てる上で有効であったか。

5 指導過程

過程	学習活動	時間 形態	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ◇評価
導入	1 資料を見て授業への関心を高める。 ＞震災時の生活で困った時の様子を知る。	5 一斉	○震災時に生活で困ったことは分かりますか。 ○資料の中で、主人公はどのような気持ちでいるか。	○資料を見せる事で興味関心を高め、本時のねらいと学習の方向性を捉えさせる。 ○教師の範読をし、しっかり聞かせる。
展開Ⅰ	2 資料を読み、主人公の思いについて、自己の考えを持つ。 (1) ガソリンを購入する祖父の姿を見た時の主人公の気持ちを考える。 ＞震災時の生活の中で、人々が助け合う姿を思い浮かべよう。 (2) 祖父母宅の草むしりや墓掃除を通して主人公の気持ちを考える。 ＞故郷を愛する祖父母の思いを考えると。 (3) 祖父が癌の手術を受けた時の主人公の気持ちを考えた。 ＞関わり合いが煩わしく思った事を反省し、祖父と握手を交わす気持ちを考える。	20 一斉	○主人公が「普通の梅干し入りのおにぎりが、最高においしいと感じた」のはなぜだと思うか。 【予想される発言】 ・祖父母のために一生懸命働いたため ・祖父の複雑な気持ちを知らなかったため ○主人公が「大学生になった姿を祖父に見せたいと強く思った」のはなぜだと思うか。 【予想される発言】 ・祖父が癌の手術を受けたため ・祖父の頑張っている姿を見たいため	○ガソリンを購入する出来事を通して、主人公の祖父はどのような人柄だと思うか。 【予想される発言】 ・他人のために一生懸命な優しい人柄 ・我慢強い人柄 ○主人公が「普通の梅干し入りのおにぎりが、最高においしいと感じた」のはなぜだと思うか。 【予想される発言】 ・祖父母のために一生懸命働いたため ・祖父の複雑な気持ちを知らなかったため ○これまでの祖父母との交流を通して、主人公の心の変容を捉え、祖父母との絆が深められたことを気づかせる。
展開Ⅱ	3 生活の中の家族の大切さについて考える。 (1) 個人の意見を持つ。 (2) グループで交流する。 (3) 学級全体で交流する。 家族に対して反省することや感謝することを振り返る	20 個人 班 一斉	◎主人公が試験に向かう際に思った「がんばっぺな」には、どのような思いが込められていると思うか。 【予想される発言】 ・「僕も負けないぞ」という思い ・「家族」の優しさや有難さ	○子の視点だけでなく、家族それぞれの立場で多面的・多角的に捉えさせる。 ◇展開Ⅰを踏まえ考え主体的な姿勢で取り組めたか。
終末	4 本時の感想をまとめ、振り返る。	5 一斉	○本時の授業を通して、今の自分の生活にどう活かしていきたいか書いてみよう。	○自身を振り返らせ、家族の深い絆を大切にしようとする心に気づかせたい。

【学習指導案 地理 A】

地歴・公民科 (地理 A) 学習指導案 埼玉工業高等学校 機械科 1 年 1 組 平成 28 年 12 月 8 日 (木) 第 5 時限 場所：1 年 1 組教室 指導者：佐川博文	
単元名 (教材名)	第 2 章 日本の自然と防災 ③地震被害と防災
学習指導 要領上の 位置づけ	我が国の自然環境の特色と自然災害との関わりについて理解させると共に、国内に見られる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。
単元 (題材) の目標	・地震による自然災害の発生メカニズムを理解する。 ・災害時の情報伝達の困難さと、その際の対応方法について考察する。
取り上げる 言語活動	・付箋を活用し、自分の意見をまとめ提示する。 ・グループ単位で考えをまとめ、発表する。
単元 (題材) 設定の理由	・災害の学習を通して、被災した際の情報の取り扱いについて、道徳的な観点も加え学ばせる。 ・別紙資料「チェーンメール」(ふくしま道徳教育資料集第 1 集より)を読み、以下の点について考える。 ① このメールは、どのようなものだと思えるか？ (メールについての判断) ② もし自分にメールが来たら、どうするか？ (自分なりの対処方法) ・震災時の情報伝達の困難さを理解すると共に、他人への思いやりの心も学ばせる。

○本時のねらい
地震と、それによって起きる震災が、自分たちにどのような被害をもたらすか。

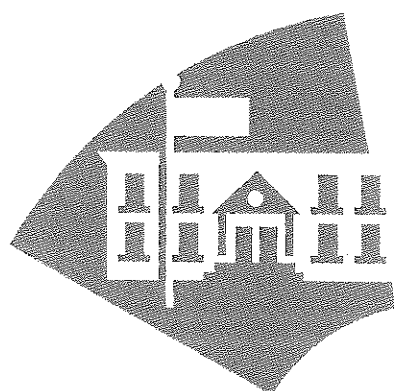
○授業における工夫
情報伝達が困難な中、どのような行動をすべきか、考えさせる内容を取り入れる。

○指導過程

	学習活動	時間 形態	主な発問 ・予想される生徒の反応	○指導上の留意点 △評価
導入	1 前時の確認	5分 一斉		○前時の内容を確認し、本時の方向性を確認
展開 1	2. 地震の種類と被害について、ノートにまとめる。	10分 一斉	・自分たちの経験した地震がどのようなに発生したのか？	○基礎的な地震のメカニズムとその被害について、簡潔にまとめる。
展開 2	3. 物理的な被害とともに、災害の際の情報伝達の難しさについて、各自の考えを話し合う。	25分	◎災害の際に広まったチェーンメール。これをあなたはどのように思うだろうか。	○別紙資料を読み、各自の考えを付箋に書かせ、用紙に貼り付けさせる。
	(1) 個人で考える (2) 意見を出し合う (3) グループの意見をまとめる 言語活動	各自 各班	【予想される意見】 ・メールはデマを広げる ・メールは誰かを助ける ・情報は正しいのか？ ・とっさに判断できない	○付箋に書く内容について、複数の観点から考えるように指示。
	4. グループごとに意見をまとめ、発表する。 言語活動	一斉	【まとめの意見】 ・メールは伝えるべき ・メールはどこかで止めるべき ・内容による	○グループごとに付箋を用紙に貼ってまとめ、グループの意見をまとめて発表できるか。 ○チェーンメールを伝えることも、止めることも、どちらでも誰かを思いやりの行動であることを意識できるか。
まとめ	5. まとめ	10分 一斉	○地震と災害の関係 ・震災時の行動に、自分と他人への思いやりがある	○非常時と平常時との違いを確認

資料
教科書、教科書準拠ノート、ふくしま道徳教育資料集・別紙資料(プリント)

【会津地区】会津若松市立湊中学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学校名	会津若松市立湊中学校
所在地	会津若松市湊町大字共和字上馬渡266番地の1
校長名	原 孝行
学級及び生徒数	普通学級 3 特別支援学級 1 生徒数 43
学校の教育目標	「生きる力を身につけ、個性を生かして社会を創る湊中生」 ○自ら判断し、思いやりをもって行動する生徒 ○自ら考え、すすんで学習に励む生徒 ○自らを鍛え、心身ともに健康な生徒
道徳教育にかかる取組の概要	道徳教育の推進にあたっては、豊かな人間性や社会性を育成するため、学校教育全体を通して次の点に重点をおいて道徳教育を実践する。 ○道徳ノートの活用 ○赤ちゃん先生 ○道徳通信の発行 ○道徳の時間の授業参観（保護者会等） ○授業公開及び実践発表 ○「小さな親切」を促す生徒会活動の実施 ○「モラル・エッセイ」コンテストへの応募

2 研究テーマ

ふるさとを愛し、たくましい心を育てる道徳の時間の研究
～学び合いを取り入れた道徳の授業づくりと道徳教育の工夫改善を通して～

3 テーマ設定の理由

(1) 今日的課題から

現代社会は情報科学技術が著しく進歩し、物質的に豊かで便利な生活になった反面、人々が社会生活を営む上で大切な規範意識が低下したり、人間関係が希薄化したりする傾向が見られる。子どもたちを取り巻く環境も、いじめ問題や痛ましい事件・事故が多発し、犯罪の低年齢化も問題視されている。これらの背景には、モラルの低下や子どもたちの生活体験の不足、家庭や地域の教育力の低下といったことも要因として挙げられている。このような現状の中、子どもたちがこれらの課題に適切に対応しながら、心豊かにたくましく生きていくためには学校における道徳教育の充実が欠かせない。

(2) 道徳教育の抜本的改善・充実の具体的なポイントから

今回の学習指導要領の改訂にあたり、平成27年3月に道徳教育の抜本的改善・充実の具体的なポイントが報告された。そこには次の4つがあげられている。

- 道徳科に検定教科書を導入
- いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
- 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握

道徳教育推進校として研究を進めていくにあたり、特に3つ目の「問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫」に注目し、「考え、議論する」道徳科への転換を目指していきたい。

(3) 生徒の実態から

本校は、会津若松市周辺の農村部に位置し、兼業農家が多い地区である。過疎化や少子化の影響で年々子

どもの数が減ってきており、全校生徒43名の小規模校である。生徒は明るく素直で、何事にもまじめに取り組んでいる。言われたことは最後までしっかりとやり遂げようとするが、自分の意思で主体的に活動することは苦手な生徒が多い。また、幼・小・中と同じクラスで生活しているため、人間関係が固定化し、自分を表現することが苦手な生徒もいる。本校では小規模校である特性を生かし、地域と密接にかかわり合いながら「チーム湊」を合言葉に日々教育活動を行っている。生徒たちはふるさとを大切にしたいという思いを持ち、地域のクリーン活動や行事などに意欲的に参加している。しかし、自分から進んで地域のために役に立つことを考えたり、自分から主体的に活動したりするまでには至っていない。

以上のことから、「ふるさとを愛し、たくましい心を育てる道德の時間の研究～学び合いを取り入れた道德の授業づくりと道德教育の工夫改善を通して～」をテーマに設定し、研究を進めていく。

4 研究計画

月	主 な 実 践 内 容
4月18日(月)	○生徒の実態調査及び分析
4月28日(木)	○第1回道徳教育推進委員会(研究テーマ、研究計画の検討)
5月16日(月)	○第2回道徳教育推進委員会(研究方法の検討)
5月20日(金)	○全校道德の実施(校長)
6月7日(火)	○第3回道徳教育推進委員会(検証授業の実施について)
6月13日(月)	○第4回道徳教育推進委員会(資料分析について)
6月13日(月)	○道德通信第1号発行
6月30日(木)	○第5回道徳教育推進委員会(検証授業Ⅰの検討会)
7月4日(月)	○命の授業①(赤ちゃん先生1回目)
7月6日(水)	○校内道德教育研修会①(外部講師による講話)
7月8日(金)	○第6回道徳教育推進委員会(検証授業Ⅰの資料分析)
7月13日(水)	○検証授業Ⅰの実施と事後研究会(全学年で保護者への授業公開)
7月20日(水)	○道德通信第2号発行
8月19日(金)	○研修会への参加
8月25日(木)	○校内道德教育研修会②(外部講師による道德授業)
8月25日(木)	○検証授業Ⅱに向けての検討会
8月	○「小さな親切」を促す生徒会活動、「モラル・エッセイ」コンテストへの応募
9月3日(土)	○敬老会への参加
9月9日(金)	○道德通信第3号発行
9月14日(水)	○検証授業Ⅱ(道德教育地区別推進協議会)の実施と事後研究会
9月28日(水)	○命の授業②(赤ちゃん先生2回目)
9月30日(金)	○道德通信第4号発行
10月17日(月)	○研修会(中教研二次研)への参加
11月24日(木)	○検証授業Ⅲに向けての検討会
12月2日(金)	○生徒の実態調査及び分析
12月7日(水)	○検証授業Ⅲの実施と事後研究会
1月	○研究のまとめ

5 児童生徒の実態及び地域の課題

(1) 生徒の実態

本校は、全校生徒43名の小規模校である。生徒は明るく素直で、身だしなみやあいさつ、言葉遣いなど基本的な生活習慣がしっかり身に付いている。何事にもまじめに取り組み、言われたことは最後までしっかりとやり遂げようとするが、自分の意思で主体的に活動することは苦手な生徒が多い。また、幼・小・中と同じクラスで生活しているため、人間関係が固定化し、自分を表現することが苦手な生徒もいる。

(2) 地域の課題

会津若松市周辺の農村部に位置し、兼業農家が多い地区である。過疎化や少子化の影響で年々子どもの数が減ってきている。そのため、保護者も地域の方々も子どもたちを大切にしており、学校教育に対して協力的である。その反面、家庭環境により家庭での教育力が低下しているのが現状である。また、インターネットが普及した現在では都市部と同様にさまざまな情報を得ることができる。そのため、家庭での会話も少なくなり、しつこく弱くなりつつある。その結果、情報に対する判断力が十分に育っておらず、これまでもSNSでのトラブル等が見られた。これらのことから家庭や地域と連携しながら、道德教育を推進していく必要がある。

6 道德教育における校長の指導方針

学校経営・運営ビジョン（資料1）をもとに、校長が示した指導方針は次のとおりである。

- 道德教育推進教師が中心となり、全教員が同じベクトルで道德教育を推進する。
- 全校生徒が一丸となった取組を通して、教師と生徒、生徒相互の人間関係を一層深め、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら、豊かな体験の場の確保に努める。
- 自己の目標実現に向けて、規則正しく生活し、粘り強く努力する生徒の育成を目指し、1－(2)克己と強い意志、1－(3)自律、4－(7)集団生活の充実、4－(8)郷土を愛する態度の指導に重点をおく。
- 書く活動を重視した言語活動の指導や、問題解決的な学習を重視した指導など、効果的な指導の在り方について研修を実施する。
- ふくしま道德教育資料集を計画的に活用する。
- 外部講師を積極的に活用し、体験的な活動を重視する。
- 保護者（地域）に道德の授業を公開したり、道德に関する内容を発信したりし、本校の道德教育に対する理解を得る。（資料5-1）
- 外部行事・各種コンクール等へ積極的に参加し、「認める」機会の確保に努め、自己有用感の感得に努める。
- 「特別の教科 道德」及び道德教育の成果として行動面に表れたものの評価方法や評価場面について、全教員の共通理解を図る。
- 常に道德教育全体計画の改善・実施に努める。

この校長の指導方針を受けて、以下の取組を意図的・計画的に進める。

1 校内研修の充実

- (1) 道德教育推進教師を中心とした校内研修
- (2) 外部講師による校内研修会の開催

2 道德の時間の充実

- (1) 学び合いを重視した道德の授業づくり
- (2) 道德ノートの効果的な活用

3 道德教育の工夫改善

- (1) 「生命の尊さ」に焦点をあてた「赤ちゃん先生」の実施
- (2) 授業参観や道德通信、学校便り等を通じた家庭や地域との連携
- (3) その他の活動

7 平成28年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

教育目標を達成するために、生徒の実態と地域の実態を考慮しながら道徳教育の重点目標を設けた。その中から、さらに、各学年の発達の段階に応じて重点内容項目を設定した。また、学校教育全体を通して道徳教育の推進を図るために、道徳と各教科、他領域との関連、あいづっこ宣言との関連、家庭や地域との連携を示した。

8 平成28年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について（資料3）

道徳と各教科、特別活動、総合的な学習の時間などとの関連、あいづっこ宣言との関連、伝統・郷土愛との関連を示しながら、学年ごとに作成した。

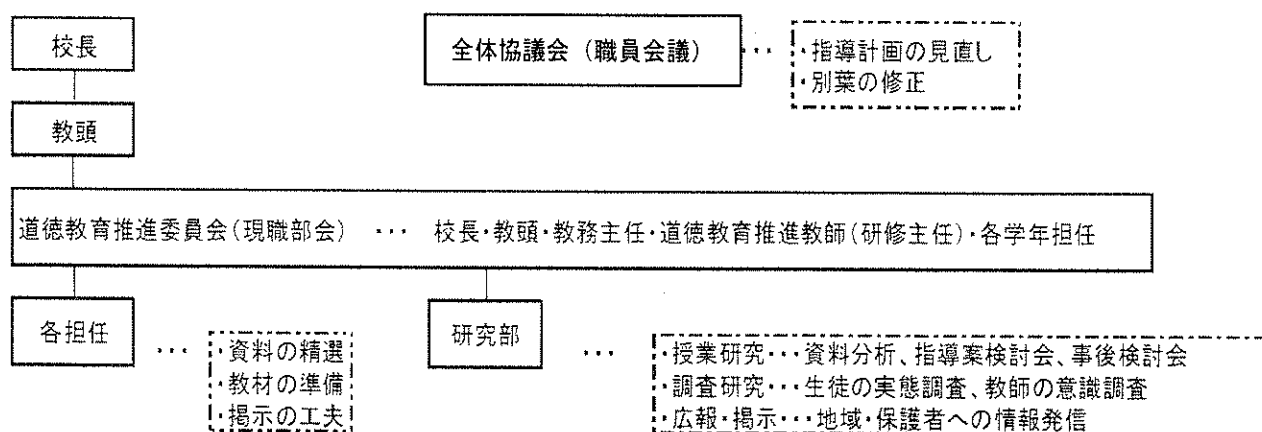
9 平成28年度 学級における指導計画について（資料4）

生徒の実態から学年重点目標を設定し、学級における道徳教育の基本方針を明らかにした。各学期ごとに反省と評価を行い、次の学期に生かせるようにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳教育推進教師を中心とした校内研修

本校では、校長、教頭、教務主任、道徳教育推進教師（研修主任）を中心とした道徳教育推進委員会を組織し、各学年担任3名とともに、月1～2回程度開いている。各担任は、資料の精選や教材の準備、教室掲示の工夫などを主に行っている。研究部では、道徳意識調査の作成・分析、研究の方向性や方法、指導案の検討等を行っている。



(2) 外部講師による校内道徳授業研修会

7月から8月にかけて福島大学人間発達文化学類の松下行則教授をお招きして、校内道徳授業研修会を開催した。

○ 第1回 校内道徳授業研修会（7月6日実施）

- ・提案授業…1学年「山に来る資格はない」1-（1）望ましい生活習慣
- ・講話…「新しい道徳科授業を創る～みんなで価値を見付ける授業へ～」講師 松下行則教授

○ 第2回 校内道徳授業研究会（8月25日実施）

- ・模擬授業…1学年「九番バッター」1-（2）強い意志 授業者 松下行則教授
- ・事後検討会…「誰でもできる」アクティブ・ラーニングとしての道徳授業の具体的な作り方

(3) 道徳通信の発行（資料5-2）

保護者に向けて月1回程度、道徳通信を発行している。道徳の授業の様子や道徳教育にかかわる体験活動、

教員の校内研修などを紹介し、どのような取組をしているのかがわかるように発信している。

11 道徳の時間について

＜研究授業、授業公開の実施＞

実施日	学年・題材名	内容項目	資料
7月6日(水)	1年「山に行く資格はない」	1－(1) 望ましい生活習慣	明日をひらく(東京書籍)
7月13日(水)	1年「メールでねむれない子どもたち」	1－(1) 望ましい生活習慣	明日をひらく(東京書籍)
	2年「メールって…？友達って？」	2－(3) 友情・信頼	明日をひらく(東京書籍)
	3年「二通の手紙」	4－(1) 法やきまりを守る	明日をひらく(東京書籍)
8月25日(木)	1年「九番バッター」	1－(2) 強い意志	明日をひらく(東京書籍)
9月14日(水)	1年「全校一をめざして」	4－(4) 役割と責任の自覚	明日をひらく(東京書籍)
	2年「それでも僕は桃を買う」(資料6)	4－(3) 公正公平	ふくしま道徳教育資料集
12月7日(水)	1年「When in Rome, do as the Romans do.」(資料7)	1－(2) 希望と勇気 克己と強い意志	ふくしま道徳教育資料集

12 成果(○)と課題(●)

(1) 校内研修の充実

- 「学び合いを取り入れた道徳の授業づくり」に向けた指導方法の工夫改善・開発をめざし、道徳教育推進委員会や校内道徳教育研修会を積極的に行ってきた。その結果、教師自身の道徳に対する意識が変わり、計画的に授業を組み立てることができるようになってきている。また、多様な指導方法について勉強する機会ができたことで、教師の技量が高まった。
- ふくしま道徳教育資料集や別葉の効果的な活用について、全教師で取り組んでいかなければならない。

(2) 道徳の時間の充実

- 「自分ならどうするか」という発問に対し、どの生徒も問題となっている道徳的場面について自分事として考えることができてきた。また、学び合いをする中で、自分の考えを深めたり、道徳的価値について再確認したりすることができてきた。
- 道徳ノートは、書く内容のある程度統一しておけばどの資料にも対応できてよい。また、一冊の中にさまざまな内容項目についての考え方が書かれているため、評価に活用できる。
- 学び合い活動においては、対話の経験が少ないと単なる意見交換会に陥りがちである。今後、話し方やメモの取り方などの指導を含め、継続的に対話力の向上に努めていかなければならない。
- 感動的な内容の資料や偉人を扱った資料を用いる時には、「自分ならどうする？」という発問では、道徳的価値の理解を深めることができない。今後は問題解決的な学習だけでなく、読み物教材を中心とした学習や道徳的行為に関する体験的な学習などにおける多様な指導方法についても研究を広げていきたい。

(3) 道徳教育の工夫改善

- 授業参観日に全学年で道徳の授業を行うとともに、道徳通信や学年便り・学校便り・ホームページで道徳教育に関する内容や体験活動での生徒の様子を知らせたことで、家庭や地域の方々に学校での取組を理解してもらうことができた。
- 外部機関の計画的な活用を図る必要がある。

平成28年度 会津若松市立湊中学校学校経営・運営ビジョン

本校の教育目標

- 【生きる力を身につけ、個性を生かして社会を創る湊中生】
- ・自ら判断し、思いやりをもって行動する生徒
 - ・自ら考え、進んで学習に励む生徒
 - ・自らを鍛え、心身ともに健康な生徒

本校の目指す生徒像

「自分を律し、自己有用感を獲得しながら不撓不屈の精神で自己実現できる生徒」

- 善悪を正しく判断し、自他の生命・立場を大切にする生徒
- 自己の目標実現に向けて、規則正しく生活し、粘り強く努力する生徒
- 学習・読書習慣が確立している生徒
- 集団の一員としての自信や誇りを獲得している生徒
- 健康生活について理解し、自己の体力向上のために自主的に運動する生徒



本校の目指す学校像

キーワード	目指す学校像	具体化のための28年度の重点事項
情熱	1 生徒の自己実現に向け、一人一人に光を当て、認める指導を粘り強く行う学校	① 少人数教育を生かした家庭的な優しさと厳しさをもち合わせた個別指導・支援の重視 ② 「褒める」から「認める」への評価観の転換 ③ 聞き方や話し方を学ばせ、コミュニケーション能力を高める指導の充実 ④ 評価機能を生かした「湊中学力向上グランドデザイン」の充実と実践 ⑤ 会津教学「教え・学びの心得」の実践 ⑥ 学習の振り返り・繰り返しを重視し、「できた、分かった」が実感できる授業の実践
責任	2 安全・健康で、豊かな人間性や集団の一員としての自信や誇りをはぐくみ、生徒の姿で語れる学校	⑦ 各種検定、外部行事・コンクール等への積極的な参加 ⑧ 道徳教育の充実とあいっこ宣言を活用した教育活動の充実 ⑨ 「朝の読書」の充実と「家読」の習慣化を図る家庭との連携 ⑩ あいっこ「携帯・スマホ等の使い方」宣言を基にした家庭と連携したメディアコントロール教育の充実 ⑪ 全校生徒・教職員が一丸となって取り組む学校行事や生徒会行事、ダンス等の実施と体験活動の充実 ⑫ いじめ防止に向け、「いじめ防止基本方針」を基にした「いじめ防止対策委員会」や「生徒会活動」などの活用 ⑬ 健康診断を活用した保健指導と食育の充実（う歯、肥満） ⑭ 「早ね、早おき、朝ごはん」を推進する家庭との連携 ⑮ 放射線について、客観的な理解を深める学習の推進 ⑯ 学級・学校だより、あいっこWEB等による情報発信
笑顔		⑰ 報告・連絡・相談・確認の徹底（学校と保護者の意思疎通） ⑱ 魅力ある授業参観や保護者会等の実施 ⑲ 地域行事への積極的な参画の促進 ⑳ 小学校と連携した教育活動の推進 ㉑ 保護者・地域・関係機関等の外部人材と連携・活用した教育活動の充実 ㉒ PTA、学校評議委員会、同窓会、警察、地域活性化協議会、民生児童委員会等の機関との連携強化
信頼	3 生徒・保護者・地域から信頼される学校	

道徳教育全体計画

資料2

道徳教育の基本方針
 ・道徳教育は、学校教育のあらゆる領域で行うとともに、生徒に直接働きかけるという日常的な活動とする。
 ・道徳の時間の指導は、全体計画に基づき重点目標を十分考慮したうえ、発達段階に応じた指導を行う。
 ・地小規模校であるため、地域や生徒の実態や保護者の願いを十分に把握し、地域性を道徳教育に生かすように配慮する。

道徳の時間における「あいづっこ宣言」との関連
 ・道徳の時間全体を通して、「あいづっこ宣言」及び学校教育目標の具現化を目指した指導を行う。

学校教育目標
 生きる力を身につけ、個性を生かして社会を創る湊中生自ら判断し、思いやりを持って行動する生徒
 自ら考え、すすんで学習に励む生徒
 自らを鍛え、心身ともに健康な生徒

道徳教育の目標
 1 心身ともに健康で、自己実現に努める生徒を育成する。
 2 主体的、自発的に責任ある行動の起こせる生徒を育成する。
 3 自他の個性を尊重し、認め合い高め合える生徒を育成する。

道徳教育重点目標
 1 生命の尊重、人間愛を育む道徳的判断力及び道徳的心情を高め行動する生徒を育てる。
 2 日常生活習慣を身に付け、ボランティア活動や勤労活動に積極的に取り組む生徒を育てる。
 3 他人に対して思いやりと尊敬の念を持ち、他人の心が理解できる生徒を育てる。

地域の実態
 会津若松市内では周辺の農村部に位置し、兼業農家が多い。山間部ではあるが、ITの発達により都市部と同様、多くの情報を得ることができ、一方、家庭での会話が少なくなり、しつても弱くなりつつある。

生徒の実態
 純朴で、何事にもまじめに取り組むが、自分の意志で主体的に活動することは苦手である。また、情報に対する判断力が十分に育っておらず、自己を見つめ、的確な判断力を身につける必要がある。

性教育との連携
 ・健全な異性観を育む
 ・人間としての倫理観を高める

各教科の道徳的目標	
国語	・書くことを通して自分を見つめる態度を育てる。 ・読むことを通して、人間の生き方を考える力を養う。
社会	・公正に判断し、適切に表現する能力や態度を育てる。 ・郷土を愛し住みよい社会の建設に貢献する意識を養う。
数学	・物事を合理的に処理する生活態度を養う。 ・論理的な思考追究をしながら、事象を考える態度を養う。
理科	・自然現象追究のなかで、探究の喜びを理解させる。 ・自然環境愛護の精神を育てる。
英語	・国際社会についての理解を深めさせる。 ・人類愛の精神を育てる。
音楽	・表現や鑑賞を通して、情操豊かな人間性と創造的な態度を養う。
美術	・創意工夫を生かし、創造的な生活態度を養う。 ・美的情操と豊かな心情を養う。
保健	・命の尊さや健康の意義を理解させ、自己管理の態度を養う。 ・公正、協力、尊敬の精神を養う。
技家	・創造の喜びを体験させる。 ・共同、責任、安全の精神を養う。

学年重点目標及び重点内容項目	
第一学年	・中学生として望ましい生活習慣を身に付けるとともに、自主自立の精神を育てる。 ・心身ともに健康な生活ができるようにする。 1－(1)、3－(2)、4－(8)
第二学年	・中堅学年としての自覚を持ち集団生活の中での役割を理解し場に応じた行動が取れるようにする。 ・勤労の尊さを理解し、社会への奉仕の気持ちを深める態度を養う。 1－(5)、2－(1)、4－(5)
第三学年	・最高学年としての自覚を深め、よい校風の樹立に努める態度を養う。 ・責任ある言動ができるようにする。 ・情報豊かな生活ができるようにする。 1－(4)、3－(2)、4－(10)

特別活動の道徳的目標	
1 学級活動	・学級集団における役割と責任を自覚し、協力しあってよりよい環境をつくる。 ・それぞれの個性や立場を尊重し、謙虚に他に学ぶ姿勢を育てる。
2 生徒会活動	・自治の精神を培う。 ・奉仕委員会の活動を通して、勤労、奉仕の喜びを味わわせる。
3 学校行事	・集団生活における規律の重要性を認識させる確かな行動ができるようにする。 ・和を尊び、団結や協力のなかから生まれるものをも自ら体験させる。

総合的な学習の時間における道徳的目標
 ○自分の課題に取り組むことで、自分の生き方を探究する。
 ○活動を通して、自己を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意義に気づき生徒自身が自分なりの価値観を育てていく。
 ○「人間としての生き方」という視点から、道徳的価値の自覚を図る。

家庭や地域との連携
 ○家庭での道徳教育を推進させるため、啓蒙活動にあたる。
 ・家庭での話し合いの促進（話題の提供）
 ・道徳の授業の参観を通して、道徳教育に対する理解を深める。
 ・学級通信やアンケートを通して情報交換する。
 ・PTA活動における講演会など。

全体計画・別業【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学校第1学年)】

資料 3-1

域等 内容項目	教科・領域	国語・英語	社会	数学・理科	音楽・美術	保健体育	技術・家庭	特別活動 総合的な学習の時間	あいづつ ご宣言	伝統 郷土愛
1 自分自身に関する こと	(1) 望ましい生活習慣、健康、 態度			数: 比例と反比例(10 月)		体ほぐし運動・集団行動通 年)		特活: 朝食の必要性(7月)	一、三	
	(2) 希望、勇気、強い意志					長距離走(9月)		特活: 中学生になっての決 意(4月)	四	○
	(3) 自主・自律、誠実、責任	国: 少年の日の思い出 (2月)	歴: 武士と民衆の生活 (1月)			球技(6~3月)	技: 材料の加工(6~8 月)			
	(4) 真理愛、理想の実現			理: 身のまわりの現象(10 月)	美: 鳥獣花木図屏風(4月)					
	(5) 向上心、個性の伸長、充 実した生き方				美: 顔をつくる(5月)	長距離走(9月)			六	
2 他人とのかわ りに関すること	(1) 礼儀					武道(10月)	技: 情報モラル(2~3月)	特活: 働く人々(11月)	二	○
	(2) 人間愛、思いやり					球技(6~3月)		総合: 福祉教室(11月)	一	
	(3) 信頼、友情							特活: 野外活動(10月)		
	(4) 男女の敬愛	国: 星の花が降るころに (8月)	歴: 天平文化…防人歌 (8月)			保健・心身の機能の発 達と心の健康(6~2月)				
	(5) 自他の尊厳、謙虚、広い 心	英: L6 オーストラリア の兄(9月)	地: 自然環境と共生する 人々(11月)	数: 資料のちらばりと代 表値(2月)				遠足(4月)	一	
3 自然や崇高なもの のかかわりに関す ること	(6) 感謝							特活: ありがたう集会(3月)	二	○
	(1) 生命尊重		地: 開発の進行とその影 響(11月)	理: 植物の世界(7月)	美: 小さな命を見つめて(7月)	保健・心身の機能の発 達と心の健康(6~2月)				
	(2) 自然愛、畏敬の念	国: 野原はうたう(4月)	地: 自然環境と共生する 人々(11月)	理: 植物の世界(7月)	音: 言葉と精神との関わり(6月) 美: 手でつくる心(1月)					
	(3) 人間の弱さの克服、人間 の気高さ、生きる喜び	国: にじの見える橋(5 月)		数: 正負の数(4月)				特活: 新年の抱負(1月)	四	
	(1) 法やきまりの遵守、権利と 義務、社会の秩序と規律			理: 身のまわりの物質(4月)		体ほぐし 集団行動(通年)	技: 加工方法(5月)		四	
4 集団や社会とのか かわりに関すること	(2) 公徳心、社会運帯、よりよ い社会の実現	国: 海米と私たちの暮らし(12月)	歴: 大化の改新…奈良時 代の人々の暮らし(8月)							
	(3) 正義、公正・公平、差別や 偏見のない社会の実現			数: 平面図形(11月) 数: 空間図形(1月)		球技(6~3月)			四	
	(4) 集団生活の向上、役割と 責任		歴: 大化の改新…奈良時 代の人々の暮らし(8月)		音: 文化祭の合唱曲(10 月)	ダンス(通年)		特活: 駅伝大会、文化祭(1 0月)		○
	(5) 勤労の尊さ、奉仕、公共 の福祉							総合: 地域クリーン活動(8 月)		○
	(6) 家族愛	国: 大人になれなかつた 弟たちに(9月)				保健・心身の機能の発 達と心の健康(6~2月)			一	
	(7) 愛校心	英: L11 思い出の一年 (2月)			音: 校歌・応援歌(4月)	ダンス(通年)		特活: 対面式(4月)生徒会 選挙(9月)		○
	(8) 郷土愛		地: 日本のさまざまな地 域(2月)	理: 大地の変化(11月)			技: 森林資源(4月)	総合: 体験学習(9月)	五	○
	(9) 日本人としての自覚、文 化の継承と創造	国: 七々に思う(10月)	歴: 各文化の分野	理: 大地の変化(11月)	音: 春の表現を味わいながら 美: 日本の色づかい(11月)			特活: 文化祭(10月)		
	(10) 国際理解、人類愛	国: 雪とくノナツプル(7月) 英: L5 学校の文化祭(9月)	地: 世界の諸地域(5月)				技: 情報の利用			

全体計画・別業【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学校第2学年)】

等 内容項目	教科・領域	国語・英語	社会	数学・理科	音楽・美術	保健体育	技術・家庭	特別活動 総合的な学習の時間	あいづ こ宣言	伝統 郷土愛
1 自分自身に関する こと	(1) 望ましい生活習慣、健康、 態度			数：確率(2月)		体ほぐし運動、集団行動(通年) 保健：健康と環境(6～7月)	家：わたしたちの衣生活 (4月)	特活：朝食の必要性(7 月) 特活：2年生になって(4 月)	一、三	
	(2) 希望、勇気、強い意志	英：Landmines and Aki Re(3月)				長距離走(9月)			四	○
	(3) 自主・自律、誠実、責任	国：りんごラジオ(12月)				球技(6～3月)	家：わたしたちの衣生活 (7月)			
	(4) 真実愛、理想の表現	国：君は最後の晩餐を 知っているか(11月)	歴：「近代革命の時代」 (2月)	理：物質の成り立ち(11月)	美：想像の世界への飛躍(10月)					
	(5) 向上心、個性の伸長、充 実した生き方			数：連立方程式(6月)		長距離走(9月)	家：わたしたちの衣生活 (5月)	特活：進路計画(2月)	六	
2 他の人とかかわり にすること	(1) 礼儀	国：言葉の力				武道(10月)			二	○
	(2) 人間愛、思いやり	国：アイスブラネット(4 月)			音：歌詞の内容や全体の響き を生かして(5月)	球技(6～3月)		総合：福祉教室(11月)	一	
	(3) 信頼、友情	国：走れメロス(2月)						特活：駅伝大会、文化祭 (10月)		
	(4) 男女の敬愛							特活：男女の理解と助け 合い(10月)		
	(5) 自他の尊重、謙虚、広い 心							特活：良い人間関係を 築くには(5月)	一	
3 自然や崇高なもの のかかわりに関すること	(6) 感謝	国：気持ちを込めて響こ う(9月)					家：わたしたちの成長と 家族(3月)		二	○
	(1) 生命尊重			理：動物の体のつくりと 働き(9月)		保健：傷害の防止(10 月～2月)	家：わたしたちの成長と 家族(1月)			
	(2) 自然愛、畏敬の念	国：秋草子(5月)	地：環境問題・環境保全 に向き合う人々(9月)	理：生物の変遷と進化 (10月)		保健：健康と環境(5～7 月)	家：消費生活と環境 (12月)			
	(3) 人間の弱さの克服、人間 の気高さ、生きる喜び		歴：「近代革命の時代」 (2月)		音：交響曲第5番「運命」(6 月)			特活：新年の希望を語ろ う(1月)	四	
	(1) 法やきまりの遵守、権利と 義務、社会の秩序と規律	国：メディアと工場に付き合っ ために(5月)	歴：近代的な国際関係 (3月)	理：電流(10月)、化学変 化と物質の質量(4月)	美：社会に広がる美術(4 月)	体ほぐし運動、集団行動(通年) 保健：健康と環境(6～7月)	家：消費生活と環境 (11月)		四	
4 集団や社会とのか かわりに関すること	(2) 公徳心、社会連帯、よりよ い社会の実現	国：立憲と権威を明確にし て響こう(1月)	歴：新政府の成立～身 分制度～(2月)	数：平行と合同(10月)		球技(6～3月)			四	
	(3) 正義、公正・公平、差別や 偏見のない社会の実現				音：文化祭の合唱曲(10 月)	ダンス(通年)	技：電力の利用(12月)	特活：駅伝大会、文化祭 (10月)		○
	(4) 集団生活の向上、役割と 責任	国：職業ガイドを作る(5 月)	歴：世界とつながる日本 と文明開化(2月)					総合：職場体験学習(9 月)		○
	(5) 勤労の尊さ、奉仕、公共 の福祉	国：福土産、字のはいは がき(9月)	歴：維新の三大改革(2 月)		音：校歌・応援歌(4月)	ダンス(通年)	家：わたしたちの成長と 家族(2月)		一	
	(6) 家族愛				美：風景に思いを込めて(5 月)	保健：健康と環境(5～7 月)	技：電気設備	特活：対面式(4月)生徒 会選挙(9月)		○
	(7) 愛校心	国：方言と共通語(2月)	歴：「近代的な国際関 係」(3月)		音：東の島かな(通年)(11月) 美：日本の風景(8月)		技：栽培(4～5月)	総合：地域クリーン活動 (8月)	五	○
	(8) 郷土愛	国：短歌を味わう(7月) 英：A Pot of Poison(10月)	歴：各文化の分野 地：各地方の分野	理：日本の気象(2月)			家：よりよい食生活 (10月)	特活：文化祭(10月)		
	(9) 日本人としての自覚、文 化の継承と創造									
	(10) 国際理解、人類愛	英：Ururu(11月)								

全体計画・別業【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学校第3学年)】

資料 3-3

内容項目	教科・領域等	国語・英語	社会	数学・理科	音楽・美術	保健体育	技術・家庭	特別活動	あいづつ こ宣言	伝統 郷土愛
1 自分自身に関すること	(1)望ましい生活習慣、健康、節度			数 標本調査(1月)		体ほくし運動・東国行廊通(年)		特活:朝食の必要性(7月)	一、三	
	(2)希望、勇気、強い意志	英: We Can Change Our World(1月)	歴: 占領下の日本(7月)			長距離走(9月)		特活: 最上級生になって(4月)	四	○
	(3)自主・自律、誠実、責任	国: 学びて時にこれを習ふ(4月)				球技(6~3月)				
	(4)真摯愛、理想の実現			理: 物体のいろいろな運動(9月)						
	(5)向上心、個性の伸長、充実した生き方	国: 光で見せる展示デザイン(6月) 英: I Have a Dream(11月)		数 三平方の定理(11月)	美: 卒業制作(1月)	長距離走(9月)		特活: 将来の生活(3月)	六	
2 他の人とかかわりに関すること	(1)礼儀								二	○
	(2)人間愛、思いやり	国: 握手(4月)	歴: 欧米の情勢と日本(5月)			球技(6~3月)		総合: 福祉教室(11月)	一	
	(3)信頼、友情							特活: 駅伝大会、文化祭(10月)		○
	(4)男女の敬愛	国: 初恋(12月)	歴: 日露戦争…与謝野晶子(4月)	理: 生物の成長と生殖(6月)				特活: 男女が協力する社会(5月)		
	(5)自他の尊重、謙虚、広い心	国: 光をまねないで(2月) 英: A Moment of Peace(3月)	歴: 欧米の情勢と日本(5月)					修学旅行(4月)	一	
	(6)感謝							特活: ありがとう集会(3月)	二	○
3 自然や崇高なものとかかわりに関すること	(1)生命尊重	国: 挨拶(9月) 英: Sadako(8月)	公: 貧困問題の現状(2月)	理: 生物の成長と生殖(6月)		保健・健康な生活と病気の予防(6~2月)				
	(2)自然愛、畏敬の念	国: 月の起源を探る(5月)	公: 地球環境問題(2月)	理: 遺伝の規則性と遺伝子(6月) 理: 遺伝の規則性と遺伝子(6月) 理: 自然と人間(2月)	美: 文化遺産を守る(12月)					
	(3)人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び	国: アラスカとの出会い(2月)	歴: アジアの民族運動～柳宗悦(7月)					特活: 新年の決意(1月)	四	
	(1)法やきまりの遵守、権利と義務、社会の秩序と規律	国: 高瀬舟(7月)	公: 日本国憲法の基本原則(9月)	数: 平方根(5月)		保健: 健康な生活と病気の予防(6~2月)	技: 計測・制御の仕組みを知らう(4月)		四	
	(2)公徳心、社会連帯、よりよい社会の実現	国: 話し合って問題をまとめよう(1月)	公: 平等権と共生社会(10月)	理: 科学技術と人間(1月)				特活: 社会の一員としての考え(11月)		
4 集団や社会とかかわりに関すること	(3)正義、公正・公平、差別や偏見のない社会の実現	国: 故郷(9月)	公: 社会集団の中で生きるわたしたち(9月)	数: 相似な図形(10月)		球技(6~3月)			四	
	(4)集団生活の向上、役割と責任		公: 社会集団の中で生きるわたしたち(9月)	理: 化学変化とイオン(4月)	音: 文化祭の合唱曲(10月)	ダンス(通年)	技: 情報技術の適切な評価と活用(2月)	特活: 駅伝大会、文化祭(10月)		○
	(5)勤労の尊さ、奉仕・公共の福祉		公: 働くことの意義と労働者の権利(12月)				技: 情報技術の制御作品の製作(9月)	総合: 地域クリーン活動(8月)		○
	(6)家族愛		公: わたしたちの消費生活(11月)						一	
	(7)愛校心				音: 校歌・応援歌(4月)	ダンス(通年)	技: デジタル作品の制作(11月)	特活: 対面式(4月)生徒会選挙(9月)		○
	(8)郷土愛		公: 日本文化の多様性(9月)	理: 月と惑星の見え方(1月)	音: 郷土の民謡や芸能(6月)			総合: 体験学習(9月)	五	○
	(9)日本人としての自尊、文化の継承と創造	国: 若得つど(10月) 英: Fukuko Goes to Overseas(6月)	公: 現代における文化の継承(9月)	理: 地球の運動と天体の動き(11月)	音: 能に親しもう(11月)			特活: 文化祭(10月)		○
	(10)国際理解、人類愛	国: エルサルバドルの少女へ(12月) 英: Finland(4月)	公: よりよい地球社会のために(2月)		美: 転がる水(4月)					

学年(学級)における指導計画 [第3学年]

会津若松市立湊中学校 担任
第3学年

道徳教育全体計画

学年における道徳教育の目標	
1	最高学年としての自覚を深め、自律の精神を重んじ、協力してよい校風を樹立するように努める。
2	より高い目標を立て、希望と勇気を持って着実にやりぬく強い意志を持つようにする。
3	温かい人間愛の精神を深めるとともに、謙虚に他に学ぶ広い心を持つようにする。
4	自然を愛し、生命に対する畏敬の念を深め、人間として強く生きることにより喜びを見出すようにする。
5	社会への奉仕の気持ちを持て、公共の福祉と差別や偏見のない社会の実現に努めるようにする。
6	日本人としての自覚を持って国を愛するとともに、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする。

学年(学級)の道徳教育重点目標

- ・最高学年としての自覚を深め、よい校風の樹立に努める態度を養う。
- ・責任ある言動ができるようになる。
- ・情操豊かな生活ができるようになる。
- 1 - (4) 真理愛、理想の実現
- 3 - (2) 人間愛、思いやり
- 4 - (10) 国際理解、人類愛

学年(学級)の生徒の実態

- ・明るく前向きで友達への気遣いができる生徒が多い。
- ・言われたことに対して素直に一生懸命に取り組むことができてくる。
- ・幼少以来の集団であるため競争意識や向上心に対して欲がない。
- ・場の雰囲気になじめない生徒が少なくなくある。

学年(学級)の道徳の時間の基本方針

- ・授業では、ねらいや道徳的価値に対する考えを深めることができる主発問を工夫する。
- ・道徳ノートを活用し、自分の考えをまとめ発表しやすくする。そして、お互いの考えを知り、道徳的価値に対する考えを深められるようにする。
- ・学校行事や総合的な学習の時間との関連を図り、体験活動や日常の場面で実践力を育むような助言をする。

反 と 評	道徳教育全体計画	
	1 学 期	2 学 期
	・毎時間、ねらいや道徳的価値に対する考えを深めるように主発問を工夫することのできた。しかし、生徒の考えを引き出せない授業もあった。 ・ノートを活用するよう心がけた。 ・学習や部活動、係活動等での生徒の活躍を、機会を捉えて賞賛することができた。	・できるだけ年間指導計画に沿うように、しかし、生徒の心の状態や行事などに合わせて授業の内容の順番を入れ替えたりした。聞いている生徒の考えを深めたいと感じる生徒が増えた。
	1 学 期	2 学 期

会津若松市立湊中学校



白はと通信

平成28年6月28日（火）
発行者 原 孝行

「ありがとう」と「〇〇のおかげだよ」

「褒められないから、がんばれた」。この言葉は、年4回発行される共済フオーラムで連載されている「先生と私」のタイトルで、内容は、漫画家の倉田真由美さんへのインタビューです。その記事の一部を紹介します。

厳しくてもN先生は、本当に人気がありました。それは、先生は簡単に褒めないけれど、生徒に対して決して無関心じゃなかったからです。先生は、「お前、前回に比べて、こんなに点数が悪いじゃないか」と、以前のテストの成績をきちんと覚えてくれていました。自分に関心をもってくれていることがすごく伝わってきて、嬉しかったですね。また、成績が悪い生徒ががんばると、「お前、今度はちょっとよくなったな」と声をかけてくれます。そういう先生の姿をみんなが見ていて理解していたから人望があったんだと思います。

本校では、本年度「自分を律し、自己有用感を獲得しながら不撓不屈の精神で自己実現できる生徒」を目指す生徒像として、自己有用感を獲得させるために「褒める」から「認める」への評価観への転換を重点事項に掲げています。自己有用感とは、誰かの役に立ちたいという成就感や誰かに必要とされているという満足感等です。自己有用感とは、他人の役に立った、他の人に喜んでくれた等、相手の存在なしには生まれません。そういう点で、「自尊感情」や「自己肯定感」等の語とは異なります。

現在いじめ認知件数は0ですが、いじめに向かわせない、主に学校で取り組むべき課題は、学力・規律、自己有用感と言われています。そこで、学校では、次のことに取り組んでいきます。

- 「分かる授業」を進めることや、間違えた答えを言っても笑われたり叱られたりしない雰囲気を作っていく。
- 授業や行事の中で、子どもが主體的に物事に取り組み、その中で互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできるようにするために、すべての子どもが活躍できるような場面を意図的に作っていく。

昨年度、PTA会報誌「あかつき」で次のような内容を書きました。

「ほめて育てる」とよく言われる。頭では理解しているが、適切な言葉が見つからず、「よく頑張ったね」とやり過ぎることが多い。この表面的な一言で、「ほめられた」、「認められた」という意識や感覚をたもてることがあまり期待できない。子どもを褒める一言にするためには、子どもが、「よく見てくれた」、「よく気づいてくれた」という意識や感覚をいかに感じさせるかにかかっている。まずは、子どもをよく見て、理解し、変化や違いに気づくことから始めたい。そして、よいところを具体的な言葉で認める努力を重ねたい。

変化や違いに気づくことの大切さは、倉田さんのインタビューからもうも 窺い知ることが出来ます。これからも学校では、変化や違いを敏感に察知し、子どもが大人に言われて1番嬉しい言葉「ありがとう」と「〇〇のおかげだよ」を意識し、よいところを具体的な言葉で認めるように努めていきます。

会津若松市立湊中学校



白はと通信

平成28年8月25日（木）
発行者 原 孝行

人間らしく生きる

新聞には、「逮捕」、「詐欺」、「ひき逃げ」等の見出しが毎日のように掲載され、人間らしい生き方ができなかつた人の記事をよく目にします。人は誰でも強さや弱さをもち合わせていることを理解しておく必要があります。その一方で、この夏はリオデジャネイロオリンピックが開催され、日本人のメダル獲得という嬉しいニュースとともに、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えてきた自己心や強い意志」が選手たちの姿やメッセージから私たちの胸に届けられ、人間らしく生きることの尊さ、素晴らしいと感じることができました。

本校では、本年度福島県教育委員会から道徳教育推進校の指定を受け、県内の道徳教育の充実実に少しでも前進できるように、4月から研究を重ねてきました。9月14日（水）には、道徳教育地区別推進協議会が本校で開催され、会津域内の小・中・高、併せて40校を超える学校から先生やPTAの方々をお迎えし、1年生と2年生の道徳授業を公開したり、本校での道徳教育への取組状況を発表したりしました。

道徳の時間は、人間らしく生きるために人間としての生き方や在り方を考え、子どもたちが互いに自分の考えや意見を述べ合う授業の時間です。学ぶ基準となる内容や授業時間は学習指導要領に示されており、授業では、その基準に従って編集された「明日をひらく」や「ふくしま道徳教育資料集」を主な資料として使用しています。大事なことは、自分や他の人の実際の姿をイメージし、子ども一人ひとりが建て前や虚栄ではなく自分のこととして真剣に考え、より人間らしく生きるために向上しようとすることです。

人間らしく生きるとは、「ゲームやスマホ等で夜遅くにならずに）望ましい生活習慣を身に付け、心や体の健康の増進をはかること」、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと」、「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な行動を取る」と、「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」など実に様々な要素が絡み合っています。

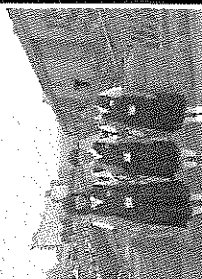
今後、道徳の時間を大事にし、学校の教育活動全体を通して、子どもたちがこれから出会う変わりゆく様々な場面や状況の中で、人間らしい判断をして、人間らしい行動を取ることができるように心の教育も充実させていきたいと思っています。

7・8月の湊中学校（あいづつこwebより抜粋）

会津ジュニア大使 北海道余市町へ

8月1日～3日の3日間、市内の各中学校代表3名の生徒が「会津ジュニア大使」に任命され、現地の中学生と交流を図ったり、会津ゆかりの史跡見学をしたり、会津の元気を発信するという目的で、平成27年度に親善友好都市を締結した北海道余市町を訪問してきました。

本校からは、3年の開根のどかさん、2年の仙波優衣さん、1年の五十嵐美咲さんの3名が参加し、「会津の湊 ここにあり」という題で、「赤井の大イチョウ」や「さきほ」、郷土料理の「豆腐もち」、本校の特色である「Rising Sun Projectのダンス」等について紹介し、立派にジュニア大使としての役割を果たしてきました。

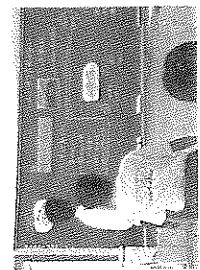


道徳通信

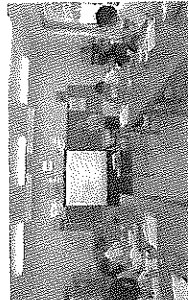
～みんなで道徳を考えよう～

会津若松市立湊中学校
道徳通信 第2号
平成28年7月20日(木)
道徳教育推進部

校内道徳授業研修会が行われました(7/6)



福島大学人間発達学類教授 松下行則先生 をお招きして校内道徳研修会を行いました。神永先生による授業「山に来る資格がない」を見ていただき、その後、授業のアドバイスを「新しい道徳科授業を創る～みんなで価値を見付けよう」という題目で講義をいただきました。松下先生は、平成31年度の「道徳科」になることを受けて、「年間3.5時間の授業を無理なくできる効果のある方法」を現場の教員に提案しようとして、日々研究に励まれています。



保護者会で道徳授業(7/13)

今回の授業参観では、お忙しい中たくさんの方々に道徳の授業を観ていただきましてありがとうございます。先日、松下先生から講話をいただいた中から、「新聞はシンブル」「アクティブラーニング(話し合い活動)」といった2つの視点から授業を考え、各学年ともに新しい授業展開にチャレンジしました。まだまだ手探りの状態ではありますが、さまざまな工夫をしながら道徳の授業に取り組んでいます。これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1学年 情報モラル資料「メールでねむれない子どもたち」(楽しい生活習慣)

- 生徒のつくった道徳カルタ(17字で学んだことを表そう)
- ルールはね 自分も相手も 守れるよ (渡部 仁くん)
 - やりすぎず スマイルも体も こころOFF (加藤 幸樹くん)
 - メールより 自分で伝える ありがとう (渡部 結貴さん)
 - ルール決め きちんと使う スマイルかな (安井 陽平くん)

2学年 情報モラル資料「メールって?友達って?」(友情)

- 本当の友達付き合いって?
- 文章ではなく、顔を合わせて付き合える友達がいいと思う。(メールばかりで話している友達は本当の友達ではないと思う。(佐藤有珠さん)
 - 言葉は大切にする。言葉は言っていることと違うことがあるから、言葉は大切だと思う。(渡部華歩さん)
 - 自分と他人、両方の意見をちゃんと受け入れること。(伊藤 花さん)

3学年 「二通の手紙」(法を守る)

- 自分だったらどうする? (最終判断)
- 子どもだけで行かせるのではなく、自分もついていってあげる。(渡部 陽くん)
 - この時は20分程度で見つかったが、もしレクガなどをしていたら、逆に最悪の事態目になってしまから入園させない。(渡部 将大くん)
 - 上司に入園させていいか聞いて、ダメだったら入園させない。(渡部 善貴くん)



道徳通信

～みんなで道徳を考えよう～

会津若松市立湊中学校
道徳通信 第4号
平成28年9月30日(金)
道徳教育推進部

道徳教育地区別推進協議会(9/14)

先日、本校におきまして道徳教育地区別推進協議会が行われました。会津地区の約40名の先生方と津波教育事務所の先生方が、1、2年生の授業を参観しました。本校のテーマは「ふるさとを愛し、たくましく心を育てる道徳教育の工夫～学び合いを取り入れた道徳の授業づくりと道徳教育の工夫改善を通して～」です。このテーマのもと、これまで数多くの実践を積み重ねてきました。これからもさまざまな指導方法を工夫しながら、道徳教育の改善に努めていきたいと思っております。



1年資料「全校一を目標して」(家庭生活の向上)のあらすじ

生徒会で決定した美化委員会の目標を受けて、全校で話し合い、賛成多数で当番制でアルミ缶回収するということになった。しかし、新人職員が短いという理由でアルミ缶回収に協力しない生徒がでてきた。中心となって活動していた女子2人が協力してくれない人たちに話して回ることにしたのだが、そこで男子2人ともめてしまう・・・。

中心疑問

「あなたなら学校の当番と部活動の両方とどちらに行きか?」

・ 朝霞も大事だけど、朝練に行く途中に荷物を昇降せは缶が落ちてくるので、2～3 日休めばいいと思う。(松本 麗蔵くん)

・ 本番日までは朝練に行っているから、当番の日くらいはいいからと学校の仕事に行こうという気がいるから。(渡部 仁くん)

道徳五・七・五

忙しくて部活、当番、がんばろう
やらなきゃと心に決めて 取り除こう
大事な事は みんなで協力 みんな笑顔

道徳五・七・五

道徳五・七・五
道徳五・七・五
道徳五・七・五

2年資料「それでも僕は様を買った」(公正・公平)のあらすじ

中国生まれ日本人の主人公は、夏休みには家族自動車のサービスエリアで福島の被災者からという理由で様を買おうとしない親子に出会う。そのことをきくにつけ、自分も差別された経験思い出す。そして、自分も知らず知らず差別をしているのではないかと気づき、差別や偏見をなくそうと心に決める、様を買ったことにした。

中心疑問

「クラスでのアンケート結果を見てどう思うか。差別や偏見のないクラス、社会にするためにはどうすればいいか?」

- ・ 自分が差別されたことはないけれど、自分が差別されているかもしれないと気づいて、たとえ苦しい人でも平等に接する。(五十嵐 謙くん)
- ・ 悪いところを見つけて、たとえ苦しい人でも平等に接する。(渡部 衣衣さん)
- ・ 一人一人が自分のしたことが差別だったのかを考え、そういう偏見を周知から先生に相談して一人一人が抱え込まないようにすることが大切だと思う。(渡部 謙くん)

道徳五・七・五

差別ダメ 相手を考え 平等に
全員と 関わり合って 差別なし
金銭・偏見、されたいやだ! 君もでしょ?

道徳五・七・五

道徳五・七・五
道徳五・七・五
道徳五・七・五

10月18日(火)の午後4時～5時の間に、FCTのゴゴてれChuで約3分間放映予定です。2年生を中心に取材が行われました。お時間があれば、ぜひご覧になってください。



第2学年 道徳学習指導案

日時：平成28年9月14日（水）第3校時 授業者： 教諭 菅家 たみ

研究主題 ふるさとを愛し、たくましい心を育てる道徳教育の研究
～学び合いを取り入れた道徳の授業づくりと道徳教育の工夫改善を通して～

- 1 主題名 4－（3）公正公平 差別の克服
- 2 教材名 「それでも僕は桃を買う」（ふくしま道徳教育資料集第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ）
- 3 主題設定の理由

（1）価値観

中学生はさまざまな集団の中で生活し、よりよく生きたいという願いを持っている。さらに、所属する集団が思いやりや愛情に満ち、差別や偏見のない自己実現が可能なものであって欲しいと漠然とはあるが考えている。よりよい社会にするためには正義を重んじ他人や自分の不正や不公平を許さない姿勢が大切だと気づいているが、自己中心的な考えや行動をとってしまったり、差別的言動が目前で起こっていても勇気をもって行動できなかったりする生徒は少なくない。また、自己中心的な言動や差別的行動の裏には無知や恐れが原因になっていることもある。自分と集団との関わりを考え、正義がとおり、公平で公正な明るい社会の実現に積極的に努めるように指導する必要がある。

（2）生徒観

本学級は16名（男子5名、女子11名）であり、明るく素直な集団である。少人数であり保育園からほぼ同じメンバーで過ごしてきたため人間関係が固定化しており、意見を表現しなくても生活できるところがある。4月に行われたアンケートでは「誰に対しても公平に接し、差別をしていない」と答えた生徒は58.8%だったが、客観的に見ると自分に対して甘い判断をしている生徒が多い。互いの性格や家庭環境まで熟知しており、人間関係が固定化した集団であるため、他の意見に流されたり発表に二の足を踏む生徒もおり、差別や偏見のない集団になりきれない一面を持っている。

（3）教材観

本資料は、2013年全国人権作文コンテストで内閣総理大臣賞となった宮城県の中学3年生の作文である。中国生まれで日本育ちの筆者は、福島産という理由で桃を買おうとしなかった親子に出会う。そのことをきっかけに自分も仲のよい友人から差別された過去の経験を思い出し、差別や偏見は無知や無知からくる恐怖が原因なのではないかと考える。差別や偏見のない公正公平な社会を実現するために自分ができるところを考えさせるのによい資料である。

（4）指導観

事前に差別や偏見に関するアンケートを実施し、学級の現状を把握するとともに、本時のねらいにせまるための意識を高めたい。また、風評被害の知識も確認する。

資料にある風評被害の話は、福島県では身近な偏見・差別であり、何度も耳にしたことのある話題であるが、震災当時は小学校低学年だった生徒達にとっては関心の薄いものと考えられる。しかし、その偏見に対しては憤りや疑問を感じている生徒もいると思われる。資料の読み込みは朝の読書の時間を活用する。展開では、筆者のように自分自身も桃を買うかどうかを考えさせ、さらには、学校生活の中の身近なところにも差別や偏見が存在し、自分も関わっているかもしれないことに気付かせたい。よりよい社会の実現には自他の不正や不公平を許さず、偏見を克服しようとする態度が大切であり、そのために自分は何ができるかを考えさせる。

4 本時のねらい

福島県の桃に関わる体験から差別のない世界の実現を訴える主人公の心情を基に、自分自身の考えを深め、身近な差別や偏見に気づき、公正で公平な社会を作り上げていこうとする心情を育てる。

5 指導過程

段階	学習活動・内容 ◎中心発問 ◎補助発問	時間 形態	○指導上の留意点 ◆評価
導入	1 本時の方向性を知る。 資料の内容を確認し、筆者の気持ちを考える。	5 一斉	○ 道徳はみんなで考えることが大切だと語り、学び合う姿勢を作る。資料の内容を確認させる。 ○ 風評被害について補足説明をする。
展開	2 価値の追求をする。 ○ 主人公は中国人だと差別された自分と桃を重ね、桃を買う決心をするが、この場面であなただったらどうするか。 (1) 自分なら桃を買うかどうか考える。 ア 買う。 イ 買わない。 (2) それはなぜか考え、ノートにメモして友人の発表を聞く。 3 価値に対する考えを深める。 ◎ クラスでのアンケート結果を見て ① どう思うか。 ② 差別や偏見がないクラス、社会にするためにどうすればいいか考える。 (1) 自分の考えをノートにまとめる。 (2) 学び合いで考えを深める。 (3) 自分の考えをまとめ、友人の発表を聞く。	5 個別 5 個別 一斉 5 個別 15 ペア 5 グループ 5 個別	○ 資料の読み込みは朝の読書で行い、学び合いの時間を確保する。 ○ 資料の出来事は、放射線に関する知識が不足していた時期であることを確認する。 ○ 机間巡視し、書けない生徒を支援する。まわりの生徒に自分の意見を伝えられる程度のメモでよいことを加える。 ◆ 主人公の心情を理解し、差別や偏見について自分自身の考えを深めることができたか。 ○ 事前アンケート結果を提示し、クラスにも差別を感じている生徒がいることを意識させる。 ○ 身近な差別や偏見に気付いた生徒の意見を意識的に取り上げ、紹介する。 ○ できるだけ多くの友人から意見を聞き、気になったり参考になったことを簡単にメモするように指示する。 ○ 友人から聞いた意見を振り返り、最終的な自分の考えをノートにまとめる。
終末	4 価値についての整理とまとめをする。 今日の学び合いを振り返り、どんなことが大切だったか17字でまとめ、短冊に書く。	10 一斉	○ 短冊が書けた生徒から前に掲示させる。その際、他の生徒の短冊を読んで考えを共有させる。 ◆ 身近な差別や偏見に気付き、公平な社会の実現のために自分にできることを考えることができたか。

成果と課題

- 自分自身が偏見を持ち、身近な人を差別しているかもしれないと気づいた生徒がおり、生徒同士の話し合いの中でその意見が浸透していったのは、話し合い活動の大きな成果だった。
- 資料を朝の読書の時間に読み、道徳の時間にさらに振り返ることで資料の内容を深く考えることができた。
- 五・七・五で考えをまとめることに慣れ、自分の気持ちを飾ることなく素直に表そうとする姿勢が育成された。また、短いので全員の作品を短時間で発表したり読んだりすることができ、生徒には好評だった。
- 風評被害について説明したため、情報量が多くなってしまった。
- 無知や恐れなどが差別や偏見の原因になっているところまで深めることができず、そのために自分に何ができるかまで考えさせることができなかった。
- 話し合いの途中で生徒の考えを発表させる場がないので、どのような意見交換をしているのか全体を把握することが難しい。

第1学年 道德学習指導案

日時：平成28年12月7日(水) 第3校時 授業者：神永友輔

研究主題	ふるさとを愛し、たくましい心を育てる道德教育の研究 ～学び合いを取り入れた道德の授業づくりと道德教育の工夫改善を通して～
------	---

1 主題名 1-(2)希望と勇気 克己と強い意志

2 教材名 「When in Rome, do as the Romans do.」

(「ふくしま道德教育資料集」第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ)

3 主題設定の理由

(1) 価値観

人間としてよりよく生きるためには、目標や希望を持つことが大切である。しかし、予期せぬ障害や困難に直面すると簡単に挫折し目標をあきらめてしまうこともあり、思い通りにいかない現実悩み苦しむこともある。広い視野に立ってものごとを正しく判断し、目標を実現するためにはどうすればよいのかを検討しながら、希望と勇気をもって実行するとともに、困難に屈せず最後までやり抜く強い意志と態度を育てていく。

(2) 生徒観

男子8名、女子4名の12名の単学級である。素直で明るい生徒がほとんどである。幼少時から親や先生の言うことを素直に聞いて行動してきたため、困難な状況に直面したり、それを乗り越えていくといった経験をしている生徒はそれほど多くはないと思われる。そのため、ちょっとした困難に出会うと自力で解決することが難しく、周りの助けを必要とする生徒が多い。また、親や先生に反対されてもあきらめないというほどの強い意志を持つ生徒は少なく、「どうしてもこれをやりたい」という明確な目標をもって努力している生徒は数える程度である。

(3) 教材観

日本語教師になりたいという夢を持って来日した主人公が、震災後、夢をあきらめて自国へ戻るかどうか悩み、葛藤する資料である。自分の夢に立ちほだかる困難に出合うことは、生徒たちの将来にもありうることである。本資料にある葛藤場面は、生徒たちにさまざまな判断を迫ることになるであろう。思い悩む主人公の姿に共感しながら、自分を支えているものや自分の夢を実現させるために強い意志を持つことの大切さについて深く考えさせていきたい。

(4) 指導観

決断を迫られたとき、悩みながらも自分で決定する強さが欲しい。そのため、主人公の姿に共感しつつも、まずは「自分ならどうするか」を考えさせたい。また、ペアトーク・グループトークを取り入れ、自分と同じ考えや違う考えに触れることによって考えを深めさせていきたい。最後は、役割演技を通して自分の出した答えを母親役に伝えることで、どんな結論でも自分で決めたことであったり、希望を持てる答えであったりするならば、きっと後悔はないということを感じさせることができればと考える。

4 本時のねらい

夢や希望を持ち、勇気をもってやり抜く強い意志を持とうとする態度を育てる。

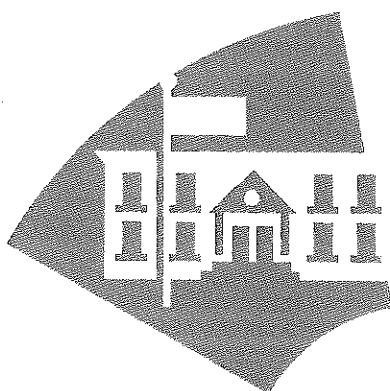
5 指導過程

段階	学習活動・内容 ◎中心発問	時間 形態	○指導上の留意点 ◆評価
導入	1 資料「When in Rome, do as the Romans do.」のあらすじを確認する。	5 一斉	○ 朝の読書の時間に資料を読ませておき、簡単なあらすじの確認だけにする。 ○ 震災後の混乱した様子がわかる新聞記事などを提示する。
展開	2 資料について考える。 ◎ あなたなら帰国するか、日本に残るか。 (1) 自分ならどうするかを考える。 ア 帰国する イ 日本に残る ウ その他 (2) それはなぜか。 (3) 学び合い活動をする。 (4) 最終的に自分だったらどうするかをまとめ、役割演技を通して母親役に伝えることで発表する。	5 個別 20 ペア・ グループ 10 個別 一斉	○ 自分ならどうするかを考え、理由と合わせて道徳ノートに記入することを指示する。 ○ 「ウ その他」の場合には、具体的にどのような行動をとるかを書かせる。 ◆ 自分ならどうするかを考え、その理由をノートにまとめることができたか。 ○ ノートを書き終わった生徒から、友達の考えや理由を聞き、5人以上聞き合うように指示する。 ○ 友達の考えや理由で気になったことを、ノートにメモを取るように指示する。 ○ メモ等を振り返りながら、最終的な自分の考えを、理由を含めてまとめさせる。 ○ 母親役とALT役を指名し、自分の考えを発表させる。
終末	3 今日の学習を振り返り、「5・7・5」の17字で考えたことや感じたことをまとめる。	10 個別 一斉	○ 短冊に書き、数名に発表させる。 ◆ 夢や希望に向かってやり抜く強い意志を持つことの大切さを考えることができたか。

成果と課題

- 「自分ならどうするか」を問うことによって、生徒が建前の意見ではなく、本音で話し合い活動を行うことができた。また、道徳的価値についても他人事ではなく、自分の事として捉え、考えることができた。
- 友達と意見を交換しながら、自分たちで考えを深めていくことができた。
- 資料を読んだ際に、どこに共感したかによって生徒の価値に対する考え方がさまざまになってしまう。
- 話し合いができるようになるまで、訓練が必要である。

【南会津地区】南会津町立桧沢小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	南会津町立桧沢小学校
所 在 地	福島県南会津郡南会津町福米沢字宮ノ前1380番地
校 長 名	星 俊夫
学校の教育目標	地域を愛し、夢と希望を持ってたくましく生きる子供の育成 (めざす児童像) ひとと協力する子 さいごまでがんばる子 わかろうと真剣に学ぶ子
学級及び児童生徒数	普通学級4 特別支援学級1 児童数 46名
道徳教育にかかる 取組の概要	1 教職員の道徳教育に対する意識を高め、道徳の時間を要として学校教育全体を通して道徳教育を推進しながら、めざす児童像の具現化を図る。 2 児童や保護者、教師のアンケートで評価の低かった項目を重点指導事項に掲げて授業実践を行う。 3 道徳の取り組みを地域や保護者に紹介するとともに、地域素材や人材の活用を図りながら道徳の授業の充実を図る。

2 研究テーマ

個性を認め、他者を尊重しながらよりよく生きる児童の育成
— 道徳の授業を中心とした豊かな関わり合いを通して —

3 テーマ設定の理由

(1) 学習指導要領から

平成30年度から全面実施となる「特別の教科 道徳」の小学校学習指導要領解説には「時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を意識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要」、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の課題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと変換を図るものである」とある。また、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むといった言語活動の充実も示され、豊かな言語活動による児童の主体的な学び、児童相互の学びを求めている。自分の考えを伝え合うことがさらに大切になっている。

また、「改訂の基本方針」として「道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要」として、道徳の授業の在り方の改善を求めている。「生きる力」である「豊かな心」を育むためには、一方的な教師による道徳的価値の押しつけではなく、道徳の時間を要とした、学校の教育活動全体に行き渡った豊かな関わりの中で、児童が自己を振り返り、生き方を考えながら、道徳の価値観を高め、道徳的实践力を高めていくことが大切だと考えられる。

児童の「豊かな心」を育むために、「道徳を中心とした、豊かな関わり合い」が重要である。

(2) 本校の教育目標から

梶沢小学校の教育目標は「地域を愛し、夢と希望を持って、たくましく生きる子供の育成」である。重点目標には、「礼儀正しくまっすぐな心を育てる」とあり、「よさを認め合い、支え合う学校・学級づくり」を目指している。「礼儀正しくまっすぐな心を育てる」ためには、児童が自他のよさである互いの個性に気付き、かけがえのない価値あるものであると認め合うことが大切であると考えられる。また、本校の道德教育の中学年、高学年の重点目標は「個性伸長」でもある。

以上のことから研究テーマを設け、研究を進めることにした。

4 研究計画

月	日	曜	主 な 研 究 内 容	備 考
4	22	金	○全体研修会① ・ 道德の学習指導要領の共通理解	授業参観
5	27	金	○推進委員会 ・ 研究テーマの方向性を確認する。 ○全体研修会② ・ 研究計画・研究内容の確認、検討を行う。 ・ 児童の実態把握のためのアンケートについての説明、協議と共通理解	お花見弁当 図書ボランティア 愛校活動 運動会
	30	月	○保護者、児童、教員アンケート配付	
6	6	月	○第1回現職教育全体協議会 ・ アンケートをもとに、研究テーマの決定	よい歯の教室
	7	火	○全体研修会③ ・ 前年度推進校の伝達講習	体験学習
	13	月	○第2回現職教育全体協議会 ・ 研究方法、方策の検討	修学旅行
	20	月	○全体研修会④ ・ 先進校の伝達講習会	自由参観
	24	金	○下学年ブロック協議会 ・ 第1学年事前検討会 ○第3回現職教育全体協議会 ・ 第1学年指導案検討	給食試食会 食育講演会
7	4	月	○推進委員・下学年ブロック協議会 ・ 第1学年指導案検討	授業参観
	11	月	○第1回要請訪問 ・ 第1学年授業研究会及び事後研究会 (南会津教育委員会学校教育課指導主事 稲本 泰彦先生)	救命救急講習会
8	10	水	○推進委員・上学年ブロック協議会 ・ 第5・6学年指導案事前検討	「町を知ろう」研修会
	18	木	○推進委員・上学年ブロック協議会 ・ 第5・6学年指導案事前検討	
	26	金	○第4回現職教育全体協議会 ・ 第5・6学年指導案事前検討	水泳記録会
9	2	金	○第5回現職教育全体協議会 ・ 第5・6学年指導案事前検討 ○全体研修⑤ ・ 各研修伝達講習	防犯教室 ふれあい教室 秋の自然に親しむ会
	5	月	○道德推進教師による道德授業 (梶沢地区人権擁護委員 佐藤美千さんとのT・T) ・ 低学年 「大切な命」 ・ 中学年 「友達って、なあに？」 ・ 高学年 「違いを尊重して、助け合おう」	陸上大会 壮行会
	8	木	○第2回要請訪問 ・ 第5・6学年授業研究会及び事後研究会 (福島大学総合教育センター特任教授 丹野 学先生) (南会津教育事務所指導主事 佐藤 浩昭先生) (南会津教育委員会学校教育課指導主事 稲本 泰彦先生)	ひのきっ子タイム
	9	金	○推進委員・下学年ブロック協議会 ・ 第2学年指導案検討	
	16	金	○推進委員・下学年ブロック協議会 ・ 第2学年指導案検討	
	23	金	○第6回現職教育全体協議会 ・ 第2学年指導案検討	

	30	金	○推進委員・上学年ブロック協議会 ・ 第3・4学年指導案検討	
10	7	金	○第3回要請訪問 ・ 第2学年授業研究会及び事後研究会 (福島大学総合教育センター特任教授 丹野 学先生) (南会津教育事務所指導主事 佐藤 浩昭先生) (南会津教育委員会学校教育課指導主事 稲本 泰彦先生)	郡合奏祭 合奏壮行会 桜っ子発表会 愛校活動 パンジー植え
	11	火	○上学年ブロック協議会 ・ 第3・4学年指導案検討	
	14	金	○第7回現職教育全体協議会 ・ 第3・4学年指導案事前検討 ・ 道德教育地区別推進協議会の進め方の共通理解、役割分担	
	17	月	○全体研修⑥ ・ 各研修伝達講習 ・ 道德教育地区別推進協議会資料作成について	
11	8	火	○道德教育地区別推進協議会 ・ 第3・4学年授業研究会及び事後研究会 ・ 桜沢小学校実践報告(道德推進教師) ・ 道德教育指導者養成研修報告 只見町立只見中学校長 今井 仁先生 講話及び全体指導 福島大学総合教育研究センター特任教授 丹野 学先生	給食試食会 落ち葉拾い 薬物教室 個別懇談
	18	金	○全体研修⑦ ・ 授業参観日の道德一斉授業のもち方について	
12	7	水	○授業参観日 ・ 道德一斉授業 ・ 保護者への「特別の教科 道德」に対しての啓発 (校長)と今年度の実践報告(道德推進教師)	避難訓練 授業参観 書写教室
	14	水	○道德推進教師による道德授業 ・ ふくしま道德教育資料集	
	19	月	○第8回現職教育全体協議会 ・ 研究のまとめの方向性と分担	
	21	水	○全体研修⑧ ・ ふくしま道德資料集を活用しての授業	
1	13	金	○全体研修⑨ ・ 研究のまとめの読み合わせ ○推進委員会 ・ 来年度の研究の方向性	危険箇所点検 スキー教室
3	10	金	○第9回現職教育全体協議会 ・ 来年度の研究及び実践の協議	

5 児童生徒の実態及び地域の課題

- (1) 本校の児童は、明るく素直で何事にもねばり強く取り組むことのできる児童が多い。また、小規模校ということもあり、友達とのふれあいや異年齢集団での活動の機会も多く、友達に優しく声をかけ、友達を助けることのできる児童も多い。しかし、相手への思いやりからの行動というよりは、決まっていることをこなしていると感じることが多い。

今年度初めに、児童の実態を把握するために、「特別の教科 道德」における内容項目に基づく道德アンケートを実施した。「親切、思いやり」、「礼儀」、「友情、信頼」、「規則の尊重」の項目では肯定的にとらえる児童が多かった。しかし、一方で、「個性の伸長」、「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」では肯定的にとらえる児童の割合が低かった。きまりをよく守り、礼儀正しく生活しようとする気持ちや、友達を信頼し、親切に思いやりのある行動をしようとする気持ちがある一方、自他の個性に気付き、その長所を大切に、異なる考え方を尊重し、互いに公正に認め合おうとする気持ちが希薄な状態であると言える。

児童がよりよく生きていくためには、他者との関わりが必要不可欠である。また、「特別の教科 道

徳」では、「時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を意識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要」（学習指導要領 総説より）とある。道徳でも他者との関わりが重要である。以上のことから、「個性を認め、他者を尊重する児童の育成」を図っていきたいと考えた。

（２） 地域の課題

南会津町は少子化が進み、年々児童数が減少する状況が続いている。児童数の減少に伴い、町内にある学校も統合されている。素直で明るい子どもが多く育っている一方で、児童の主体性やコミュニケーション能力の低下、社会経験の不足などが見られる。また、豊かな自然環境に恵まれているものの、自然体験の不足も見られる。

このような状況の中において、多様な対人関係を築き、社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成とともに、地域を担う人材の育成が求められている。町では「次世代の地域を担う人材の育成」を理念とした「南会津町教育大綱」を策定し、教育行政と手を携えた教育の推進を図っている。

6 道徳教育における校長の指導の方針・・・「資料1」

- （１） 道徳の時間を要として、学校教育全体を通して道徳教育を推進し、めざす児童像（特に、思いやりのある子ども）の具現化を図る。
- （２） 道徳教育推進教師を中心として全職員で現職教育に取り組み、道徳教育に対する教員一人一人の意識を高めるとともに、授業力の向上を図る。
- （３） 指導にあたっては、ねらいに応じて地域の特色を生かした題材を扱うとともに、家庭・地域と連携して地域人材を活用するなど道徳教育の充実を図る。

7 平成28年度 道徳教育の全体計画について・・・「資料2」

教育目標を受け、本年度の道徳教育の重点目標を3点設定し、さらには、ブロック別の重点目標を掲げ、「道徳教育の全体計画」を構築した。本計画では、家庭・地域社会との連携を図りながら、道徳の時間を要しながらも、教科、総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導等との関連を図り、教育活動全体を通じて道徳教育の重点目標を達成しようとする指導方針を明らかにした。

8 平成28年度 道徳教育の全体計画の「別葉」について・・・「資料3」

道徳教育と各教科、特別活動との関連がわかるように、学年ごとに作成した。

9 平成28年度 学級における指導計画について・・・「資料4」

全体計画を受けた「学年の重点目標」と「児童の実態」「保護者の願い」「担任の願い」から学級の道徳教育の方針を設定した。その具現化を図るために、「道徳の時間の目標」と教科等の重点、生徒指導との関連、体験活動とのつながりを位置づけ、教育活動全体を通して、児童の道徳教育を推進していくことを明確にした。さらに、家庭や地域社会との連携の図り方も明確にし、幅広く大きな視野に立って指導を進めていくことを明示した。

10 道徳推進教師の実践について

道徳教育を推進するにあたり、道徳教育推進教師として研修主任と協力しながら道徳の授業研究を中心に校内研修を進めてきた。また、「小学校学習指導要領解説 道徳編」に示される役割を基にして、実践を行った。更に研究テーマとして掲げた「豊かな関わり合い」を通して「よりよく生きる児童」を育成するために、家庭・地域との連携を意識しながら教育活動にあたった。

(1) 道徳の時間の充実

- ① 研修主任と道徳の時間の授業構想を話し合った。第1回授業研究の前に、前年度の道徳教育推進校の授業を提供し、教職員で方向性の共有を図った。
- ② 授業の改善を図るため、「発問シートの活用」「効果的な資料の提示」「指導過程の工夫」「構造的な板書」「学習形態の工夫」「終末の工夫」などの視点を研修主任と共に話し合い提案した。
- ③ 道徳授業研究会後の事後研究会で、参観した授業をもとにして、指導方法の改善・充実に向けた話し合いを重ねた。
- ④ 「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業の実践をし、指導力の向上に努めた。

(2) 道徳教育の研修の充実

- ① 研修会に参加して、その成果を教職員間で共有できるようにすることで、道徳の時間の指導に対する意識や指導力の向上に努めた。
- ② 先進校の視察を計画的に行い、全教職員が「考える道徳・議論する道徳」の授業を実際に目にする機会を作った。
- ③ 南会津地区小教研道徳部会に所属し、他校の先生と交流しながら自己研鑽に努めた。

(3) 全教育活動における道徳教育の推進

- ① 各教科、道徳の時間の指導と学校行事との関連
 - ・ 地域の消防団の方々の活躍を発表する場の設定（運動会）
 - ・ 地域の歴史を伝える舞踊グループの発表の場の設定（運動会）
 - ・ 地域の歴史を伝える場の設定（発表会）
- ② 人権教育との関連
 - ・ 地域の人権擁護委員との連携による道徳の授業
 - ・ 人権擁護活動のプランターを地区の公民館に運び、学校の活動を地域に広報する場の設定
 - ・ プランターを手入れする児童の活動の紹介（道徳の授業の終末）
- ③ 生徒指導との関連
 - ・ 児童が自己肯定感を得られるような日常指導を全職員で共有する場の設定
 - ・ 児童の自己肯定感を高めるための場の設定

1.1 道徳の時間について <別紙資料参照> 「資料5」

1.2 成果と課題（○＝成果、●＝課題）

- 学校全体で道徳教育に取り組むことで道徳の時間における多様で効果的な指導方法を深めることができた。
 - ・ 範読の工夫、精選した発問、ペアやグループでの意見交換、類型化した板書等
- 他の教育活動との関連を図ることで、児童が、友達の悪い所ではなくよい所に目を向けることができるようになった。
- 学校側から積極的に道徳的活動を知らせたり、学校に保護者を招いて授業を参観してもらったりすることで、保護者の道徳教育への理解促進を図ることができ、保護者の協力のもと家庭や地域と連携して多様で充実した道徳的活動の実践を行うことができた。
- 自分の思いや考えを伝え合わせるために、発達の段階に応じた基本発問や中心発問の設定に課題が残った。
- 学校以外でも家庭と学校がそれぞれの道徳的価値観を共有したり、見直したりする場の設定が課題である。

＜学校像＞

- 夢や希望を持ち、生き生きと活動できる学校
 - いじめのない学校
 - 誇られた学園でなる学校
 - 学校が個性がいつばいの学校
- ＜学校像の追求＞
- ① 夢、希望、生き生きと活動できる学校
 - ② いじめのない学校
 - ③ 誇られた学園でなる学校
 - ④ 学校が個性がいつばいの学校



＜教師像＞

- 子どもを愛する教師
- 授業に熱心な教師
- 思いやりを持って教える教師

平成28年度 南会津町立松沢小学校 学校経営・運営ビジョン 笑顔かがやけ松沢の子

＜みんなの願い＞

● 夢や希望を持ち、生き生きと活動できる学校

- いじめのない学校
- 誇られた学園でなる学校
- 学校が個性がいつばいの学校

- 夢や希望を持ち、生き生きと活動できる学校
- いじめのない学校
- 誇られた学園でなる学校
- 学校が個性がいつばいの学校

Hometown Hisawa Education

教育目標 地域を愛し、夢と希望を持ってたくましく生きる子どもの育成

児童像 ひとと協力する子 こいまでがんばる子 ころうと真剣に学ぶ子

礼儀正しく、まっすぐな心を育てます

- 1 生命・人権を尊重する心と規範意識の育成
 - ＊ 道徳教育の充実と実践化への指導
 - ＊ 協力し合う体験活動の充実
 - ＊ 正しい判断をして行動できる指導の充実
- 2 時と場に応じたあいさつや言葉遣いができる指導の充実
 - ＊ 全校体制での日常指導の充実
- 3 よさを認め合い、支え合う学校・学級づくり
 - ＊ 互いのよさを認め合える学校・学級経営の実践
 - ＊ 教育相談や日常の相談活動を活かした指導
- 4 思いやりの心と尊敬・見習う心の育成
 - ＊ 縦割り班活動の充実
 - ＊ ボランティア活動の実践

心身ともに健やかで、最後までやり通す力を育てます

- 1 運動に親しみ、バランスのとれた体力づくりの推進
 - ＊ 運動身体プログラム（松っ子運動）の実践
 - ＊ 業間運動（プログラムの工夫）の推進
- 2 基本的生活習慣の定着と食育の推進（家庭との連携）
 - ＊ 「ノーマディア」への取り組み
 - ＊ 「松沢小のよい子」の実践
- 3 粘り強く、最後まで頑張る力の育成
 - ＊ 自己目標設定や実践に向けた取り組み
- 4 生命を最優先とする「防災教育」の充実
 - ＊ 危機回避能力を高め、実践力を育成する指導（自分の命は自分で守る）

自分であらえ、通年で学び合う力を育てます

- 1 「分かる・できる・使える授業」の実践
 - ＊ 言語活動の充実
 - ＊ 個に応じた指導の充実
- 2 地域、友達から学ぶ活動の充実
 - ＊ 地域素材や人材を積極的に活用した授業の工夫
 - ＊ 考えを交流させる場の充実
- 3 自主的意欲の育成
 - ＊ 基礎基本の定着を図る「はげみタイム」の充実
 - ＊ 家庭と連携した家庭学習の習慣化（家庭との連携）
- 4 読書活動の充実
 - ＊ 朝の読書や読書週間の充実（家庭との連携）

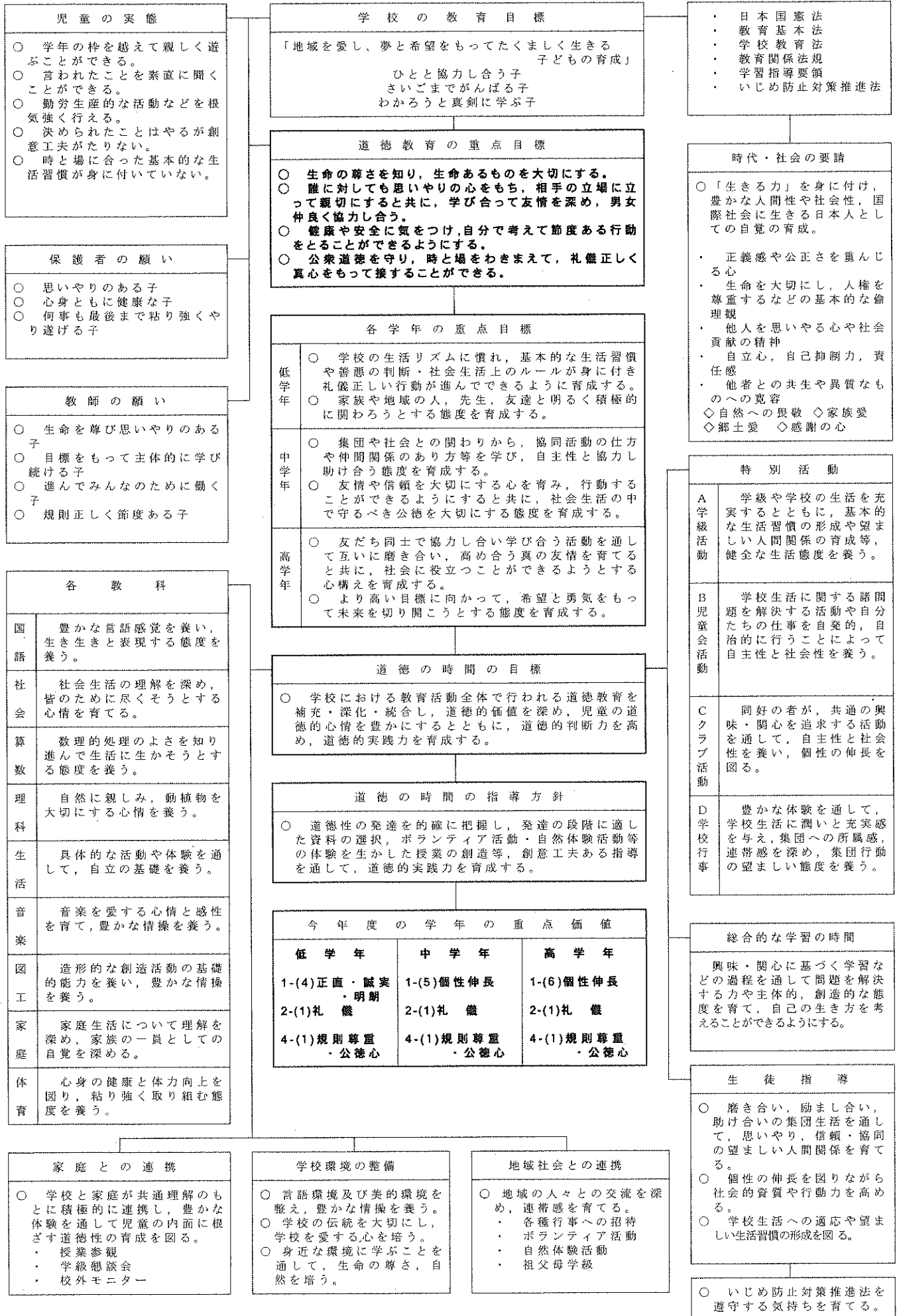
＜家庭・地域との連携強化＞

- 安全・安心な教育環境の整備
- 学習習慣の形成・「子育て5」の実践
- 地域人材・自然・施設の有効活用

道徳教育全体計画

「資料 2」

南会津町立松沢小学校



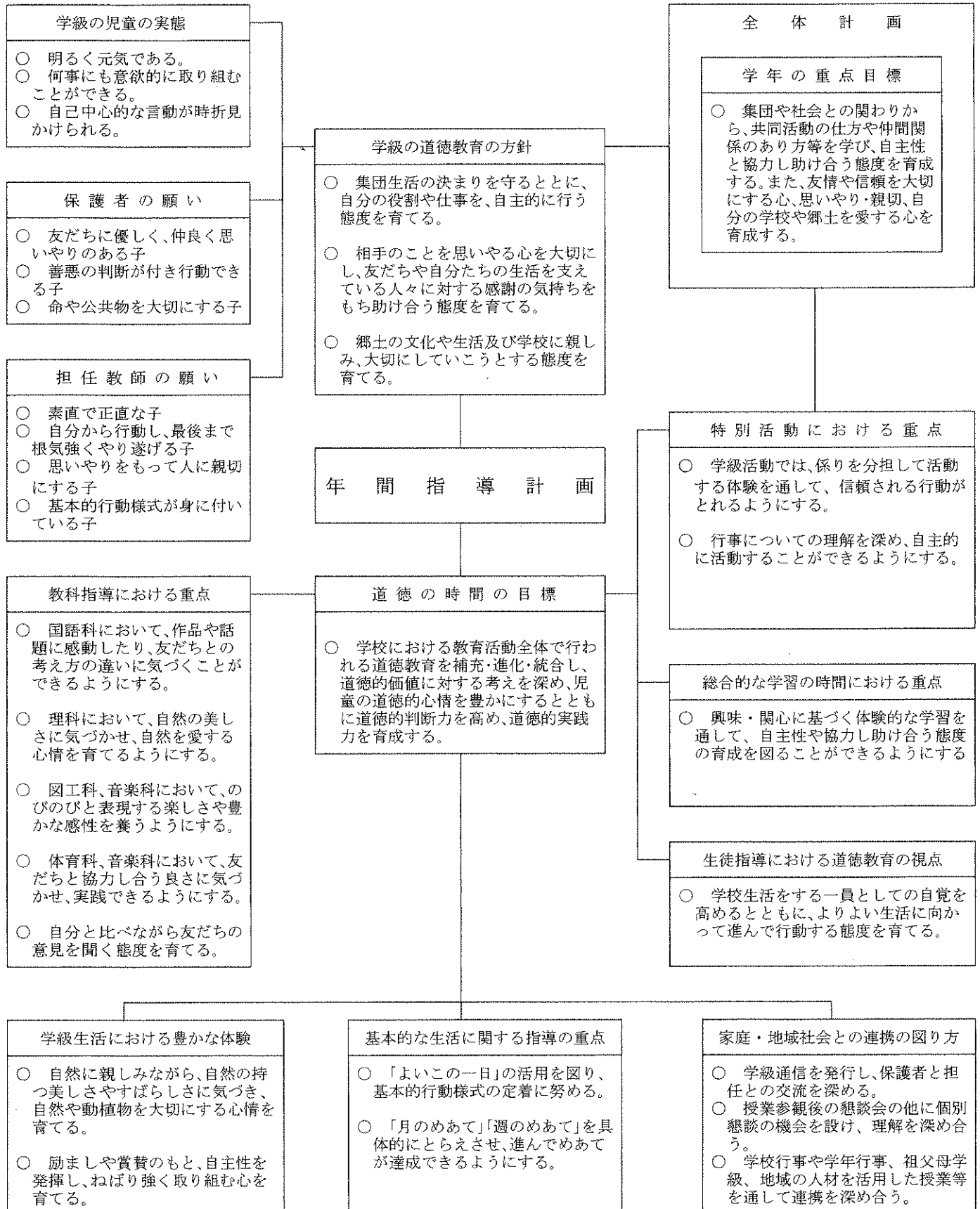
第4学年 道徳教育の全体計画（各教科との関連）

※本計画は、学年の重点目標			国語		社会		算数		理科		音楽		図画工作		体育		総合		その他の特別活動		月	
主として自分自身に関すること			月		月		月		月		月		月		月		月		月		月	
1	基本的生活習慣	「生活習慣を身に付ける」 「生活習慣を身に付ける」 「生活習慣を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(1)	基本的生活習慣	「生活習慣を身に付ける」 「生活習慣を身に付ける」 「生活習慣を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(2)	運動・努力	「運動・努力を身に付ける」 「運動・努力を身に付ける」 「運動・努力を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(3)	読書	「読書を身に付ける」 「読書を身に付ける」 「読書を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(4)	正義・誠実・勇気	「正義・誠実・勇気を身に付ける」 「正義・誠実・勇気を身に付ける」 「正義・誠実・勇気を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(5)	個性伸長	「個性を身に付ける」 「個性を身に付ける」 「個性を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
主として他の人とのかかわりに関すること			月		月		月		月		月		月		月		月		月		月	
1	礼儀	「礼儀を身に付ける」 「礼儀を身に付ける」 「礼儀を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(1)	礼儀	「礼儀を身に付ける」 「礼儀を身に付ける」 「礼儀を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(2)	親切	「親切を身に付ける」 「親切を身に付ける」 「親切を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(3)	友情	「友情を身に付ける」 「友情を身に付ける」 「友情を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(4)	尊敬・感謝	「尊敬・感謝を身に付ける」 「尊敬・感謝を身に付ける」 「尊敬・感謝を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
主として自然や無常なもののかかわりに関すること			月		月		月		月		月		月		月		月		月		月	
1	生命尊重	「生命尊重を身に付ける」 「生命尊重を身に付ける」 「生命尊重を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(1)	生命尊重	「生命尊重を身に付ける」 「生命尊重を身に付ける」 「生命尊重を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(2)	自然愛・動植物愛護	「自然愛・動植物愛護を身に付ける」 「自然愛・動植物愛護を身に付ける」 「自然愛・動植物愛護を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(3)	敬けん	「敬けんを身に付ける」 「敬けんを身に付ける」 「敬けんを身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
主として集団や社会とのかかわりに関すること			月		月		月		月		月		月		月		月		月		月	
1	集団尊重・公衆心	「集団尊重・公衆心を身に付ける」 「集団尊重・公衆心を身に付ける」 「集団尊重・公衆心を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(1)	集団尊重・公衆心	「集団尊重・公衆心を身に付ける」 「集団尊重・公衆心を身に付ける」 「集団尊重・公衆心を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(2)	勤労	「勤労を身に付ける」 「勤労を身に付ける」 「勤労を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(3)	家族愛	「家族愛を身に付ける」 「家族愛を身に付ける」 「家族愛を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(4)	愛敬心	「愛敬心を身に付ける」 「愛敬心を身に付ける」 「愛敬心を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
(5)	郷土愛	「郷土愛を身に付ける」 「郷土愛を身に付ける」 「郷土愛を身に付ける」	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
(6)	愛国心・国際理解	「愛国心・国際理解を身に付ける」 「愛国心・国際理解を身に付ける」 「愛国心・国際理解を身に付ける」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8

道徳教育の学級における指導計画

「資料 4」

南会津町立松沢小学校 第4学年



第3・4学年 道徳学習指導案

日時 平成28年12月14日(水) 第5校時

授業者 南会津町立松沢小学校 小林 美恵子

授業テーマ 自分の思いを伝え、友達の思いを知り、自分の思いを行動に移す様々な方法があることに気づくことで、広がりや深まりのある人間関係を築こうとする心情を育む授業。

- 1 主題名 広い心で 相互理解・寛容
- 2 資料名 「がんばらやんばい」(出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

3・4年生の段階の児童は、自他の立場や受け止め方、感じ方などの違いを概ね理解できるようになるが、ともすると違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることもある。しかし、自分の考えや意見を相手に伝えると共に、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。異なった意見や立場を持つ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気づくような心情を育てていくことが重要である。

(2) 児童の実態について

3年生8名、4年生5名、計13名の複式学級である。素直で明るい児童が多く、学習に粘り強く取り組むことができる。4月当初の児童アンケートからは、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」の項目が他の項目と比べて落ち込んでいたが、自分の考えを伝える大切さや相手を理解することの必要性を指導することで、なんとか自分の思っていることを伝えようとしている姿をみることができるようになってきた。

(3) 資料について

本資料では、東日本大震災での給水活動が取り上げられている。主人公は、給水所に水くみに行くが、重い水を運ぶことに乗り気でない。給水車の管から出る水を、うまくペットボトルに入れることのできないおじいさんの後ろで集まっていた人々が、いらだちを隠せなくなってきた時、主人公の父親は、ウォータージャグの水をみんなのもとに入れ始める。すると、人々の間に会話が生まれ、つながりが生まれる。主人公は、周りの人々の気持ちを知ること、重荷だった水くみに前向きになっていく。自分の思いを伝えるだけでなく、他者の思いを知ること、周りの人々と良好な人間関係を構築していくことを考えさせるために適した資料である。

(4) 研究テーマにせまるための手立て

【(1) 自分の思いや考えを伝えあう活動】

- ① 伝え合いを活性化させる発問の工夫
 - ・ 児童が自分のこととして価値を考えられるような問題解決的な学習になるようにした。
- ② 主体的に自分の思いや考えを伝えあうことができるような表現活動の工夫
 - ・ 一人一人の意見をミニ黒板に書かせ、提示し全体で意見を共有できるようにした。

【(2) 学びの振り返りをする場の設定】

- ① ワークシートの工夫
 - ・ はじめに抱いた自分の思いが、友達の思いを聞くことで変化したことがわかるようにする。
- ② 終末段階の工夫
 - ・ 自分にできることを日頃から実践している場面を紹介することで、自分達の行動に自信を持たせ、さらなる実践意欲を高めることができるようにしていく。

4 指導計画(関連価値 尊敬・感謝、思いやり)

段 階	関連教科・活動	内 容
事前指導	道 徳 清 掃	○ 分かり合う友達 思いを伝える相互理解の大切さ ○ 掃除の時、お湯を事前に準備する活動を上級生と一緒にすることで、本時の価値についての素地を育てる。
本 時	道 徳	○ 広い心 周りの人々との良好な人間関係の構築

5 本時の目標

(1) 本時のねらい

- 相手に対する理解を深めるとともに自分の思いを伝え、広がりや深まりのある人間関係を築こうとする心情を育てる。

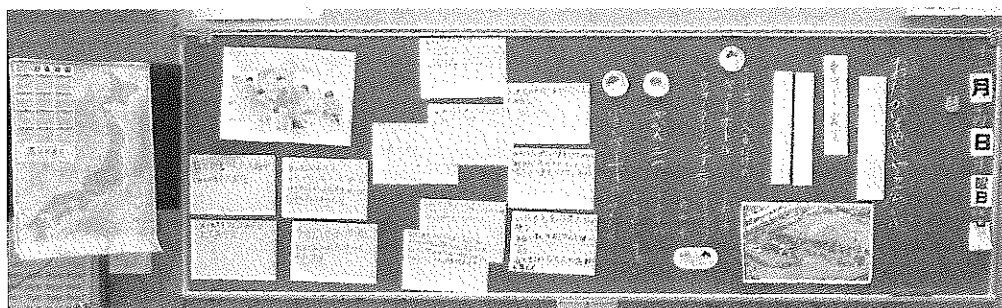
6 学習過程

段階	学習活動	○ 主な発問 ◎ 中心発問 ・ 予想される児童の反応	時間	○ 指導上の留意点 ★ 研究内容との関連
導入	1 東日本大震災のことを聞き、本時の学習に関心を持つ。	○ 水や食べ物がなくなり、長い時間並んでいるとき、どんな気持ちでしょう。 ・ 早く自分の順番になってほしい。	3	○ 給水車に並ぶ長蛇の列を示し、世界から絶賛されたことを紹介する。「お互いを思いやる広い心」ということをおさえ、ねらいとする価値の方向づけをする。
展開	2 資料「がんばらやんばい」を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。 ・ 資料の場面を確認する。 (2) 自分が主人公だったらどうするかを考える。 (3) 全体で話し合う。	○ 主人公の言ったことやしたことを確認していきましょう。 ◎ あなたが、主人公だったらどうしますか。 ・ どうしていいか、わからない。 ・ 違うことを考える。 ・ お兄ちゃんと何か、話しながら待っている。 ・ お父さんに、おじいちゃんを助けてあげてと頼む。	30	○ 資料の中の発言、出来事を確認し、人間関係を黒板に整理して視覚的に資料を捉えることができるようにする。 ○ 水をもらう長蛇の列で、困っているおじいさんに対していらだつ人々の中で、「自分だったら、どうするか。」という視点で問題の解決方法を児童に考えさせる。 ★ 発問の工夫 ★ 表現活動の工夫 ○ まずは、ペアでお互いの考えを交流させ、全体の話し合いにうつる。
		※ 相手に対する理解を深めるとともに、自分の思いを伝え、広がりや深まりのある人間関係を築こうとする気持ちが高まったか。(ワークシート・発表)		
終末	3 資料の残りの部分を読み、本時の感想を書く。	○ 今日の授業の感想を書きましょう。		○ 小学校児童であるから、できることも限られていることを知り、自分にできることから実践しようとする意欲を高める。

7 成果と課題

- ミニ黒板は、話し合いで児童の意見を整理するのに役立った。
- グループで意見を交流する活動が効果的だった。児童は自然と交流を始め、話し合いに深まりがでた。
- 話し合いに入る前に、登場人物の発言や出来事だけでなく、中心発問となる場面や給水車の前での様子もおさえれば、どんなことが問題になっているのを児童がとらえやすかった。
- 児童のミニ黒板を全部黒板に掲示し、いろいろな考えを交流した後に、教師が「ゆさぶり発問」することで、更に議論する場面があれば、話し合いが深まったように思う。

<実際の板書>



第5・6学年 道徳学習指導案

日時 平成 28年12月21日(水) 第4校時
授業者 南会津町立桧沢小学校 梅宮 弘子

授業テーマ 役割演技を通して、道徳的な問題の解決方法を話し合う学習により、みんなで協力してよりよい学校を作って行こうとする実践意欲と態度を育む授業

- 1 主題名 支え合って よりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 資料名 「ぼくたちの学校」 出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

5・6年生の段階の児童は、学校生活の中にあるいろいろな活動で中心的な役割を担うことが多くなる。それらの活動を通して、高学年としての自覚が芽生えてくる。高学年として自分の役割を自覚し、個人の力を合わせてチームとして取り組むことで、一人一人が生き生きと活動でき、より良い学校や素晴らしい校風が生まれて来る。みんなで協力してよりよい学校を作って行こうとする実践意欲と態度を育むことが重要である。

(2) 児童の実態について

5年生13名(うち特別支援学級1名)・6年生5名、計18名の複式学級である。素直で協力的な児童が多く、児童会委員会やクラブ活動、どんぐり班での縦割り班活動、ボランティア活動に真面目に取り組んでいる。統合して4年目を迎えた本校では、2つの学校から集まった児童が新しい学校を築こうと、心を合わせて意欲的に活動している。

(3) 資料について

東日本大震災や津波によって主人公達の学校は壊れたが、他校を間借りして学ぶことが出来るようになった。そんなある日、帰りのバスの中で1年生が泣き出してしまふ。校歌を歌いだして1年生をはげまそうとする友達を見て、主人公は自分にできることはないかと考える。もとの学校にもどれる日まで、先生や仲間達とともに協力して母校をよりよくしていこうとする主人公の気持ちを考えさせ、みんなで協力してよりよい学校を作っていこうとする実践意欲と態度を育むのに適した資料であるといえる。

(4) 研究テーマに迫るための手立て

【(1) 自分の思いや考えを伝え合う活動】

- ① 伝え合いを活性化させる発問の工夫
 - ・児童が自分のこととして考えられるような問題解決的な学習になるように発問を工夫する。
- ② 主体的に自分の思いや考えを伝え合うことができるような表現活動の工夫
 - ・一人一人の意見をミニ黒板に書かせ、掲示し全体で意見を共有できるようにする。
 - ・役割演技により、問題の解決方法を深く考えさせるようにする。

【(2) 学びのふり返りをする場の設定】

- ① ワークシートの工夫
 - ・自分の考えを更に深めるような発言をした友達の名前を書かせ、よさを認め合えるようにする。
- ② 終末段階の工夫
 - ・実際の学校生活で自分にできることを考えさせ、実践意欲と態度を育むようにする。

4 指導計画

段 階	関連教科・活動	内 容
事前指導	道 徳 ボランティア活動 (朝の活動)	○ひまわり 周りへの敬愛の気持ちを持つ。 ○みんなのため、学校のためになる活動の成就感を実感させ、本時の価値についての素地を育てる。
本 時	道 徳	○支え合って 【よりよい集団生活、校風の構築】

5 本時の目標

(1) 本時のねらい

- 最高学年としての自覚を持ち、自分たちの学校を敬愛し、みんなで協力して自分たちの学校をより良くしようとする実践意欲と態度を育てる。

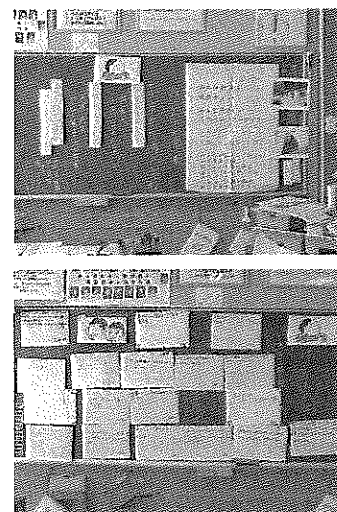
6 学習過程

段階	学習活動	○ 主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	時間	○ 指導上の留意点 ★ 研究内容との関連
導入	1 校歌やアンケートの結果から本時の学習に関心をもつ。 ・校歌の1番を歌う。 ・アンケートの結果を知る。	○ 校歌の1番を歌いましょう。 ○ 桧沢小学校のよさはどんなところだと思いますか。 ・みんな仲がよい ・友達に親切にできる ・思いやりのある人が多い。	5	○ 校歌の歌詞を味わったりアンケートの結果を知ったりすることで、みんなで協力してよりよい学校を作ろうとしている実態をとらえさせ、動機付けを図る。
展開	2 資料を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞き、(P16L10まで)資料の場面を確認する。 (2) 男の子の気持ちについて考える。 (3) 史哉の言動や気持ちについて考える。 (4) 全体で話し合う。	○ 主人公の言ったことやしたことを確認していきましょう。 ○ 1年生の子が泣き出したのはどうしてでしょうか。 ◎ あなたが主人公だったらどうしますか。 ・どうしたらよいか分からない。 ・自分も泣いてしまう。 ・面白いことを言って笑わせる。 ・1年生を友達と一緒に励ます。 ・みんなで校歌を歌おうと呼びかける。	30	○ 資料の中の発言、出来事を確認し、視覚的に資料を捉えることができるようにする。 ○ 男の子の心情を捉えることにより、震災の背景を理解できるようにし、中心発問へつなげるようにする。 ○ 「みんなで協力してよりよい学校を作ろう」という価値の実現のもと、問題の解決方法を児童に考えさせる。 ★発問の工夫 ★表現活動の工夫
※ 高学年としての自覚を持ち、自分たちの学校を敬愛し、みんなで協力して自分たちの学校をより良くしようとする実践意欲が高まったか。(ミニ黒板・発表)				
終末	3 資料の残りの部分を読み、本時のまとめをする。	○ 桧沢小学校をよりよくするために自分にできることはありますか。 ○ 今日の授業の感想を書きましょう。	10	○ 自分の学校をよりよくするために自分にできることを考えさせ、実践しようとする意欲を高める。 ★終末の段階の工夫 ★ワークシートの工夫

実際の板書→

7 成果と課題

- 中心発問では、友達の意見を知って、自分とは違う意見に納得したり、驚いたり豊かな反応があった。役割演技では4種類の意見をもとに行ったが、実際の場面に照らし合わせてやると、児童はうまくいかないことや、感じ方の違いがあることが意見として出され、伝え合いが活性化し、児童は深く考えることができた。
- 意見を書いたミニ黒板を黒板に一斉に掲示することで、児童は多様な意見に触れることができ、主体的に自分の意見との相違点を考えることができた。
- 終末で使用したワークシートを見ると、児童全員がこれからの学校生活の中でできることを真剣に考え、具体的に書くことができた。児童の実践意欲を高めることができた。
- 役割演技では、照れが児童にあり、真剣な話し合いにならなかった場面もあった。繰り返し行うことで、役割演技を取り入れた学習に慣れさせていく必要性があった。



第3・4学年 道徳学習指導案

日時 平成28年11月8日(火) 第5校時
場所 第3・4学年教室
授業者 長井 卓也

授業テーマ

友達との話し合いを通して、友達と分かり合うよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習により、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育む授業。

1 主題名 分かり合う友達 B-(10) 相互理解、寛容。

2 資料名 「なんとなく」(4年生の道徳 ぶんけい) 一部改

3 主題設定の理由

(1) 価値について

3・4年生の段階の児童は、自他の立場や考え方、感じ方などの違いをおおむね理解できるようになるが、ともすると違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。しかし、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。望ましい人間関係を構築するためには、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見についてその背景にあるものは何かを考え、傾聴することができるようになることが必要になる。相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気づくような心情を育てていくことが重要である。

(2) 児童の実態について

3年生8名、4年生5名、計13名の複式学級である。素直で明るい児童が多く、学習にねばり強く取り組むことができる。休み時間は友だちと一緒に、運動や楽器演奏、遊具に親しむ児童が多く見られる。「どんな友達が好きですか」というアンケートをとったところ、「思いやりがある人」「みんなのことを考える人」「こまいったときに声をかけてくれるやさしい友達」などといった回答があった。児童は概ね、「よりよい友達関係には、相手を思いやることが大切である」ということに気がついている。

一方で、友だちの話をさえぎって自分の話をする場面が多く見られる。そのため、友だちの話をよく聞いて、友だちの意見を認めたり、自己の学習に生かしたりすることが苦手な様子がある。また、相手の気持ちを押し量ることが苦手で、友だちとのトラブルにつながることもある。

(3) 資料について

4年生になり、友だち関係も変わり始め、親友の京子のこと何となく疎ましくなってきたみどりが中心となる物語である。みどりは、社会科見学のグループ分けで、京子を避けて早坂に同じグループになろうと声をかける。「はっきりしないし、いつも私のまねばかりする。」と京子を嫌う理由を早坂にうち明けるが、他のクラスメイトにも聞かせることになり、みどりに同調するクラスメイトが現れ始める。みどりは、京子からの声かけを無視したり、これまで一緒だった登校もやめたりする。学級で孤立しだした京子の姿を見ても、みどりは態度を改めない。ある日忘れ物をしてしまったみどりは、京子が今まで忘れ物がないようみどりに注意してくれたことに気づく。これからは「なんとなく」ではなく、「しっかり」分かり合える友だちになりたいと、みどりは思う。

このように、本資料は、主人公であるみどりが、友人関係上の問題を抱えながら、最終的に相互理解、寛容という道徳的価値の大切さに気がつく物語である。価値に気がつくまでのプロセスは、子どもたちの実際の生活に近いものがあり、みどりが抱える問題は児童にとって身近なものであると言える。みどりと周囲の友だちの言動や行動はいじめの様相も呈している。相

互理解、寛容の道徳的価値を中心として、親切、思いやり、友情、信頼といった価値の重要性や実践の難しさがこの資料にはある。互いの違いを認め合い理解しながら、自分の考えや意見を相手に伝え、他者の考えや意見も大切にすることを考えさせるために適した資料であるといえる。

(4) 指導にあたって

研究主題に迫るために、本年度の研究内容・方法について、下記のように手立てを講じながら指導を行っていきたい。

【(1) 自分と異なる立場や考え方を理解して、望ましい人間関係を作れるように、自分の思いや考えを伝え合う活動を入れる。】

① 伝え合いを活性化させる発問の工夫

- ・ねらいとする価値をおさえた上で、発問を精選し、ねらいとする価値理解、価値観が深まるように、基本発問で問題点に気づかせ、中心発問で問題の解決策を考えられるように発問を構成した。

② 主体的に自分の思いや考えを伝え合うことができるような表現活動の工夫。

- ・中心発問について、グループ内で意見を交流させることで、一人ひとりに自分の考えをもたせる。
- ・自分の考えを記入したミニ黒板を全体での話し合いで黒板に貼って活用することで、子どもの意見のつながりを視覚的に捉えられるように考えの構造化を図る。

【(2) 自分と異なる意見を大切にすることができるように学びのふりかえりをする場を設定する。】

① ワークシートの工夫

- ・今日の授業の中で自分の考えを更に深めるような発言をした児童の名前をワークシートに書かせ、互いの学びのよさを認め合えるようにする。

② 終末段階の工夫

- ・事前指導の総合的な学習の時間に見取った児童の様子を紹介し、道徳的価値の理解をもとによりよく生活していこうとする意欲を高める。

4 指導計画

段 階	関連教科・活動	内容（◎本時の指導で補充・深化・統合させる内容）
事前指導	総合的な学習の時間 学級活動 日常生活全般	○「地域の宝を見つけよう」 ・学習発表会で、どのような発表の仕方をするか、グループで話し合うときに、自分の考えや意見を相手に伝え、他者の考えや意見も大切にする態度を見取る。 ○「友だちのよいところ」 ・友だちのよいところを毎日の帰りの会で発表させたり、「3・4年生いいとこめがね」と称して、書いて伝え合ったりすることで、互いのよさに目を向けさせ、本時の価値についての素地を育てる。
本 時	道 徳	○ 分かりあう友だち【B－(10)相互理解、寛容】 ・資料「なんとなく」から、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育むことに努める。 ◎ 友達との話し合いを通して、友達と分かり合うよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習により、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を補充・深化させる。
事後指導	学級活動	○ 「お楽しみ会の計画を立てよう」「6年生を送る会の計画を立てよう」

	授業、日常生活全般	・ 本時での学習を思い出させ、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする実践力を育てる。 ○ 友達や下級生など、身近な人に対して自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとしているかを見取り、適宜、指導・賞賛する。
--	-----------	---

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

- 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする心情を育てる。

6 学習過程

段階	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応 ◎中心発問 ※評価	時間	○指導上の留意点 ★研究内容との関連
導入	1 アンケートの結果をもとに、本時の学習に関心を持つ。 ・アンケートの結果を知る。	○ どんな友達が好きですか。 ・ 思いやりがある人 ・ みんなのことを考える人 ・ こまったときに声をかけてくれるやさしい友達	3	○ 事前に行ったアンケートを紹介することで、「相手を互いに思いやる関係が大切」ということをおさえ、動機付けを図る。
展開	2 資料「なんとなく」を読んで話し合う。 (1) 教師の範読を聞く。 ・ 資料の場面を確認する。 (資料P 92 L 8 まで)	○ 物語の登場人物の言ったことやしたことを確認していきましょう。	8	○ 資料の中の発言、出来事を確認し、人間関係を黒板に整理して視覚的に資料を捉えることができるようにする。
	(2) みどりの言動について考える。	○ みどりについてどう思いますか？ ・ 京子をグループに入れてあげないところがつめたい。 ・ なんとなくで京子をきらいになっているところがよくない。 ・ 京子を無視して、仲間はずれにするのはよくない。 ・ 京子に、はっきりしなかったり、まねをする理由を聞いたほうがよい。	5	○ みどりの場合をもとに資料から、問題点に児童が気がつくことができるようにする。
	(3) 資料の残りの部分の範読を聞き、「しっかり分かり合える友だちになりたい」と思ったみどりは、これからどうすればよいのか考える。	◎ 「みどりさんは、これからどうすればよいのだろう。」 ・ 無視しないようにする。 ・ いっしょのグループでがんばろうと言う。 ・ 京子にたくさん話しかける。	10	○ 「しっかり分かり合える友達になりたい」というみどりの思いをもとに、(2)の問題の解決方法を児童に考えさせるようにする。 ★ 発問の工夫

		・京子に自分の気持ちを伝える。		(1) - ① ○ グループ内で意見を交流させることで、一人ひとりに自分の考えをもたせる。 ★ 表現活動の工夫 (1) - ② ○ グループ内の話し合いを通して考えた意見を一人一人ミニ黒板に書かせ、児童の考えを見取る。
	(4) 全体で話し合う。	・京子が傷ついているから無視してごめんねと素直にいう。 ・京子にはっきりしなかったり、まねをしたりすることを、どうしてやるのか聞いて、分かり合う。 ・いつも、忘れ物がないように声をかけてくれたことのお礼を京子に言って仲直りする。 ・メグミやマキに、京子のよいところを伝えて、京子が一人にならないようにする。	14	○ 自分の考えを記入したミニ黒板を全体での話し合いで黒板に貼って活用することで、子どもの意見のつながりを視覚的に捉えられるようにする。 ○ 友達と分かり合うよさや難しさを補助発問により確かめられるようにする。 ★ 表現活動の工夫 (1) - ②
	※ 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする気持ちが深まったか。 (ワークシート・発表)			
終末	4 担任の説話を聞き、本時の感想を書く。	○ 今日の授業の感想を書きましょう。	5	○ 総合的な学習の時間に見取った児童の様子を紹介し、道徳的価値をもとによりよく生活していこうとする意欲を高める。 ★ 終末段階の工夫 (2) - ② ○ 数名の児童に感想を発表させることで、多様な考えに触れさせ、道徳的価値観や実践意欲を更に深める。 ○ 今日の授業の中で自分の考えを更に深めるような発言をした児童の名前をワークシートに書かせ、互いの学びのよさを認めあえるようにする。 ★ ワークシートの工夫 (2) - ①
	※ 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしようとする意欲が高まったか。 (ワークシート・発表)			

【相双地区】南相馬市立八沢小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	南相馬市立八沢小学校
所 在 地	南相馬市鹿島区南屋形字北原 3 2 番地
校 長 名	宮 武 泰
学校の教育目標	やさしい子 (徳) さいごまでがんばる子 (体) わかるまで勉強する子 (知)
学級及び児童生徒数	普通学級 6 特別支援学級 2 児童数 8 4 名
道徳教育にかかる 取り組みの概要	○ 道徳の教科化に伴う授業改善 ○ 支持的風土を基盤とした学級経営の充実

2 研究テーマ

道徳教育の要として有効に機能する道徳の指導（第1年次）
～自己の生き方を深く見つけ、考えさせる指導の工夫～

3 テーマ設定の理由

平成27年7月に改訂された「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、「道徳科において各教科等の道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、児童に道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深めさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とあり、これまでの「道徳教育は道徳の時間を要とした学校の教育活動全体を通じて行う」という基本的な考え方は引き継がれている。また、今回の道徳教育の改善に関する議論の発端は、いじめ問題への対応であり、児童が現実の困難な問題に主体的に対処することができる実効性のある力を道徳教育の充実により育成することを強く求めている。その上で、道徳科が道徳教育の要として効果的に機能するように改善を図っていくことが強調されている。

本校では「やさしい子」「さいごまでがんばる子」「わかるまで勉強する子」の3つの児童像の具現をめざしている。子どもたちが、このめざす児童像に照らして、今の自己の生き方・あり方を深く見つけ直し、「自分もそうありたい」と心を高めることを重視し、自己を『めざす児童像』に近づけようと努力する過程や真摯な態度こそ大切にしたい。そして、道徳の時間をそのような心の高まりを促す第一歩と位置付けたい。

学校内外における子どもたちの日常的行動を見ると、それは、決して内面的な自覚に支えられた道徳性の表れとは言い難いものも多く、特に、自主性・忍耐・根気強さ等においては、道徳性が十分に育っているとは言えない状態にあるのが実態である。また、本校の子どもたちも含めて、今の子どもたちに不足しているのは、「感動する心」「生命を尊重する心」「反省する心」「感謝の心」「謙虚な心」「奉仕の心」「積極的な心」などであり、人間が人間としてよりよく生きていくために必要な「豊かな心」を育成していくことが強く望まれている。

以上のことから、道徳性を高めるための基礎的要件であり、道徳的行為への動機として強く作用する道徳的心情を育てることを中心的なねらいとしたい。そして、子どもたちが多様な考えや感じ方に触れ、追求・把握した道徳的価値に照らして、これまでの自己の生き方を深く見つめたり、考えたりすることができるようにすることで、道徳教育の要としての道徳の時間を有効に機能させるようにする。そして、子どもたちに道徳的行為や道徳的実践をしないではいられないような心の高まりを感じさせたいという強い願いをもって、本テーマを設定した。

4 研究計画

月	道徳教育推進委員会・全体協議会にかかわること	授業研究にかかわること	学級経営にかかわること	道徳的環境にかかわること
4	・研究計画作成	授業研究の計画作成		
5			学年ブロックの研究テーマ検討	道徳コーナーの企画・運営
6	・先進校視察（5～6日） 〔福島大学附属小学校〕	授業研究① 2年（24日）		
7	・1学期授業研究のまとめ ・相馬地方小学校教育研究会道徳部会での研究経過報告 ・課題の再設定 ・研究内容の見直し ・先進校視察（22日） 〔弘前大学附属小学校〕 ・学会参加（23～24日） 〔日本道徳基礎教育学会〕	授業研究② 4年（1日） 授業研究③ 6年（1日）	児童の道徳的意識調査① 授業の保護者への公開 学級経営の反省	道徳コーナーの運営についての反省
8 9	・各種研究会伝達講習 ・道徳教育推進協議会準備			道徳コーナーの刷新
10	・道徳教育推進協議会（28日）	授業研究④ 1年（28日）		
11	・先進校視察（25日） 〔福島第三小学校〕 ・外部講師による道徳教育講演会（11日） 〔講師：柴宮小 伊藤教諭〕	授業研究⑤ 3年（11日）	授業の保護者への公開	
12		授業研究⑥ 5年（16日）	児童の道徳的意識調査②	
1 2	・研究のまとめ		道徳的意識調査の結果分析	道徳コーナーの運営についての反省
3	・次年度の研究計画作成			

5 児童生徒の実態及び地域の課題

(1) 児童の実態

明るく素直に生活できる子どもが多い。このことはデータとしては確認できていないが、3世代同居家族が多いことに起因しているのではないかと推測している。また、多くの子どもが、自分たちが生活する学校や地域という社会には、守るべききまりがあることに気づき、様々な場面において、してよいことと悪いことについて考え、正しく善悪を判断することができている。

しかし、主体的に学習や活動に取り組んでいるかどうかというやや消極的な面も見られ、それらを最後まで、あきらめず努力するということにも課題が残る。

基本的な生活習慣の定着や規則的な生活習慣の形成においては、個人差が大きく、個に応じて指導する必要がある。

明るく素直なよい面を生かしながら、課題となっていることについて解決していくことで、より道德性が育まれていくと考える。

(2) 地域の課題

震災の復興が不完全なことや放射線の影響についての不安が残ることなどから、子どもたちだけでなく、保護者や地域住民は、未だに大きなストレスを抱えている。

特に、学区東側の海の近くでは、毎日、大型のトラックが行き交い、護岸の工事が続いていることもあり、定着人口より交流人口の増大に不安を感じている家庭も少なくない。

このような状況の中、震災前までは地域の教育財産として活用できていた人材の流出、文化遺産の周辺の未除染による活用の見送りなど、地域の教育力を活用した学習を計画しづらい状況が続いている。震災後の新しい人材バンクや活用可能な教材などをリスト化し、整備していく必要がある。

6 道德教育における校長の指導方針（資料1）

- (1) 道德の時間を要として、全教育活動を通じて道德性の育成に努め、めざす児童像の具現化を図る。
- (2) あいさつや返事、後始末、言葉遣いなどの変容を道德性の高まりと評価しながら重点的に指導するとともに、別葉を活用して調和的な成長を促していくようにする。
- (3) 地域の教育財の発掘・活用に努めるとともに、道德の時間はもとより全教育活動において積極的に地域の人材を活用していく。

7 平成28年度 道德教育の全体計画について（資料2）

学校教育目標を受け、本年度の道德教育の重点を3点に示した。さらに、学年ブロック毎に2点の重点目標を示し、ブロック内で共通理解を図り、協力して指導できるように配慮した。

8 平成28年度 道德教育の全体計画の「別葉」について（資料3）

道德教育の重点目標を具現化するための方策となるように、複数の内容項目を組み合わせるとともに、その関連する体験や学習内容を洗い出し、学級担任が指導時期と内容を概観し、自分なりの工夫やこだわりを追加で書き込みするなど、弾力的に運用できるようにした。また、学級の指導計画の記述内容が具体化されるように欄を工夫し、「いつ」「何を」「どのように」「どの程度」実践していくのかが明確になるようにした。

9 学級における指導計画について（資料4）

学級担任が工夫して実践したことについて、次年度以降も活用したり、参考にしたりすることができるように、「具体的な実践内容」という欄を新設し、全体計画の別葉に表現できなかったことを随時書き込みできるようにした。

10 道徳教育推進教師の実践について

(1) 道徳コーナーの運営(資料5)

各学年ブロックごとに道徳コーナーと名付けた掲示板を設け、次のような観点から掲示を工夫してきた。

① 目的

児童の生活場面と密接なかかわりのある内容について、担任からの情報提供や児童相互の情報共有の場として活用できるようにする。

② 掲示内容

- ア 直近の道徳の時間で取り扱う内容にかかわること
- イ 生徒指導や健康教育等の月別のめあてにかかわること
- ウ 全校集会の「校長講話」にかかわること
- エ 適時性をとらえた学級の課題や教師の指導目標にかかわること
- オ 新聞やテレビ、インターネット等の記事や話題にかかわること

(2) 道徳教育研究推進の焦点化(資料6)

道徳の教科化を見据え、これまでの道徳の時間との違いを明らかにし、授業改善の視点を示し、研究内容を焦点化した。

11 道徳の時間について ※研究授業3・6は、ふくしま道徳教育資料集活用授業

授業研究1(2年)正義・勇気(資料7-1、7-2)

授業研究2(6年)誠実(資料8-1、8-2)

授業研究3(4年)尊敬・感謝(資料9-1、9-2)

授業研究4(1年)思いやり・親切

授業研究5(3年)節度・節制

授業研究6(5年)希望・努力(資料10)

12 成果と課題(○成果 ●課題)

(1) 道徳の時間の指導について

- 児童が道徳的価値に迫る授業の基本が確立した(先行オーガナイザー、板書構成、書く活動等)
- 発問構成を工夫することで道徳的価値が焦点化され、話合いの時間が確保された。
- 事前アンケートと関連させて展開後段に書く活動を位置付けることで変容に気付かせ、実践意欲を高めることができた。
- 「何ができるか」「自分ならどうするか」という行動的側面を重視することで、主体的に道徳的な問題を判断させることができた。
- 動作化、役割演技など、学年の実態や教材に応じて体験的な学習を取り入れることで、実感を伴う話合いを深めることができた。
- 指導案作成時に資料分析をして構造をとらえていないと、中心価値と関連価値を整理して発問することができないことから、分析の仕方に慣れる必要がある。
- 児童がねらいとする価値に迫るために多様な学習形態を取り入れていきたい。

(2) 道徳的環境づくりについて

- 時事問題を取り上げたことで、テレビのニュースや新聞にも興味をもつ子どもが見られるようになった。
- 道徳コーナーの活用により、学習したことが日常生活の中でも意識できてよかった。
- 掲示物を計画的に貼り替えるようにしたい。
- 掲示してある内容をさらに日々の話題にして意識付けを図りたい。
- 道徳だよりや各種研究会の伝達講習などを通して、全職員で協同意欲を高め合って道徳教育を進めていけるようにしたい。

平成28年度 八沢小学校学校経営全体構想

<保護者の我が子への思い>

- 1 自ら進んで学習をする子になってほしい
- 2 規範意識を持ち節度ある生活をしてほしい
- 3 最後までがんばる強さを持った子になってほしい

<児童の実態>

- 1 震災経験によるストレス
- 2 学習意欲の低下
- 3 体力の低下
- 4 集団生活への不適応
- 5 規範意識の低下
- ※ 震災後の生活環境を分析

<教師の思い・使命>

- 1 将来の夢実現のために確かな学力を育む
- 2 たくましく生き抜く力と豊かな心を育む
- 3 自らの健康を適切に管理する力を育む

※才知・思慮・分別

学校経営基本方針

- ☆「明るく、かしこく、生き生きと」～素直・明朗・強さを持った子どもに！
- 安心・安全・節度・規範意識の高い学級（学級経営の充実）
 - 基礎・基本を確実に習得させる授業（授業の充実・手応えを感じる授業）
 - 全ての子どものよさを伸ばす指導（積極的な生徒指導・チームで対応）
 - 特別支援教育は全ての子に優しい教育（実効性のある特別支援教育）

【八沢小学校教育目標】

わかるまで勉強する子

学びからの笑顔（達成感）

- ☆授業の原則は教えてほめる
 ☆45分授業の徹底
 ☆簡明な発問・指示・説明

- ◎授業で学力を保証する
- ◎全テスト平均85点以上
- ◎少人数指導のよさを生かす
- ◎成功体験を味わわせる
- ◎自己肯定感を高める授業
- ◎楽しく取り組む読書活動
- ◎内容を工夫した家庭学習

やさしい子

優しさからの笑顔（満足感）

- ☆望ましい行動を教えほめる
 ☆差別といじめは許さない
 ☆教師の言動が子どもの手本

- ◎お世話になった人へ感謝
- ◎挨拶は笑顔で自分から
- ◎やる気が伝わる元気な返事
- ◎後始末はみんなへの心遣い
- ◎いじめなし、みんなが笑顔
- ◎節度ある言葉遣いと行動
- ◎ごめんなさいと言える子

さいごまでがんばる子

健康からの笑顔（自信）

- ☆安全安心な学校生活を保障
 ☆体力・運動技能の向上
 ☆望ましい生活習慣の指導

- ◎危機意識と危機回避力で自分の命は自分で守る
- ◎体育の授業で運動技能向上
- ◎継続的な運動で体力向上
- ◎元氣UPタイムの有効活用
- ◎早寝・早起き・朝ご飯
- ◎病気の予防と早期治療

【特色ある教育活動例】

- ①異学年交流（全校活動）
 - 清掃活動、集会活動、全校遊び、児童会活動、本の読み聞かせ会
- ②豊かな体験活動
 - 校外学習、見学学習、遠足・宿泊活動、ボランティア活動、幼小連携
- ③保護者・地域の方々と
 - ふれあい活動、かるた大会、敬老会、鹿島区行事

【新たな教育課題への対応】

- ①道徳の教科化に伴う道徳教育及び道徳の授業のあり方について
- ②6年間を見通したキャリア教育の充実・実践について
- ③英語教育に対応した授業づくりについて
- ④地域の実態に合った防災・放射線教育の実践
- ⑤通信技術の発達に伴う通信機器の適切な活用について

重点目標「見て 聞いて よく考えて 行動する」

平成28年度 道徳教育全体計画



重点目標の具現化のために(道徳教育全体計画:別葉)

資料 3

学年	1
今年度の重点目標 相手の立場を考え、礼儀正しい態度をとることができる子どもを育てる。	

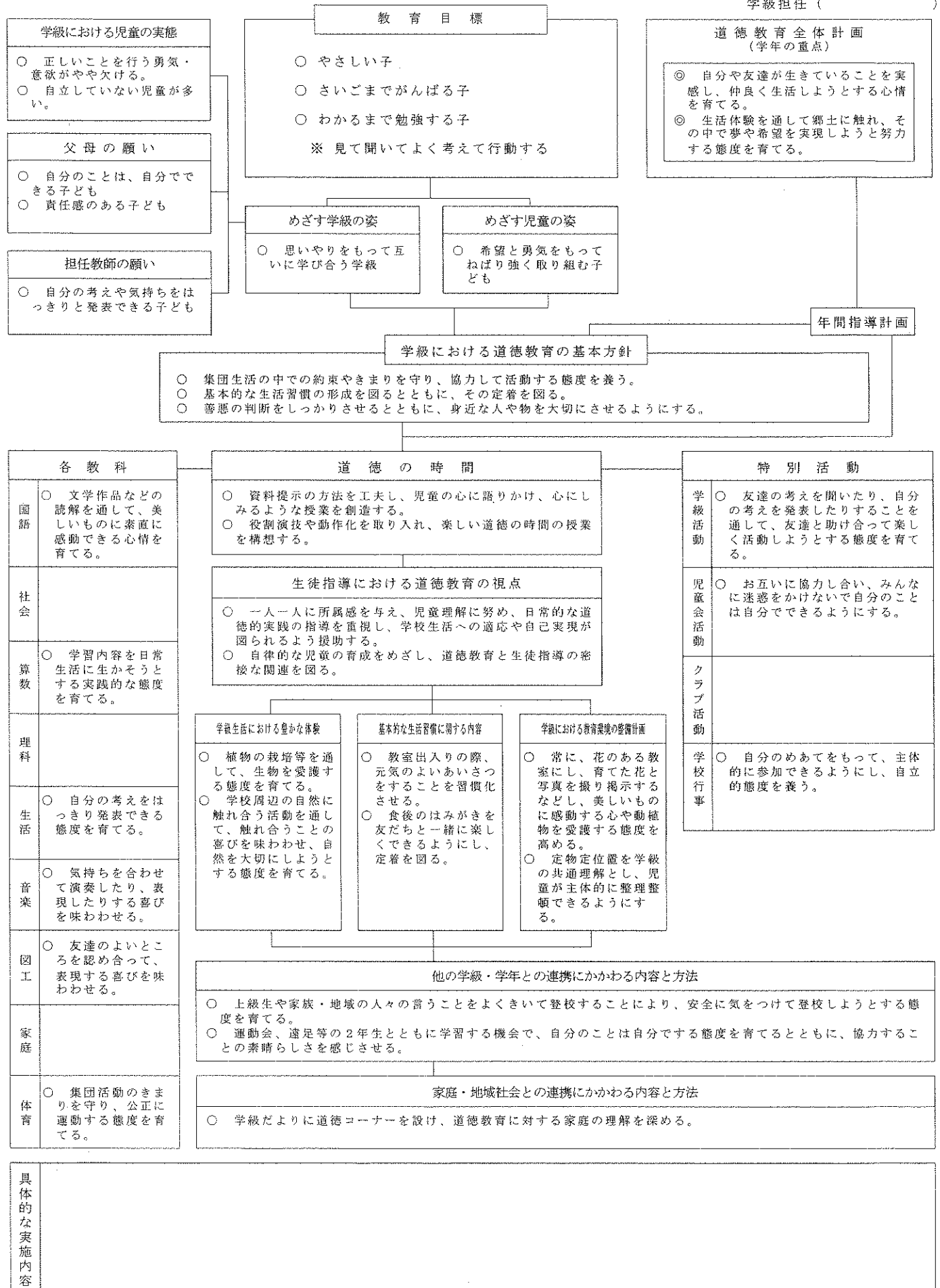
月	道徳の時間(主題名)	各教科	特別活動	外国語・総合	豊かな体験	基本的な生活習慣	教育環境	他学年との連携	家庭・地域との連携
4	元気な声で:B(8)	うたでなかよし(音)	入学式 1年生を迎える会		学校周辺の自然体験	朝のあいさつ指導	鉢花の世話	通学路でのあいさつ	学級だより 道徳コーナー
5	時間のきまり:C(10)	がっこうだいすき(生)	運動会 愛校活動(花壇)		花壇の花の世話	屋のはみがき運動		2年生との協力(運動会)	
6		つうがくろをあるこう(生)			学校周辺の自然体験				
7	きまりの大切さ:C(10) 礼儀の心:B(8)	すきなことなあに(国)					学期末清掃		
8		なんじなんじはん(算)							
9	みんなのもの:C(10)	はなそう・きこう(国)	遠足		自然体験			2年生との協力(運動会)	
10		ごちそうパーティー(図)	学習発表会			来校者へのあいさつ			
11	やさしい気持ち:B(6)	じぶんでできるよ(生) かけあし(体)	学校のきまり(学)						
12	友だちっていいな:B(9)						学期末清掃		
1		声にだしてよもう(国)							
2	友だちを思う心:B(9) 思いやりの心:B(6)	なんじなんぶん(算)							
3			正しい言葉づかい(学)				学期末清掃		

平成 28 年度

道徳教育の学級における指導計画

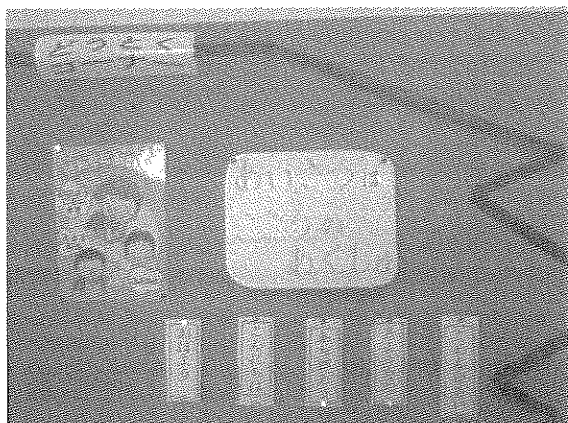
第 1 学年

学級担任 ()



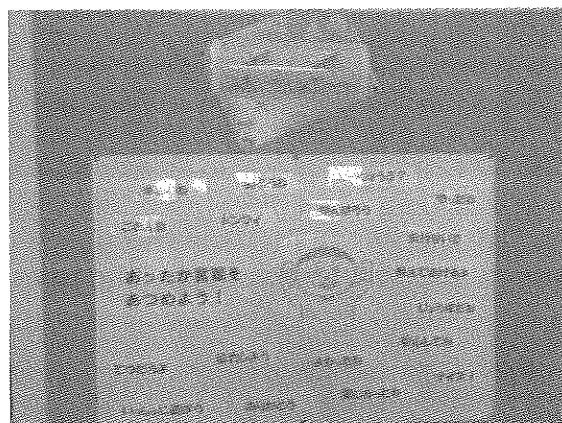
＜道徳コーナーの設置＞

【低学年】



生徒指導の月別目標から、あいさつについて基本的な言葉を標記し、あいさつすることについて、その意味や道徳的価値に対する理解を深めることをねらいとして掲示を構成した。

【中学年】



学級の課題となっていた言葉づかいについて、自分の生活場面を振り返らせるとともに、次の道徳の時間への意識付けとなるように掲示を構成した。

【高学年】

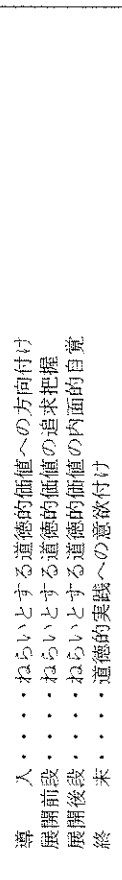


平成29年の年明け早々にインターネット上で話題となった「ベビーカーに赤ちゃんを乗せて初詣に参拝することへの自粛要請」の是非について児童に考えさせたいと考え、掲示を構成した。

道徳科授業改善の視点

道徳授業のイメージ

- 「人は生まれながらにして、よりよく生きたいと願う存在である。」性善説
※ だから不十分な自分を自覚すると完全な自分になりたいと努力するエネルギーがはたらきます。
- 道徳の時間は何をする時間か・・・自己を見つめる（自己の生き方を見つめる）



おぼらんとする道徳的価値（展開前段）

（展開後段）自分の道徳的価値観
↑ = よりよく生きたいと願うエネルギー

道徳科の授業改善の考え方

- 1 道徳科になって授業はどのように変わらなければならないか。
 - 道徳科の授業と道徳の時間のねらいは「道徳の人格の成長を促す」という点において変わらない。
 - 道徳教育における道徳科の授業の位置付けもこれまでの道徳の時間のそれと変わらない。
 - 学習指導要領の文言も大きく変わっていない。

2 道徳科の時間で期待される変容

- これまでの道徳の時間では、以下のような変容が期待されてきた。
- | | 毎時間 |
|-----------------------|-----|
| ① 自分と異なる感じ方、考え方に気付く | 毎時間 |
| ② 自分の価値観に気付く | 毎時間 |
| ③ 自分の感じ方、考え方が一層明らかになる | 毎時間 |
| ④ 新しい向上した価値観をもつ | 毎時間 |
- 道徳の評価については、「学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、指導に生かすよう努める。ただし教員による評価は行わない。」とあることから、これらのことが大きく変わるとは考えられない。しかし、今回の改訂の趣旨を踏まえ、道徳的価値の理解を基に」という内容が全てに書き加えられ、さらに、「生き方について考え、判断する。」という内容が、②の内容に書き加えられると考える。

- | |
|--|
| ① 道徳的価値の理解を基に、自分と異なる感じ方、考え方に気付く。 |
| ② 道徳的価値の理解を基に、自分の価値観に気付く、生き方について考え、判断する。 |
| ③ 道徳的価値の理解を基に、自分の感じ方、考え方が一層明らかになる。 |
| ④ 道徳的価値の理解を基に、新しい向上した価値観をもつ。 |

3 道徳科の授業として変わらなければならないこと

- 変わらなければならないものは何か → 道徳の授業の質的改善 → 質的改善のキーワード
学習指導要領解説の記述から、授業改善のためのキーワードを拾い出していくとおおよそ次のようなことを改善の視点としてあげることができる。

<道徳科の目標・内容から>

- 道徳的価値の理解を基に
 - 道徳的な判断力を育てる
 - 物事を多面的・多角的に考える
- <道徳の指導の在り方から>
- 主体的な学び → 子どもの問題意識 → 子どもが自ら問いをもつ
 - 協働的な学び → 問題の追求 → 人物への共感だけでなく、その価値や生き方を話し合う
 - 能動的な学び → 多様な考え方や感じ方への納得 → 比べ合い認め合う → 対立、議論、討論する
 - 現代的な課題への取組 → 解決に寄与しようとする意欲や態度の形成

4 道徳科の授業におけるアクティブ・ラーニング

「何を知っているか」ではなく「何ができるか」という行動的側面を重視し、子どもが主体的に道徳的な問題を判断し、実践できるような資質・能力を育成する。

- 人間としての在り方・生き方について考える力
- 問題を解決する力（判断して行動する力）
- コミュニケーション能力（他者との関係をつくる力）

<体験的な学習の活用>

- 役割演技（ロールプレイ）により考えを深める。
- 実物や実験により、実感を深める。
- ・ 体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について道徳的価値と関連付けて考える。

<問題解決的な学習>

- 何がそこで問題になっているのか
- どのような考え（価値観）が対立しているのか
- 登場人物はどうすべきなのか
- ・ 自分ならどうするか
- ・ 人間としてどうすべきなのか
- ・ このことの結果はどうなるのか
- ・ いろいろな立場から見たり考えたりしても差し支えないものであるか
- ・ 誰もが同じように行動したらどうなるか
- ・ 誰もが幸せになれるか

※ 実行可能な現実論で、複数の解決法を比較検討し、人間としてよりよい生き方を協働探究する。

<多面的に考える>

- ねらいとする道徳的価値を「見る立場を変える」「多くの人の見方を生かす」ことを通して、対比したり深めたりする。

（案内例）

「主人公は、どんな気持ちだったか」「主人公はどんなことを考えていたか」・・・共感
「主人公が～したのはどうしてか」「～から何がわかるのか」・・・分析

<多角的に考える>

- ねらいとする道徳的価値を「自分の考え方の主張」や「生き方の選択肢」について、他との違いと「対立する」「議論する」ことで、より明確にしていく。

（案内例）

「自分だったらどう考えるか」「自分だったらどうしているか」・・・投影・置換
「～をした主人公のことをどう思うか」「主人公は、そのようにしてよかったのか」・・・批評

1

1

- | | | | |
|---|---|----|---|
| 1 | 事前調査の結果から、本時のねらいとする道徳的価値を予見する。
・ 弱虫ってどんな人？
・ 勇気がある人ってどんな人？ | 10 | ○ 事前調査の結果を一覧表にし、自分の意識と友だちの意識を比べながら確かめることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 |
| 2 | 資料「ぼくはいかない」を読んで話し合う。
(1) 主人公が迷っているわけを話し合う。
・ 一緒に行くのはなぜか
・ 行かないと断るのはなぜか
(2) 友だちから非難される主人公の気持ち話を話し合う。
・ よわむし
・ ともだちではない | 20 | ○ 先行オーガナイザーにより、道徳的問題を構造的にとらえることができるようにする。
○ 一緒に行く場合と行かない場合に整理して話し合わせること、それぞれの理由を比較できるようにする。
○ フラッシュカードにより、「ぼくは行かない」とはっきり答え、主人公の態度をおさえておく。
○ 主人公役を輪番で演じさせ、主人公の気持ちを聞いて話し、主人公に言い返しをさせたりして、疑似体験させることで主人公の心情を共感的に理解させる。 |
| 3 | (3) 胸を張ってはつきりと答える主人公の態度について話し合う。
・ 主人公の立派なところ
・ 自分自身との比較 | 10 | ○ 主人公の自信ある態度について、自分自身の場合と比較させて、自分自身の道徳的状態を明らかにさせていくとともに、誰でもできる行動ではないことを理解させる。 |
| 4 | これまでの自分を振り返り、「勇気」をもって生活することの難しさに気づく。
・ 事前調査の結果から
・ これまでの体験から | 5 | ○ 事前調査の一覧に、「仲のよい友だちにももたぬことはだめと言え人」と書き足す。
○ 事前調査の「勇気のある人」に自分は当てはまるところがあるかどうか振り返らせる。 |
| 5 | 教師の説話を聞く。 | 5 | ○ 変勇と勇気について、よいこと、正しいことという判断が大切なことを伝える。 |

【第2学年 研究授業 考察】

「アクティブ・ラーニング」の視点から見た道徳の授業の在り方について

1 発問構成及び学習過程について

- ・主体性が引き出され、能動的な学習を通して自らの思考を深めようとしているか。

- 先行オーガナイザーを行うことで、児童が資料の内容を正しく理解し、ねらいとする価値に沿って授業を進めていくことができた。
- ロールプレイを通し、主人公の立場や気持ちを理解することができた。そして、勇気ある態度に共感したり、自分の考えも加えて発言したりして、道徳的価値と関連付けて考えを深めることができた。
- 危険な川ということが強調されすぎて、自分は行かないという意見が最初から多く出てしまった。
- 発問は、共感化させる内容と批判させる内容のもので行った。共感する意見はたくさん出たので、ロールプレイをした時に、周りで観ている児童の意見を多数出させればよかった。

2 板書構成について

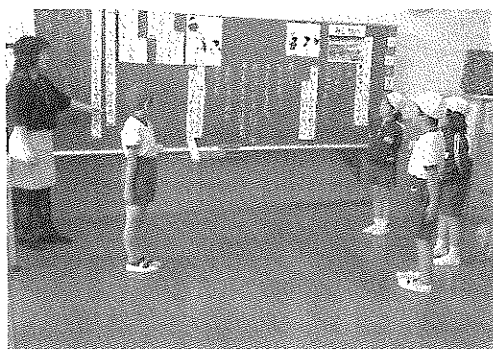
- ・道徳的な問題場面の流れが構造的に表されているか。

- 挿絵は、主人公だけに色をつけ目立たせた。また、主人公の表情を伏せることによって、児童の考えを引き出すことができた。
- 中心場面は板書の中心に位置付け、押さえることはフラッシュカードを貼った。子供たちの考えは白チョークで書き、大事なことは赤や青で線を引いたり、囲んだりした。全体的に価値の多様性や児童の思考の流れが分かりやすかった。

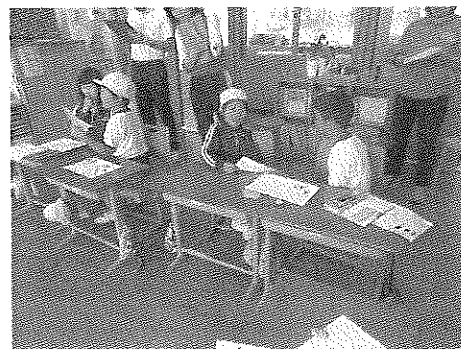
3 その他

- ・1、2以外の視点から。

- 資料の中には、内容項目が3つ（友情協力・勇気・節度ある態度）含まれていたため、児童は問題場面ごとに多様な考えを持ちながら、ねらいとする価値に迫ることができた。
- 授業の最後に、「主人公に言ってあげたい言葉」をワークシートに記入させたことは、評価や今後の指導に生かすことができた。
- 授業のまとめは、児童に意欲付けができるように余韻を持たせた終わり方ができるとよかった。



主人公の立場になって、自分だったらと考えている。



主人公の態度について、思ったことを伝え合っている。

第6学年 道徳学習指導案

日時 平成28年7月11日(金)3校時
場所 6学年教室 指導者 佐藤 香子

授業テーマ	手品師の立場を自分に置きかえて考え、約束を守ることの難しさと大切さを話し合わせることににより、誠実に生活することの大切さに気づかせる授業
-------	--

- 主 題 名 明るく生きる 【1－(4) 誠実、明朗】
- 主題設定の理由

誠実とは真心であり、誠の行いである。集団生活の中で誠実に明るく行動することは、互いに楽しく快適に暮らすために大切なことである。良心に促って精一杯努力することにより、自己の様々な面での向上につながる。また、人に対して陰ひななく真心を持って接することは、信頼関係の構築にもつながっている。自分の利益や防衛にとらわれず、真心を持って行動することによって、明るく誠実に生活することの快さに気づかせていくことが大切である。

この時期の児童は、集団生活の中では他人の行動や考えに左右されたり、利害関係にとらわれて都合よく行動したりすることもあり、自分の生き方、在り方を支えていくような信念がまだ確立されていない状況にある。

本学級の18名の児童は、それぞれが互いの短所や長所を認め合いながら、仲良く生活している。また、誠実に明るく生活することの大切さについては理解している。しかし、実生活においては、利害関係や心の弱さから不誠実な言動を取ったり、自己防衛からごまかしたりすることとも見受けられる。自分自身を振り返らせ、誠実な行動についても一度見つめ直させることが大切である。

本資料は、手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを増やして、自分が男の子と交わした約束を守るという内容のものである。大劇場へのチャンスを目前にして、手品師の約束を守ろうと決心するまでの葛藤に子どもたちが共感しやすい資料である。

本時では、大劇場へのチャンスの知らせを受けて、その夢を叶えたいという気持ちと、ひとりでぼっちの男の子との約束を守らなければならないという気持ちに揺れ動く手品師の心情に着目させる。その心の葛藤をしっかりと見つけるとともに、約束を守りとおした手品師の晴れ晴れとした姿に共感させることにより、児童がねらいとする道徳的価値に迫れるようにしたい。
- 本時のねらい
 - 約束を守ることの難しさと大切さに気づき、いつも誠実に行動し、明るく生活しようとする心情を育てる。
- 資料名

「手品師」道徳6 明日をめざして (東京書籍)
- テーマにせまるための手だて
 - 事前アンケートの活用

事前に「約束を守れてよかったと思った体験」と「約束を守ることが難しかった体験」を思い起こさせておき、導入に活用する。さらに終末においては、その時の心情や周りの様子などを想起させ、シートに書くことで振り返るようにさせる。
 - 構造的な板書の工夫

男の子との約束を守りたいと思う手品師の気持ちと、大劇場で手品をしてチャンスを掴みたいという考える手品師の気持ちとを板書で対比的に表し、その両方の思いに子どもたちを共感させて話し合わせることにて、手品師の葛藤をとらえさせる。

6. 通 程

資料8-1

学習活動・内容	時間	○教師の支援 ◎視点 評価
1. 本時にかかわる事前アンケートの結果を知る。	5	○事前のアンケート結果から、本時の内容へ関心を持たせるとともに、本時の内容にかかわる自分の経験について想起できるようにする。
2. 「手品師」を読み、登場人物、状況について確認する。	5	○登場人物の絵を提示し、判断の基準となる人物の状況を確認する。 ・手品師の現在の境遇について ・男の子の状況について
3. 手品師の気持ちを考える。	2 3	
(1) 男の子と約束をしたときの手品師の気持ちを考える。 ・男の子が元気になってうれしい。 ・明日も勉強出来るよ。	(3)	○絵カードで男の子の表情の変化をとらえさせ、元氣を取り戻した男の子を見て、明日も来ると約束した手品師の優しさに共感できるようにする。
(2) 手品師が、友人からの知らせを受けて迷っているときの気持ちを考える。 ・やっとながかな。 ・このチャンスを生かしたい。 ・大劇場に行きたい。 ・約束は破れない。 ・きっとあの子は待っている。	(15)	○なぜ男の子のところへ行きたいのかについて、約束しただけではない様々な理由を掘り起こすために少年の表情に着目させる。 ○大劇場で手品をしたその後のことを様々な予想させることで、手品師のその後を左右する大きな出来事であることをとらえさせる。 ◎自分が手品師だったら、どのような行動をするか、またはするほうがよいと思うか、話し合うことで、子どもたちの道徳的判断を明らかにしていきたい。 約束と大劇場のチャンスを考えることができるか。(発言・つぶやき)
(3) たった一人のお客様の前で手品をしている手品師の気持ちを考える。 ・やっぱり約束を守ってよかった。 ・男の子に喜んでくれてよかった。 ・気持ちがすっきりした。	(5)	○手品をしなが、すがすがしく思う手品師の心情を考えるとともに、男の子との約束を選んだ手品師の考え方や生き方を考えさせる。
4. 今までの自分について振り返る。	7	○事前アンケートにある場面について、その時の心情やまわりの様子を振り返らせることで、自分自身の誠実な行動や心情を見つめさせたい。 誠実に行動することの大切さについて振り返ることができたか。(つぶやき・表情)
5. 教師の説話を聞く。	5	○「わたしたちの道徳」p.39を開き、教師が読んで余韻を持って終わる。

【第 6 学年 研究授業 考察】

「アクティブ・ラーニング」の視点から見た道德の授業の在り方について

1 発問構成及び学習過程について

- ・主体性が引き出され、能動的な学習を通して自らの思考を深めようとしているか。

- 先行オーガナイザーを導入することで、道德的な問題場면을構造的に理解することができた。
- 手品師が迷いに迷っているときの気持ちを考えさせることで、その後の「自分が手品師だったらどうするか」の話し合いが活発に行われた。
- 自分の身に置き換えて考えることで、主体的に道德的な問題を判断しようとする姿が見られた。
- 手品師の迷った気持ちを考えさせるときに「約束を守ることの大切さ」をもっと押さえることで、約束を守ることの難しさとお切さを感じさせることができたのではないか。
- 少年の前で手品をしている手品師の気持ちを考えた後に、少年との約束を選んだ手品師の生き方についても考えさせられたらよかつたのではないか。

2 板書構成について

- ・道德的な問題場面の流れが構造的に表されているか。

- 少年との約束と大劇場とで迷う手品師の気持ちを対比的に表すことによって、その両方の思いとらえることができ、手品師の葛藤をとらえることができた。
- 児童から出た意見の言葉を吟味し、板書に生かせるとよかつた。

3 その他

- ・ 1、2 以外の視点から

- どの児童も自分の考えを発言できていたのがよかつた。
- 「約束を守れてよかつた経験」「約束を守ることが難しかった経験」の事前アンケートを導入に利用するとともに、展開後段で自分の経験を振り返ることに活用することができた。
- 夢をめざして大劇場へ行くのも自分の気持ちに誠実なことだと考えると、約束を守ることの大切さをどのように気付かせていくかが課題である。



「わたしが手品師だったら・・・」
友達と積極的に考えを交流している様子。



これまでの自分の経験をふり返り、その
時の心情と周りの様子を振り返った。

第4学年 道徳学習指導案

日時 平成28年7月1日(金)第4校時
場所 4学年教室 指導者 深江 恵輔

1 主 題 名 感謝する心をもって 2-(4) 尊敬感謝

2 主 題 設定の理由

日々の暮らしは多くの人々の支えがあって成り立っていて、それらの人々への感謝の気持ちをもって生活することが大切である。中学年では感謝する対象を家族だけにとどまらず、自分たちの生活を支える様々な人々にまで広げていくことに重点を置きたい。それらの存在に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって関わっていくことが大事であると考ええる。

児童は、3月に行われた東日本大震災追悼集会の際に書いた感想の中で「支援してくれた人や消防や警察、自衛隊の人には本当に感謝したい。」「日本は海外の人にも助けてもらってから、感謝しなくてはならないと思う。」「など、震災のときにお世話になった人々への感謝の気持ちを表している。4年生になってからは社会科で自分たちの暮らしを守る人々の仕事について学習し、多くの人々に支えられて生活することができていることに気づくことができた。身近にいる人以外へ目向けようとするようになってきたこのように時期に、改めて自分たちの生活を支えている人々やお世話になった人々への感謝の思いをもたせたい。

本資料は、震災当日から毎日、車で公園に水をくみに行っていたと主人公とその家族が、ガソリンをできるだけ節約したいと考え、遠くの公園まで歩いて行くことにした。そんな中、近くの集会所でも給水ができるという連絡が入る。集会所では福岡県久留米市の水道職員が給水の世話をしていた。主人公は遠く離れた地域からかけつけてくれた人々の支えがあって、水を確保できることに気づく。主人公の心情や行動を通して、たくさんの人たちに支えられたことを思い出し、感謝の気持ちを多くの人々に広げていくことが期待できる資料である。

指導においては、まず、毎日の生活の中でお世話になっている人々について発表させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。次に、資料の中の水を持つということを動作化で再現することで、その重さや歩いて水くみに行きたくない主人公の気持ちを実感としてとらえられるようにする。そして、主人公の気持ちを支えるきっかけになった水道局員の言動とそれを支える気持ちの部分に目を向けさせることで、主人公の気持ちの変化とお世話になった人々の存在に気付かせたい。さらに、自分たちの生活を支える人々への思いを振り返り、ワークシートに書いて発表し合うことで、感謝の思いをもち、人間社会のあたたかきを感じられるようにしたい。

3 本時のねらい 自分たちの生活を支えている人々やお世話になった人々を尊敬し感謝する心情を育てる。

4 資料名 がんばらやんばい
「ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集 敬愛・つながる思い」

5 板書事項

水道局の職員

絵

がんばらやんばい

ぼく

絵

生活を支えてくれる人

・はげましてくれ。
・遠くから来てくれた。
・夜中に車で来てくれた。
・久留米での仕事もある。
・家族が待っているから。

・はげましてくれ。
・遠くから来てくれた。
・はげましてくれてうれしい。
・くじけずにがんばろう。
・いつかおんがえしをしたい。

・水くみにいきたくない。
・いつまで行かなくてはいけないんだ。
・重いのはいやだな。

・どんなふうに支えてくれているか
・火事から守ってくれる。
・事げんや事故から守ってくれる。
・偷けでばらばらしている。

・消防士
・警察官

6 学習過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点
1 自分たちの生活を支えてくれている人について想起する。 ・ 消防士 ・ 警察官	5	○ 身近にいる人々に視点を置いてお世話になっている人についてとらえられるようにすること で、ねらいとする道徳的価値への方向づけを図る。
2 資料「がんばらやんばい」を読んで話し合う。 (1) 公園まで歩いて水くみに行くことになったときの「ぼく」の気持ちを考える。 ・ いつまで水くみに行かないといけないんだ。 ・ 重い水を持つのはいやだな。 (2) 水道局の人の話を聞いたときの「ぼく」の気持ちを考える。 ・ そんなに遠くから来てくれたのか。 ・ はげましてくれてありがたいな。 ・ 地元で家族が待っているんじゃないかな。 ・ 久留米での仕事もあるんじゃないかな。 (3) 「ぼく」が、どんなことを水道局の人に伝えたくなくなったのか考える。 ・ 遠くから支援に来てくれてありがたいと思います。 ・ くじけずに水くみをがんばろうと思います。 ・ いくつか愚言をしたいと思います。	25 (10) (10) (5)	○ 資料を鑑読する。 ○ 発問の前に水くみに行くことを動作化し、水くみに行きたくない「ぼく」の気持ちを実感としてとらえられるようにする。 ○ 水道局の人の目に見える行動だけでなく、それを支える気持ちの部分についても考えさせる。 ○ 全国の人から支えられていることに気付いた「ぼく」の気持ちを感ぜられるようにする。
3 毎日の生活を支える人々について、自分を振り返る。 ・ 消防署の人が命のきけんがあるのに消火活動をしてくれている。 ・ 県外の人が毎月手書きのメッセージを全学年級分送ってくれていた。	10	○ 生活を支えてくれる人について、感謝していることとその理由をワークシートに書き、意図的指名に生かすようにする。
4 今日の学習を振り返る。 ・ 感謝することについての教師の講話を聞く。	5	○ 体験を踏まえた講話をし、感謝の意味について静かに考えさせる。

【第4学年 研究授業 考察】

「アクティブ・ラーニング」の視点から見た道徳の授業の在り方について

1 発問構成及び学習過程について

・主体性が引き出され、能動的な学習を通して自らの思考を深めようとしているか。

- 先行オーガナイザーを行うことで、ねらいとする道徳的価値について理解しようとする心の準備ができた。
- 水をくむ主人公の動きを動作化することで、実感を伴って主人公の気持ちをとらえることができた。
- 「お金をもらって来ているのに…」という発問が児童の心をゆさぶり、深く考えるきっかけになった。
- グループやペアで話し合う活動を入れれば、全員が自分の考えをもつことができたのではないかな。
- 仕事以上、お金以上の価値があるという意識をもたせるためのもう一押しがあるとよかった。
- 自分の思いを書く時間をとってもよかったのではないかな。

2 板書構成について

・道徳的な問題場面の流れが構造的に表されているか。

- 主人公の顔の色や表情がなかったので、思考を深めることができた。
- 2人の言葉や思いのやりとりがわかる構成になっていた。
- 主人公の気持ちを考えさせたいのに2人の顔が並んで貼られていたので、どちらの人物の気持ちについて考えるのかははっきりしなかった。
- 表情カードや気持ちのレベル曲線を使って主人公の気持ちの変化を表す方法もあった。
- 構造的であるが、中心発問と心の対比がうまく表せていなかった。

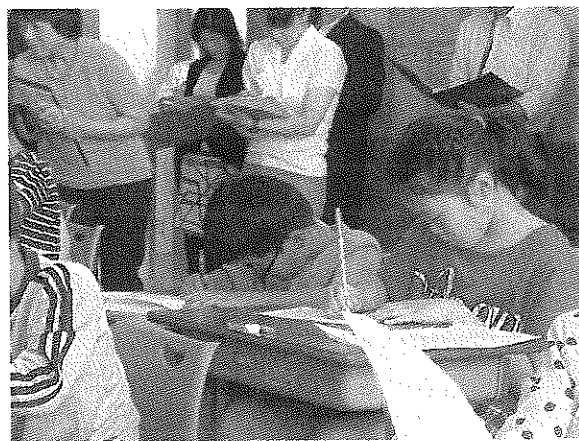
3 その他

・1、2以外の視点から。

- 児童にとって身近な題材だったので、より意欲的に考えることができた。
- 児童の発言が多く、発言を聞き合う態度もよくできていた。



ウォータージャグを両手にもち、水の重さを実感としてとらえている。



終末では、感謝している人とその理由について書き、発表した。

第5学年 道徳学習指導案

日時：平成28年12月16日（金）第2校時
場所：5学年教室 指導者：今出 裕之

資料10

5 学習過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※評価
1 アクアマリンふくしまについて知る。 ・ アクアマリンふくしまに行ったことがありますか。	10	○ 震災直後と再オープンの写真を提示し、本時の学習の方向づけをする。再オープンまでの期間を問い、4か月しかかかっていないことを押さえる。
2 資料を読んで話し合う。 (1) 津波の被害により水族館を取り巻く環境について考える。 (2) 原発事故の後、どこへ助けを求めても断られた時の津崎さんの気持ちを考える。 (3) 5日後によりやくやく受け入れられてもえられた時の津崎さんの気持ちを考える。	20	○ 先行オーガナイザーにより、アクアマリンふくしまの写真は提示し、場面や状況把握を押さえてから資料の読み聞かせを行う。 ○ 地震、そして津波の被害やライフラインが切断してしまつた、生き物たちの状況が悪化していることなどをとらえさせる。 ○ 全国の水族館に電話をかけても断られてしまう状況を、津崎さん役を児童、相手の水族館側を担任が役割り演技し、津崎さんたちの気持ちを理解させる。 ○ 断られても諦めずに粘り強く行動した結果、動物たちの命を助けることができたということから、困難にくじけず、希望をもって取り組むことが大切であると気づくことができるようにする。
3 今までの自分を振り返る。	10	○ 自分の夢や目標を実現させるために、今がんばりたいことをワークシートに記入させる。 ※ 希望や勇気をもって努力し続けていくことが大切であると気づき、困難にくじけず目標や理想に向かって努力しようとする意欲がもてたか。 (ワークシート・発表)
4 教師の説話を聞く。	5	○ 困難があっても目標を見失わずに努力してきた教師の体験談を聞くことで、目標や夢に向かって努力しようとする意欲を高めたい。

6 板書事項

5 日後

・ あきらめ
・ これまで命が救えてよかった

絵画員の
うてもど
もらえな
ない受け
入れられ

受け入れを断られる

・ どうすればいいの
・ このままでは死んでしま
・ なんとかして救いたいま

原発の事故
ライフラインの切断
状況の悪化

震災直後の写真

さばうの水族館
アクアマリンふくしま

授業テーマ

- 主人公の行動する姿に自分を重ねて話し合わせることを通して、希望を持つことの大切さに気づかせ、目標に向かって努力しようとする意欲を高める授業。

1 主題名 目標に向かって努力する 1 - (2) 希望と勇気 努力と強い意志

2 主題設定の理由

これからの社会をよりよく生きていくためには、多少の困難はつきものであり、困難や失敗があってもくじけることなく、自分の夢や目標に向かって着実に歩み続けることが必要になってくる。児童は、目標を立てて努力しようとしても困難や失敗に直面すると、すぐにあきらめてしまうことが多い。そこで、希望をもって努力することは、壁や挫折を乗り越える力となることや、今できることを一生懸命続けることが夢の実現につながるなどについて考えることが大切であると考える。本学級は、男子6名、女子7名、計13名の学級である。高学年として学習や係活動などに意欲的に取り組んでおり、学校や学級をよりよくしていくことと、力を合わせて取り組んでいこうとする思いが強い一方、困難なことに対しては初めから諦めてしまつたり、面倒くさいことを避けて楽な方を選好ししてしまいう傾向が見られる。

本資料は平成23年の東日本大震災における地震、津波、原発事故により甚大な被害を受けたアクアマリンふくしまを、短期間で再オープンに向けて懸命に手をつくした飼育員の津崎さんが主人公である。困難な状況にもあきらめず、生き物の命を守るために献身的に働く姿から、希望をもつことのすばらしさや困難なことを克服しようとする人間の強さについて自らの考えを深めることができる資料である。

本時の指導にあたっては、導入で写真資料を活用し、震災の危機的状況を確認させる。その中でも津崎さんのように行動できるかどうか、自分を津崎さんに重ね合わせて考えさせていく。中心発問では、原発事故の後、どこへ助けを求めても断られた時の津崎さんの気持ちを役割り演技を通して考えたり、友達との考えと比較したりすることにより、道徳的価値の理解を深める。困難な状況の中でも津崎さんたちがあきらめずに努力し、目標を達成できたことに焦点をあて、児童のこれまでの生活を振り返らせていきたい。展開後段では、自分の夢や目標を改めて確認し、実現するために今できることを考えさせてワークシートにまとめさせる。終末では、教師の困難な状況であつてもあきらめずに努力を続けてきたことや、努力が実り目標を達成できた時の充実感についての話を聞くことで、児童の目標や夢に向かってくじけなく、希望を信じて努力しようとする意欲を高めたい。

3 本時のねらい

自分の目標を実現するために、困難にくじけなく、最後まで粘り強くやりとげようとする意欲を高める。

4 資料名 きぼうの水族館 ～アクアマリンふくしま～
「ふくしま道徳教育資料集 第1集 生きぬく・いのち」

【いわき地区】 いわき市立宮小学校



道徳教育推進校《実施報告書》

1 学校紹介

学 校 名	いわき市立宮小学校
所 在 地	いわき市内郷宮町竹之内30番地
校 長 名	松 山 祐 介
学校の教育目標	☐ よく考える子ども ☐ 心の豊かな子ども ☐ 健康でたくましい子ども
学級及び児童生徒数	普通学級6（72名） 特別支援学級1（3名） 児童数 75名
道徳教育にかかる 取組の概要	道徳教育で目指す児童の姿を「社会との関わりの中で、自分を見つめ、よりよい生き方を求める子ども」ととらえ、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動、日常の豊かな体験活動などとの関連を図りながら、道徳の時間の指導を次のような視点で充実を図り、道徳的価値の自覚を支えとして、自己に結び付けながら道徳的实践力を育成する。 ☐ 児童の実態に基づき、資料や指導過程を工夫し、道徳的实践力の育成を図る。 ☐ 道徳的価値に対する心情を高めるために、体験活動との関連を深め、児童の心に響き自尊感情を育む授業を推進する。 ☐ 自己を振り返ったり、自他のよさに気付いたりできる話し合いの仕方を身に付ける。 ☐ 自分の思いを表現しやすい雰囲気をつくり、自分を高めようとする気持ちを育てる。

2 研究テーマ

道徳的価値について考え、自分の生き方を見つめ、自信をもって生きようとする子どもの育成

3 テーマ設定の理由

現代は、社会全体のモラルの低下や家庭や地域社会の教育機能の低下、児童の社会体験・自然体験の不足などの問題が生じている。変化の激しい社会において人と協調しつつ自律的に社会生活を送るために必要な豊かな人間性の育成を図るために道徳教育の充実が求められている。

本校では、教育目標を「よく考える子ども 心の豊かな子ども 健康でたくましい子ども」と掲げ、豊かな人間性を育てるために、望ましい人間関係を醸成し、子ども同士が互いに認め合い、高め合い、一人一人に自己肯定感を持たせることを目指して指導を続けている。

児童は明るく優しく親切であり、与えられた役割をしっかりと果たすことができる。その反面、自分に自信が持てず、自分の考えを伝えられなかったり、失敗を恐れて積極的に行動できなかったりする児童が多い。根気強く取り組むことも苦手で、物事を途中であきらめてしまう姿も見られる。そこで、道徳の時間の充実を図りがんばった体験やできるようになった体験を積み重ね、認め合う機会を設定すれば、自信を持って生きようとする子どもを育成することができるであろうと考え、本テーマを設定した。

4 研究計画

月 日	主 な 内 容
4 月 8 日	・現職教育推進委員会（全体計画の検討）
4 月 1 5 日	・現職教育全体会（①全体計画の提案 ②今後の日程）
4 月 2 0 日	・各研究部会 活動計画の立案
4 月 2 2 日	・第 1 回授業参観 保護者への道徳授業公開 2 学年
5 月 6 日	・第 1 回授業研究会・授業案検討会 第 2 学年
5 月 1 3 日	・第 1 回授業研究会・事後研究会 第 2 学年（要請訪問）
6 月 3 日	・第 2 回授業研究会・授業案検討会 第 5 学年
6 月 1 0 日	・筑波大学附属小学校 学習公開・研究発表会への参加（先進校視察）
6 月 1 7 日	・第 2 回授業研究会・事後研究会 第 5 学年（理事研修会）
6 月 2 4 日	・第 3 回授業研究会・授業案検討会 浅倉先生
7 月 1 5 日	・第 3 回授業研究会・事後研究会 浅倉先生（要請訪問）
7 月 2 0 日	・現職教育全体会（研究公開に向けての準備について）
8 月 中旬	・研修会への参加
8 月 2 6 日	・現職教育全体会（①先進校視察伝達講習会 ②2 学期の研修の進め方）
9 月 2 日	・第 4 回授業研究会・授業案検討会 第 3 学年
9 月 1 6 日	・第 4 回授業研究会・事後研究会 第 3 学年（理事研修会）
1 0 月 1 8 日	・小教研公開協力校発表会 第 1・4・6 学年授業公開
1 0 月 2 8 日	・発表のまとめと反省
1 1 月 下旬	・講師による模擬授業及び講演会
1 月 1 3 日	・本年度の研究の反省と次年度の計画
2 月 1 0 日	・現職教育推進委員会（研究の反省と次年度の計画）

5 児童生徒の実態及び地域の課題

本校は、内郷駅から 3 km ほど離れた中山間部に位置する。学区は公共施設や商店が散在しており、静かでのんびりとした地域である。全校児童は 7 5 名でほとんどの児童が顔見知りであり仲がいい。単学級であるためクラス替えはなく、同じ仲間と 6 年間を過ごす。

児童自身の学校生活アンケートからは、学校生活を楽しいと感じる児童がほとんどであり、おお

むね良好な学校生活ぶりがうかがえる。児童は、明るく、優しい気持ちを持っていて、互いに親切である。指示されたことをきちんと聞き入れる素直さがあり、清掃などの奉仕活動もしっかりとできる。反面、考えや気持ちを伝え合う力が不足しているために、自分の考えを伝えられなかったり、自信が持てないために指示を待っていて、積極的に行動できなかったりする姿も見られる。児童同士の人間関係が、固定化しがちであるため、失敗することを恐れてあきらめてしまったりすることも多い。また、根気強く我慢してがんばることも不得手である。

6 道徳教育における校長の指導の方針（資料1）

- （1）学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実に努め、道徳的心情を豊かにするとともに、児童の内面に根差した道徳性の育成を図る。
- （2）児童に自尊感情を醸成するため、一人一人のよさや成長を認め、ほめ、励まし、自己肯定感や所属感を持たせるとともに、互いのよさを認め合う学級づくりに努める。
- （3）道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えることを目指す「道徳の時間」の充実に図るために、現職教育を中心に研究を進め指導力の向上を図る。
- （4）宮幼稚園や内郷第二中学校との連携を深め、家庭・地域と協力しながら、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度を育てる。

7 平成28年度 道徳教育の全体計画について（資料2）

- （1）学校教育目標及び児童の実態、保護者や地域の願いを受け、重点目標を「道徳的価値について考え、自分の生き方を見つめ、自信を持って生きようとする子どもの育成」と設定した。
- （2）教育活動全体を通じた道徳教育の充実に図るために、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動と道徳の時間の指導との関連を示した。
- （3）全校縦割り班活動を中心とした、学校行事や集会活動、ボランティア清掃活動などの異学年集団による豊かな体験活動を位置付けた。
- （4）学級経営を基盤とした人間関係づくりを重視するとともに、道徳教育推進教師を中心とした校内体制を構築し、家庭や地域との連携を深めるようにした。

8 平成28年度 道徳教育の全体計画の「別業」について（資料3）

自校の重点の内容項目についてのみ記載し、その他の内容項目については省略することで焦点化できるようにした。また、計画だけに終わらず、1年間を通して反省や改善点をその都度記入することによって活用を図ることとした。

9 平成28年度 学級における指導計画について（資料4）

道徳教育全体計画と年間指導計画を受け、学級における児童の道徳性の実態から目指す学級像・学級における道徳教育の重点目標を設定した。本校の特色ある教育活動である縦割り班活動を充実させるために他の学級・学年との連携や家庭・地域社会との連携を位置付けるとともに、わたしたちの道徳を意図的・計画的に活用できるように作成した。

10 道徳教育推進教師等の実践について

本校の道徳教育推進教師は、研修主任を兼ねていることから、次のような道徳の授業研究を中心とした研修を進めてきた。

(1) 道徳教育の研修の充実に向けて

① 道徳教育に関する情報提供

道徳に関する研修会や研究会で得た資料等については、増刷りして配付したほか、毎週月曜の職員打合せで共有するようにした。また、毎週水曜日(16:00～16:30)に「現職カフェ」という愛称の話合いの場を設け、道徳の授業を中心とした情報交換を行った。

② 伝達講習会の実施

筑波大学附属小学校学校公開(6月)、小教研道徳部研究協議会(7月)、教師のための次世代育成人権セミナー(8月)、道徳地区別推進協議会(8月)に参加した教員が、研修で得た内容について伝達することで、教職員で共有してその後の指導に活かした。

③ 現職教育だより「こころのえいよう」の発行(資料5)

教職員間で共通理解を図りながら同一步調で研究を進められるようにという目的で随時発行した。検証授業後には、その授業で明らかになった成果と課題についても教職員に現職教育だよりを通じて周知したことで、その後の検証授業につなげることができた。

(2) 授業研究会の進め方についての提案

第1回検証授業は、昨年度の成果と課題を踏まえつつ、新たな指導方法として問題解決的学習を取り入れた授業を行ったことで、全教職員がその後の授業研究の見通しをもつことができた。

第1回検証授業 第2学年(5月)

○主題名「ともだちと仲良く(B友情、信頼)」

○教材名「およねいりすさん」(『わたしたちの道徳2年』文部科学省)

①ねらい

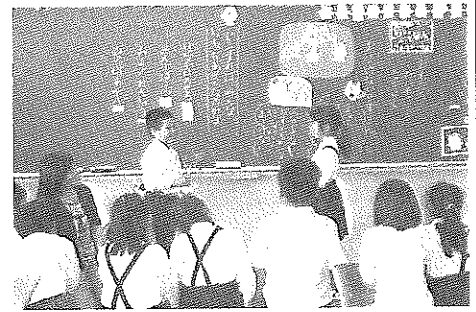
「動物たちは、どうすればよかったのか」を考えさせることを通して、相手の立場や気持ちを考えて行動することの大切さに気付かせ、友だちと仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。

②手立てと指導の実際

- ・問題解決的学習を取り入れ、児童が主体的に考え判断することができるようにする。
 - 場面絵とペープサートで登場人物の心情を捉えさせたことにより、課題が明確になった。また、「かめさんといっしょに考えよう」とはたらきかけたことにより、課題に対して主体的に考える姿が見られた。
- ・考えを劇化させ、全体の思考を広げる。
 - ワークシートに考えを書いてから劇化させたことにより、より明確に考えを伝え合うことができた。
- ・温める段階でゲストティーチャーの話聞くことにより、価値への思いを深めさせる。
 - 教頭先生から自分の経験を踏まえた話を聞いて、温かい気持ちで実践意欲を高めることができた。

③実践から

- ・問題解決的な学習を通して解決策を考えさせた
が、考えの根拠を明らかにして話し合いを進めないと方法論に終始してしまい、道徳的価値に対する考えを深めることができない。
- ・自分の考えを劇や役割演技等で表現することは、低学年において有効であった。多様な考えに触れたり、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。



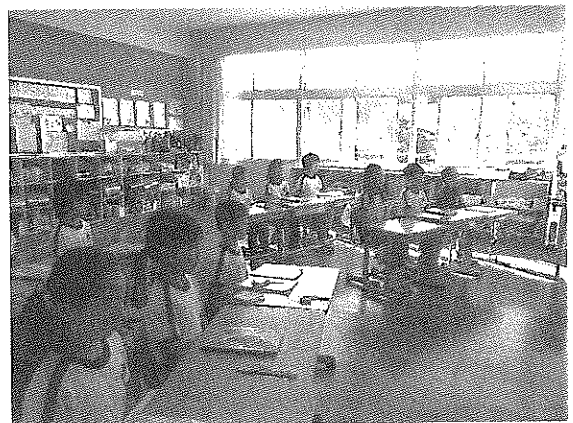
(3) 全教育活動における道徳教育の充実に向けて

研究テーマである「自信を持ってよりよく生きる児童の育成」のために、教育活動全体の中でがんばった体験やできるようになった体験を積み重ね、児童の自己肯定感や自己有用感を高めさせる取組を推進した。

- ① 児童会の集会活動、遠足や運動会の行事における縦割り班活動
- ② 上級生と下級生との交流や隣接学年との交流をはじめ、隣接の幼稚園との交流
- ③ 自己コントロール力を培うことを目的に毎朝行っている立腰教育「やる気スイッチタイム」
- ④ 道徳の授業におけるゲストティーチャーの活用をはじめ、生活科や総合的な学習の時間の地域素材の開発による家庭・地域との交流
- ⑤ 全校生の心の交流の場になっている掲示板「きらきらスマイルコーナー」の活用



「きらきらスマイルコーナー」



立腰教育「やる気スイッチタイム」

1 1 道徳の時間について

本年度、以下の検証授業を行って協議し、指導助言をいただいた。

(1) 第2学年(5月)

主題名「ともだちと仲良く(B友情、信頼)」

教材名「およげないりすさん」(『わたしたちの道徳2年』文部科学省)

(2) 第5学年(6月)

主題名「自分の役割を果たす(Cよりよい学校生活、集団生活の充実)」

教材名「おもちゃのシンフォニー」(『5年生の道徳』文溪堂)

(3) 第4学年(7月)

主題名「勇気をもって(A希望と勇気、克己と強い意志)」

教材名「よわむし太郎」(『4年生の道徳』文溪堂)

(4) 第3学年(9月)

主題名「正直に話すことの大切さ(A正直、誠実)」

教材名「まどガラスと魚」(『3年生の道徳』文溪堂)

(5) 第2学年(9月)(資料6)

主題名「大切な家族(C家族愛、家庭生活の充実)」

教材名「おむかえ」(『ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集』福島県教育委員会)

(6) 第1学年(10月)

主題名「みんな なかよく(B友情、信頼)」

教材名「二わのことり」(『1ねんせいのどうとく』文溪堂)

(7) 第4学年(10月)

主題名「やり遂げる心(A希望と勇気、努力と強い意志)」

教材名「ゆめに向かってー羽生結弦」(『4年生の道徳』文溪堂)

(8) 第6学年(10月)(資料7)

主題名「けんきょに 広い心をもって(B相互理解、寛容)」

教材名「ブランコ乗りとピエロ」(『わたしたちの道徳6年』文部科学省)

1.2 成果と課題

- 改正学習指導要領の内容項目を吟味することにより、移行を意識しながら教材研究を進めることができた。
- 教材を深く読み込み、目指す児童の姿と指導との関連やねらいを明確にし、児童の実態や発達の段階に合わせた効果的な指導方法話し合い、指導過程を作り上げてきた。特にアンケートを活用した導入、BGMや紙芝居を活用した教材の提示、役割演技等の表現活動、計画的・構造的な板書、ワークシートやゲストティーチャーの活用は、効果的であった。
また、「児童が考えたい発問はどうあればよいか」を考え、中心発問・基本発問・補助発問・切り返しの発問・助言等を吟味し、工夫することができた。
- 自分の考えを持たせ、共同しながら効果的に表現させ、議論させることを、どの授業にも位置づけ、道徳の授業における言語活動の充実を図ることで考えを深めさせることができた。
- 一人一人が考え、友だちの考えに触れ、話し合いを通して、価値を考えさせる授業を進めたことで、自分を見つめようとする姿勢が育ってきている。
- 児童の対話的な学びを促すため、ペア学習やグループ学習における話し合いをより充実させたい。
- 改正学習指導要領の趣旨を生かすため、評価の視点や方法についてさらに研究を進めていく必要がある。
- 「自信をもって生きる児童の育成」のために、道徳の時間と体験活動を意図的に関連させた実践を工夫していく必要がある。

平成28年度 いわき市立宮小学校経営・運営ビジョン

資料 1

【基本理念】
「心くらしの和」を育て、心豊かな子ども、心豊かな地域社会の実現
【基本目標】
① 心くらしの和を育て、心豊かな子ども、心豊かな地域社会の実現
② 心くらしの和を育て、心豊かな子ども、心豊かな地域社会の実現
③ 心くらしの和を育て、心豊かな子ども、心豊かな地域社会の実現

教育目標

よく考える子ども、心の豊かな子ども、健康でたくましくい子ども

一人一人が夢を持ち、生き生きと学び合える学校をめざして

【確かな学力】：学習習慣を身につけ、進んで学ぶ子ども

- ① 授業の改善・充実
 - 「わかる・できる授業」の実践
 - ・ ねらい・学習活動・まとめの整合性がある授業
 - ・ 見通し・学習活動・まとめの導入と思考の促進
 - ・ 子ども同士の「学び合い」につながる授業
 - ・ 学びのめとめが見える板書の工夫
- 児童の学習態度と意欲の向上
 - ・ 全国学力学習状況調査や県学力テスト、および NRT 等の結果活用
 - ・ 座席表を利用した個々の学びのめとめと支援
 - ・ 定着確認シートやフォローアップシートの計画的実施と活用

② 学習習慣の確立

- 「学びのめ」の指導と家庭との連携強化
- ・ 「家庭学習の手引き」の活用
- ・ 補習指導（15分間の時間）と学習規律の確立
- 学習規律の定着

③ 図書・情報教育の充実と読書活動の推進

- 学習・情報センターとして機能する学校図書館の整備

【豊かな人間性】：自分に自信を持ち、互いに認め合い高めあう子ども

- ① 道徳教育の充実
 - 研究主題「道徳的価値について考える、自分の生き方を問う」
 - 道徳の時間の改善・充実～道徳教育を核にした道徳的実践力の育成
 - ・ 「私たちの道徳」「ふくしま道徳教育資料集」の活用
 - 道徳的実践力の育成（認めあい・高めあい・自己肯定感の育成）
 - ・ 異学年交流（たてわり班活動）幼小・小中・小高の連携の充実

② 生涯学習の推進

- 「やる気スイッチタイム」で一日の学びに向かう集中力・モチベーション・姿勢づくり
- 生活習慣・規範意識の向上
 - ・ 「学校のきまり」の徹底、「あいさつ運動」「早寝・早起き・朝ごはん」
 - いじめ・不登校の未然防止と早期対応
 - ・ 日常観察と家庭訪問・教育相談による情報収集と共有化
 - ・ 個別の支援計画の作成と共通理解による全職員による組織的対応
- 支援的な雰囲気のある学校づくり

③ 身体的な活動や地域の自然・文化・伝統を愛する心を育む教育の推進

- 地域人材やボランティアの活用
- 「じゃんがらなちの町」と「旧炭鉱の町」に関する学習

【健康・体力】：自他への健康・安全に気をつけ、進んで体を鍛える子ども

- ① 体力の向上
 - 教科体育の充実と運動の日常化
 - ・ 自主活動「朝のマラソンタイム」の奨励
 - ・ 「運動身体づくりプログラム」の推進
 - ・ 運動する環境の整備と運動量の確保
 - ・ 体育的行事との関連を図った取組～業間活動や外遊びの奨励

② 健康教育の推進

- 保健指導の充実
 - ・ 学校医の協力と保健指導等の T.T による指導
 - ・ 学校保健委員会の活性化（学校医・学校薬剤師の活用）
 - ・ 家庭との連携による病気の予防や治療（「自分手帳」の活用）
- 食育の推進
 - ・ 「食育全体計画」に基づく望ましい食習慣の形成
 - ・ 朝食摂取率 100%運動への保護者啓発と栄養職員等を活用した授業

③ 安全教育の徹底

- 防災・減災教育の推進～災害対策体験型学習プログラムの実施
- 放火・防犯教育の充実～指導資料・副読本の活用
- 地域・関係機関と連携による、学校の実態に即した安全指導

○ 教育課程実施状況の反省や学級経営誌による学期ごとの評価

- 新体力テスト、定着確認シートによる評価
- NRT 標準学力テスト（国算：全国比 100 以上、U・A・ゼロが目標）
- 児童の意識調査（各種アンケート）
- 保護者・学校評議員による学校評価

○ 教育課程実施状況の反省や学級経営誌による学期ごとの評価

- 児童の意識調査（各種アンケート）
- 保護者・学校評議員による学校評価
- 交流先や関係機関による感想・評価

地域に信頼される学校づくりの実現

【指導体制の充実】

- ① 一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の整備
 - 特別支援教育の充実「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成と活用
 - いじめ・不登校の未然防止に向けた情報収集と早期対応
 - 震災に伴う区域外就学児童の心のケアと就学援助

【安全・安心な学校づくり】

- ① 危機管理体制の充実
 - 児童・教職員の危機管理意識の高揚～防災計画の周知と実践、安心メールの利用促進
 - 児童・教職員の事故防止：地域との連携による交通安全・防犯教室・避難訓練等の充実
- ② 教育環境の整備
 - 施設・設備の安全点検の充実と教材・教員の点検整備、経費削減化を図る取組。

【教職員の資質向上】

- ① 熱意・力量・人間力～
 - 教職員の指導力向上
 - 一人一人の授業による校内研修の充実
 - 自己目標の意識化
 - 不祥事の絶無
 - 府県倫理委員会の活性化
 - 開かれた学級経営
 - 同僚性の発揮
 - ・ メンタルヘルスの充実
 - ・ 孤立防止

【開かれた学校づくり】

- 積極的な情報発信：学校便り「かけはし」（月 1 回）の発行と学区内全戸配布・公民館掲示依頼
- 学校だより（月 1 回以上）の発行
- 学校ホームページの更新（週 1 回程度）と活用
- 地域教育力の活用：学校支援本部事業の活用・地域人材の活用・地域行事への参加
- 児童相談所・区民・公民館・民生委員・児童委員・学校評議員等との連携
- 学校経営説明の場：PTA 全体会（4 月・2 月）
- 授業参観・懇談会（4 月・7 月・9 月・11 月・2 月）

【子どもの 12 年間にわたる成長を見通した、幼・小・中連携事業の推進】

- 密約推進（3 年保育）・内郷小・白小・内郷二小との児童・生徒・職員との交流推進
- ・ 相互授業参観および事後研究会の実施と生徒指導上の情報交換等
- 就学予定児の体験入学実施

平成28年度道徳教育の全体計画

資料 2

いわき市立宮小学校

日本国憲法 教育基本法
学校教育法 学習指導要領
地区教委の教育目標

学校の教育目標

- よく考える子ども
- 心の豊かな子ども
- 健康でたくましい子ども

時代や社会の要請
児童の実態
保護者や地域のねがい
教師のねがい

道徳教育の重点目標

道徳的価値について考え、自分の生き方を見つめ、自信をもって生きようとする子どもの育成

＜目指す児童の姿＞

◎社会との関わりの中で、自分を見つめ、よりよい生き方を求める子ども

- 自分の良さに気付き、目標に向かって努力をつづけ、自信を持つことができる子ども
- 友だちの良さに気付き、認め合うことができる子ども
- 地域の良さに気付き、郷土を愛することができる子ども

特別活動

- ◇ 望ましい集団活動による児童の自主的、実践的な活動の特質を生かし、道徳実践力の充実を図る。
- 学級生活の充実と向上にかかわる活動を通して、進んで問題を解決し、温かい人間関係を築こうとする態度と集団の中で自己を正しく生かす能力や態度の育成を図る。
(学級活動)
- 児童の意見、発想を大切に、学校生活における諸問題の解決を図ることにより、自主的、実践的な態度や協力的、思いやりの心を育てる。
(児童会活動)
- 共通の興味関心を追求する活動を通して、個性を伸ばし、豊かな人間関係を育てる。
(クラブ活動)
- 豊かな体験の場を設けて、主体的に参加させることにより、集団への所属感を深め、協力的、責任感、勤労意欲等を育成する。
(学校行事)
- 諸行事の体験的な活動を通して、自主的、協力的、責任、勤労などの道徳性を養う。

豊かな体験活動

- 全校縦割り班活動、学校行事、各種集会活動、ボランティア清掃活動などの多様な体験活動を充実させ、思いやりと協力、社会生活のきまりや基本的なモラルを育んでいく
- 体験活動の実施時期をつなげたり、重ねたりすることによって、道徳的な価値の自覚を強化したり、意識を深めたりして指導の相乗的な効果を高める。

学級経営充実を図る指導方針

- 真摯に子どもの声に耳を傾け、よさを認め励ます指導を意図的継続的に進めるとともに、児童の自主的実践的な活動を推奨し、自己存在感・有用感を持たせながら互いのよさを認め合える学級づくりに努める。
- 個の成長や変化をとらえ、励ましながら指導を進めていくようにする。
- 将来にわたっての目標を持たせ、やる気を起こす指導や支援を工夫するとともに、温かい励ましを継続する。

各学年の重点

- | | |
|-----|---|
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。 ○ 身近にいる人に、温かい心で接し、親切にする。 |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く。 ○ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があっても、くじけずに努力して物事をやり抜く。 ○ 誰に対しても、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って、親切にする。 |

道徳の時間の指導

各教科、外国語活動、特別活動及び総合的な学習の時間、日常の豊かな体験活動などとの関連を図りながら、計画的・発展的な指導によってこれを補充・深化・統合し、道徳的価値の自覚を支えとして、自己に結びつけながら道徳的実践力を育成する。

- 児童の実態に基づき、資料や指導過程を工夫し、道徳的実践力の育成を図る。
- 道徳的価値に対する心情を高めるために、体験活動との関連を深め、児童の心に響き自尊感情を育む授業を推進する。
- 自己を振り返ったり、自他の良さに気付いたりできる話し合いの仕方を身に付ける。
- 自分の思いを表現しやすい雰囲気をつくり、自分を高めようとする気持ちを育てる。

道徳教育推進体制

- 道徳教育推進教師を中心として、全職員の実践力の育成を図る。
- 道徳教育推進教師を「心の豊かな子ども育成推進グループ」のリーダーとして位置づける。
- 学校の共同研究の柱として道徳教育を位置づけ、研究的に実践を推進する。
- 道徳教育推進教師を中心として、研究体制を構築し、全職員がそれぞれの役割を持って道徳教育を推進する。

各教科

- ◇ 少人数の特性を十分に生かしながら、一人一人の児童にとって「学ぶ楽しさ」や「できる喜び」が実感できるよう授業の質の向上と日々の学習指導の充実を図る。
- 互に関わり合える学習活動を通して、互いに協力し合い、励まし合う学習態度や道徳性の啓発を図る。
- 子どもの生き方に寄与する教材・資料の取り扱いを通して、知的感動、将来への夢や希望、根気強い探究活動等の道徳性の育成に努める。
- 指導する教師の言動を通して、望ましい人間関係のあり方を感化していく。

総合的な学習の時間

- 一連の学習活動を通して、主体的に判断して学習を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を育て、さらに自己の生き方を考える機会とする。

外国語活動

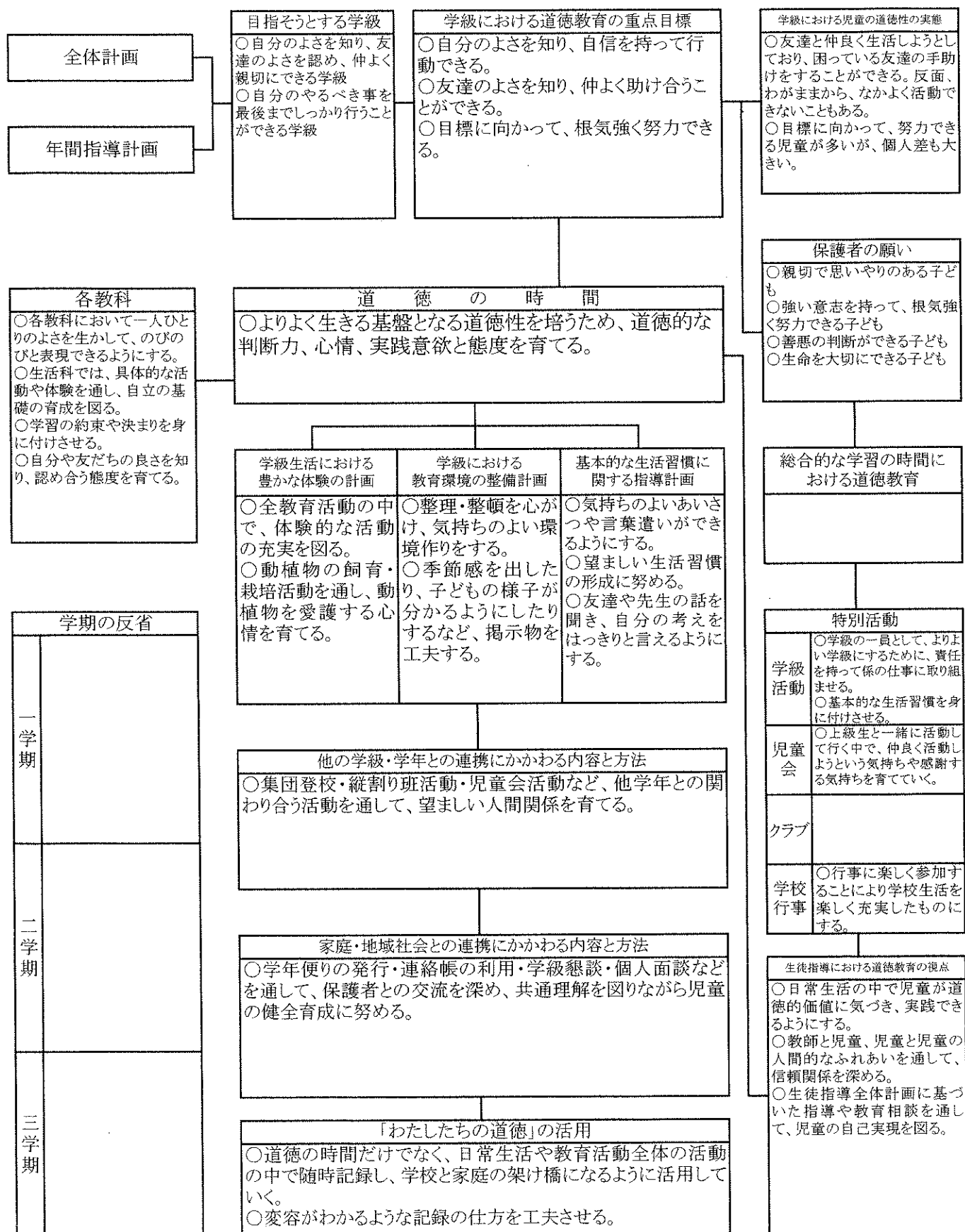
- 外国語に触れたりALTとの学習活動を通して、他国の言語や文化について体験的に理解を深め、主体的にコミュニケーションしようとする態度を育てる。

家庭・地域等との連携

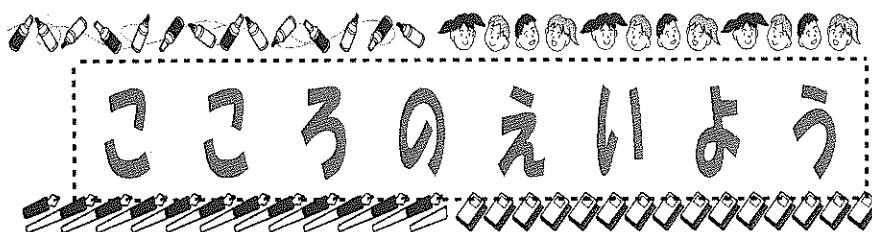
- 学校だより・学年だよりの発行、連絡帳による連絡、学級懇談・教育相談などを通して保護者との交流を深め共通理解を図りながら児童の健全育成に努める。
- わたしたちの道徳・ワークシートなどの活用や家庭での記入を通して、学校と家庭の架け橋を築いていく。
- 地域行事への児童・教師の参加、学校行事への招待を通して連携を深めていく。
- 宮幼稚園との情報交換および在校生との交流を通して、連携を深めていく。

平成28年度

第2学年1組 学級における道徳教育の指導計画



H 2 8 . 9 . 1 9 (月)



宮小現職教育
やる気・根気・元気

〈授業を振り返って〉

(1) 授業者自評

- 板書は、横書きで進めた。まとめは、印象づけるために縦書きにした。
- 事前に4年生で実施し、「わたしたちの道徳」ではなく、ワークシートを活用することにした。
- 揺さぶりの発問をしたが、うまくいかなかった点もある。
- ワークシートは、ほとんど書けていた。

(2) 手だてについて

① 資料提示の工夫について

- ガラスの割れる音やボールを投げる身振りなどで、緊張して教材に入っていた。
- 緊張感のある範読がよかった。

② 発問の工夫について

- 揺さぶりが十分にかかっていた。いろいろな角度から揺さぶりをかけるのも効果的である。
- 沈黙も考えているということ。意欲が表れていた。
- ゆさぶりの発問の経験を積んでいくことが大切である。
- 建前を崩すために、揺さぶりをかけたが、それが多面的な思考につながっていた。
- 書いたことを発表するのではなく、学活的な話し合い活動もできるように指導していく。

③ 板書を生かす工夫

- お姉さんのページサートを活用し、役割演技のようにお姉さんと進一郎を対比させて考えることができた。
- 授業者の意図が生かされ、児童に訴える板書だった。
- 横書きの中に縦書きを入れると、働きかける力が大きい。

(3) ご指導

〈教頭先生より〉

- 見通しを持って、計画的な準備がされた授業だった。
- 考えさせる・話させることを意識した展開だった。
- 中心発問をクローズアップさせる工夫も必要。(声のトーンなど)

〈校長先生より〉

- 実態に応じて、教師の意図がしっかりとある授業だった。
- 身振り・手振りや声が子どもたちを引きつけていた。
- 自分の考えを意図的に説明させる場の工夫
- 子ども同士で揺さぶっていく授業が、考える道徳につながっていく。

〈いわき教育事務所 澤田泰弘先生より〉

- 物事を多角的に捉えようとすると、脇役や周辺人物から考えさせる方法もある。
- 「わたしたちの道徳」を活用して、正直について考えさせることもできる。
- 揺さぶりは、1対1のやりとりになってしまいがちなので、全体に広がるようにしたい。揺さぶった後は、考える時間をとることが大切である。

成果

- 疑似体験させていく教材の提示の仕方
- 揺さぶりの発問による多面的な思考
- 思考を促す効果的な板書

今後に向けて

- 子ども同士で揺さぶり合える話し合いのさせ方

第 2 学年 道徳学習指導案

日時 平成 28 年 9 月 15 日 (木) 2 校時
授業者 石澤 志津子

本校研究主題 道徳的価値について考え、自分の生き方を見つめ、
自信を持って生きようとする子どもの育成

- 1 主題名 大切な家族 C 家族愛、家庭生活の充実
教材名 おむかえ (ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

児童の人格形成の基盤は主に家庭にあり、家庭で身に付ける道徳性は様々な集団とのかかわりの基盤ともなる。その大切な家族や家庭を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。

低学年においては、日頃の父母や祖父母の様子を知ることから敬愛の念を育て、家の手伝いなどを行って、家族と交わり、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるよう指導していくことが大切である。また、多様な家族構成や家庭状況への十分な配慮も必要となる。

(2) 児童の実態

本学級は、男子 6 名、女子 7 名、計 12 名の学級である。本校は、中山間地に立地し、3 世代で生活している家庭が比較的多い。本学級でも半数以上が祖父母と同居しており、つながりが深い。また、父母や兄弟を含めて家庭環境が安定している児童がほとんどであり、健全で温かい家族の様子がうかがえる。一方で、家庭環境に配慮が必要な児童も数名見られるので指導する上で、留意しなければならない。

児童は、家族が大好きで大切とは思っているが、低学年という実態から、その役割を考えたり、自分が家族のために役に立とうとしたりする意識はまだ芽生えていない。しかし、他人の立場を理解する能力が徐々に発達してくるこの時期に、家族にお世話になっている日頃の生活について振り返らせて、家族の様子や自分とのかかわりを認識させ、家族への敬愛の念を育てることにより、家族の一員として役に立つことの喜びを実感させていくことが大切である。

また、道徳の時間が好きと答える児童は多いが、発表が得意でないと思う児童もいるので、道徳の時間の発表に間違いはないことを話し、思ったことを自由に話す、考えを聞き合うという意識や態度を育てているところである。

(3) 教材について

本教材は、東日本大震災の折、実際にあったことがもとになっている。連絡もつかない状況の下、主人公を迎えに行く姉の姿から、家族の愛情やありがたさ、ぬくもりについて考えさせることができる。自分が家族から愛情や努力によって守られていることに感謝し、家族を敬う心情や、自分も家族の一員であるという自覚を育むことができるものと考えられる。

しかしながら、本資料は、大震災当日の混乱した特別な状況が舞台となっている。現在の 2 年生は、当時 3 歳である。混乱の記憶もあるいは大震災の恐怖も鮮烈に残っているとは言いがたい。薄れているであろう記憶に、その時の状況を補完したり説明を加えたりしなければ、資料の確かな捉えは難しいであろう。主人公の気持ちを考えていくとき、身近な場面に置き換えて考えさせていくことも必要となるのではないかと考える。

3 道徳の授業を充実させるための指導の工夫

- 子どもの心を動かし、多様な考えを引き出す資料提示の工夫
 - ・ 資料に入る前に、大震災の時の実話であることを知らせ、当日の混乱の様子について補足し、資料の内容がとらえやすいようにする。
 - ・ 場面絵を効果的に活用して、話の内容をとらえさせながら、その心情に共感させていく。
- 子ども相互に考えを伝え合い、学び合う工夫
 - ・ 道徳シートや役割演技を活用し、自分の考えを発表したり考えを比べたりしやすいようにする。
 - ・ 座席の配置を工夫して、互いの表情を見ながら話合いができるようにする。

4 本時のねらい

おねえちゃんや家族が自分を探してくれた話を聞くひなこさんの思いを考えることを通して、自分が家族から愛情によって守られていることに気付かせ、家族に感謝し、家族を大切にしようとする心情を育てる。

5 指導過程

	学習活動 主な発問 ・ 予想される児童の反応	○ 教師の支援と評価
気付く 5分	1 家族について思っていることを話し合う。 ・ お母さんはやさしい。 ・ お父さんと公園で遊んで楽しかった。	○ 日頃の家族とのふれあいの様子を思い起こさせながら、話し合いを通して、道徳的価値への関心を高める。
考える 25分	2 資料「おむかえ」を読んで話し合う。 体育館でお迎えを待つとき、ひなこさんはどんな気持ちだったでしょう。 ・ 大変だ。だいじょうぶかな。寒いな。 ・ お母さん、はやくこないかな。 ・ お母さん、何をしているんだろう。 ・ こなかったらどうしよう。 お姉ちゃんが迎えに来てくれたとき、ひなこさんは、どんな気持ちで声をかけたのでしょうか。 ・ おそいよ。 ・ なにしていたの。 ・ やっときた。こわかったよ。 おねえちゃんや家族が自分を探してくれた話を、ひなこさんはどんな思いで聞いていたのでしょうか。 ・ 心配してくれてありがとう。 ・ 「おそい」って言ってごめんね。 ・ おねえちゃん、大変だったな。 ・ 家族っていいな。 ひなこさんは、どんな気持ちでおねえちゃんに電話したのでしょうか。 ・ おねえちゃん、大好きだよ。 ・ 今度は私も優しくしたい。	○ 資料に入る前に、大震災の時の実話であることを知らせ、当日の混乱の様子について補足し、資料の内容がとらえやすいようにする。 ○ 場面絵を効果的に活用して、ひなこさんや周りの様子をとらえさせてながら、その心情に共感させていきたい。 ○ 考えが浮かばない児童には、自分の生活の中から同じような状況を想起させ、考えが深まるように声をかける。 ○ 道徳シートに自分の考えを整理させ、友だち同士で交流させる。 ○ ひなこさんの気持ちを役割演技で表現させ、全体で話し合わせるにより、ひなこさんが、家族から愛され守られていることや、家族の良さに気付かせていきたい。 ひなこさんの思いを考えることを通して、自分が家族から愛情によって守られていることに気付くことができたか。 (シート・表情) ○ 1年後のひなこさんの気持ちの変化をおさえ、家族を思いやっている様子を押さえる。
見つめる 10分	3 自分を振り返る。 おうちの人に、「ありがとう」と思ったことはありますか。それは、どんな時ですか ・ 病気をした時、看病してくれた。 ・ おいしいご飯を作ってくれる。 ・ お菓子をかってくれた。 ・ 帰りが遅くなった時、迎えにきてくれた。	○ 自分も、家族に愛され、守られている存在であることに気付かせ、家族の愛情や温かさに感謝する気持ちを持たせていきたい。 家族に感謝し、家族を大切にしようとする気持ちを持つことができたか。 (表情・発表)
温める 5分	4 わたしたちの道徳「家族のやくに立つこと」を読む。	○ 温かい家族のお話をじっくりと読ませることで、道徳的価値への思いを深めさせ、家族の自分への思いと重ねさせていきたい。

第6学年 道徳学習指導案

授業者 宮川 恵子

- 1 主題名 けんきょに、広い心をもって B 相互理解, 寛容
教材名 ブランコ乗りとピエロ (わたしたちの道徳 文部科学省)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。また、寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。特に、この時期の児童は、考えや意見の近いもの同士が接近し、そうでないものを遠ざけようとする行動が見られる。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。

(2) 児童の実態

児童は、何事にも積極性があり、学校生活の様々な活動に対し意欲的に取り組んでいる。その中で、友達と意見が合わず、円滑に活動できないときは、互いに譲り合ったり、自分に非があるときは、「ごめんね。」と声をかけ合ったりする場面も見られる。また、国語や算数の授業などで答えを間違えた友達をあざ笑ったり、体育の授業で自分の失敗が原因で負けてしまったと落ち込んでいる友達を責めたりするような言動は見られない。しかし、自分があまり好きではない友達の忠告や謝罪を素直に聞き入れたり、その友達のよさを認めて、声をかけたりすることがなかなかできずにいる児童もいる。人それぞれの個性を認め、異なった考えを受け入れることは、大人でも難しいことであるが、自分高め、共によりよく生きていくためにも、自分と異なる意見や立場を受け止めることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度を育てていきたい。

(3) 教材について

サーカスのリーダーであるピエロは、自己中心的な振る舞いをするブランコ乗りのサムに一方的に腹を立てていた。しかし、必死に頑張るサムの姿に接し、広い心と謙虚さを取り戻して、互いの心を通わせる物語である。サムは身勝手な所もあるが、誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け入れ、サーカス団の一員であることを諭す。

本時では、ピエロとサムの立場や関係をしっかりと押さえながら、サムの演技の様子や演技を終えた後の姿を見て、サムへの見方が変わり、結果、自分自身の演技に対する心構えも変わっていくピエロの心情の変化を考えさせることで、自分のことを謙虚にとらえ、相手の立場に立って考えることがよりよい人間関係を築いたり、自分の生き方も豊かになったりすることに気付かせたい。

3 道徳の授業を充実させるための指導の工夫

○手立て①【話合いの工夫】

- ・ 道徳的価値に対する理解を深めさせるために、登場人物がなぜそうしたのかを考え、グループで話し合わせる。

○手立て②【実践化に向けての働きかけ】

- ・ 実践意欲を高めるために、主人公から学んだことを自分の言葉で表現させる。

4 本時のねらい

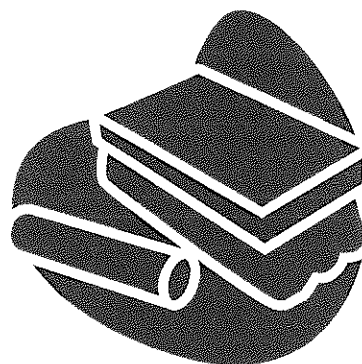
ブランコ乗りとピエロのはじめとあとの2人の関係性に変化が見られたのは、ピエロの何が変わったのかを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさに気づき、広い心で相手を大切にしようとする態度を育てる。

5 指導過程

段階	学習活動 ◎中心発問 ○発問・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◇手立て ◆評価
気付く 5分	1 アンケートの結果をもとに話し合う。 ・ほとんどの人が「相手を許せない」と思ったことがある。 ・でも、みんな、許し合って生活している。 ・「広い心」とは相手を認めること。	○ アンケートの結果からクラスの実態を把握することによりねらいとする価値への方向づけを行う。
考える 25分	2 教材「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。 ○ この話で考えてみたいのは、どんなことですか。 ・ピエロはなぜ変わったのか。 ・ピエロとサムは本当に分かり合えたのかな。 ピエロの心の変化を通して、…… ○ はじめとあとの2人の関係はどのように違いますか。 ・最初は2人共、自己中心。反発し合う関係。 ・最後は、相手のことを受け入れて、信頼し合う関係。 ○ 自分がピエロだったら、サムを許せますか。 ◎ ピエロは、なぜ変わったのですか。 ・許している。それは、サムが観客を楽しませるために、一生懸命演技していることに、気付いたから。 ・自分もスターになりたい気持ちがあったことに気付いたから。 ○ 分かり合えた2人は、この後どんなことができそうですか。 ・互いが満足できる演技ができる。 ・最高のサーカス団になれる。	○ 自分たちの課題意識をもとにめあてに沿って考えていくことを確認する。 ○ めあては、子どもたちから出た言葉で書くようにする。 ○ 2人の関係の変化が容易にとらえられるように、サムとピエロの「心の関係図」を左右に対比させて板書する。 ○ 無言でサムを見つめる団員たちの姿をとらえさせ、簡単には許せない人の心に気付かせる。 ◇ 手立て①【話合いの工夫】 何がピエロの心を変えさせたのかを考え、それをグループで交流させることにより、見方を変えたと別の面が見えてくることに気付かせる。 ○ グループで話し合ったことを小黒板に書いて発表し、考えを共有する。 ◆ なぜサムに対する見方が変わったのかを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を受け入れることの難しさやよさに、気付くことができたか。 (発表) ○ 互いが分かり合えたからこそ、生まれる新しい力に気付かせる。
見つめる 10分	3 今までの自分を振り返って考える。 ○ 自分の生活を振り返って、人との関わり方で大切なことは何かについて書いてみよう。 ・ピエロがサムの頑張りに気付いたように、相手のことをよく考えること。 ・こういう人だと決めつけないで、その人のよさを見つけること。 見方を変えようと、今まで見えなかったものが見えてくる。	○ ピエロの人の見方でいいなあと思うところや日頃の自分の生活を振り返って書かせるようにする。 ◇ 手立て②【実践化に向けての働きかけ】 授業を通して、感じたことや考えたことを書くことにより、今までの自分を見つめて、これからの自分の生き方を考えることができるようにする。 ◆ 広い心で相手に接することの大切さを自分自身の問題としてとらえ、自分の生活を振り返ったり、問い直したりすることによって、広い心で相手を大切にしようとする気持ちを持つことができたか。 (ワークシート・発表)
温める 5分	4 教師の説話を聞く。	○ 授業の導入で取り上げたアンケートの結果にもふれながら、「わたしたちの道徳」P81を読み、広い心についての道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。

【資料】

- 「ふくしま道徳教育推進プラン」
- 道徳教育推進校の役割について
- 平成28年度道徳教育実施状況調査
- 道徳だより「道徳のかけ橋」第9～11号



【課題】

学習指導要領に基づき、今後は、学校の道德教育の充実に加え、保護者、地域を巻き込んだ道德教育の推進が求められている。

【目的】

大震災等を経験した本県だからこそ、子どもたちに「命の大切さ」「家族や地域の絆」「他人への思いやり」「郷土を愛する心」等を育むため、学校の道德教育の充実を図るとともに、保護者、地域を巻き込んだ道德教育を推進していく。

道德教育 リーフレットの 作成・配布

- ◆ 学校だけでなく、保護者や地域を巻き込んだ道德教育の充実に向けてリーフレットを配布し、県教育委員会や学校の取組を広く発信する。
- 年2回配布
- 教職員・保護者等を対象

地区別推進協議会

- ◆ 学校、家庭、地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道德教育を推進するための協議を行い成果を普及する。
- 参加対象
 - 各地区の小中高特別支援学校の道德教育推進教師等
 - 保護者、地域住民、関係機関等
- 各地区1回開催
- 内容
 - 「道德の時間」の授業研究会
 - 学識経験者等の講義・演習
 - 推進校の実践報告等
 - 地区の実態に応じた協議等

「モラル・エッセイ」 コンテスト

- ◆ 県民参加型の道德教育を推進するため、心温まるエッセイを募集し、道德教育の資料として活用する。
- 年1回開催

福島県道德教育推進協議会

- ◆ 福島県の道德教育の充実を図るため、本事業の実施を含め、本県の課題を明らかにしながら必要な指導助言を行う。
- 年2回開催(5月・2月)
- 構成員
 - 学識経験者、学校関係者(小・中・教研道徳部長、高等学校代表)、県教委、教育事務所・教育センター、担当指導主事等

推進校による実践研究

- ◆ 学校、児童生徒等の実態を踏まえ、道德教育に関するテーマを設定し、実践研究を行う。
- 研究内容
 - 研究テーマの設定
 - 全体計画・年間計画等の検討
 - 道德教育推進教師の役割の検討
 - 道德の時間の授業公開
 - ふくしま道德教育資料集の活用
 - 先進校等への視察
 - 成果報告と普及への協力
 - 地区別推進協議会での実践発表等

ゲストティーチャー の派遣

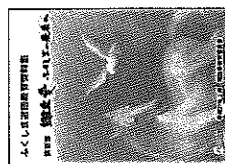
- ◆ 教室、職員室にゲストティーチャー(外部講師)を派遣し道德教育の充実を図る。
- ゲストティーチャーとともに授業を行う。
- ゲストティーチャーから道德教育に関する講演等を聞く。

「特別の教科 道德」 の実施に向けた研修

- ◆ 「特別の教科 道德」の円滑な実施に向けた研修
- 指導主事、管理職、道德教育推進教師を対象

児童・生徒用「ふくしま道德教育資料集」の配布・活用

- ◆ 福島県ならではの道德教育を進めるため、「ふくしま道德教育資料集」を校種別に分冊を作成して配布し、活用促進を図る。
- 県内小・中・県立学校に学校規模に応じた児童生徒分冊の分冊を配布
- 活用例の紹介



道徳教育推進校の役割について

福島県教育委員会

福島県では、平成24年度から地域に根ざした道徳教育推進校を設定しています。推進校は次のような活動を行います。

- 1 推進校は、学校、児童生徒等の実態を踏まえ道徳教育に関する課題を設定し、実践研究の推進をする。
- 2 推進校は、ゲストティーチャー（教室GT）を活用して、児童生徒に魅力的な「道徳の時間」を提供する。
- 3 推進校は、ゲストティーチャー（職員室GT）とともに、校内研修会を開催し職員研修の機会を確保する。
- 4 推進校は、研修会等へ積極的に参加して研究と修養に努め、「道徳の時間」の充実を図る。
- 5 推進校は、域内の各学校へ道徳教育を公開し、推進校として道徳教育に関する情報を発信する。
- 6 推進校は、自校の取組を依頼された様式に従って義務教育課へ報告する。

なお、需用費、研修会等への参加に係る経費、ゲストティーチャーへの申請や経費にかかる事務手続きは県教育委員会（各教育事務所）が行います。

実践研究内容

- 研究テーマの設定・・・・・・・・・・学校における今年度の重点を核として1年間のテーマを設定。
- 校長の指導の方針の明確化・・・・・・・・年度当初に「指導の方針」を周知したときの資料を提出。
- 全体計画・年間指導計画の提出・・・・・・・・年度初めと教育課程の編成後に改訂したものをセットで提出。
- 道徳教育推進教師の実践報告・・・・・・・・年間を通じて道徳教育推進教師として取り組んだ事例を報告。
- 道徳の時間の授業公開・・・・・・・・保護者や地域への公開授業を開催。
- ふくしま道徳教育資料集の活用・・・・・・・・実践例を紹介。
- 地区別推進協議会等での実践発表・・・・・・・・地区別推進協議会で中間報告。
- 1年間の成果の報告と普及への協力・・道徳教育推進校報告書の作成。

- 1年間の研究推進校です。県内7地区に1校ずつ、小・中・高等学校の中から推進校を設定します。
- 推進校の実践した研究成果は「道徳教育推進校報告書」にまとめ、県内に広く発信します。
- 推進校の関係者は、県道徳教育推進協議会に出席（年2回）し、他地区の推進校と情報交換しながら1年間の研究推進を行います。

さらに、県教育委員会が魅力的なゲストティーチャーを派遣します。

道徳教育「ゲストティーチャー」派遣計画

■推進校へゲストティーチャーを派遣

① 教室（道徳の時間）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が各小・中学校の「道徳の時間」及び高等学校の「ホームルーム活動の時間」に魅力的な人材を派遣して、一緒に道徳の授業を行う。授業の実施過程において、道徳教育推進教師としての役割や道徳教育についてのあり方や高等学校における道徳教育の方策等を実践レベルで提案することを目的とする。

② 職員室（校内研修）にゲストティーチャーを派遣する。

- 県教育委員会が道徳教育に係る教員研修を希望する学校の職員室へ講師を派遣する。全職員で道徳教育を推進するために、学識経験者や道徳教育実践者を交えて、校内研修の充実を図る。

平成28年度 道徳教育実施状況調査

平成28年12月20日現在

※ 学校数 小学校446校 中学校220校 小・中学校666校
 ※ 休校(小学校2) 臨時休業(小学校4・中学校2) 分校は本校分を含む
 ※ 前年比(色付き部分)は、今年度より実施した調査項目のため、前年比は無し

調 査 項 目	回 答	小学校	中学校	全 体
1 (1)ふくしま道徳教育資料集 活用の有無	①全学年で活用した。	48.7%	39.1%	45.5%
	②一部の学年で活用した。	37.9%	47.3%	41.0%
	③これから活用する予定である。	13.4%	13.6%	13.5%
	④活用する予定はない。	0.0%	0.0%	0.0%
	※ ①+②	86.6%	86.4%	86.5%
(2)ふくしま道徳教育資料集 場面(複数可)	①道徳の時間に活用した。	98.0%	99.1%	98.3%
	②①以外の学校教育活動で活用した。	20.6%	10.0%	17.1%
	③家庭で活用した。	2.7%	1.4%	2.3%
	④その他(3月10日追悼の意を込めて読む等)	1.1%	0.9%	1.1%
(3)ふくしま道徳教育資料 集に収められた「資料」の活 用の仕方(複数可)	①そのまま活用した。	93.7%	92.7%	93.4%
	②部分的に活用した。	36.8%	31.8%	35.1%
	③改作して活用した。	1.8%	4.5%	2.7%
	④その他(パンフレットとして作成・配布等)	0.4%	0.0%	0.3%
2 道徳の授業参観(公開授 業・保護者向け授業参観)	①全学級実施した。	34.3%	11.8%	26.9%
	②全学級ではないが実施した。	51.3%	55.5%	52.7%
	③今年度中に実施する予定である。	14.4%	18.2%	15.6%
	④実施する予定はない。	0.0%	13.2%	4.4%
	⑤その他(校内研修での授業参観等)	0.0%	1.3%	0.4%
	※ ①+②	85.6%	67.3%	79.6%
3 家庭や地域社会との連携 による道徳の指導(複数可)	①保護者が授業に参加した。	42.8%	11.4%	32.4%
	②地域の人々が授業に参加した。	13.5%	8.6%	11.9%
	③保護者や地域の人々以外(ゲストティーチャー)を招き実施した。	28.3%	25.9%	27.5%
	④実施する予定はない。	26.0%	51.8%	34.5%
	⑤その他(保護者へアンケート・手紙の協力依頼等)	9.0%	5.9%	8.0%
4 「私たちの道徳」の活用状 況(複数可)	①道徳の時間に活用した。	99.1%	96.8%	98.3%
	②道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	51.1%	14.5%	39.0%
	③家庭に持ち帰らせた。	48.9%	16.8%	38.3%
	④活用していない。	0.4%	0.9%	0.6%
	⑤その他(等)	0.4%	0.0%	0.3%
5 「私たちの道徳 活用の ための指導資料」の活用状 況(複数可)	①全学級に担当している。	94.6%	87.7%	92.3%
	②活用している。(過半数以上)	43.5%	30.0%	39.0%
	③活用していない。	2.5%	4.1%	3.0%
	④その他(日常生活で活用等)	0.2%	0.5%	0.3%
6 (1)道徳教育全体計画の 「別葉」(様式は任意)(学校 数)	①作成している。	90.1%	73.2%	84.5%
	②今年度中に作成する予定である。	9.0%	24.1%	13.9%
	③作成する予定はない。	0.0%	0.5%	0.2%
	④その他(次年度作成を検討する等)	0.9%	2.2%	1.4%
(2)道徳教育全体計画の 「別葉」の活用の有無(学校 数)	①成果や課題などを記入して活用している。	14.1%	5.0%	11.1%
	②記入はしていないが確認をするなどして活用している。	74.0%	64.1%	70.7%
	③活用していない。	11.4%	27.7%	16.8%
	④その他(今年度中に作成し活用する予定)	0.5%	3.2%	1.4%
7 道徳教育の全体計画(学校数) 「いじめ防止対策推進法」の明示	①明示している。	59.4%	44.1%	54.4%
	②明示していない。	40.6%	55.9%	45.6%
8 道徳の時間の指導体制 (複数可)	①校長先生が参加した。	33.0%	21.4%	29.1%
	②教頭先生が参加した。	27.6%	16.8%	24.0%
	③担任以外の教職員が参加した。	37.7%	69.5%	48.2%
	④その他(他校との合同授業を計画中等)	15.2%	9.1%	13.2%
9 先行実施の状況 (複数可)	①改正学習指導要領に示された内容項目を用いて教育課程を編成している。	12.3%	10.5%	11.7%
	②通知票に「道徳の時間」に係る欄を設けている。	0.7%	0.0%	0.5%
	③①②以外の先行実施をしている。	8.3%	6.4%	7.7%
	④先行実施はしていない。	79.1%	83.2%	80.5%

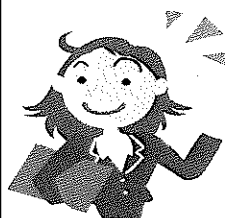
道徳だより
道徳のかけ橋

第9号～11号



道徳のかけ橋

平成28年7月1日発行
第9号
福島県教育庁課
義務教育課



昨年3月、小学校・中学校それぞれの学習指導要領の一部改正の告示が公示され、移行期間中である現在は、学習指導要領の一部又は全部を実施することが可能となっています。

また、今年は、小学校「道徳科」の教科書検定が行われる年であり、道徳科の全面実施までのスケジュールは、次のようになっています。

【学習指導要領等について】

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度～ (2019)
文科省	10月 中教審審議 3月 ※一か月のパブコメを実施 学習指導要領一部改正 学教法施行規則一部改正	学習指導要領解説 HP上に公表 【評価に係る検討】 道徳教育に係る評価 等の在り方に関する 専門家会議等				
小学校		27～29年度 移行期間 改正小学校学習指導要領は、その一部又は全部を実施することが可能			「特別の教科 道徳」 による教育課程編成等 全面実施	
中学校		27～30年度 移行期間 改正中学校学習指導要領は、その一部又は全部を実施することが可能			「特別の教科 道徳」 による教育課程編成等 全面実施	

【検定教科書について】

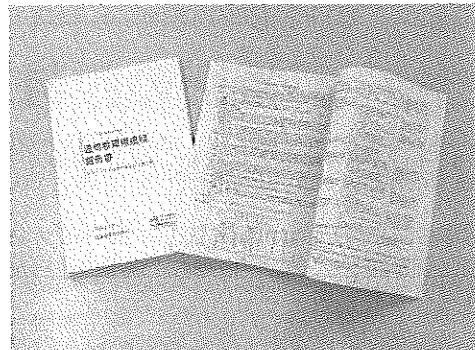
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
小学校	著作・編集	検定	採択・供給	検定教科書 使用開始	
中学校		著作・編集	検定	採択・供給	検定教科書 使用開始

道徳教育推進校

平成27年度の道徳教育推進校の取組を載せた「道徳教育推進校報告書」を各校に配布しました。実践資料がたくさん載っておりますので、ぜひご活用ください。今後、福島県教育庁義務教育課のホームページにも掲載します。

【平成27年度道徳教育推進校】

- 〈県北〉 福島市立北信中学校
- 〈県中〉 須賀川市立第三小学校
- 〈県南〉 鮫川村立鮫川小学校
- 〈会津〉 福島県立大沼高等学校
- 〈南会津〉 只見町立只見小学校
- 〈相双〉 相馬市立中村第一中学校
- 〈いわき〉 いわき市立小川中学校



【道徳教育推進校報告書】

平成28年度道徳教育推進校が決定しました。5月19日の福島県道徳教育推進協議会を皮切りに、各推進校では研究が進められています。

【平成28年度道徳教育推進校】

- 〈県北〉 二本松市立二本松第二中学校
- 〈県中〉 三春町立岩江中学校
- 〈県南〉 福島県立塙工業高等学校
- 〈会津〉 会津若松市立湊中学校
- 〈南会津〉 南会津町立桧沢小学校
- 〈相双〉 南相馬市立八沢小学校
- 〈いわき〉 いわき市立宮小学校



【協議会の様子】

「特別の教科 道徳」Q & A



「考え、議論する道徳への転換」という言葉をよく聞きます。私は小学校の1年生を担当していますが、1年生でも議論をしなければならないのでしょうか。

児童・生徒には、年齢相応の発達の段階があります。お尋ねの点についても、発達の段階に応じて、指導を工夫することが大切ですね。



体験的な学習を取り入れたいと思っていますのですが、その際、どのような点に気を付ければよいのでしょうか。

体験的行為や活動そのものが目的にならないように気を付けましょう。体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要です。



今度、ティーム・ティーチングによる道徳の授業を行います。それぞれの役割を分担さえしておけば、大丈夫ですね。

ティーム・ティーチングに限らず、指導体制を工夫する際には、この指導体制によってより効果が高まるかどうか検討することが大切です。そのためには、分担しただけでそのまま授業に臨むのではなく、授業の前に二人で綿密に打ち合わせをしておくことが必要ですね。



道徳のかけ橋

平成28年12月20日発行
第 1 0 号
福 島 県 教 育 庁

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

平成30年度（中学校では平成31年度^(注1)）から、これまでの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（道徳科）として実施されることを受け、今年度、県内全ての小学校の先生方（各校1名）を対象に、『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」を県内8か所で行いました。

研修会では、道徳科の趣旨を踏まえ、改正学習指導要領の趣旨を実現するための視点や方策について協議がなされ、各校の道徳教育の取組等について情報交換が行われました。また、各校から出された課題を解決するための今後の取組や、道徳科の全面実施に向けて学校としてどのような準備が必要かといった話合いがなされました。

研修後のアンケートには、「道徳教育推進の意識が高まった。」「他校の取組がわかった。授業の質の向上を図りたい。」「各校の課題と解決策を話し合うことで、自分ではわからなかった解決策がわかった。」「道徳教育の方針や評価などについて見通しがもててよかった。明日から実践できそうだ。」「学校で共通理解を図る必要がある。」「教師間でも考え議論していきたいと思った。」という感想がありました。

本研修会に参加された先生が中心となり、各学校において伝達講習や研修を行うなど、先生方の共通理解のもとに道徳科の全面実施を迎えることができるようお願いいたします。



【会津地区における研修会の様子】

道徳科の学習評価について

道徳の教科化に伴い、かねてより先生方の関心の高かった学習評価ですが、平成28年7月29日に文科省より「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（通知）が出されました。（平成28年8月10日付け28教義第846号）この通知には、指導要録の参考様式、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習に関わる資料も含まれています。

（注1）ここでの小学校は小学校及び特別支援学校小学部を、中学校は中学校及び特別支援学校中学部を指す。

「特別の教科 道徳」 Q & A



Q) 「多面的・多角的に考える」について教えてください。

A) 一般的には、「多面的」とは学習対象が様々な面をもっていることを、「多角的」とは学習対象を様々な角度から考察し理解することを意味していると考えられます。実際の指導にあたっては、「多面的」と「多角的」は必ずしも明確に分けられるものではないため、道徳科の学習指導要領及び解説においては「多面的・多角的」とひとくくりで説明しています。



Q) 「道徳的価値」と「道徳的諸価値」という2つの言葉の意味の違いを教えてください。

A) 道徳的価値の総体を示すときには「諸価値」の語を用いています。なお、内容項目は道徳的価値そのものではなく、道徳的価値を含んだ学習内容を示したものです。



Q) 教科書を使うとなれば、自作資料や地域資料の使用についてはどうすればいいですか。

A) 小・中・高等学校等においては教科書の使用義務が定められています（学校教育法34条1項等）が、教科書以外の教材で有益適切なものについては、その使用が認められています。（学校教育法第34条2項等）この取扱いについては、他教科と同様です。いずれの場合においても、学習指導要領に示された各学年の内容を全て扱うことは必要です。教科書及び副教材の各部分が学習指導要領に示された内容項目のどの部分に対応するのかを整理した上で、適切な年間指導計画を作成することが大切です。

なお、「学校における補助教材の適正な取扱いについて（通知）」平成27年3月4日付け初等中等教育局通知（同年3月9日付け26教義第1694号）についても留意してください。



Q) 平成30年度以降の「私たちの道徳」の扱いはどのようになりますか。

A) 平成30年度（小学校）、平成31年度（中学校）からの道徳科の全面実施に伴い、教科書が導入されます。検定教科書の導入により、「私たちの道徳」の国からの無償配付は終了する予定です。



Q) 評価は、道徳教育全体で行うのですか。

Q) この度の要録改善通知においては、道徳科における評価を要録上記述式で行うことを示したものです。ですから、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価の扱いについては、これまでどおり「行動の記録」などにおいて行われることとなります。



Q) ※「大きくりなまとまりを踏まえた評価」について詳しく教えてください。

※「大きくりなまとまりを踏まえた評価」との表記

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P105 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P109

A) 道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかということの評価するものではありません。道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったかや道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを学期や学年など一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものです。なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられます。



道徳のかけ橋

平成29年2月14日発行
第 1 1 号
福 島 県 教 育 庁 課
義 務 教 育 課

「道徳教育推進状況調査結果」



2学期末に実施した道徳教育推進状況調査の結果をまとめましたので、お知らせします。自校の道徳教育の充実に向けて参考にしてください。

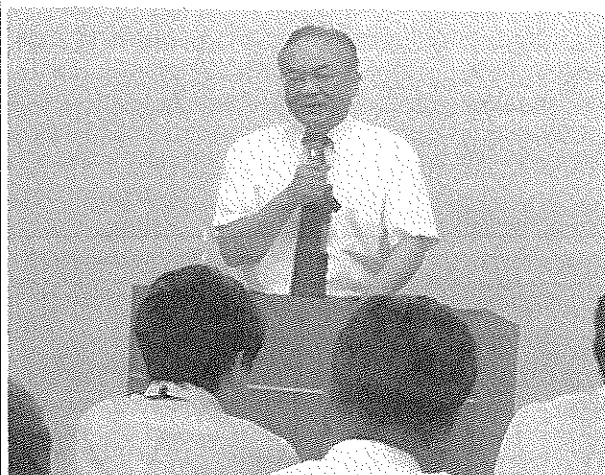
福島県道徳教育実施状況調査(概要)

平成28年12月20日現在

調 査 項 目	回 答	小学校	中学校	全体
ふくしま道徳教育資料集活用の有無	活用した。	86.6%	86.4%	86.5%
	これから活用する予定である。	13.4%	13.6%	13.5%
	活用する予定はない。	0.0%	0.0%	0.0%
ふくしま道徳教育資料集活用場面 (複数回答)	道徳の時間に活用した。	98.0%	99.1%	98.3%
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	20.6%	10.0%	17.1%
	家庭で活用した。	2.7%	1.4%	2.3%
	その他(3月震災追悼に活用予定等)	1.1%	0.9%	1.1%
ふくしま道徳教育資料集に収められた 「資料」の活用の仕方(複数回答)	そのまま活用した。	93.7%	92.7%	93.4%
	部分的に活用した。	36.8%	31.8%	35.1%
	改作して活用した。	1.8%	4.5%	2.7%
道徳の授業参観(公開授業・保護者向け授業参観)	実施した。(今年度中の実施予定を含む)	100.0%	85.5%	95.2%
	実施する予定はない。	0.0%	13.2%	4.4%
	その他(校内研修での授業参観等)	0.0%	1.3%	0.4%
家庭や地域社会との連携による道徳の 指導(複数回答)	保護者が授業に参加した。	42.8%	11.4%	32.4%
	地域の人が授業に参加した。	13.5%	8.6%	11.9%
	保護者や地域の人々以外(ゲストティーチャー)を招き実施した。	28.3%	25.9%	27.5%
	実施する予定はない。	26.0%	51.8%	34.5%
「私たちの道徳」の活用状況 (複数回答)	道徳の時間に活用した。	99.1%	96.8%	98.3%
	道徳の時間以外の学校教育活動で活用した。	51.1%	14.5%	39.0%
	家庭に持ち帰らせた。	48.9%	16.8%	38.3%
	活用していない。	2.5%	4.1%	3.0%
「私たちの道徳 活用のための指導資料」 の活用状況(複数回答)	全学級に配当している。	94.6%	87.7%	92.3%
	活用している。(過半数以上)	43.5%	30.0%	39.0%
	活用していない。	2.5%	4.1%	3.0%
道徳教育全体計画の「別業」作成状況	作成している。(今年度作成予定を含む)	99.1%	97.3%	98.4%
	作成する予定はない。	0.0%	0.5%	0.2%
	その他(次年度作成を検討する等)	0.9%	2.2%	1.4%
道徳教育全体計画の「別業」活用の 有無	成果や課題などを記入して活用している。	14.1%	5.0%	11.1%
	記入はしていないが確認をするなどして活用。	74.0%	64.1%	70.7%
	活用していない。	11.4%	27.7%	16.8%
	その他(今年度中に作成・活用する予定)	0.5%	3.2%	1.4%
道徳教育の全体計画に「いじめ防止対策推進法」 を関係法令として位置付けている(明示)	明示している。	59.4%	44.1%	54.4%
	明示していない。	40.6%	55.9%	45.6%
道徳の時間の指導体制(複数回答)	校長先生が参加した。	33.0%	21.4%	29.1%
	教頭先生が参加した。	27.6%	16.8%	24.0%
	担任以外の教職員が参加した。	37.7%	69.5%	48.2%
先行実施の状況(複数回答)	改正学習指導要領に示された内容項目を用いて教育課程を編成している。	12.3%	10.5%	11.7%
	通知票に「道徳の時間」に係る欄を設けている。	0.7%	0.0%	0.5%
	上記以外の先行実施をしている。	8.3%	6.4%	7.7%
	先行実施はしていない。	79.1%	83.2%	80.5%

「道徳の時間」の授業参観を積極的に行ったり、保護者やゲストティーチャーを招いて授業を行ったりする学校が増えてきました。授業を公開することは、学校における道徳教育への理解と協力を得るために大切です。また、様々な立場の方の参加は、授業の効果を一層高めるとともに、家庭や地域等との連携強化にもつながります。今後も積極的な授業公開をお願いします。

「特別の教科 道徳」の円滑な実施に向けて



道徳指導者研修会で講演する 押谷 由夫 教授

今年度、県教育委員会では、「特別の教科 道徳」の円滑な実施に向けて2つの新規研修会を行いました。

1つは、道徳のかけ橋10号でもお伝えしました「『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」です。県内全ての小学校（特別支援学校の小学部も含む）を対象に、地区ごとの課題に応じたテーマのもと、改正学習指導要領の趣旨を実現するための視点や方策等について協議しました。

もう1つの研修は、県内の道徳を担当している指導主事の先生方を対象に行った「道徳指導者研修会」です。この研修会は、「特別の教科 道徳」についての理解を深め、その円滑な実施に向けた指導・助言の在り方を協議することで、県内における道徳教育を推進するとともに、道徳教育の一層の充実に資することを目的としたものです。

はじめに、昭和女子大学大学院教授の押谷由夫先生より「『特別の教科 道徳』を要に子どもたちと社会の未来を拓く」という演題でご講演をいただきました。その後、グループに分かれて協議を行い、最後に、福島大学総合教育研究センター特任教授の丹野学先生より、道徳科の「学びのプロセス」における指導方法の工夫について具体的にご指導をいただきました。

これら2つの研修会に共通していたのは、「アクティブ・ラーナー（能動的な学習者）」としての姿勢です。これは、子どもたちにとっても私たち教師にとっても大切な視点です。

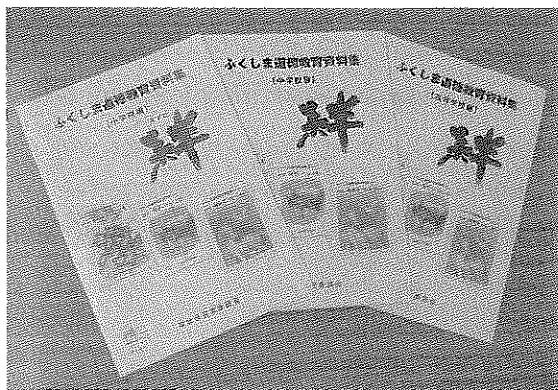
「ふくしま道徳教育資料集」をご活用ください！

この度、ふくしま道徳教育資料集に収められている教材を、児童生徒用に校種別にまとめて分冊にした「ふくしま道徳教育資料集」【小学校版】【中学校版】【高等学校版】を各学校に配布しました。これらは、文部科学省の道徳教育総合支援事業により制作したものです。

分冊は学校の図書室等に備え付けとし、教室に運んで授業等で使用したり図書館で読んだりする等、子どもたち一人一人が手にとって読むことができるよう作成しました。

これまで、本資料集を授業等で使用する場合は印刷が必要でしたが、印刷の手間が省かれ利便性が高まることと思います。

本資料集は、道徳教育はもとより人権教育における利活用が期待されるだけでなく、震災の記録集としての側面もあります。過日行った福島県道徳教育実施状況調査では、3月11日（土）の前日に、本資料集を使用して追悼と復興を祈念したいというご意見もいただきました。



今後の動向として…



現在、文部科学省では、先進事例のアーカイブの整備として、道徳に関する多様で質の高い指導方法や教材、評価方法に関する資料などを収集しています。今後、公表可能なものについては、全国的に発信していく予定です。



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

平成29年3月3日 印刷
平成29年3月8日 発行

福島県教育委員会
